

池田市の男女共同参画社会に関するアンケート 調査結果報告書

令和6年3月

池田市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の設計.....	1
3. 回収状況.....	1
4. 報告書を見る際の注意事項.....	1
II 調査結果	2
1. <u>あなた自身のことについて</u>	2
問1 性別.....	2
問2 年齢.....	2
問3 結婚の有無.....	3
問4 職業.....	4
問5 1週間の就業時間.....	8
問6 仕事でのストレス.....	10
問7 令和4年中の年間収入.....	21
問8 今後、収入を得る仕事につきたいと思うか.....	23
問8-1 今後、仕事につく上で困ったことや不安があるか.....	25
問9 家族構成.....	28
問10 お子さんの有無.....	29
問11 一番下のお子さんについて.....	30
問12 1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間について.....	31
問13 女性の職業と生活設計について.....	33
問14 現在の社会で女性が働き続けるために必要なこと.....	35
2. <u>男女平等や役割分担について</u>	38
問15 結婚や家庭等について.....	38
問16 男女の地位について.....	48
問17 家庭での分担について.....	65
問18 小・中学校で進めてほしい男女平等の取組について.....	81
問19 生活のなかで大切にしたいこと.....	85
問20 今後、男性の家事、子育て、介護への積極的な参加を促進するために必要なこと.....	89
3. <u>男女平等・人権尊重に関する用語について</u>	92
問21 用語の認知度について.....	92

4. 男女間の暴力・人権尊重について.....	100
問22 自分の性別によってつらいと感じた経験	100
問22-1 性別によってつらいと感じた経験の内容.....	101
問23 女性の人権が守られていないと思うこと	102
問24 セクシュアル・ハラスメントについて.....	105
問25 配偶者や交際相手からの暴力について.....	114
問26 暴力を受けた際の対応について.....	134
問26-1 相談しなかった理由.....	138
5. 困難な問題を抱える女性の支援について.....	141
問27 困難な問題を抱えている女性について見たり聞いたりした経験の有無について.....	141
問27-1 どのような問題を抱えているのか.....	142
問28 女性が困難な状況から回復するために必要なこと.....	145
問29 家に居場所がない女性たちへのサポート	148
問30 相談するとしたらどのような方法や場所がいいか	151
6. 困難な問題を抱える男性の支援について.....	154
問31 困難な問題を抱えている男性について見たり聞いたりした経験の有無について	154
問31-1 どのような問題を抱えているのか	155
問32 男性が困難な状況から回復するために必要なこと.....	158
問33 男性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組.....	161
7. 男女共同参画の取組について	163
問34 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応	163
問35 防災・災害復興対策において必要と思われる性別に配慮した対応.....	164
問36 女性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組.....	166
問37 男女共同参画社会をつくるためにできることについて	168
問38 行政機関や支援機関を利用した経験の有無について.....	172
問39 自由意見.....	175
Ⅲ 調査から読み取れる現状と課題の整理.....	180

I 調査概要

1. 調査の目的

池田市では、平成12年度から池田市男女共同参画推進計画『いけだパートナーシップ21』(1次計画:平成12年度～平成23年度、2次計画:平成24年度～令和6年度)を策定しています。本計画は、令和6年度に期間満了を迎えるため、新たに第3次計画の策定を進めるにあたり、市民の皆さまのご意見を把握し、計画改定・策定の基礎資料とすることを目的に本調査を実施しました。

2. 調査の設計

調査対象	調査期間	調査方法
18歳以上の住民2,000人を 住民基本台帳登録者の中から 無作為抽出	令和5年10月4日～ 令和5年10月26日	郵送配布・郵送回収 ※10月18日にお礼状兼督促状 を配布

3. 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,000件	902件	45.1%

4. 報告書を見る際の注意事項

- 回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示しています。
- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対してそれぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が「100.0%」にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が「100.0%」を超える場合があります。
- 表については、報告書内で注目している箇所に網掛けをしています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 回答者数(n)が少数となる場合は参考までに数値を見るにとどめ、結果の利用には注意が必要です。
- 回答者数(n)が10未満の場合、分析の対象外としています。
- 本調査結果には、市民意識の変化を観測するために、前回調査(平成23年度実施)と重複した質問に限り、前回調査との比較を掲載しています。また、大阪府との比較を行うために、男女共同参画社会に関する府民意識調査(令和元年実施)と重複した質問に限り、池田市の調査結果との比較を掲載しています。

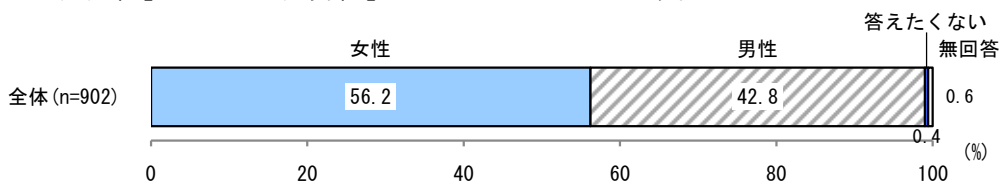
II 調査結果

1. あなた自身のことについて

問1 性別

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

・性別については、「女性」が56.2%、「男性」が42.8%となっています。

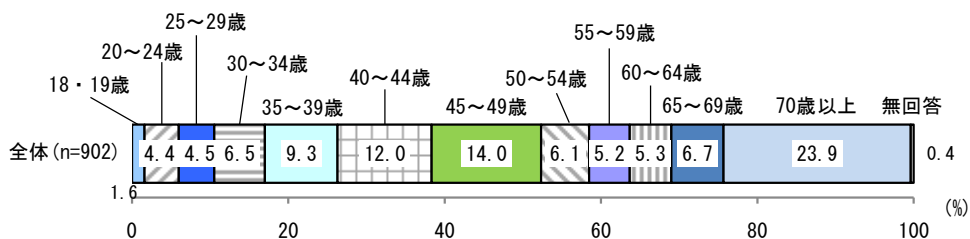


問2 年齢

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

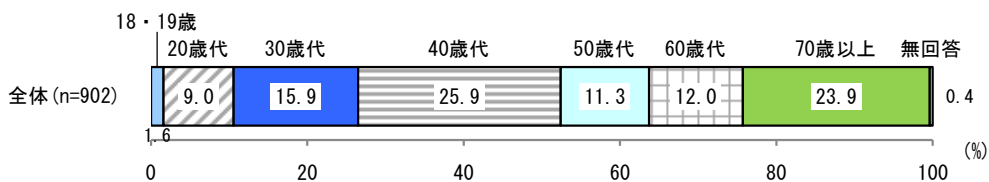
<年齢>

・年齢については、「70歳以上」が23.9%と最も高く、次いで「45～49歳」が14.0%、「40～44歳」が12.0%となっています。

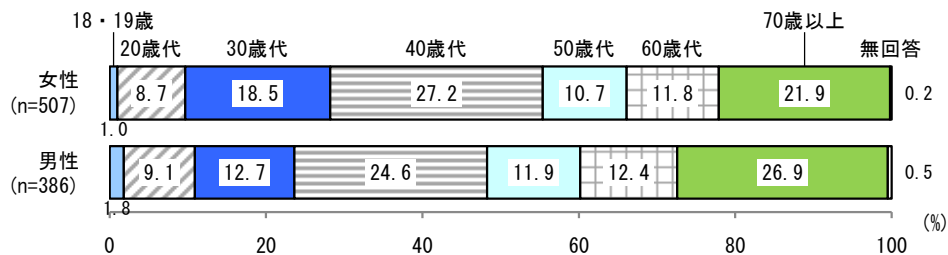


<年代>

・年代については、「40歳代」が25.9%と最も高く、次いで「70歳以上」が23.9%、「30歳代」が15.9%となっています。



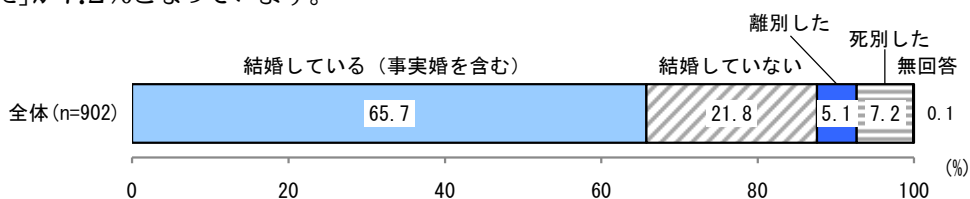
・性別にみると、女性は男性よりも「30歳代」の割合が5.8ポイント高くなっています。



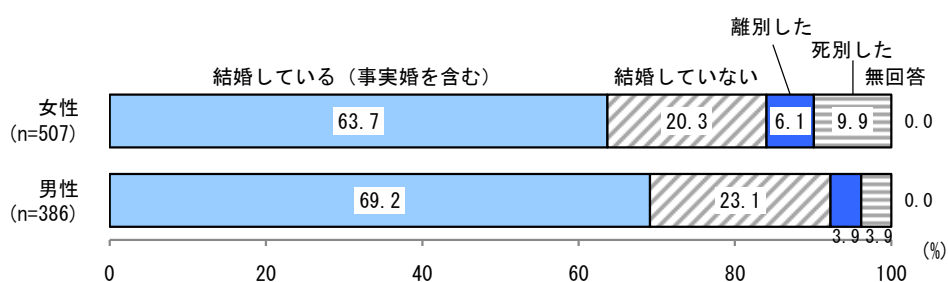
問3 結婚の有無

問3 現在、あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(〇は1つ)

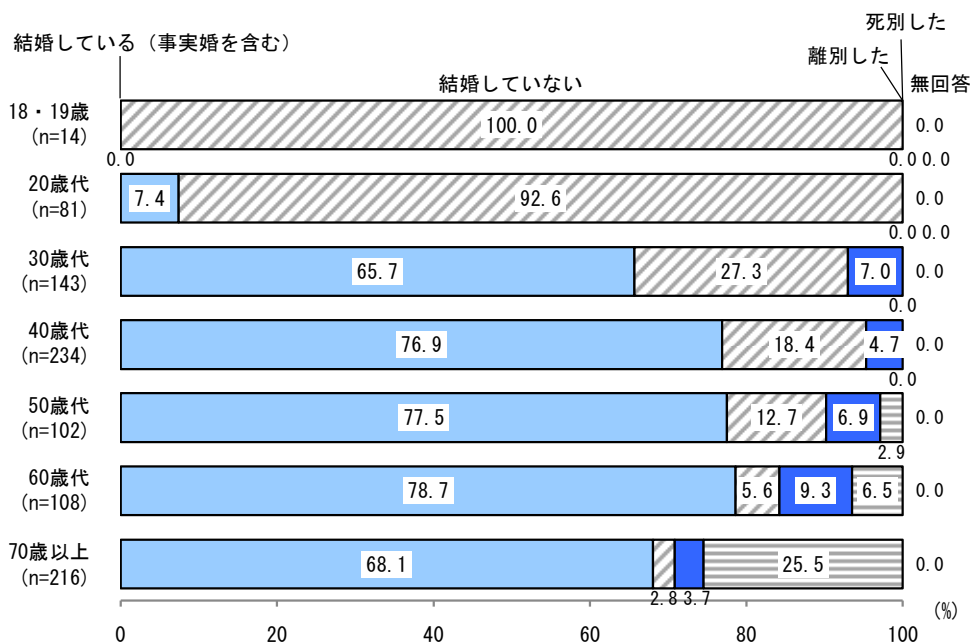
・結婚の有無については、「結婚している(事実婚を含む)」が65.7%と最も高く、次いで「結婚していない」が21.8%、「死別した」が7.2%となっています。



・性別にみると、男性は女性よりも「結婚している(事実婚を含む)」の割合が5.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、30歳以上で「結婚している(事実婚を含む)」の割合が高く、60歳代で78.7%となっています。

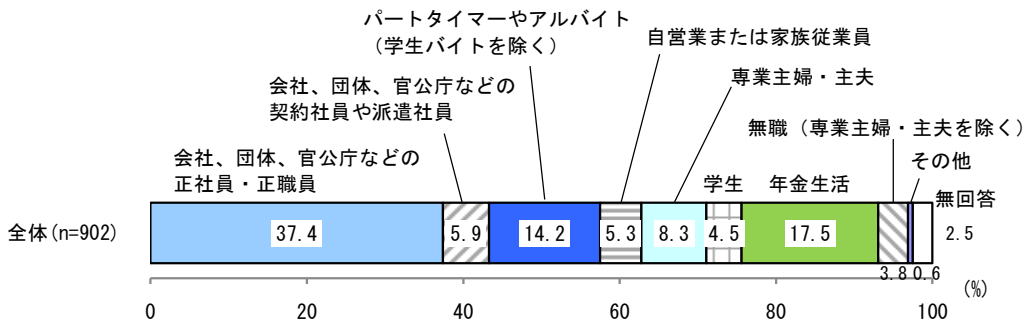


問4 職業

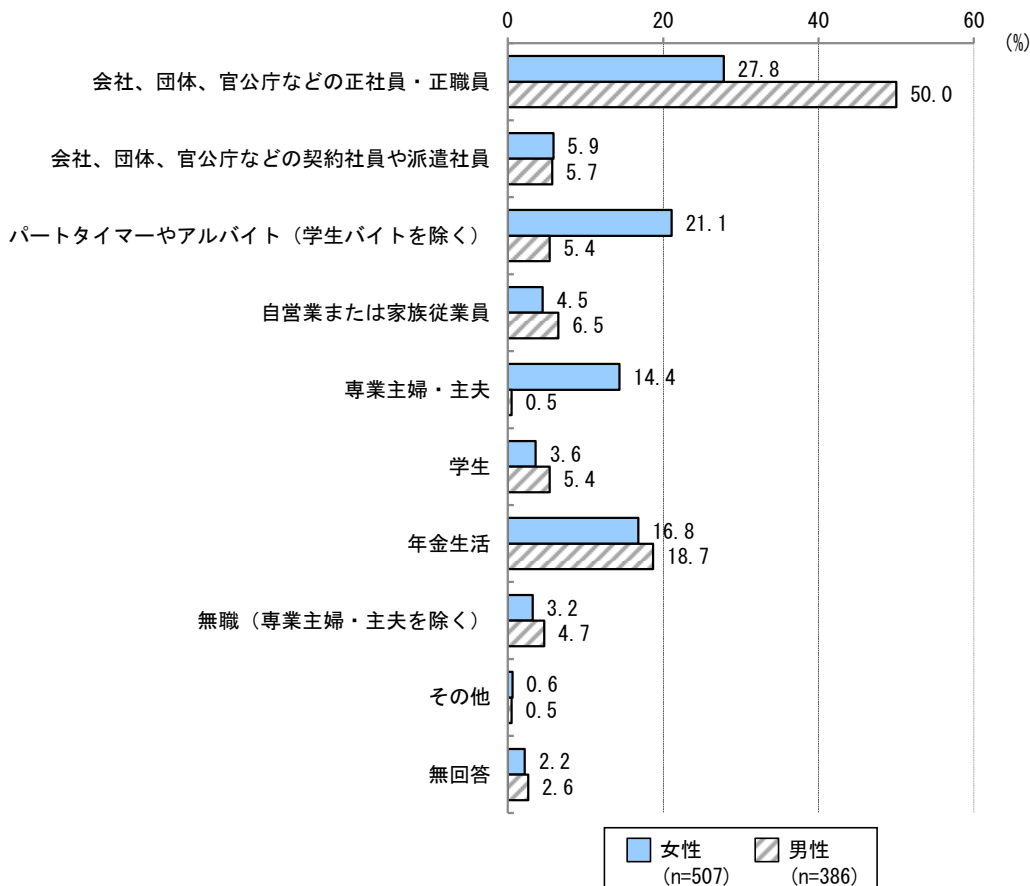
問4 あなたとあなたの配偶者・パートナー(事実婚を含む)の職業をお答えください。
 配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。
 (1つに○、またはそれぞれに○は1つ)

<① あなたの職業>

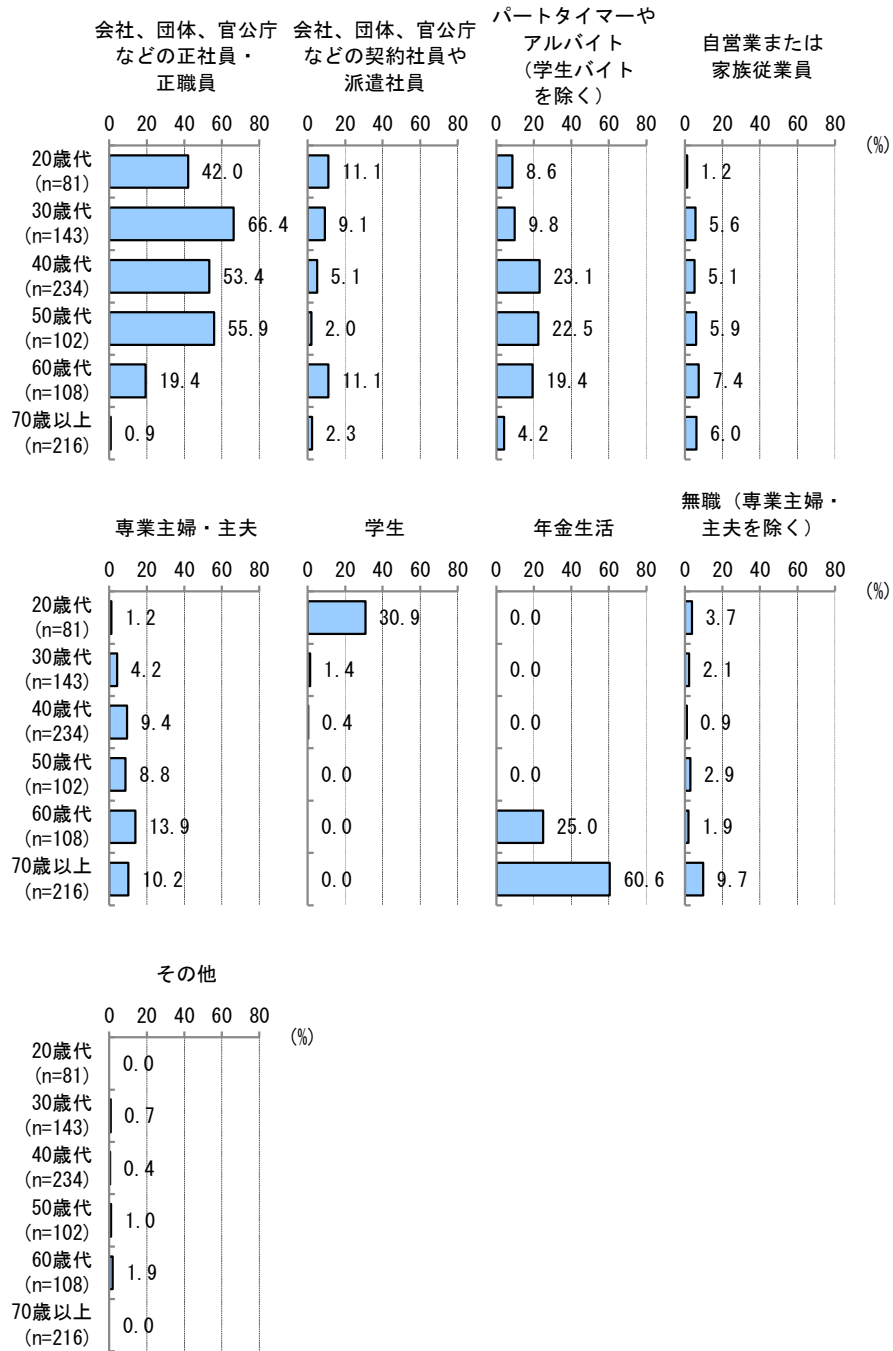
・回答者の職業については、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」が37.4%と最も高く、次いで「年金生活」が17.5%、「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」が14.2%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」の割合が15.7ポイント高く、「専業主婦・主夫」の割合が13.9ポイント高くなっています。また、男性は女性よりも「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が22.2ポイント高くなっています。

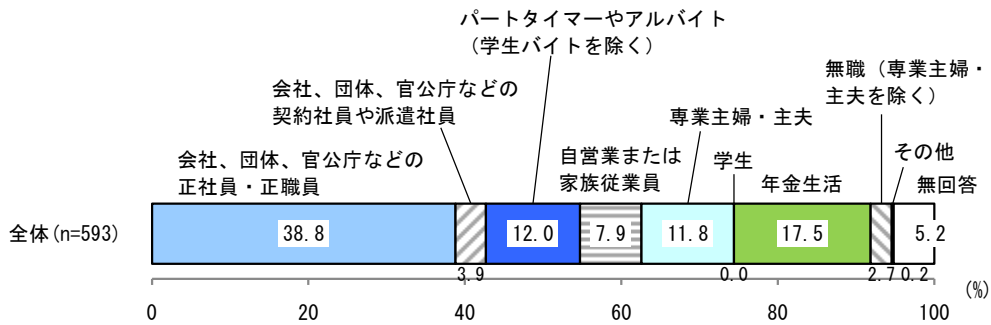


・年代別にみると、30～50歳代で「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」、40～60歳代で「パートタイムやアルバイト(学生アルバイトを除く)」、60～70歳以上で「年金生活」の割合が高くなっています。

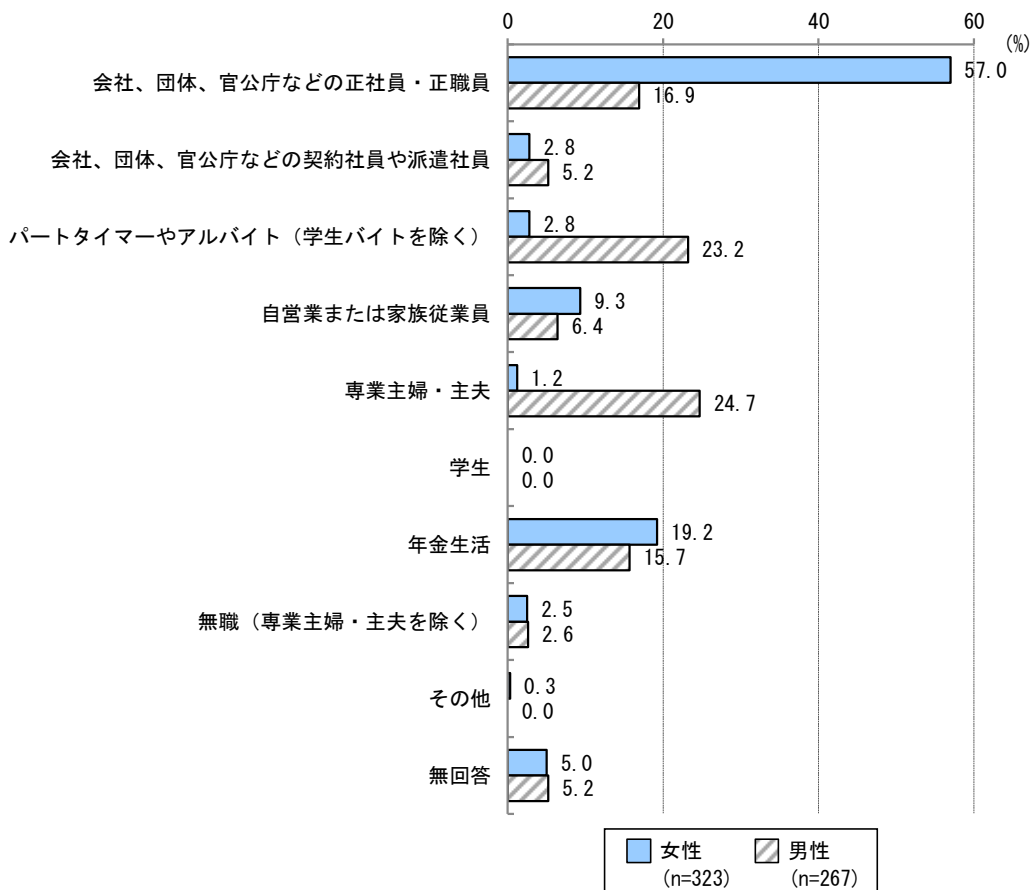


<② あなたの配偶者・パートナーの職業>

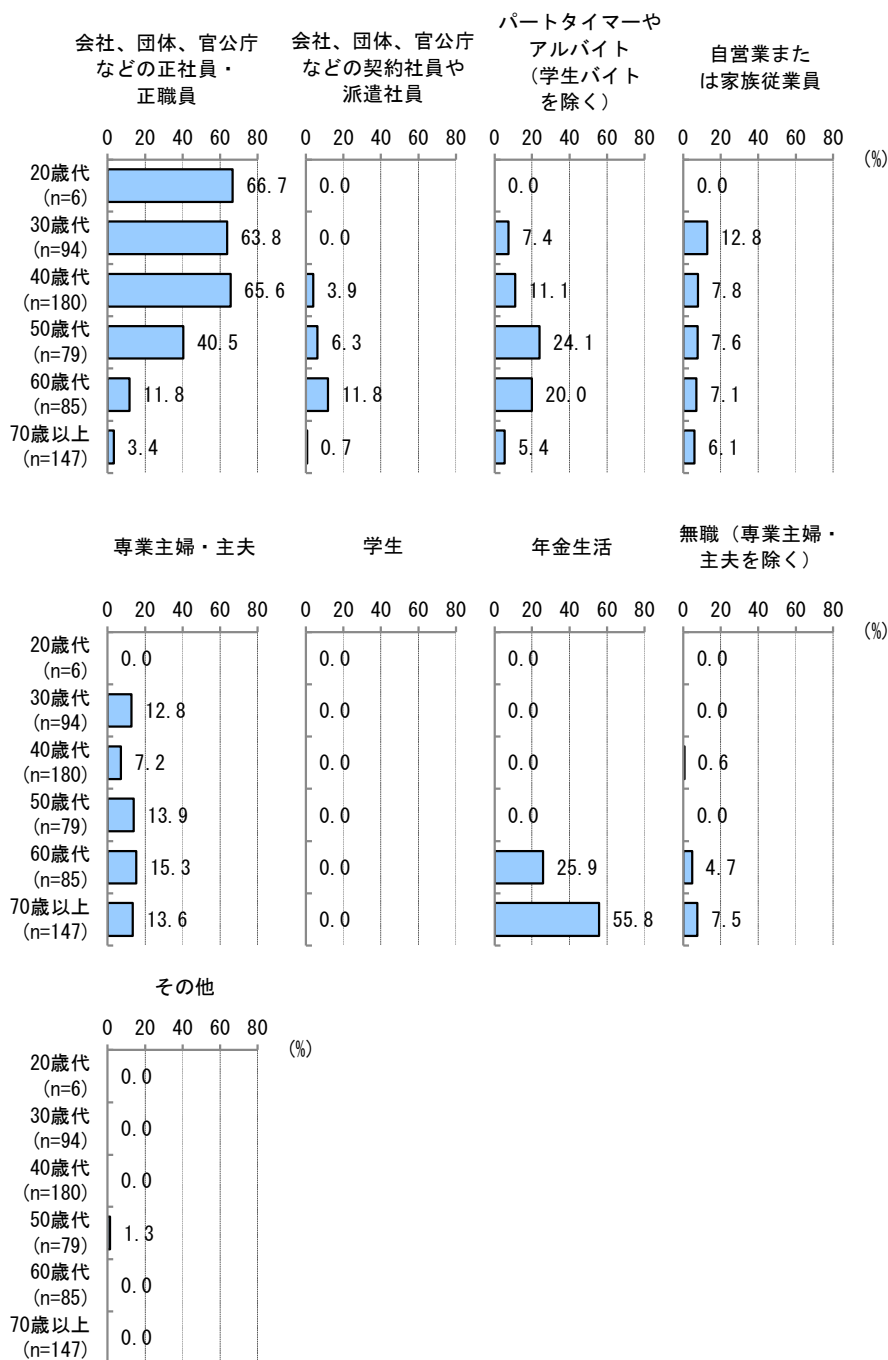
・回答者の配偶者・パートナーの職業については、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」が38.8%と最も高く、次いで「年金生活」が17.5%、「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」が12.0%となっています。



・性別にみると、女性回答者のパートナーは男性よりも「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が40.1ポイント高くなっています。また、男性回答者のパートナーは女性よりも「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」の割合が20.4ポイント高く、「専業主婦・主夫」の割合は23.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、回答者本人の職業と傾向が似ており、30～40歳代で「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」、50～60歳代で「パートタイマーやアルバイト(学生アルバイトを除く)」、60～70歳以上で「年金生活」の割合が高くなっています。



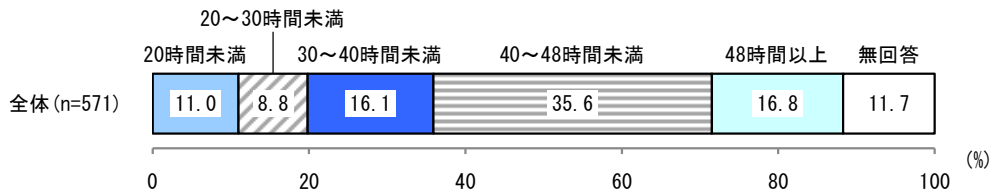
※18・19歳は該当者がいないため掲載していません。

問5 1週間の就業時間

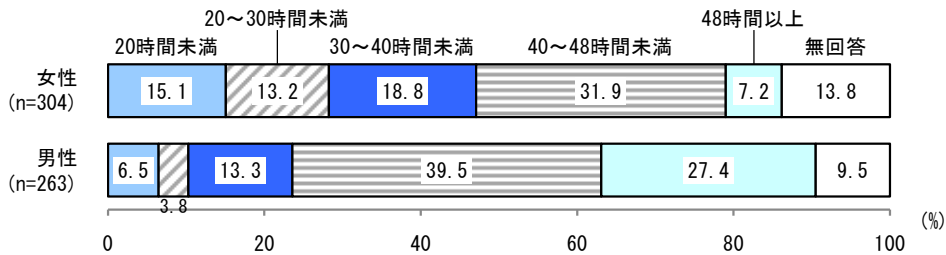
【問5～問7は、問4の①で「1.会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」～「4. 自営業または家族従業員」、
「9.その他」と答えた方におたずねします。】

問5 1週間のうちで、あなたが仕事(在宅就労を含む)をしている平均時間はどのくらいですか。
(〇は1つ)

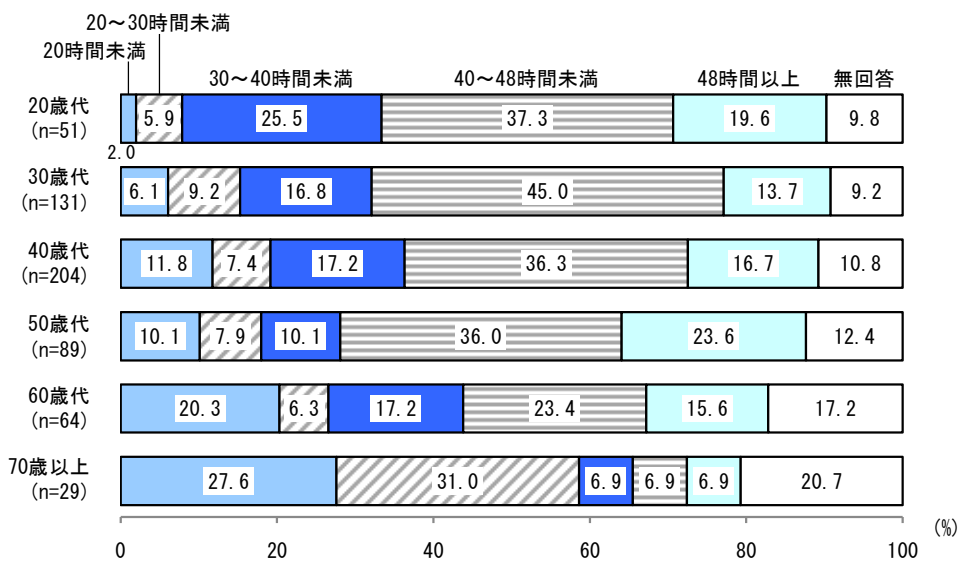
・1週間の就業時間については、「40～48時間未満」が35.6%と最も高く、次いで「48時間以上」が16.8%、「30～40時間未満」が16.1%となっています。



・性別にみると、女性は男性より労働時間が短い傾向にあり、「20時間未満」の割合が8.6ポイント高く、「20～30時間未満」の割合が9.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性より労働時間が長い傾向にあり、「48時間以上」の割合が20.2ポイント高くなっています。



・年代別にみると、年代が上がるほど「20時間未満」の割合も高くなっています。一方で、「30～40時間未満」、「40～48時間未満」、「48時間以上」の割合は概ね若い年代ほど高い傾向にあります。



・性年代別にみると、女性60歳代で「20時間未満」の割合が42.9%となっている一方で、男性60歳代では40.1ポイント低くなっています。また、男性60歳代で「40～48時間未満」の割合が38.9%となっている一方で、女性60歳代では35.3ポイント低くなっています。

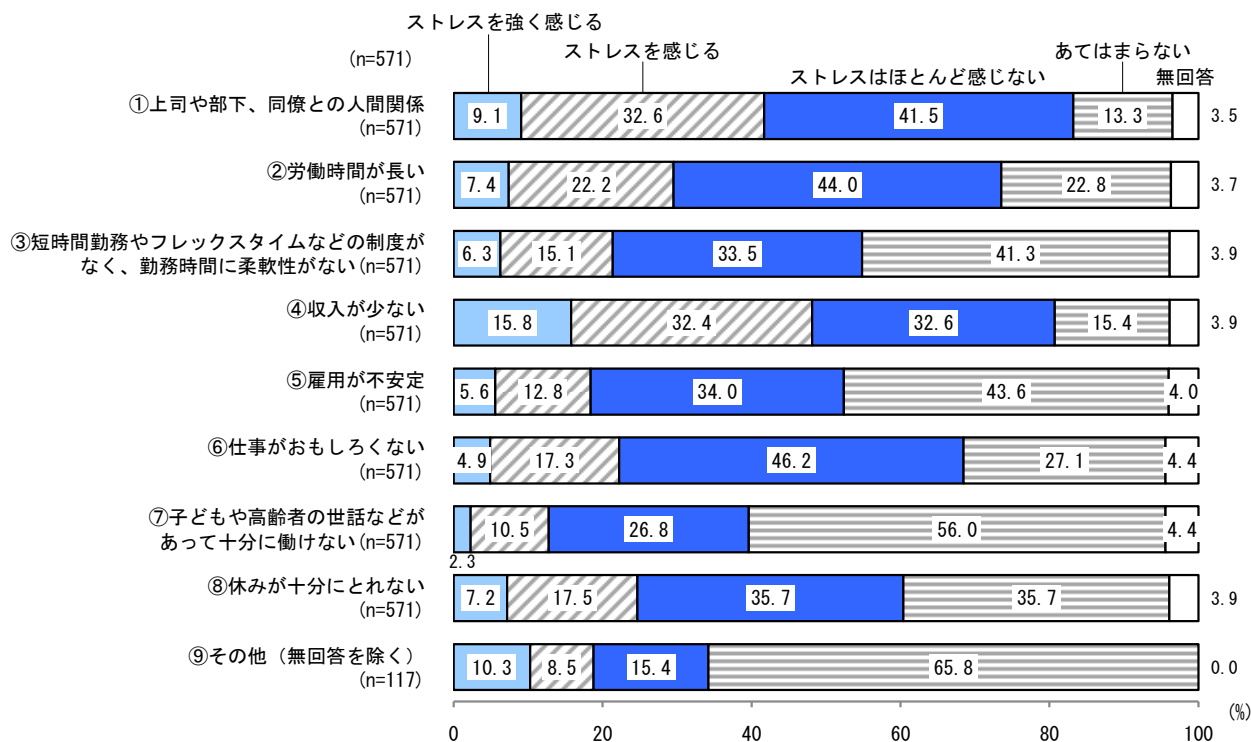
(%)

	全 体	2 0 時 間 未 満	2 0 ～ 3 0 時 間 未 満	3 0 ～ 4 0 時 間 未 満	4 0 ～ 4 8 時 間 未 満	4 8 時 間 以 上	無 回 答
全 体	571	11.0	8.8	16.1	35.6	16.8	11.7
女性18・19歳	-	-	-	-	-	-	-
女性20歳代	28	-	10.7	28.6	42.9	7.1	10.7
女性30歳代	85	7.1	12.9	20.0	44.7	5.9	9.4
女性40歳代	111	17.1	12.6	20.7	28.8	8.1	12.6
女性50歳代	44	18.2	15.9	9.1	27.3	9.1	20.5
女性60歳代	28	42.9	7.1	17.9	3.6	7.1	21.4
女性70歳以上	7	14.3	42.9	-	14.3	-	28.6
男性18・19歳	-	-	-	-	-	-	-
男性20歳代	21	4.8	-	23.8	33.3	28.6	9.5
男性30歳代	46	4.3	2.2	10.9	45.7	28.3	8.7
男性40歳代	92	5.4	1.1	13.0	44.6	27.2	8.7
男性50歳代	44	2.3	-	11.4	43.2	38.6	4.5
男性60歳代	36	2.8	5.6	16.7	38.9	22.2	13.9
男性70歳以上	22	31.8	27.3	9.1	4.5	9.1	18.2

問6 仕事でのストレス

問6 あなたは、いまの仕事でストレス(不安や悩み)を感じていますか。①～⑨の項目ごとにあてはまる番号に○をしてください。(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

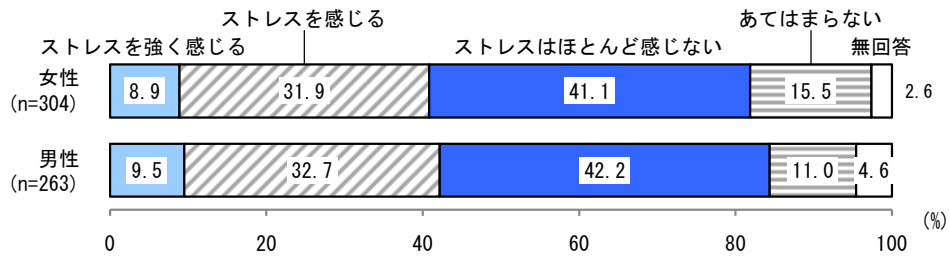
・仕事でのストレスについては、「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」を合わせた『ストレスを感じる』は「④収入が少ない」で48.2%と最も高く、次いで「①上司や部下、同僚との人間関係」で41.7%、「②労働時間が長い」で29.6%となっています。



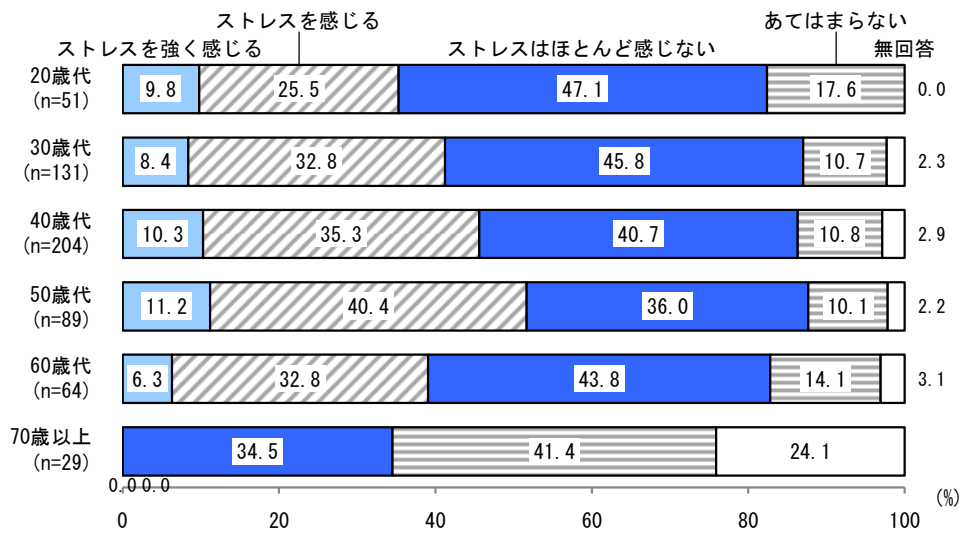
※「⑨その他」については、無回答の方が全体の79.5%を占めているため、見やすさを考慮して「無回答」を含めずにグラフを作成しております。

<①上司や部下、同僚との人間関係>

・性別による大きな差はありません。

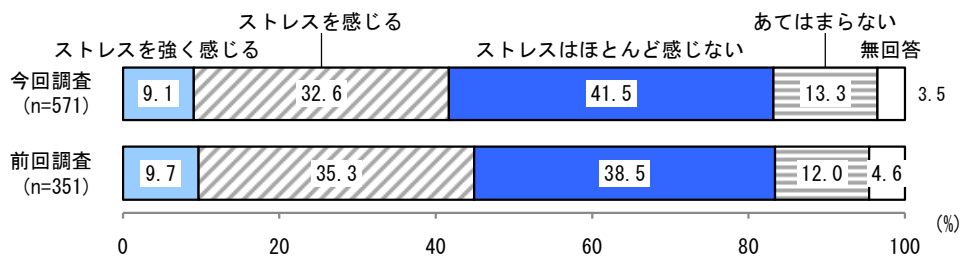


・年代別にみると、50歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、51.6%となっています。



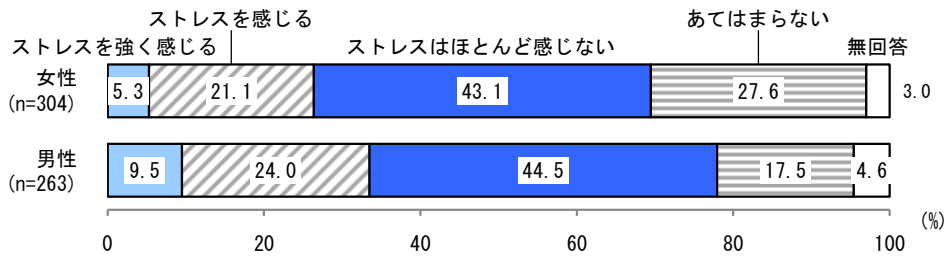
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

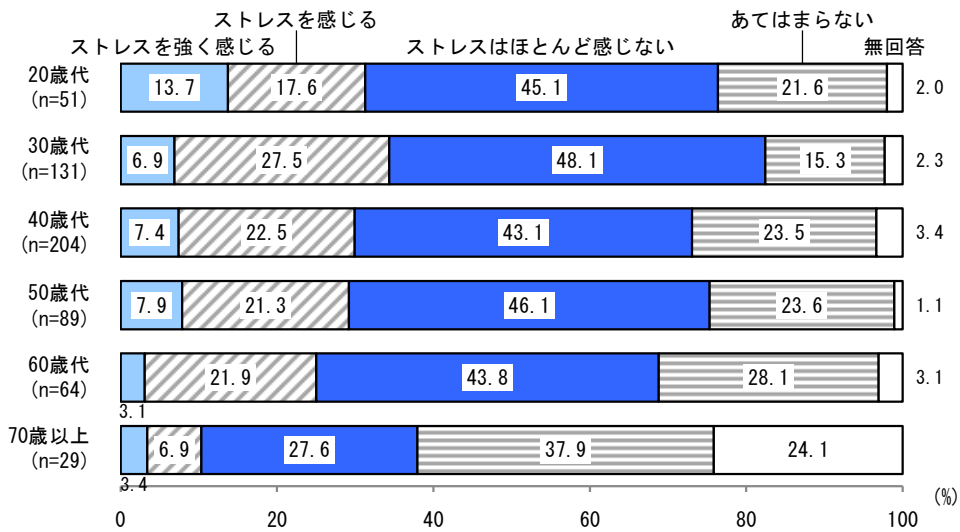


<②労働時間が長い>

・性別にみると、男性は女性よりも『ストレスを感じる』の割合が7.1ポイント高くなっている一方で、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が10.1ポイント高くなっています。

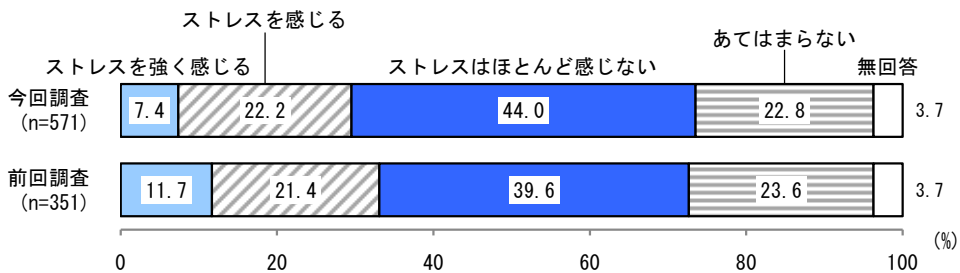


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、34.4%となっています。



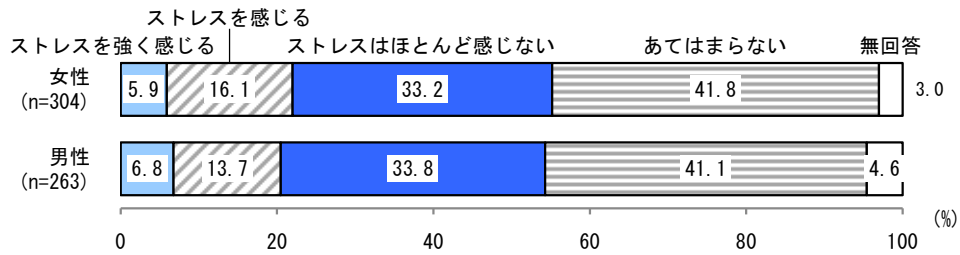
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

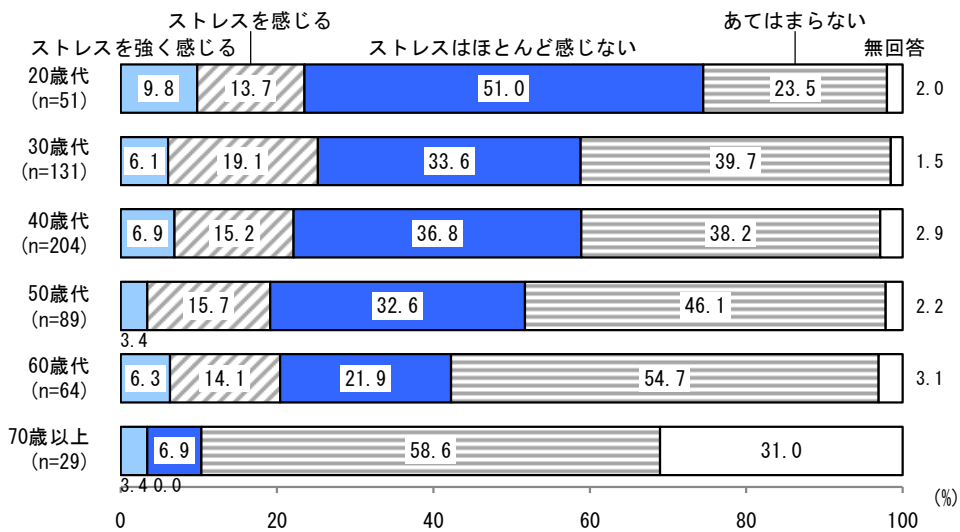


<③短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない>

・性別による大きな差はありません。

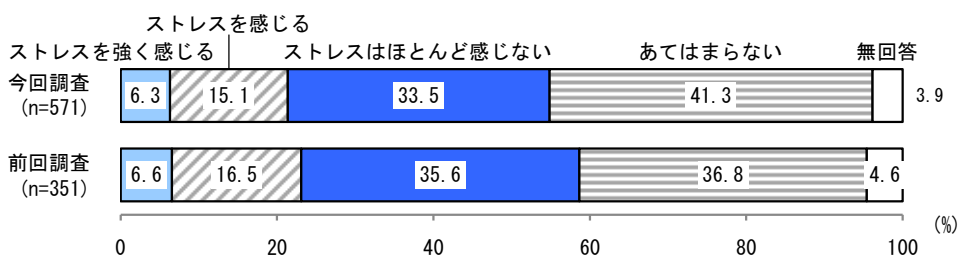


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、25.2%となっています。



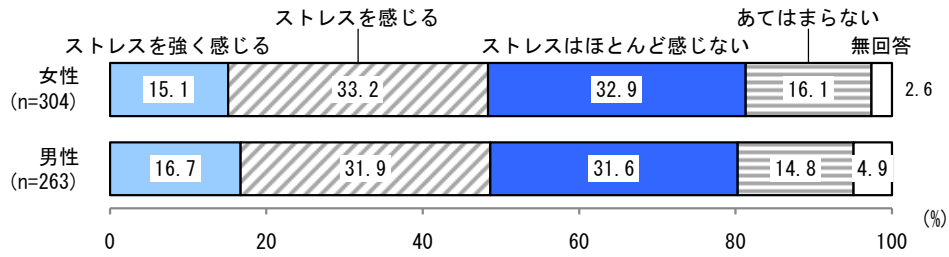
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

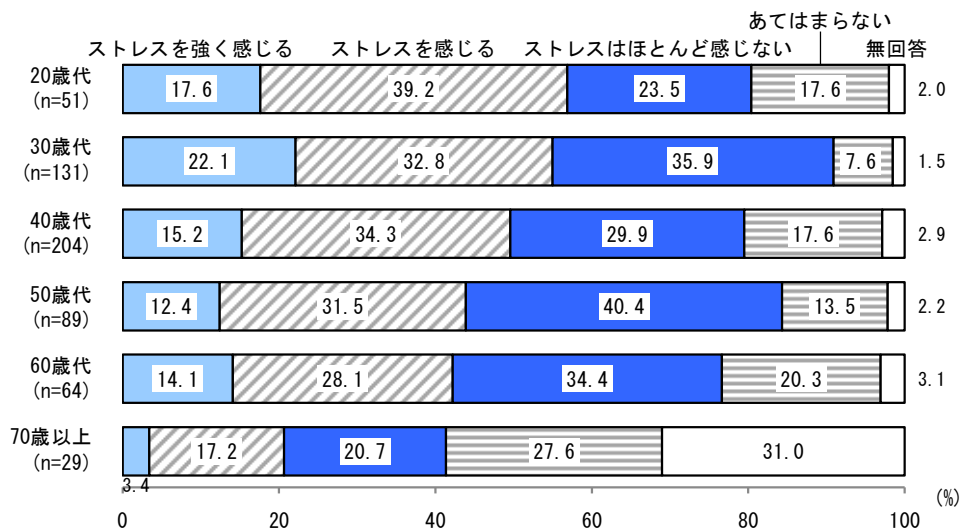


<④収入が少ない>

・性別による大きな差はありません。

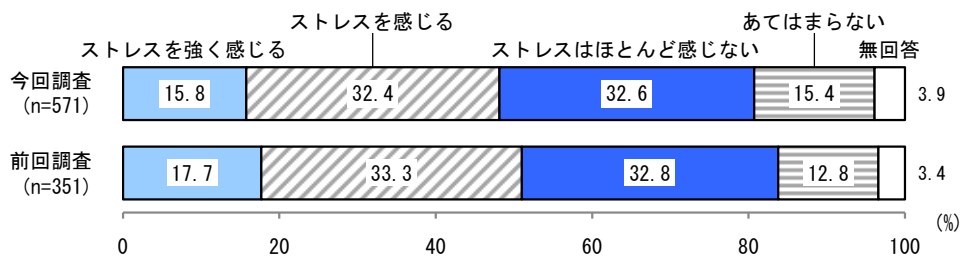


・年代別にみると、若い年代ほど『ストレスを感じる』の割合は高くなっており、20歳代では56.8%となっています。



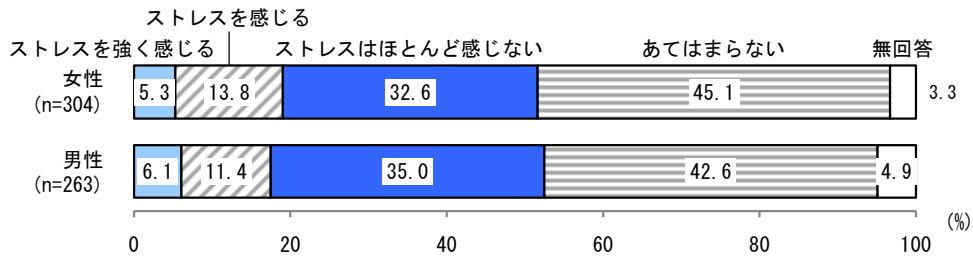
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

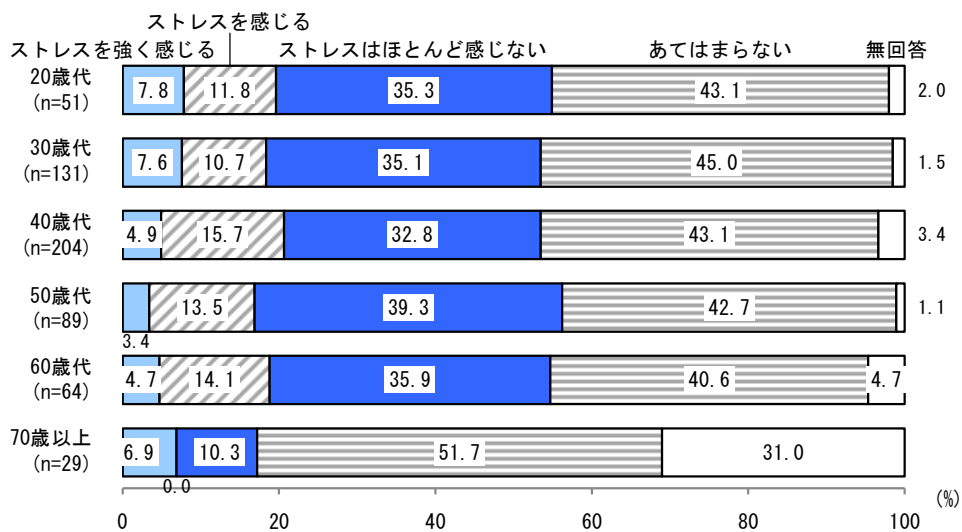


<⑤雇用が不安定>

・性別による大きな差はありません。

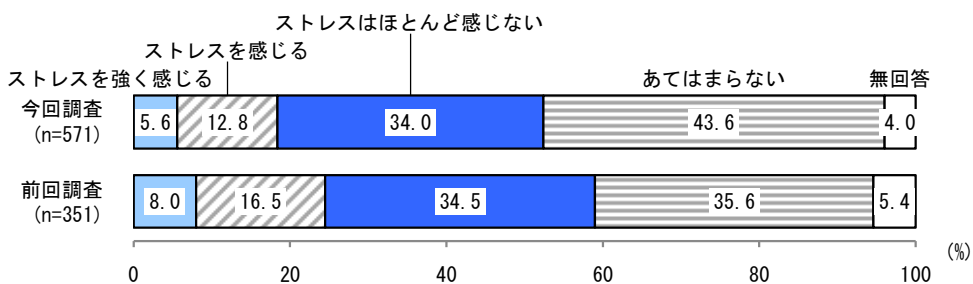


・年代別にみると、40歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、20.6%となっています。また、全ての年代で「あてはまらない」の割合が40%を超えています。



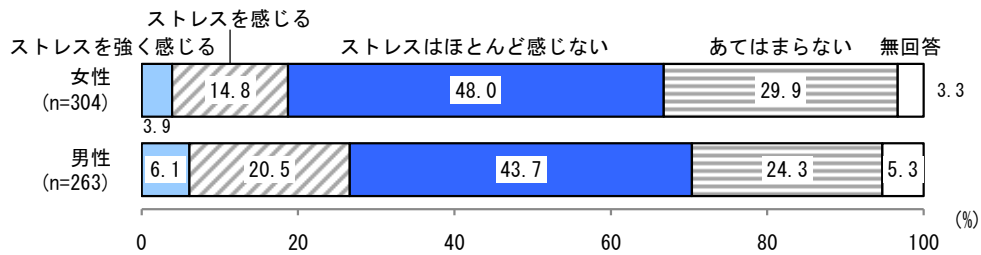
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「あてはまらない」の割合が8.0ポイント高くなっています。

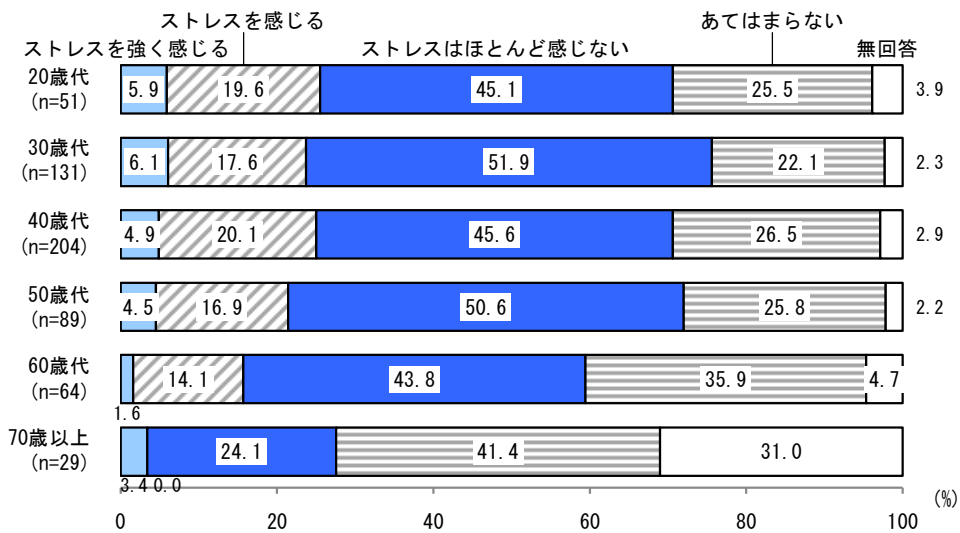


<⑥仕事がおもしろくない>

・性別にみると、男性は女性よりも『ストレスを感じる』の割合が7.9ポイント高い一方で、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が5.6ポイント高くなっています。

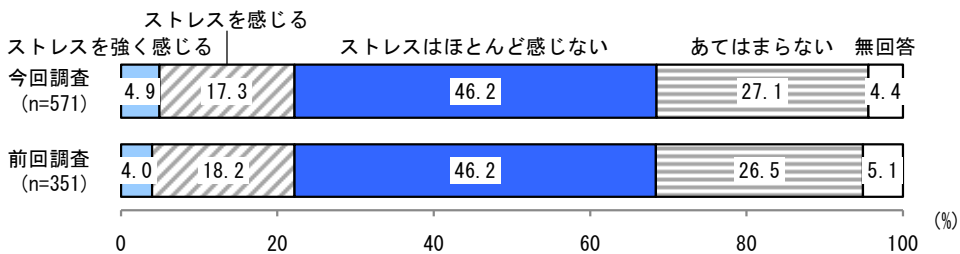


・年代別にみると、20歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、25.5%となっています。また、20～60歳代では、「ストレスはほとんど感じない」の割合が40%を超えています。



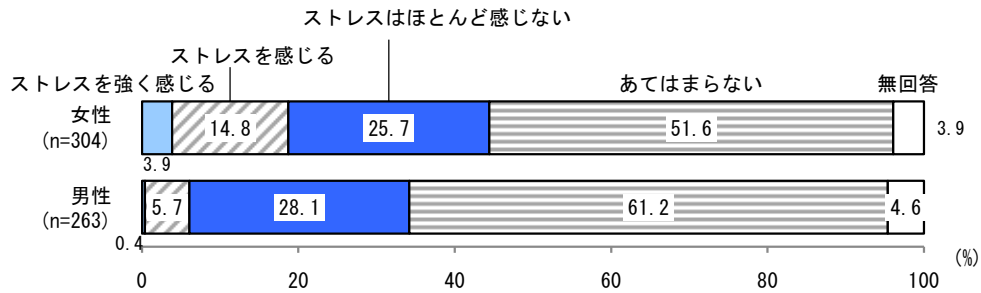
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

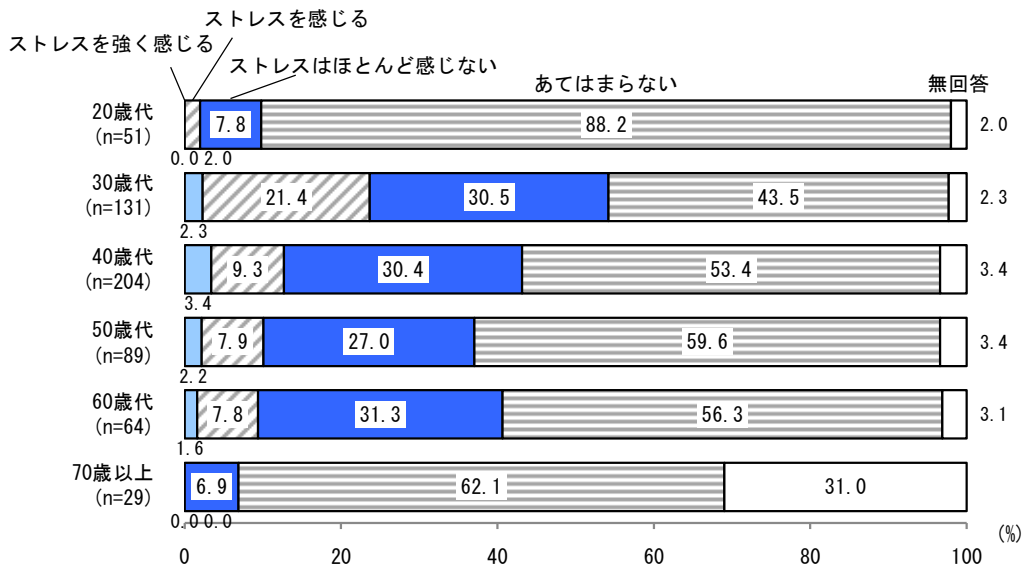


<⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない>

・性別にみると、女性は男性よりも『ストレスを感じる』の割合が12.6ポイント高い一方で、男性は女性よりも「あてはまらない」の割合が9.6ポイント高くなっています。

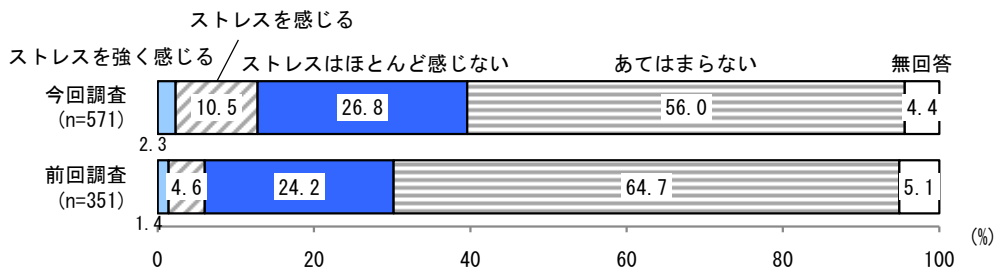


・年代別にみると、30歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、23.7%となっています。一方で、30歳代以外の年代では「あてはまらない」が50%を超えています。



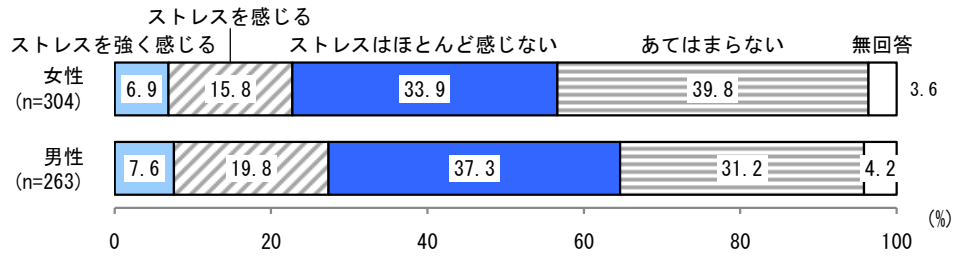
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「ストレスを感じる」の割合が5.9ポイント高くなっている一方で、「あてはまらない」の割合は8.7ポイント低くなっています。

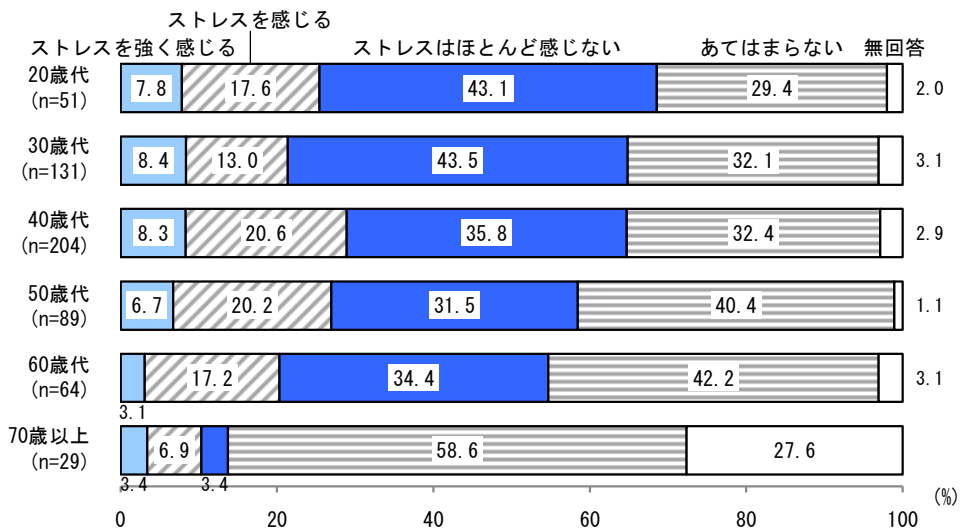


<⑧休みが十分にとれない>

・性別にみると、女性は男性よりも「あてはまらない」の割合が8.6ポイント高くなっています。

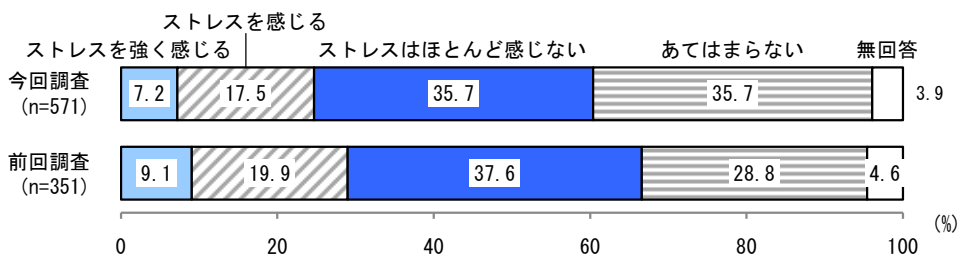


・年代別にみると、40歳代で『ストレスを感じる』の割合が高く、28.9%となっています。また、概ね若い年代ほど「ストレスはほとんど感じない」の割合が高く、20～30歳代では40%を超えています。



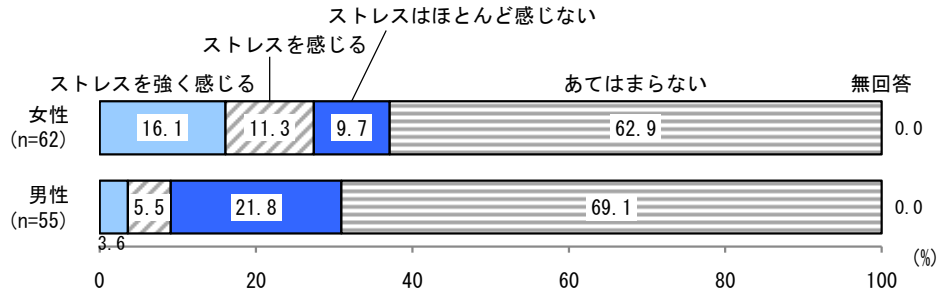
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「あてはまらない」の割合が6.9ポイント高くなっています。



<◎その他>

・性別にみると、女性は男性よりも『ストレスを感じる』の割合が18.3ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「ストレスはほとんど感じない」の割合が12.1ポイント高く、「あてはまらない」の割合が6.2ポイント高くなっています。



※「◎その他」については、無回答の方が女性で79.6%、男性で79.1%を占めているため、見やすさを考慮して「無回答」を含めずにグラフを作成しております。

・「⑨その他」のうち、詳細については22件の回答がありました。

※「特になし」3件を除く。

<意見グループ一覧>

1	職場の環境	9件
2	給料の低さ	3件
3	通勤時間	3件
4	家庭の事情	2件
5	転職	1件
6	将来への不安	1件
7	慣れないことをすることに対して	1件
8	物価高	1件
9	社外の人間関係	1件

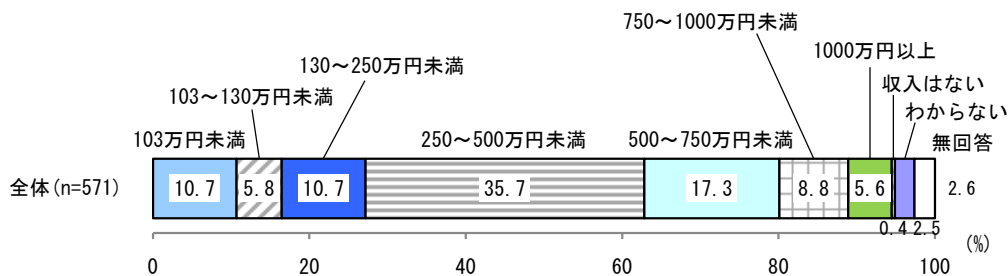
<自由意見 回答一覧>

1	女性	30歳代	女性だけ30分前に来て掃除をしなくてはいけない。
	女性	30歳代	非常勤なのに正職員並みの業務量。
	男性	30歳代	在宅勤務できない
	女性	40歳代	持ち帰りの仕事を強要される
	女性	40歳代	人件費削減とやらで人員減って仕事が増えた。不足なのに募集がない。代替りの人員がない。
	女性	40歳代	休日でも電話やメール対応を求められ、罰則があることが強く疑問を感じる。
	女性	50歳代	人手不足
	女性	50歳代	有給があるのに会社が取らせてくれない。
	男性	70歳以上	自営業の為。
2	女性	40歳代	103万未満という制限で収入が少ない。
	女性	50歳代	必要額に満たないため休めない。
	女性	50歳代	給料の低さ。
3	女性	30歳代	短時間勤務のままでは異動が難しい。
	女性	40歳代	通勤時間
	男性	60歳代	通勤時間が長い。
4	女性	20歳代	妊娠、子供が産まれると、働きづらい。
	女性	40歳代	同居している両親
5	男性	60歳代	そろそろ違う仕事をしたい。
6	女性	30歳代	10年先、20年先同じ仕事をしているのか先の心配(事務職の為)。
7	女性	40歳代	慣れない事。
8	男性	30歳代	物価高に対する支援が手薄。
9	男性	30歳代	客先、社外の人間関係

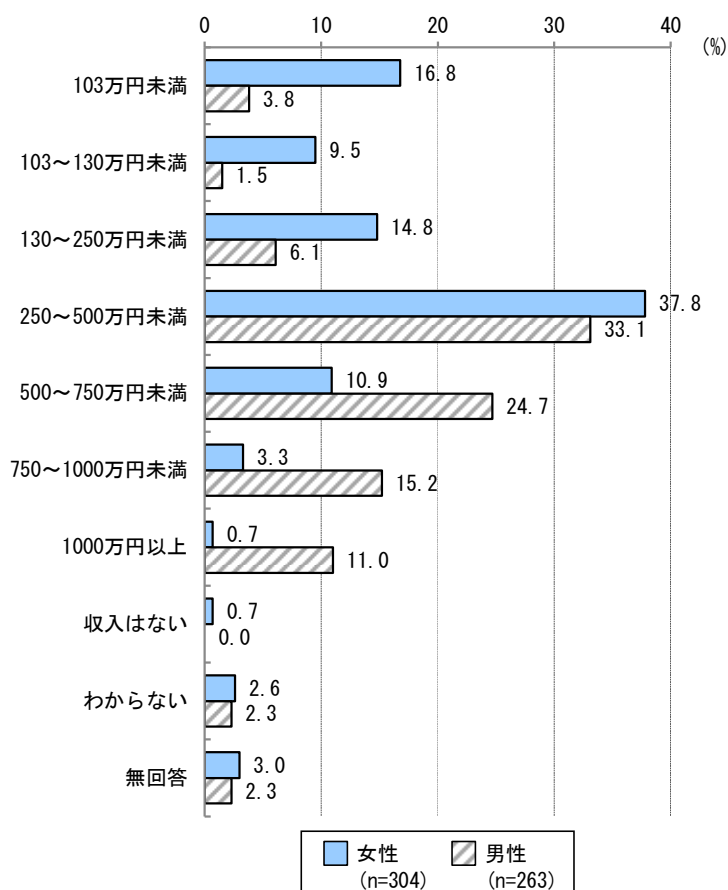
問7 令和4年中の年間収入

問7 あなたご自身の令和4年中の年間収入(税込)はどのくらいですか。年金や資産収入などすべての収入を含めた額をお答えください。(〇は1つ)

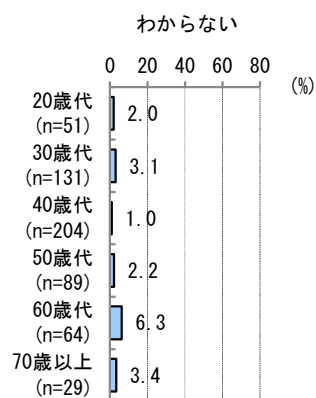
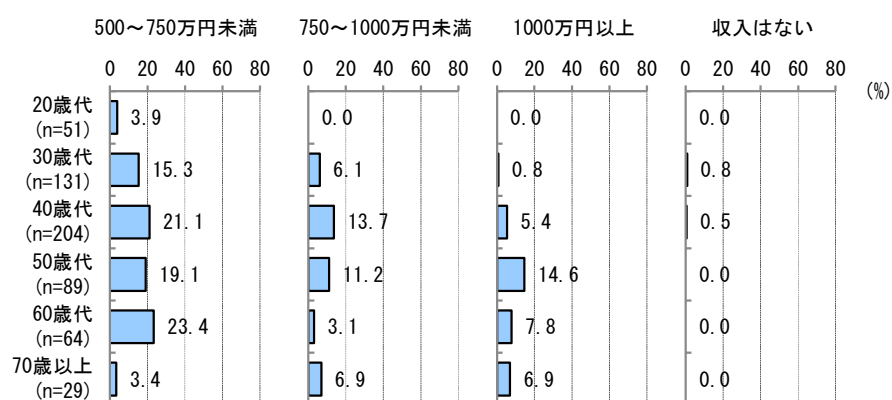
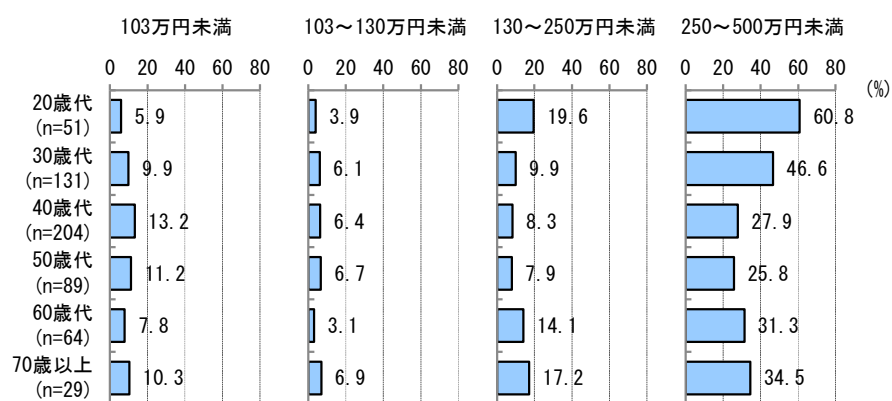
・令和4年中の年間収入については、「250～500万円未満」が35.7%と最も高く、次いで「500～750万円未満」が17.3%、「103万円未満」と「130～250万円未満」がともに10.7%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも年間収入が低い傾向にあり、「103万円未満」の割合が13.0ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも年間収入が高い傾向にあり、「500～700万円未満」の割合が13.8ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「250～500万円未満」の割合が高く、20歳代では60.8%となっています。

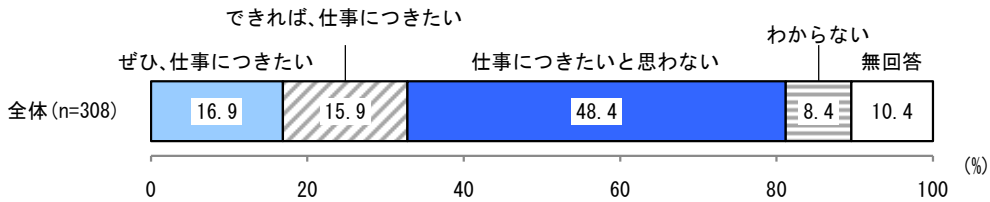


問8 今後、収入を得る仕事につきたいと思うか

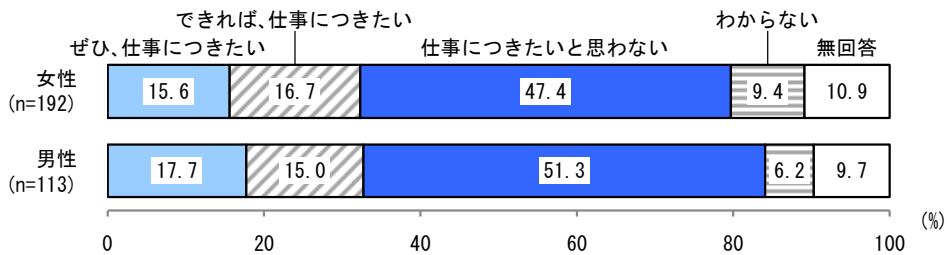
【問8と問8-1は、問4の①で「5.専業主婦・主夫」「6.学生」「7.年金生活」「8.無職(専業主婦・主夫を除く)」と答えた方におたずねします。】

問8 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

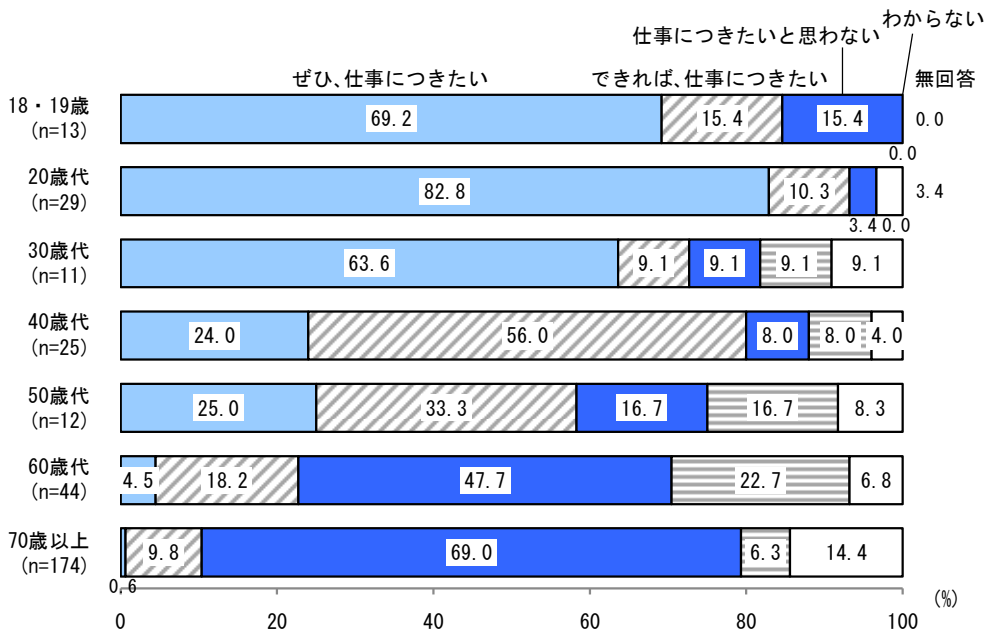
・今後、収入を得る仕事につきたいと思うかについては、「仕事につきたいと思わない」が48.4%と最も高く、次いで「ぜひ、仕事につきたい」が16.9%、「できれば、仕事につきたい」が15.9%となっています。



・性別による大きな差はありません。

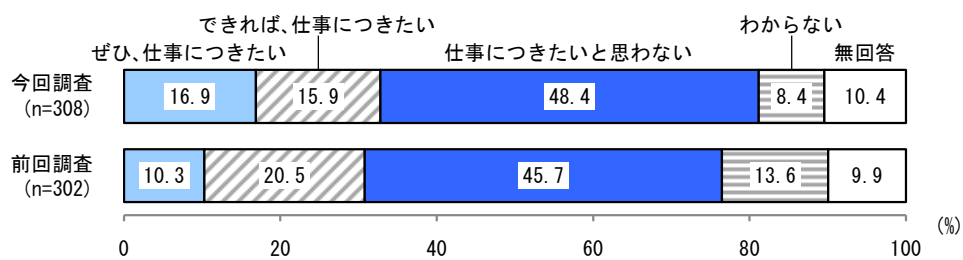


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「ぜひ、仕事につきたい」の割合が高い一方で、年代が上がるほど「仕事につきたいと思わない」の割合が高くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「ぜひ仕事につきたい」の割合が6.6ポイント高くなっています。

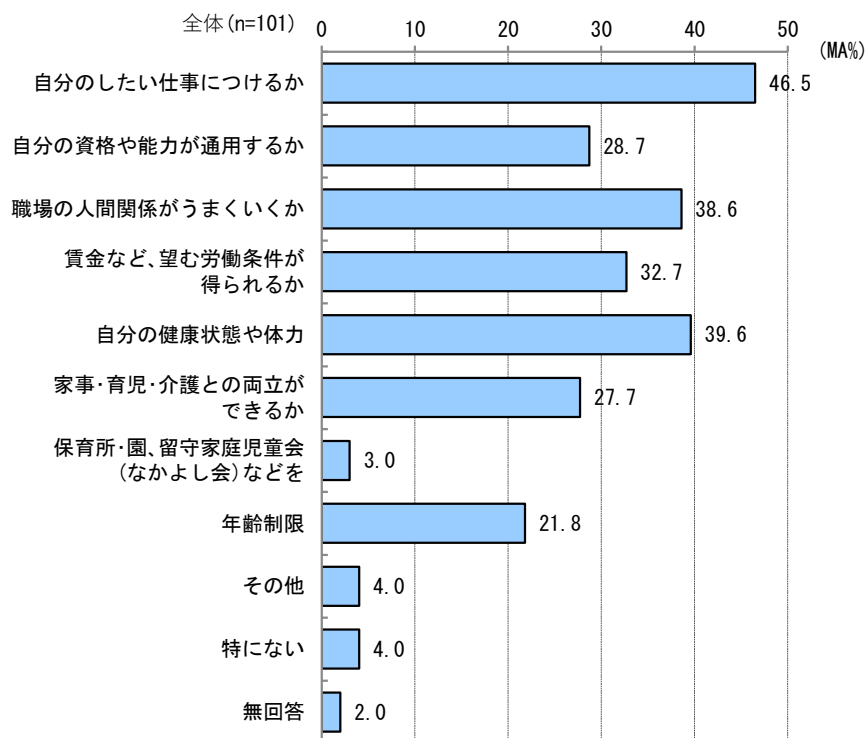


問8-1 今後、仕事につく上で困ったことや不安があるか

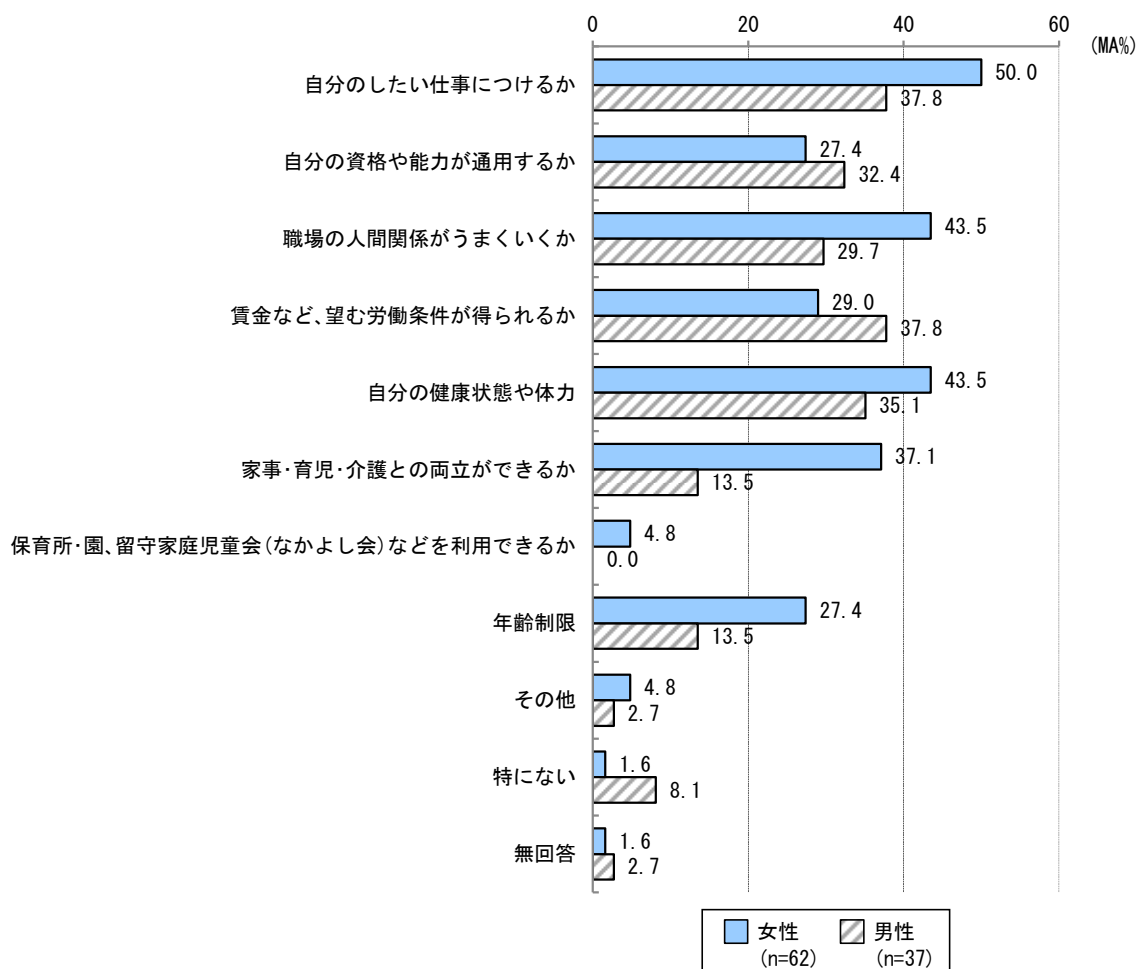
【問8で、「1.ぜひ仕事につきたい」「2.できれば、仕事につきたい」と答えた方におたずねします。】

問8-1 あなたには、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。(〇はいくつでも)

・今後、仕事につく上で困ったことや不安があるかについては、「自分のしたい仕事につけるか」が46.5%と最も高く、次いで「自分の健康状態や体力」が39.6%、「職場の人間関係がうまくいくか」が38.6%となっています。



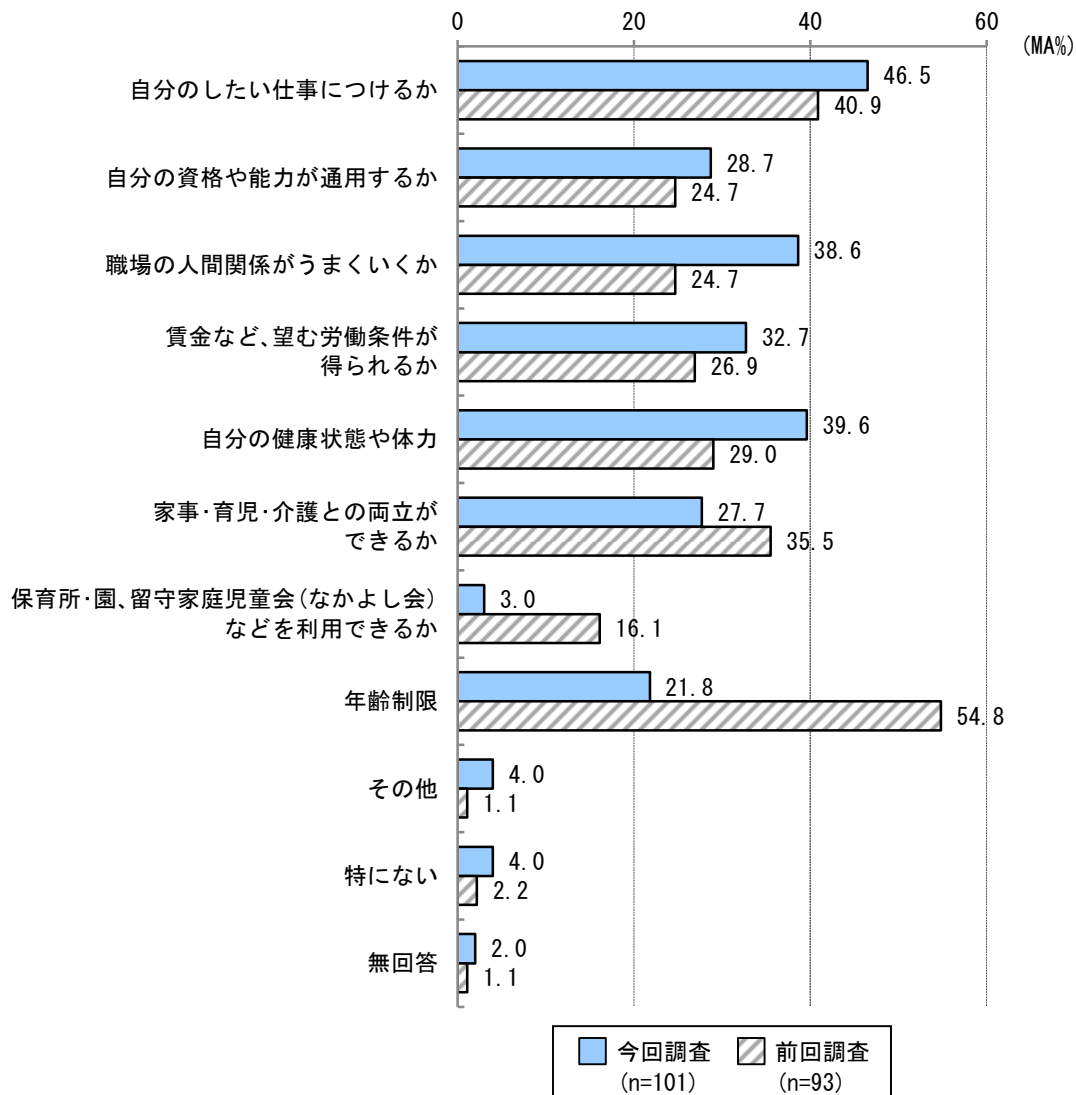
・性別にみると、ほとんどの項目で男女間に5.0ポイント以上の差があり、特に「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合で女性が男性より23.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「賃金など、望む労働条件が得られるか」の割合が8.8ポイント高くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「職場の人間関係がうまくいくか」の割合が13.9ポイント、「自分の健康状態や体力」の割合が10.6ポイント、「賃金など、望む労働条件が得られるか」の割合が5.8ポイント、「自分のしたい仕事につけるか」の割合が5.6ポイント高くなっています。

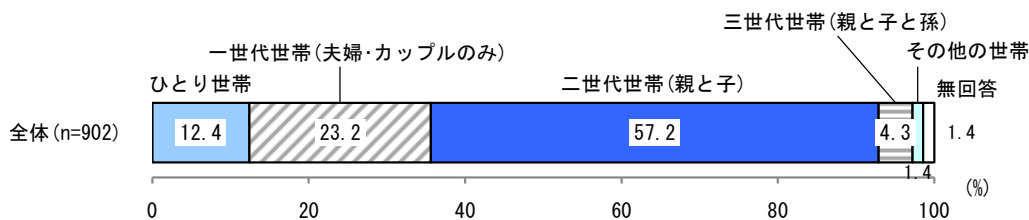
・また、「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合が7.8ポイント、「保育所・園、留守家庭児童会(なかよし会)などを利用できるか」の割合が13.1ポイント、「年齢制限」の割合が33.0ポイント低くなっています。



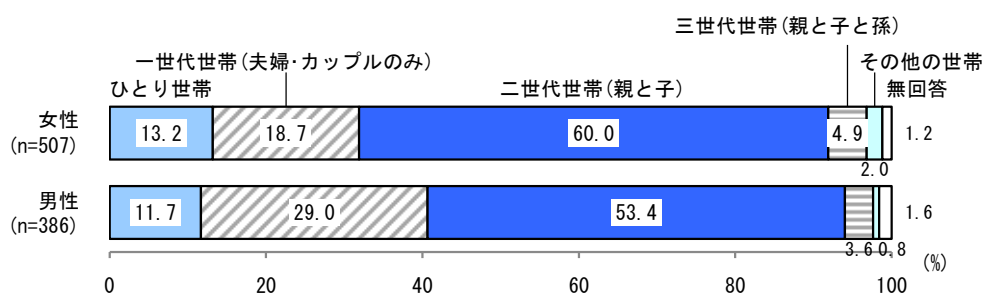
問9 家族構成

問9 あなたの家族構成は次のどれですか。(○は1つ)

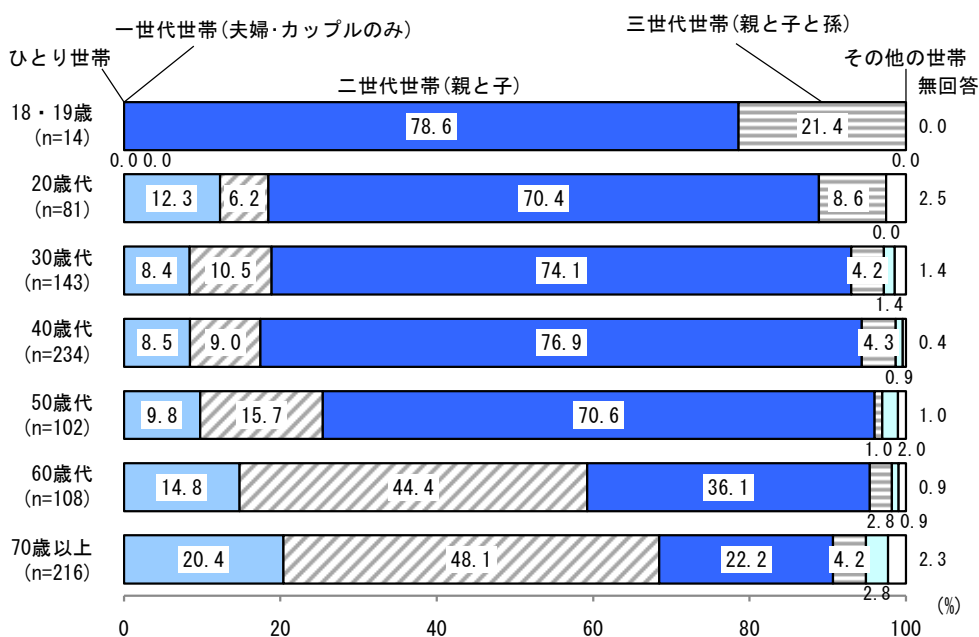
・家族構成については、「二世世代世帯(親と子)」が57.2%と最も高く、次いで「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」が23.2%、「ひとり世帯」が12.4%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「二世世代世帯(親と子)」の割合が6.6ポイント高く、男性は女性よりも「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」の割合が10.3ポイント高くなっています。



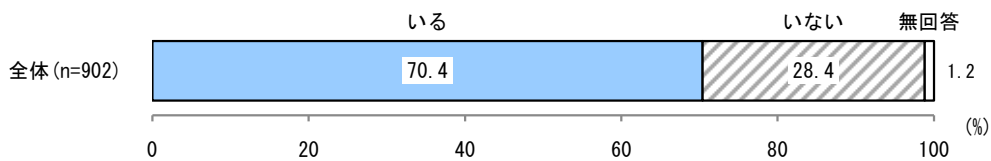
・年代別にみると、概ね若い年代ほど「二世世代世帯(親と子)」の割合が高い一方で、年代が上がるほど「ひとり世帯」と「一世世代世帯(夫婦・カップルのみ)」の割合が高くなっています。



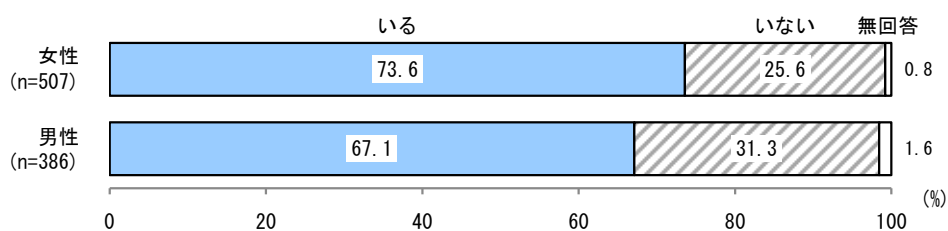
問10 お子さんの有無

問10 あなたにはお子さんがおられますか。(○は1つ)

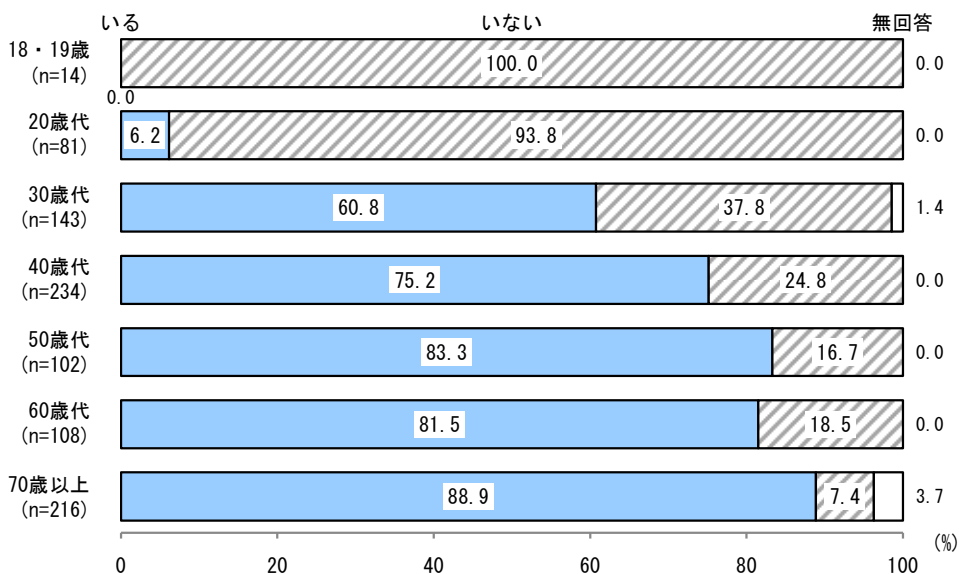
・お子さんの有無については、「いる」が70.4%と最も高く、次いで「いない」が28.4%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「いる」の割合が6.5%ポイント高く、男性は女性よりも「いない」の回答が5.7%ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね年代が上がるほどお子さんが「いる」割合も高くなっています。

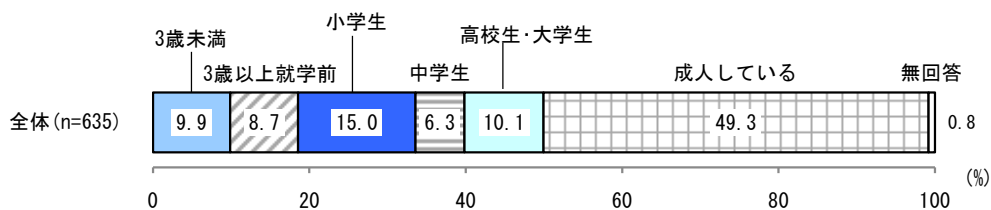


問11 一番下のお子さんについて

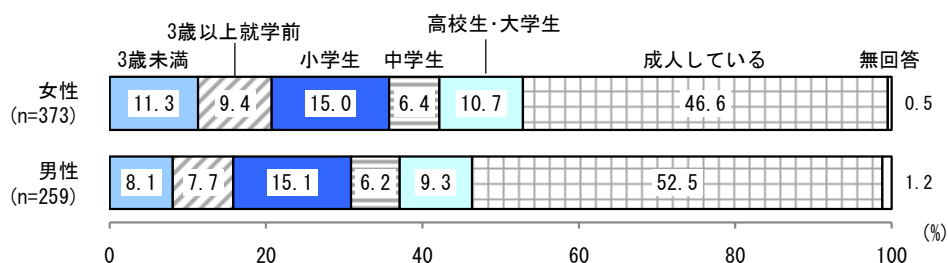
【問10で、「1.いる」と答えた方におたずねします。】

問11 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

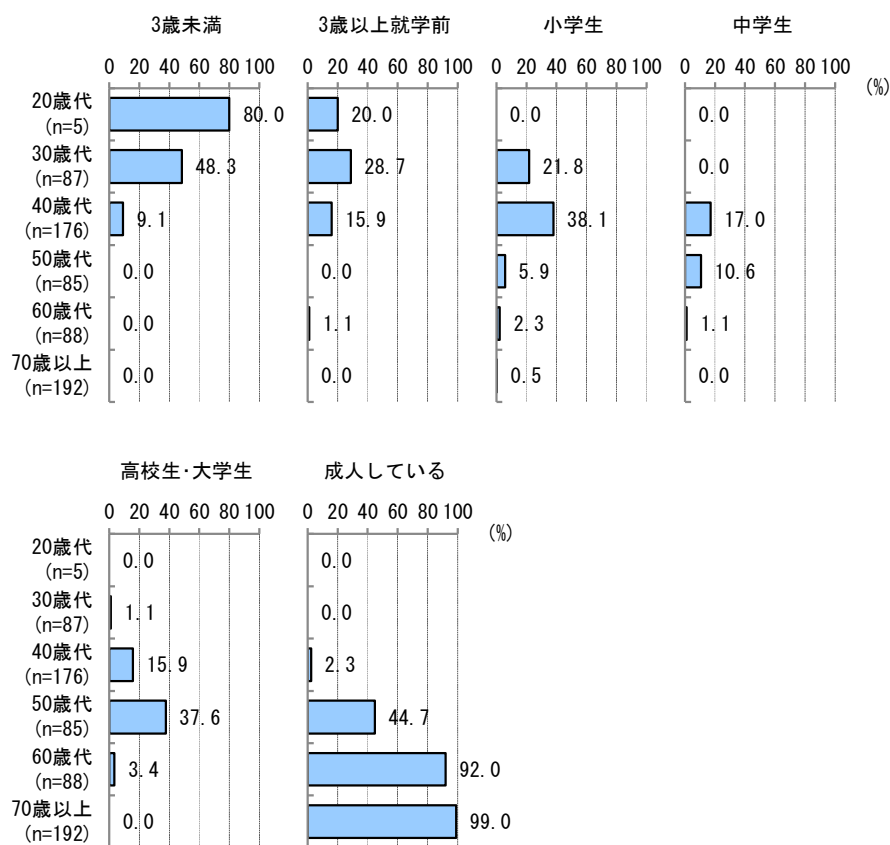
・一番下のお子さんについては、「成人している」が49.3%と最も高く、次いで「小学生」が15.0%、「高校生・大学生」が10.1%となっています。



・性別にみると、男性は女性よりも「成人している」の割合が5.9ポイント高くなっています。



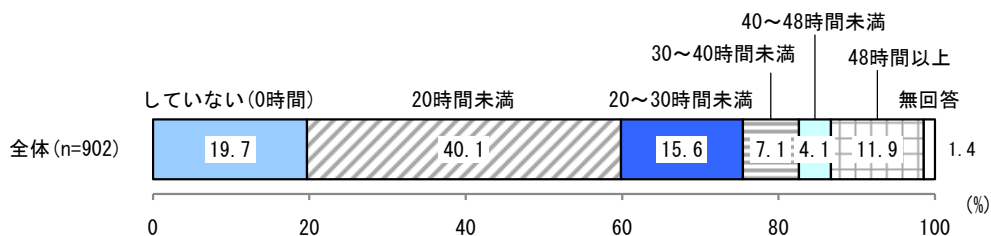
・年代別にみると、30歳代で「3歳未満」と「3歳以上就学前」、「小学生」の割合が、40歳代で「小学生」と「中学生」、「高校生・大学生」の割合が、50歳代で「中学生」と「高校生・大学生」、「成人している」の割合が、60～70歳以上で「成人している」の割合が高くなっています。



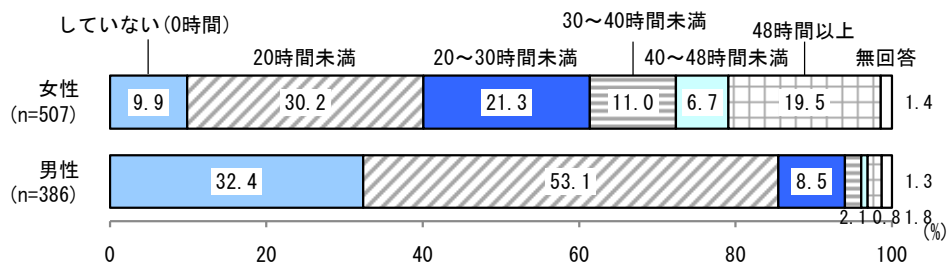
問12 1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間について

問12 1週間のうちで、あなたが家事・育児・介護等をしている平均時間はどのくらいですか。(○は1つ)

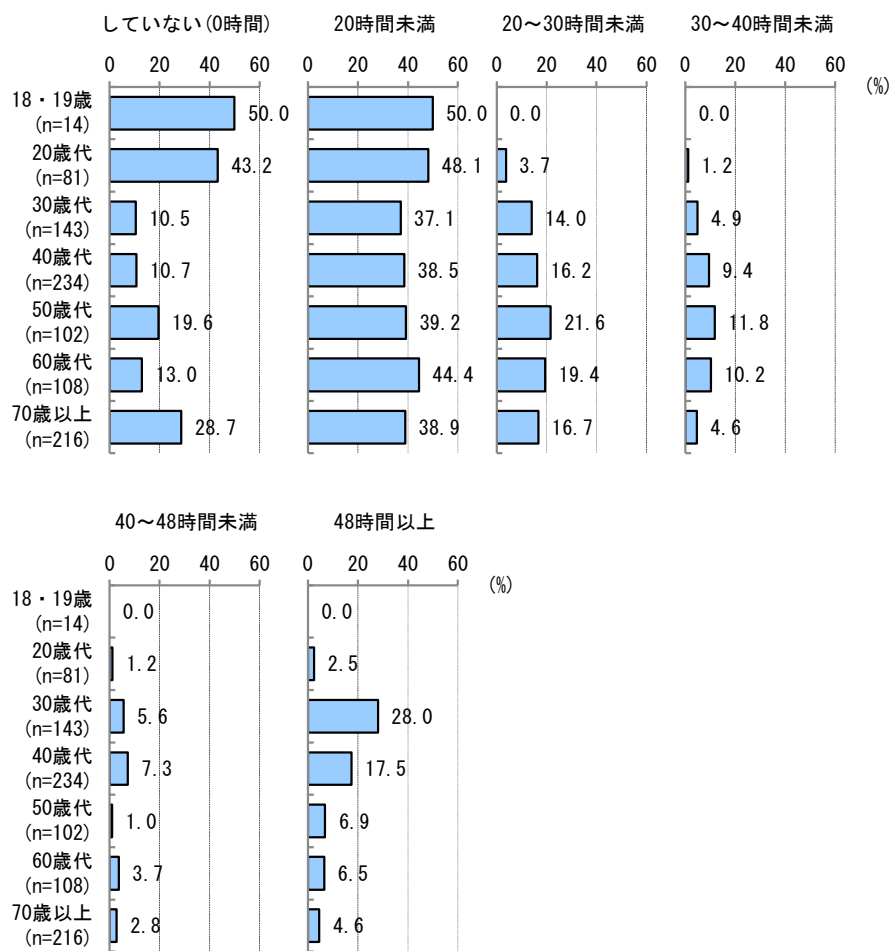
・1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間については、「20時間未満」が40.1%と最も高く、次いで「していない(0時間)」が19.7%、「20～30時間未満」が15.6%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも家事・育児・介護等をしている平均時間が長い傾向にあり、「48時間以上」の割合が17.7ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも平均時間が短い傾向にあり、「していない(0時間)」の割合が22.5ポイント、「20時間未満」の割合が22.9ポイント高くなっています。



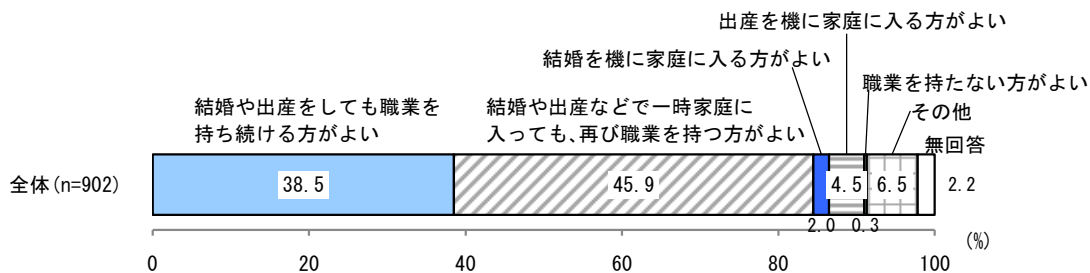
・年代別にみると、全ての年代で「20時間未満」が最も高くなっています。また、18・19歳、20歳代、70歳以上で「していない(0時間)」の割合が他の年代より高い一方で、30～40歳代で「48時間以上」が他の年代より高くなっています。



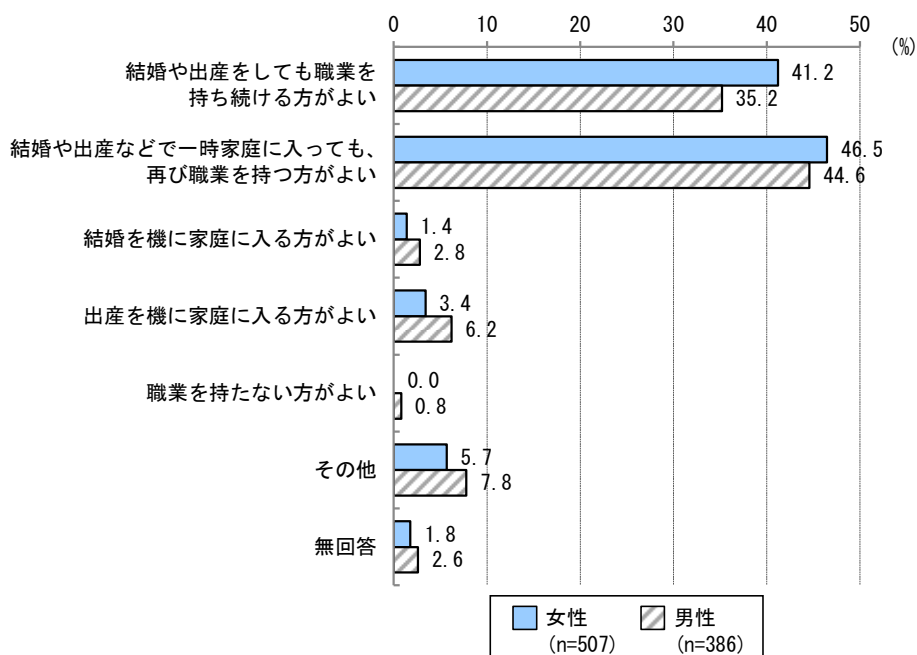
問13 女性の職業と生活設計について

問13 女性の職業と生活設計について、次のどれが望ましいと思いますか。(〇は1つ)

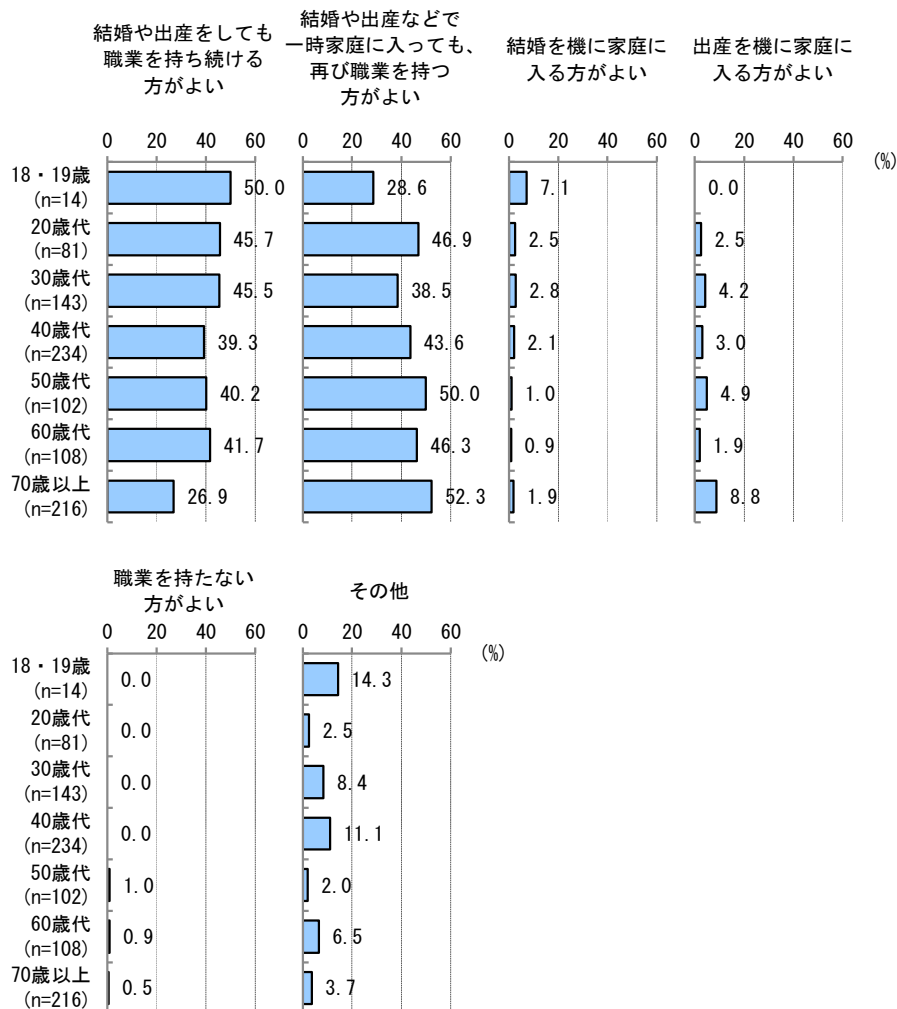
・女性の職業と生活設計については、「結婚や出産などで一時家庭に入っても、再び職業を持つ方がよい」が45.9%と最も高く、次いで「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」が38.5%、「出産を機に家庭に入る方がよい」が4.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」の割合が6.0ポイント高くなっています。



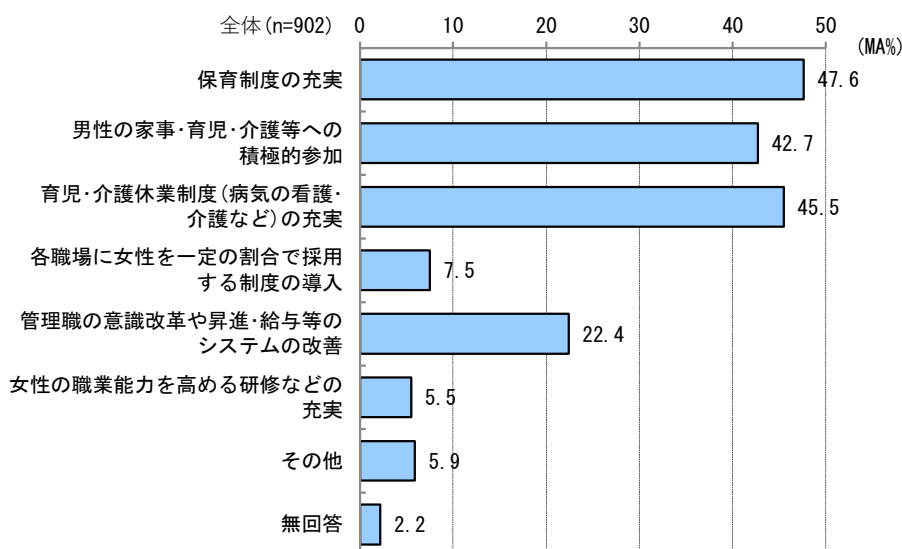
・年代別にみると、全ての年代で結婚後も職業を持つことに肯定的な選択肢(「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」と「結婚や出産などで一時家庭に入っても、再び職業を持つ方がよい」)の割合が高い一方で、70歳以上で「出産を機に家庭に入る方がよい」の割合が8.8%と他の年代より高くなっています。



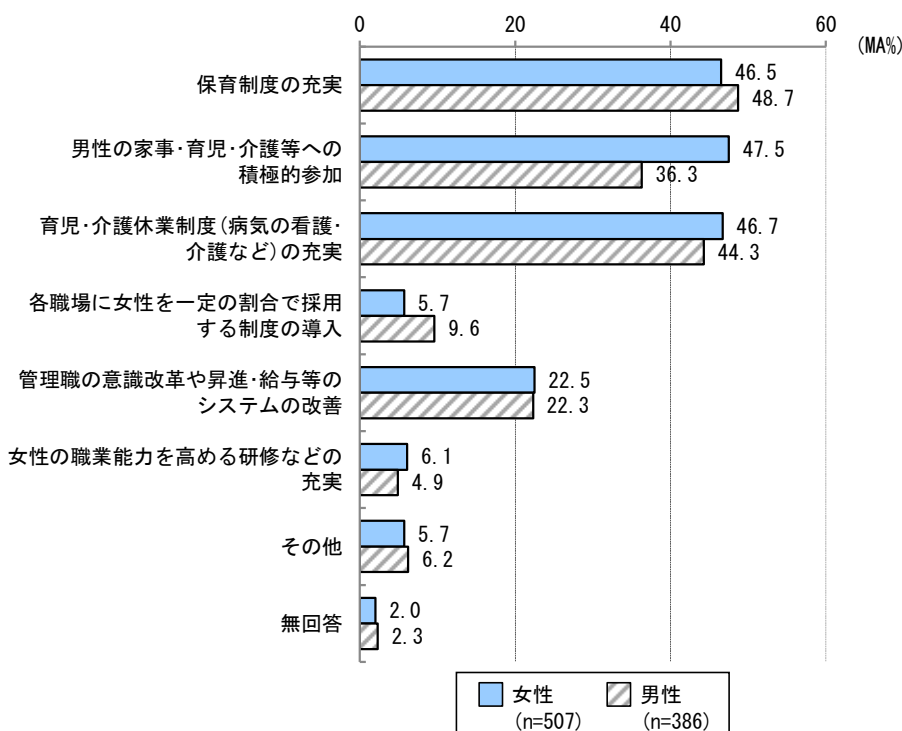
問14 現在の社会で女性が働き続けるために必要なこと

問14 現在の社会で、女性が働き続けるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。
(〇は2つまで)

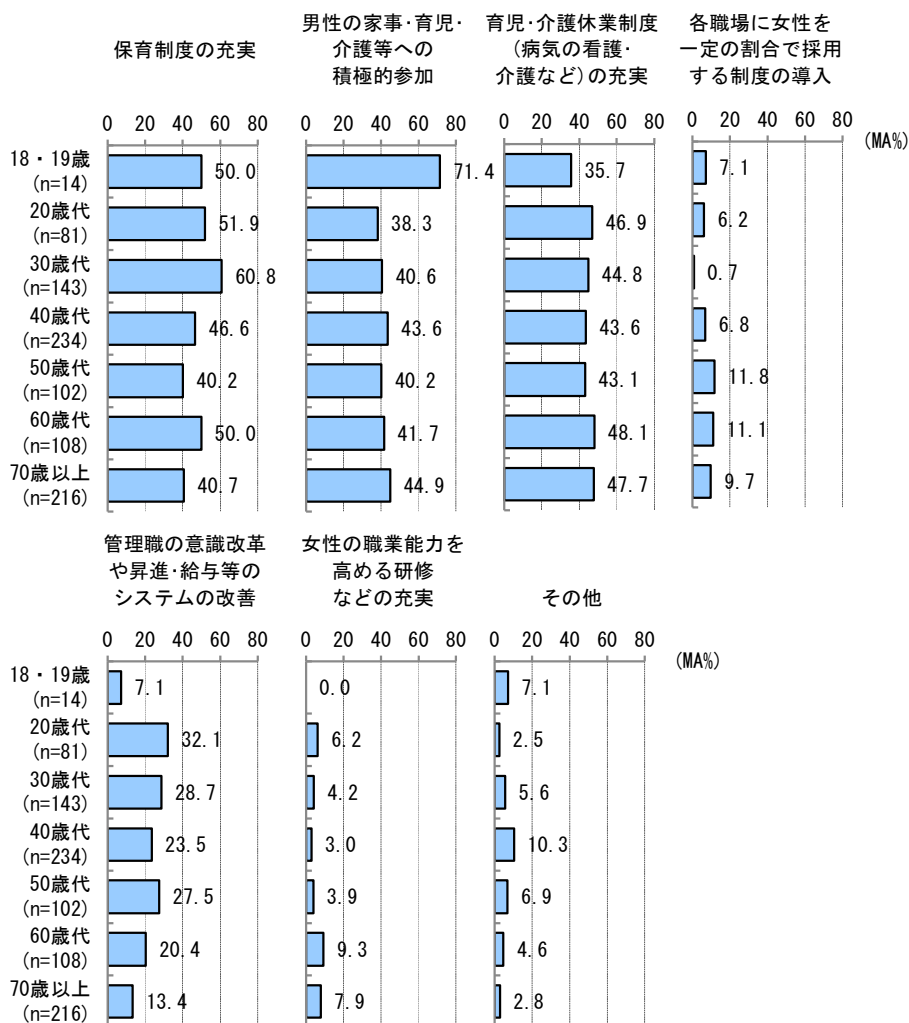
・現在の社会で女性が働き続けるために必要なことについては、「保育制度の充実」が47.6%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度(病気の看護・介護など)の充実」が45.5%、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」が42.7%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」の割合が11.2ポイント高くなっています。

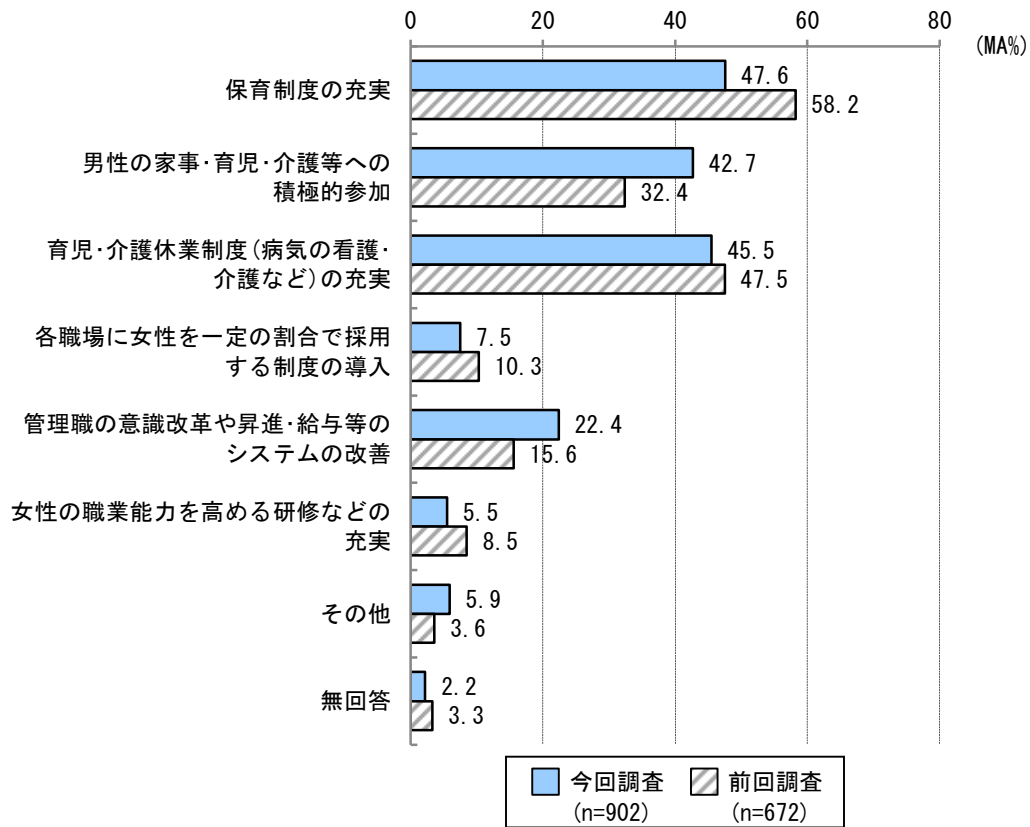


・年代別にみると、全ての年代で「保育制度の充実」、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」、「育児・介護休業制度(病気の看護・介護などの充実)」の割合が35%を超えています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」の割合が10.3ポイント、「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」の割合が6.8ポイント高く、「保育制度の充実」の割合が10.6ポイント低くなっています。

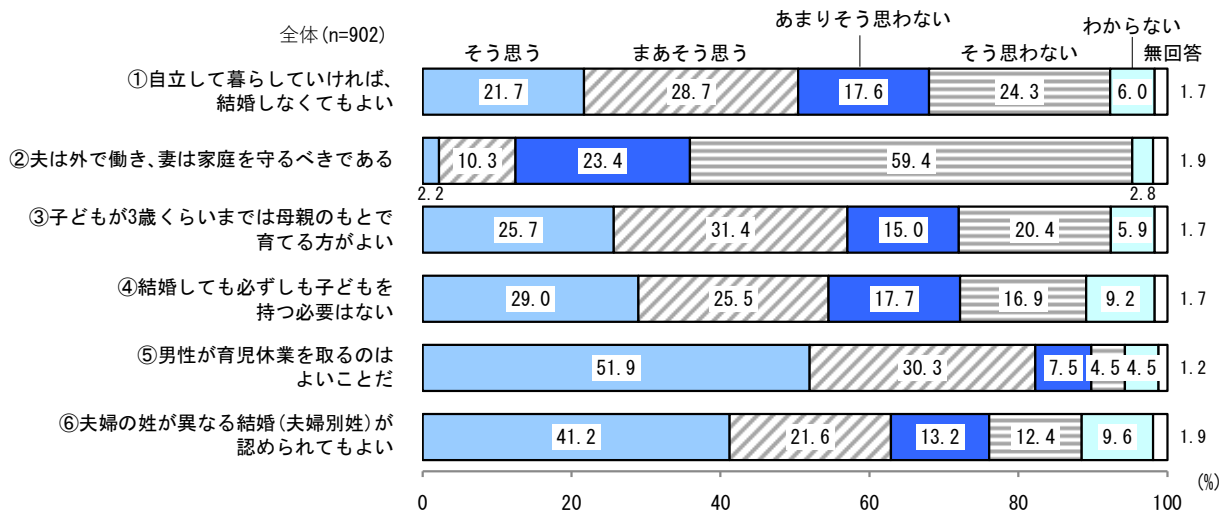


2. 男女平等や役割分担について

問15 結婚や家庭等について

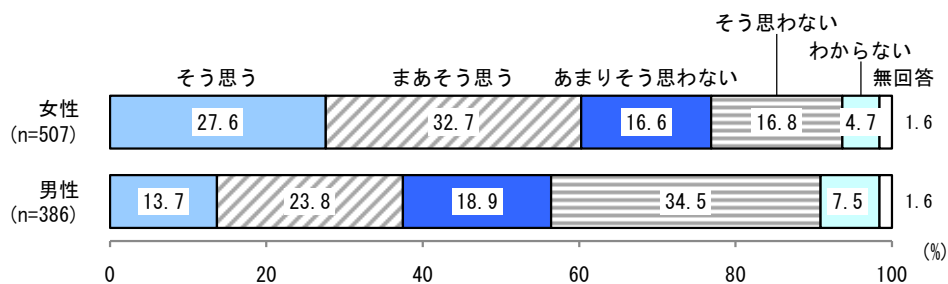
問15 結婚や家庭等について、あなたのご意見をおうかがいします。あなたのお考えに近いものはどれですか。(①～⑥の項目ごとに○はそれぞれ1つつ)

・結婚や家庭等については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『賛成意向』は「⑤男性が育児休業を取るの
はよいことだ」で82.2%と最も高く、次いで「⑥夫婦の姓が異なる結婚(夫婦別姓)が認められてもよい」が62.8%、「③子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい」が57.1%となっています。

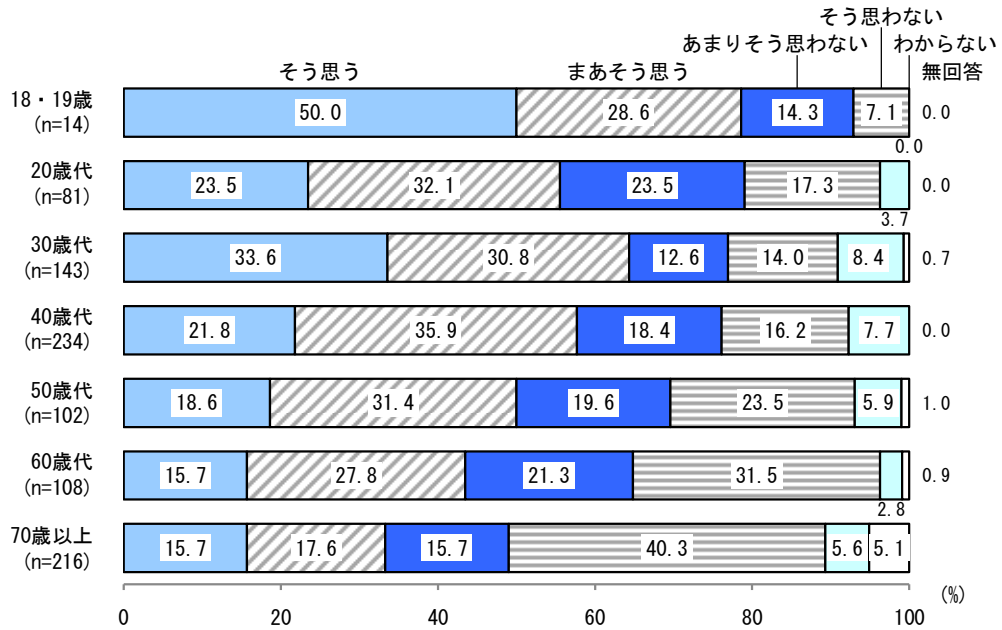


<①自立して暮らしていければ、結婚しなくてもよい>

・性別にみると、女性は男性よりも『賛成意向』の割合が22.8ポイント高く、男性は女性よりも『反対意向』の割合が20.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね若い年代ほど『賛成意向』の割合が高く、年代が上がるほど『反対意向』の割合が高い傾向にあります。



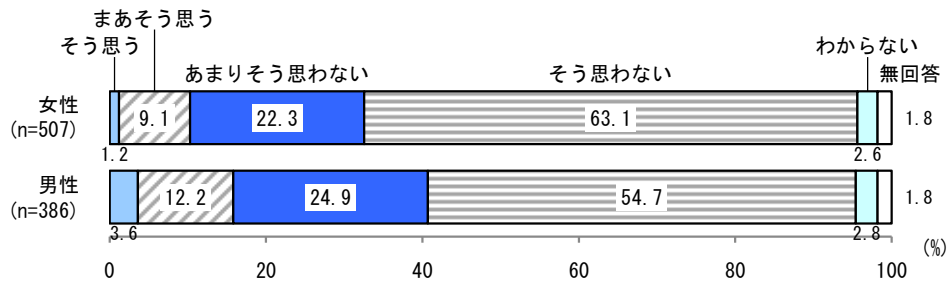
・性年代別にみると、男性60歳代で「そう思わない」の割合が50.0%となっている一方で、女性60歳代では33.3ポイント低くなっています。また、男性70歳以上で「そう思わない」の割合が54.8%となっている一方で、女性70歳以上では28.7ポイント低くなっています。

(%)

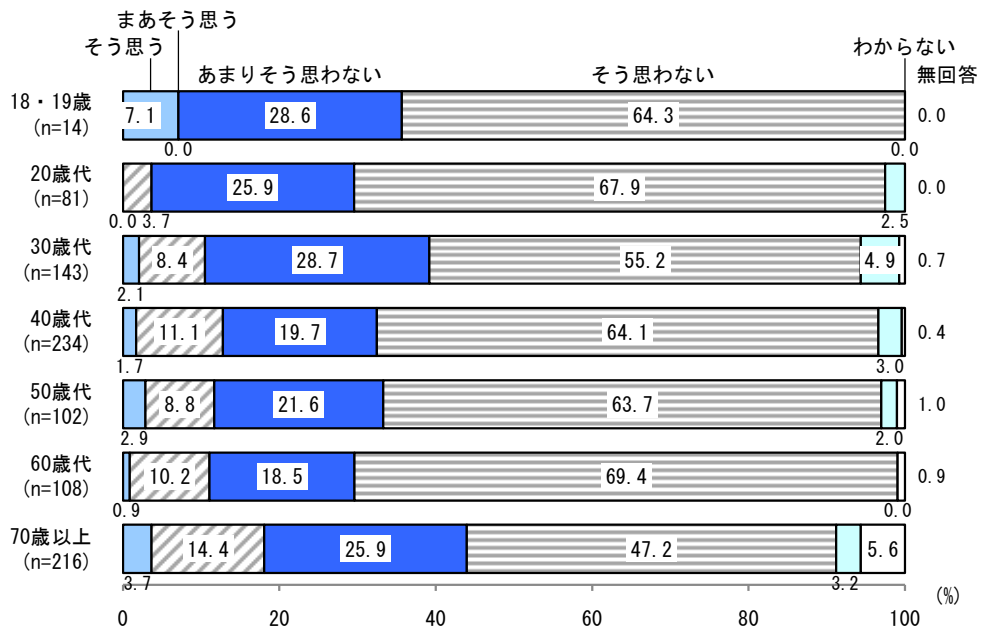
	全体	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	902	21.7	28.7	17.6	24.3	6.0	1.7
女性18・19歳	5	40.0	20.0	20.0	20.0	-	-
女性20歳代	44	29.5	31.8	25.0	11.4	2.3	-
女性30歳代	94	40.4	31.9	10.6	10.6	5.3	1.1
女性40歳代	138	27.5	36.2	15.9	14.5	5.8	-
女性50歳代	54	18.5	38.9	20.4	16.7	3.7	1.9
女性60歳代	60	23.3	38.3	20.0	16.7	-	1.7
女性70歳以上	111	22.5	24.3	15.3	26.1	7.2	4.5
男性18・19歳	7	42.9	42.9	14.3	-	-	-
男性20歳代	35	14.3	34.3	20.0	25.7	5.7	-
男性30歳代	49	20.4	28.6	16.3	20.4	14.3	-
男性40歳代	95	13.7	34.7	22.1	18.9	10.5	-
男性50歳代	46	19.6	23.9	17.4	32.6	6.5	-
男性60歳代	48	6.3	14.6	22.9	50.0	6.3	-
男性70歳以上	104	8.7	10.6	16.3	54.8	3.8	5.8

<②夫は外で働き、妻は家庭で守るべきである>

・性別にみると、女性は男性よりも『反対意向』の割合が5.8ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で『反対意向』の割合が70%を超えており、20歳代では93.8%となっています。



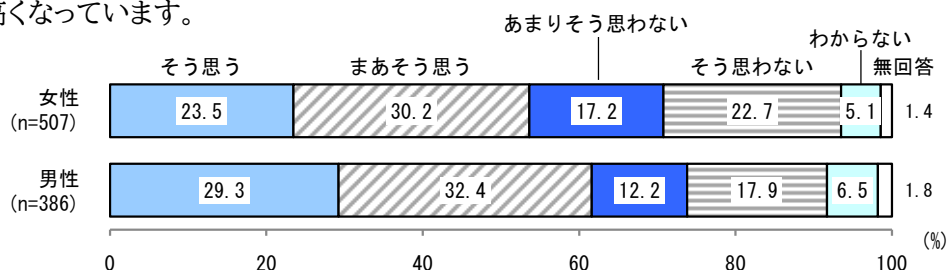
・性年代別にみると、男性50歳代で「あまりそう思わない」の割合が32.6%となっている一方で、女性50歳代では21.5ポイント低くなっています。また、女性50歳代で「そう思わない」の割合が74.1%となっている一方で、男性50歳代では19.8ポイント低くなっています。

(%)

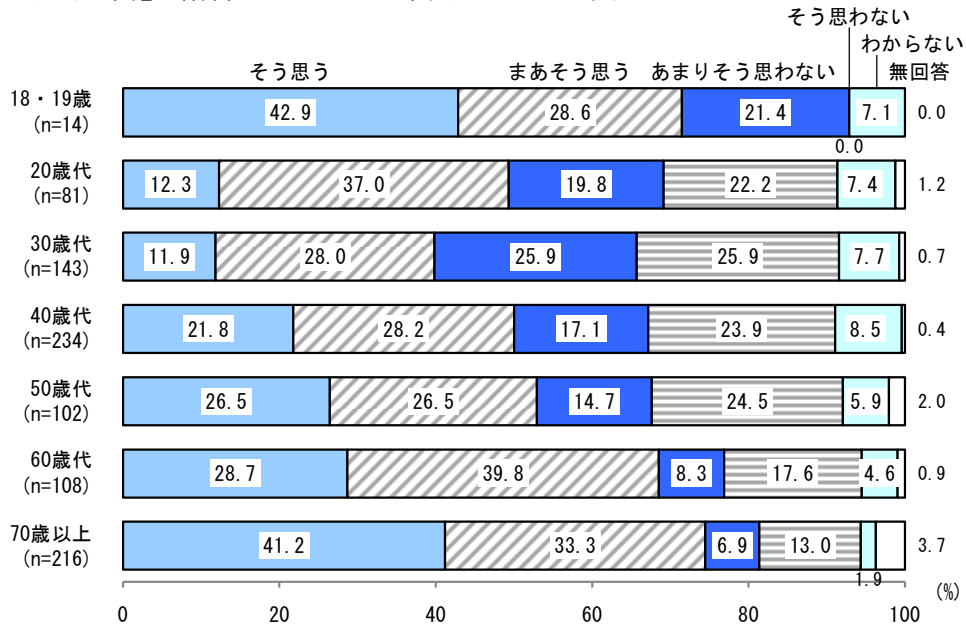
	全 体	そう 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	2.2	10.3	23.4	59.4	2.8	1.9
女性18・19歳	5	-	-	40.0	60.0	-	-
女性20歳代	44	-	2.3	29.5	65.9	2.3	-
女性30歳代	94	-	7.4	27.7	61.7	2.1	1.1
女性40歳代	138	1.4	10.9	19.6	64.5	3.6	-
女性50歳代	54	-	11.1	11.1	74.1	1.9	1.9
女性60歳代	60	-	6.7	18.3	73.3	-	1.7
女性70歳以上	111	3.6	11.7	24.3	51.4	3.6	5.4
男性18・19歳	7	14.3	-	28.6	57.1	-	-
男性20歳代	35	-	5.7	22.9	68.6	2.9	-
男性30歳代	49	6.1	10.2	30.6	42.9	10.2	-
男性40歳代	95	2.1	11.6	20.0	63.2	2.1	1.1
男性50歳代	46	6.5	6.5	32.6	54.3	-	-
男性60歳代	48	2.1	14.6	18.8	64.6	-	-
男性70歳以上	104	3.8	17.3	26.9	43.3	2.9	5.8

<③子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい>

・性別にみると、女性は男性よりも『反対意向』の割合が9.8ポイント高く、男性は女性よりも『賛成意向』の割合が8.0ポイント高くなっています。



・年代別にみると、18・19歳、50歳～70歳以上で『賛成意向』の割合が50%を超え高くなっています。一方で、20～40歳代で『反対意向』の割合が40%を超え高くなっています。



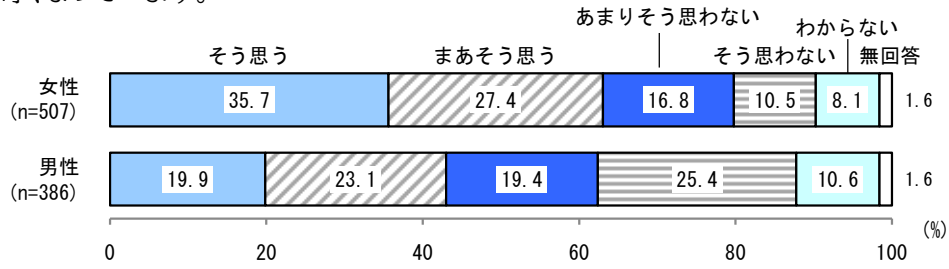
・性年代別にみると、男性50歳代で「そう思う」の割合が39.1%となっている一方で、女性50歳代では22.4ポイント低くなっています。また、男性60歳代で「そう思う」の割合が39.6%となっている一方で、女性50歳代では19.6ポイント低くなっています。

(%)

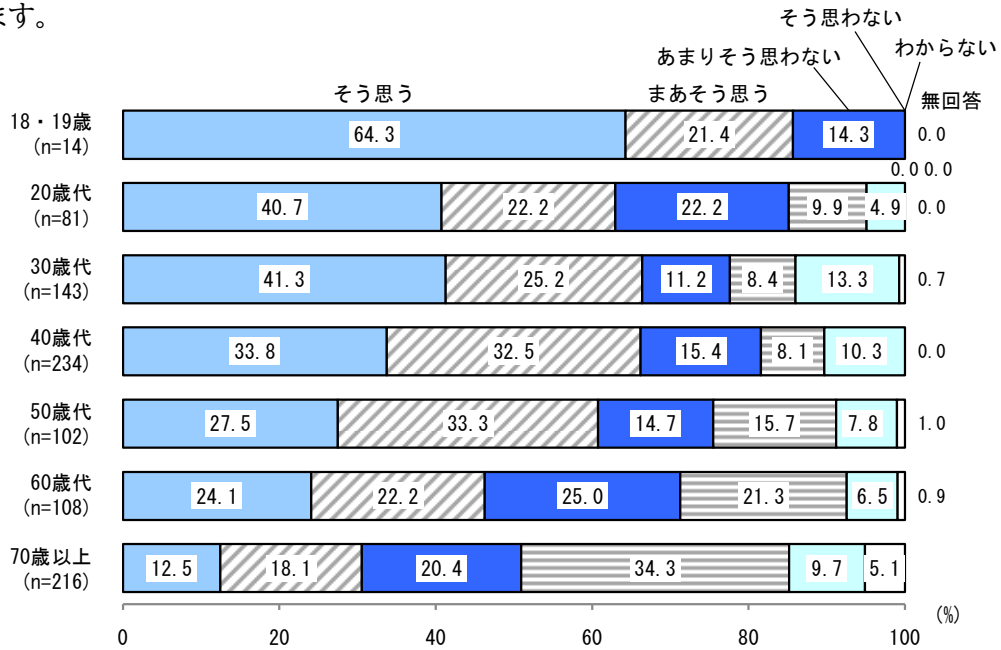
	全体	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	902	25.7	31.4	15.0	20.4	5.9	1.7
女性18・19歳	5	80.0	-	20.0	-	-	-
女性20歳代	44	11.4	43.2	18.2	18.2	9.1	-
女性30歳代	94	8.5	27.7	30.9	26.6	5.3	1.1
女性40歳代	138	23.9	27.5	16.7	24.6	7.2	-
女性50歳代	54	16.7	24.1	16.7	31.5	9.3	1.9
女性60歳代	60	20.0	38.3	13.3	25.0	1.7	1.7
女性70歳以上	111	43.2	30.6	8.1	13.5	0.9	3.6
男性18・19歳	7	28.6	42.9	28.6	-	-	-
男性20歳代	35	14.3	28.6	20.0	28.6	5.7	2.9
男性30歳代	49	18.4	28.6	16.3	24.5	12.2	-
男性40歳代	95	18.9	28.4	17.9	23.2	10.5	1.1
男性50歳代	46	39.1	28.3	13.0	17.4	-	2.2
男性60歳代	48	39.6	41.7	2.1	8.3	8.3	-
男性70歳以上	104	39.4	35.6	5.8	12.5	2.9	3.8

<④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない>

・性別にみると、女性は男性よりも『賛成意向』の割合が20.1ポイント高く、男性は女性よりも『反対意向』の割合が17.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、『賛成意向』は概ね若い年代ほど高い傾向にある一方で、『反対意向』は年代が上がるほど高い傾向にあります。



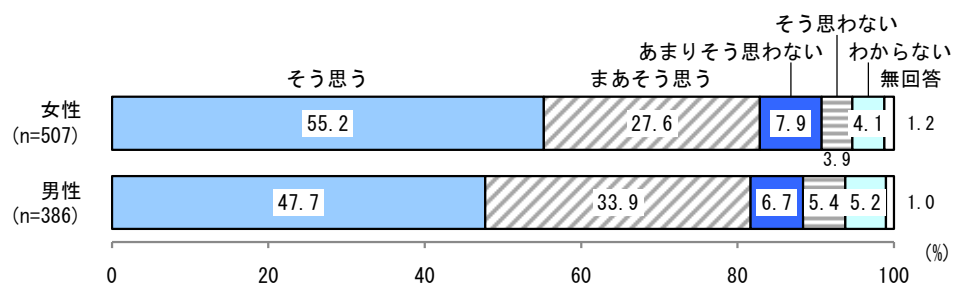
・性年代別にみると、女性20歳代で「そう思う」の割合が52.3%となっている一方で、男性30歳代では29.4ポイント低くなっています。また、女性30歳代で「そう思う」の割合が53.2%となっている一方で、男性30歳代では34.8ポイント低くなっています。

(%)

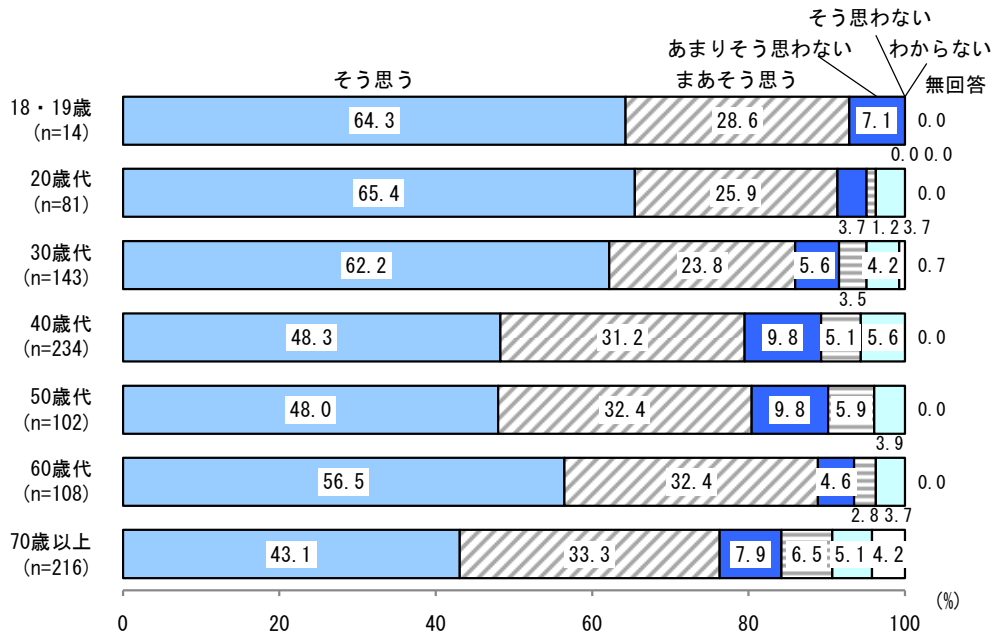
	全 体	そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	29.0	25.5	17.7	16.9	9.2	1.7
女性18・19歳	5	40.0	20.0	40.0	-	-	-
女性20歳代	44	52.3	15.9	31.8	-	-	-
女性30歳代	94	53.2	19.1	10.6	6.4	9.6	1.1
女性40歳代	138	34.8	39.1	11.6	5.1	9.4	-
女性50歳代	54	31.5	38.9	11.1	9.3	7.4	1.9
女性60歳代	60	31.7	25.0	21.7	15.0	5.0	1.7
女性70歳以上	111	19.8	20.7	20.7	23.4	10.8	4.5
男性18・19歳	7	71.4	28.6	-	-	-	-
男性20歳代	35	22.9	31.4	11.4	22.9	11.4	-
男性30歳代	49	18.4	36.7	12.2	12.2	20.4	-
男性40歳代	95	32.6	22.1	21.1	12.6	11.6	-
男性50歳代	46	23.9	26.1	19.6	23.9	6.5	-
男性60歳代	48	14.6	18.8	29.2	29.2	8.3	-
男性70歳以上	104	4.8	15.4	20.2	45.2	8.7	5.8

<⑤男性が育児休業を取るのはいいことだ>

・性別にみると、女性は男性よりも「そう思う」の割合が7.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で『賛成意向』の割合が75%を超えており、18・19歳で92.9%と高くなっています。



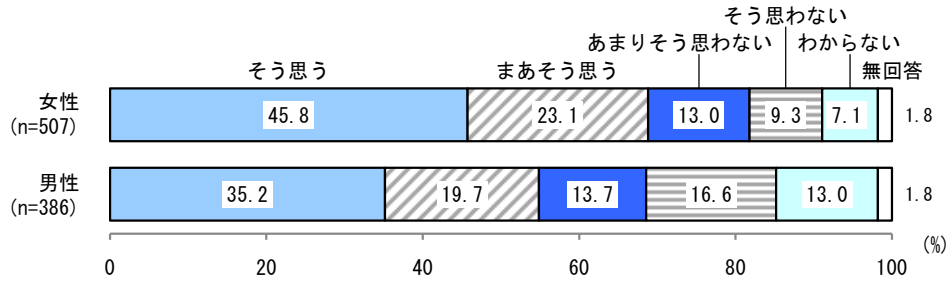
・性年代別にみると、女性50歳で「そう思う」の割合が57.4%となっている一方で、男性50歳では20.4ポイント低くなっています。

(%)

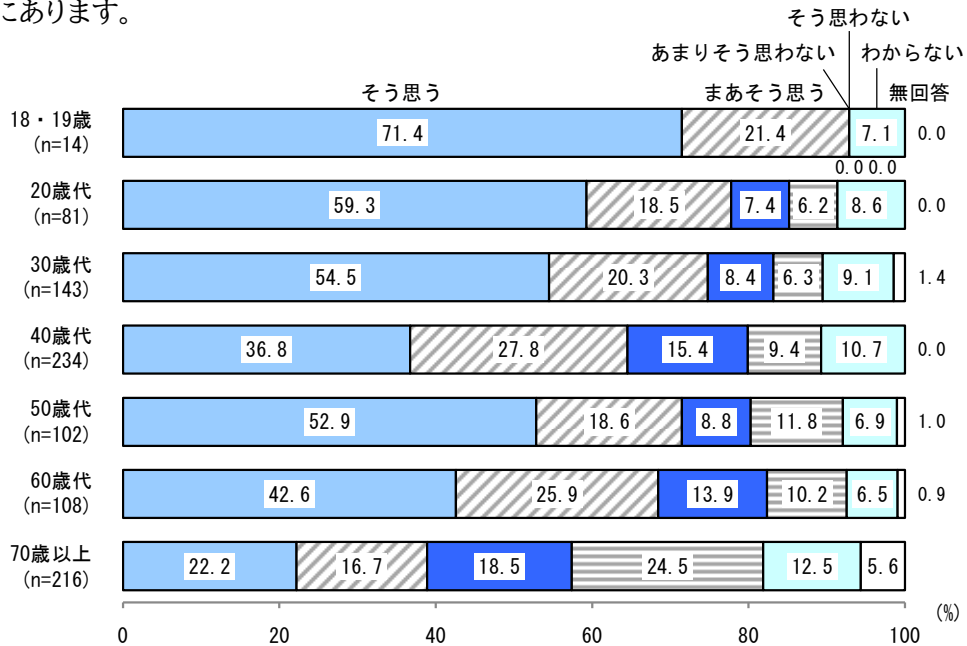
	全体	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全体	902	51.9	30.3	7.5	4.5	4.5	1.2
女性18・19歳	5	80.0	20.0	-	-	-	-
女性20歳代	44	59.1	27.3	6.8	2.3	4.5	-
女性30歳代	94	63.8	22.3	6.4	4.3	2.1	1.1
女性40歳代	138	52.9	26.1	11.6	2.9	6.5	-
女性50歳代	54	57.4	27.8	9.3	3.7	1.9	-
女性60歳代	60	60.0	30.0	3.3	3.3	3.3	-
女性70歳以上	111	44.1	33.3	7.2	6.3	4.5	4.5
男性18・19歳	7	57.1	42.9	-	-	-	-
男性20歳代	35	71.4	25.7	-	-	2.9	-
男性30歳代	49	59.2	26.5	4.1	2.0	8.2	-
男性40歳代	95	42.1	37.9	7.4	8.4	4.2	-
男性50歳代	46	37.0	39.1	8.7	8.7	6.5	-
男性60歳代	48	52.1	35.4	6.3	2.1	4.2	-
男性70歳以上	104	42.3	32.7	8.7	6.7	5.8	3.8

<⑥夫婦の姓が異なる結婚(夫婦別姓)が認められてもよい>

・性別にみると、女性は男性よりも『賛成意向』の割合が14.0ポイント高く、男性は女性よりも『反対意向』の割合が8.0ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね若い年代ほど『賛成意向』の割合が高い傾向にあり、年代が上がるほど『反対意向』の割合が高い傾向にあります。



・性年代別にみると、女性20歳代で「そう思う」の割合が68.2%となっている一方で、男性20歳代では22.5ポイント低くなっています。また、女性60歳で「まあそう思う」の割合が33.3%となっている一方で、男性60歳では16.5ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	41.2	21.6	13.2	12.4	9.6	1.9
女性18・19歳	5	60.0	40.0	-	-	-	-
女性20歳代	44	68.2	15.9	9.1	-	6.8	-
女性30歳代	94	59.6	21.3	8.5	5.3	4.3	1.1
女性40歳代	138	42.0	29.7	13.8	5.8	8.7	-
女性50歳代	54	59.3	16.7	11.1	7.4	3.7	1.9
女性60歳代	60	43.3	33.3	13.3	6.7	1.7	1.7
女性70歳以上	111	23.4	16.2	18.9	23.4	12.6	5.4
男性18・19歳	7	71.4	14.3	-	-	14.3	-
男性20歳代	35	45.7	22.9	5.7	14.3	11.4	-
男性30歳代	49	44.9	18.4	8.2	8.2	18.4	2.0
男性40歳代	95	29.5	24.2	17.9	14.7	13.7	-
男性50歳代	46	47.8	19.6	6.5	17.4	8.7	-
男性60歳代	48	41.7	16.7	14.6	14.6	12.5	-
男性70歳以上	104	21.2	17.3	18.3	25.0	12.5	5.8

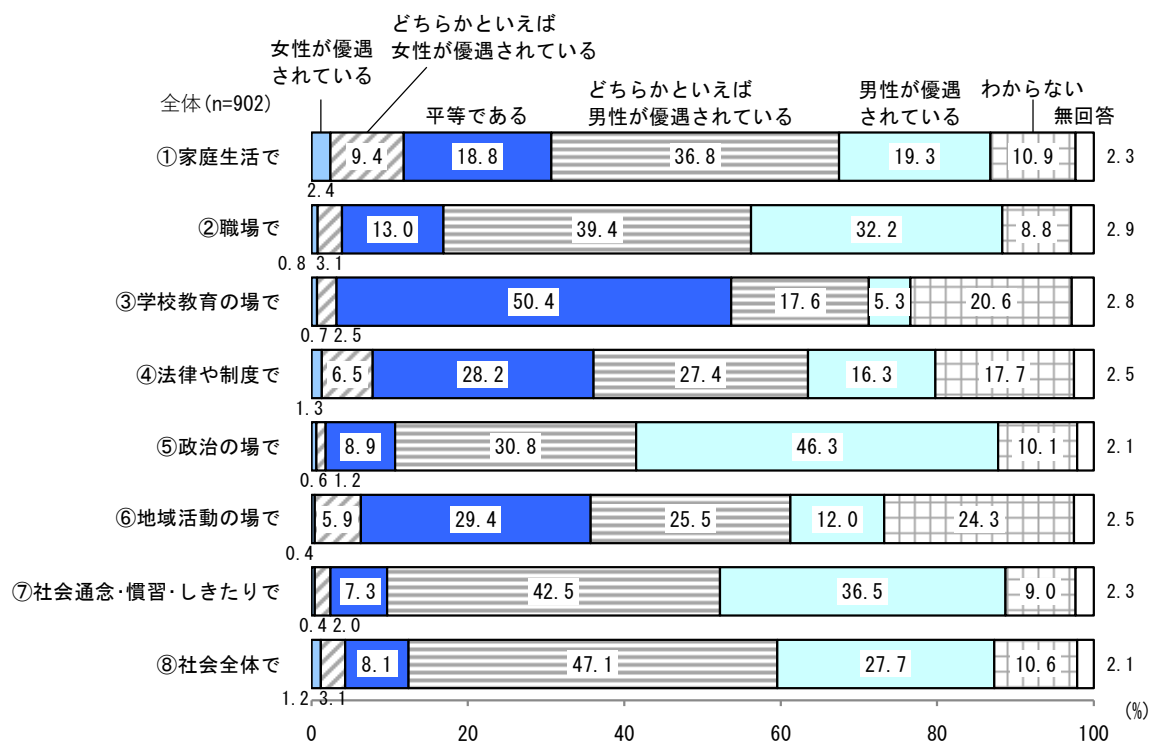
問16 男女の地位について

問16 現在の日本の社会での男女の地位は、それぞれの分野でどの程度、平等になっていると思いますか。
 (①～⑧の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

・男女の地位については、全ての項目において「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた『男性優遇』意識が、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた『女性優遇』意識を上回っています。

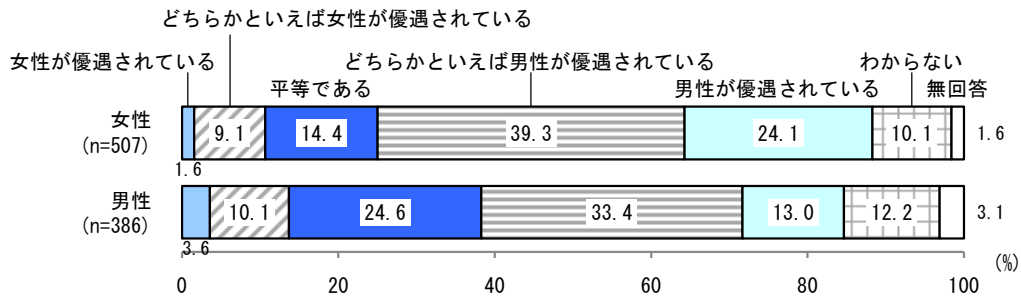
・『男性優遇』意識が高い順に、「⑦社会通念・慣習・しきたりで」(79.0%)、「⑤政治の場で」(77.1%)、「⑧社会全体で」(74.8%)となっています。

・一方、「平等である」の割合が高い項目としては、順に「③学校教育の場で」(50.4%)、「⑥地域活動の場で」(29.4%)、「④法律や制度で」(28.2%)となっています。

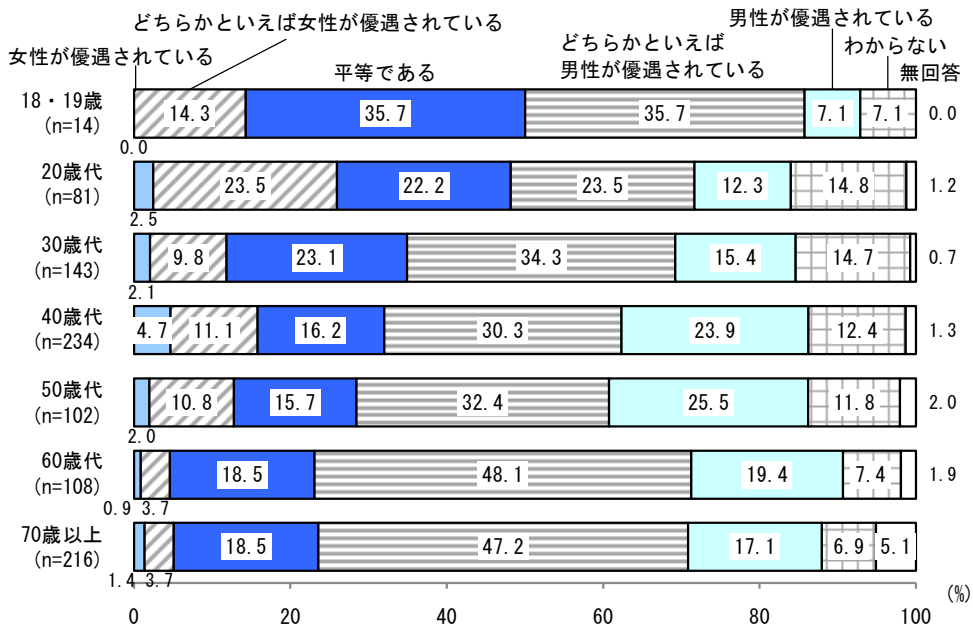


<①家庭生活で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が17.0ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね年代が上がるほど『男性優遇』意識の割合が高い傾向にあります。一方で、20歳代で『女性優遇』意識が26.0%と他の年代より高くなっています。



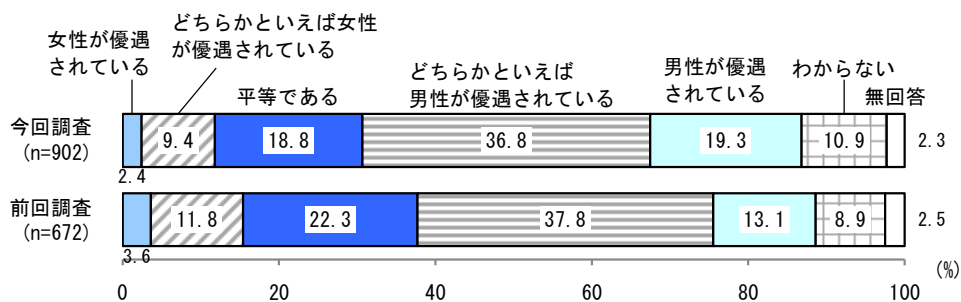
・性年代別にみると、女性50歳代で「男性が優遇されている」の割合が38.9%となっている一方で、男性50歳代では30.2ポイント低くなっています。また、男性60歳代で「平等である」の割合が29.2%となっている一方で、女性60歳代で19.2ポイント低くなっています。加えて、女性60歳代で「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が56.7%となっている一方で、男性60歳代では19.2ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	2.4	9.4	18.8	36.8	19.3	10.9	2.3
女性18・19歳	5	-	20.0	60.0	20.0	-	-	-
女性20歳代	44	2.3	22.7	25.0	25.0	11.4	13.6	1.1
女性30歳代	94	2.1	9.6	18.1	36.2	21.3	11.7	1.9
女性40歳代	138	2.2	8.0	12.3	37.0	26.8	12.3	2.7
女性50歳代	54	1.9	9.3	7.4	33.3	38.9	7.4	2.9
女性60歳代	60	-	3.3	10.0	56.7	21.7	6.7	1.1
女性70歳以上	111	0.9	7.2	13.5	45.0	22.5	8.1	2.1
男性18・19歳	7	-	14.3	28.6	42.9	-	14.3	-
男性20歳代	35	2.9	25.7	17.1	20.0	14.3	17.1	1.4
男性30歳代	49	2.0	10.2	32.7	30.6	4.1	20.4	1.7
男性40歳代	95	8.4	15.8	21.1	21.1	20.0	12.6	-
男性50歳代	46	2.2	13.0	26.1	30.4	8.7	17.4	-
男性60歳代	48	2.1	4.2	29.2	37.5	16.7	8.3	2.2
男性70歳以上	104	1.9	-	24.0	49.0	11.5	5.8	7.7

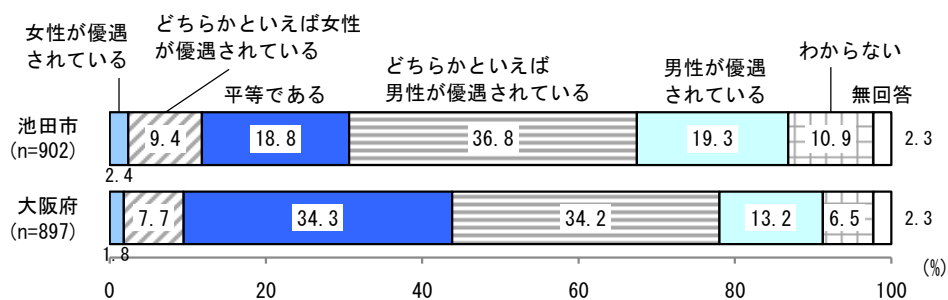
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「男性が優遇されている」の割合が6.2ポイント高くなっています。



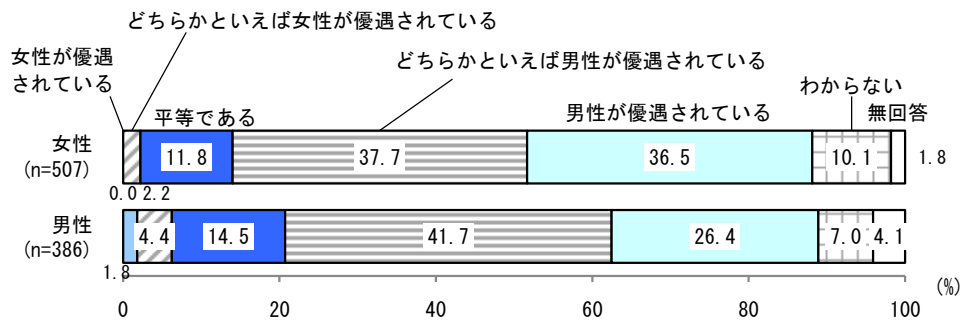
◇ 大阪府調査との比較

・大阪府調査と比べると、池田市は「男性が優遇されている」の割合が6.1ポイント高く、「平等である」の割合が15.5ポイント低くなっています。

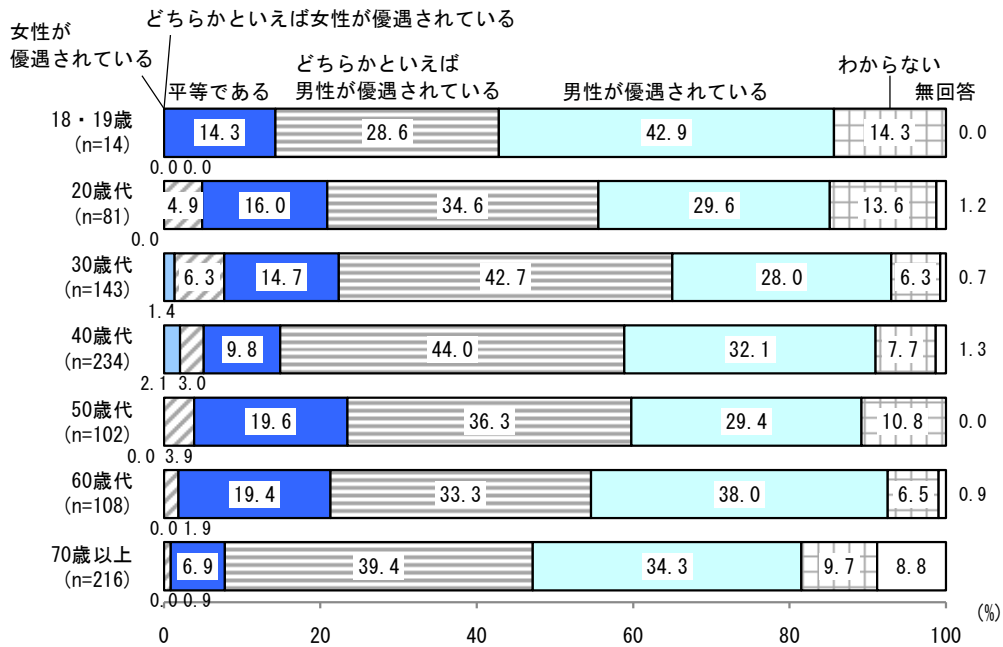


<②職場で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が6.1ポイント高くなっています。



・年代別にみると、20歳代以外の年代で『男性優遇』意識の割合が70%を超えている一方で、20歳代では64.2%と他の年代より低くなっています。



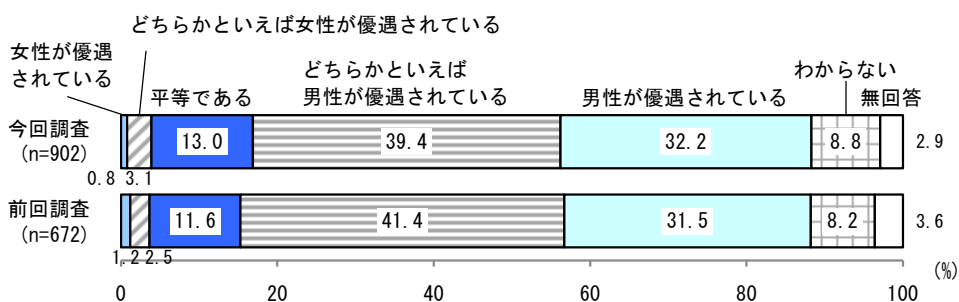
・性年代別にみると、男性50歳代で「平等である」の割合が28.3%となっている一方で、女性50歳代では15.3ポイント低くなっています。また、女性50歳代で「男性が優遇されている」の割合が40.7%となっている一方で、男性50歳代では25.5ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女 性 が 優 遇 さ れ て い る	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	0.8	3.1	13.0	39.4	32.2	8.8	2.9
女性18・19歳	5	-	-	-	40.0	40.0	20.0	-
女性20歳代	44	-	4.5	18.2	29.5	29.5	18.2	1.1
女性30歳代	94	-	5.3	14.9	38.3	33.0	7.4	-
女性40歳代	138	-	1.4	10.1	42.0	36.2	8.7	5.4
女性50歳代	54	-	1.9	13.0	35.2	40.7	9.3	2.9
女性60歳代	60	-	1.7	15.0	35.0	41.7	6.7	1.1
女性70歳以上	111	-	-	7.2	36.9	37.8	12.6	2.1
男性18・19歳	7	-	-	28.6	14.3	42.9	14.3	-
男性20歳代	35	-	5.7	11.4	40.0	31.4	8.6	1.4
男性30歳代	49	4.1	8.2	14.3	51.0	18.4	4.1	-
男性40歳代	95	5.3	5.3	9.5	46.3	26.3	6.3	-
男性50歳代	46	-	6.5	28.3	39.1	15.2	10.9	-
男性60歳代	48	-	2.1	25.0	31.3	33.3	6.3	-
男性70歳以上	104	-	1.9	6.7	42.3	29.8	6.7	12.5

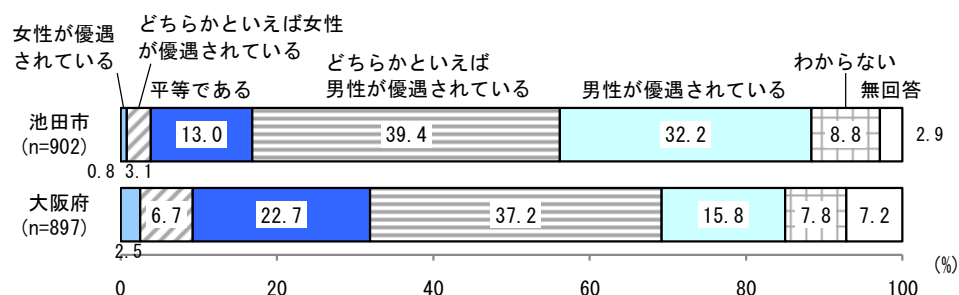
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。



◇ 大阪府調査との比較

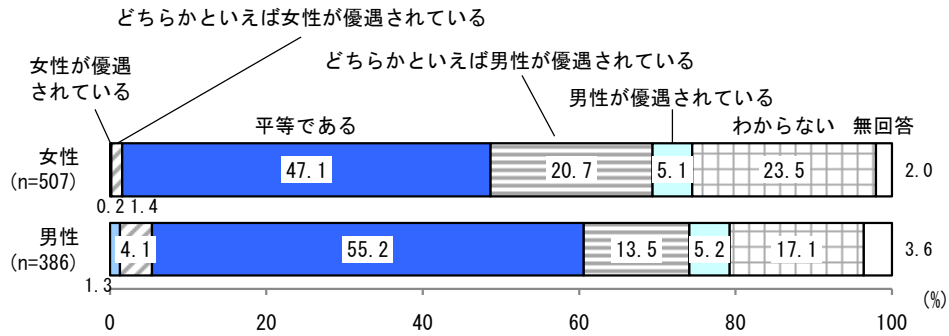
・大阪府調査と比べると、池田市は「男性が優遇されている」の割合が16.4ポイント高く、「平等である」の割合が9.7ポイント低くなっています。



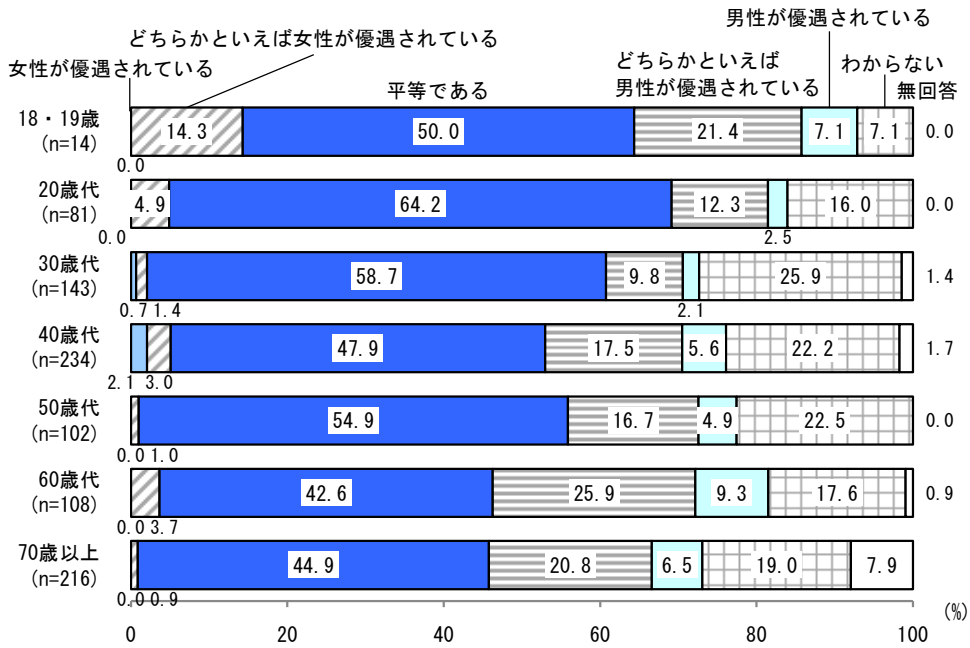
※大阪府調査では「職場の中で」、本調査では「職場で」と項目がやや異なることに注意が必要です。

<③学校教育の場で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が7.1ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも『平等である』の割合が8.1ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね若い年代ほど『平等である』の割合が高い傾向にあります。一方で、60歳代で『男性優遇』意識の割合が高く、35.2%となっています。



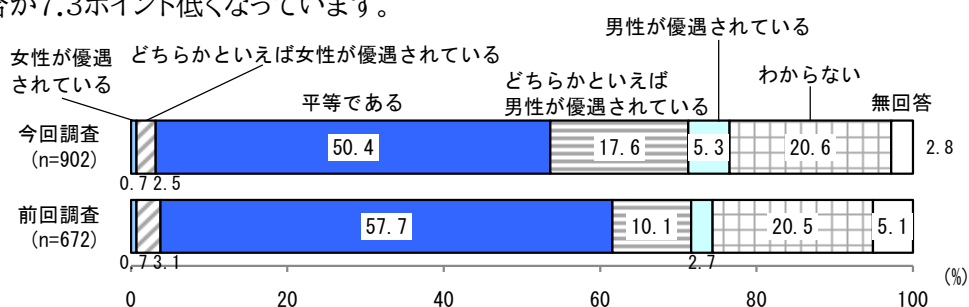
・性年代別にみると、男性60歳代で「平等である」の割合が56.3%となっている一方で、女性60歳代では24.6ポイント低くなっています。また、女性60歳代で「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が36.7%となっている一方で、男性60歳代では24.2ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	0.7	2.5	50.4	17.6	5.3	20.6	2.8
女性18・19歳	5	-	-	80.0	20.0	-	-	-
女性20歳代	44	-	2.3	63.6	13.6	-	20.5	2.1
女性30歳代	94	-	-	59.6	9.6	3.2	25.5	-
女性40歳代	138	0.7	2.2	44.2	21.0	4.3	25.4	4.5
女性50歳代	54	-	-	51.9	13.0	7.4	27.8	-
女性60歳代	60	-	3.3	31.7	36.7	10.0	18.3	1.1
女性70歳以上	111	-	0.9	38.7	27.0	6.3	22.5	2.1
男性18・19歳	7	-	28.6	42.9	14.3	-	14.3	-
男性20歳代	35	-	8.6	62.9	11.4	5.7	11.4	2.2
男性30歳代	49	2.0	4.1	57.1	10.2	-	26.5	-
男性40歳代	95	4.2	4.2	52.6	12.6	7.4	17.9	-
男性50歳代	46	-	2.2	60.9	19.6	2.2	15.2	-
男性60歳代	48	-	4.2	56.3	12.5	8.3	16.7	-
男性70歳以上	104	-	1.0	51.9	14.4	5.8	15.4	11.5

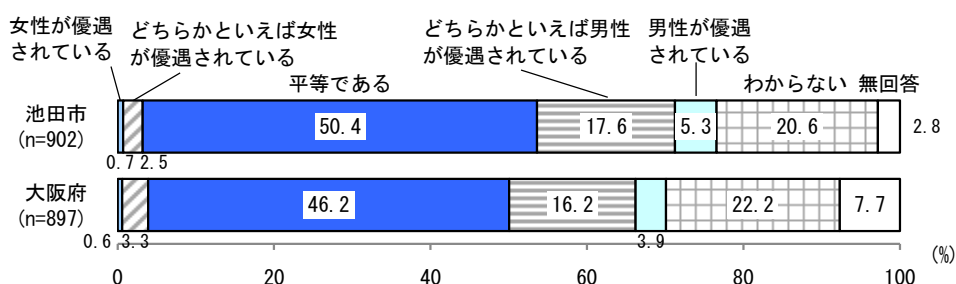
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が7.5ポイント高く、「平等である」の割合が7.3ポイント低くなっています。



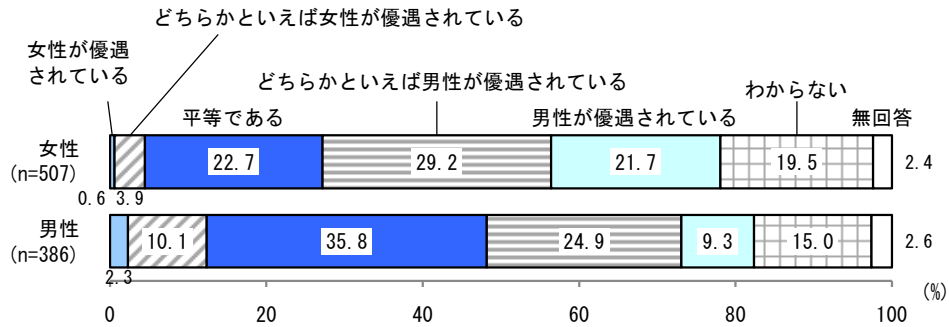
◇ 大阪府調査との比較

・大阪府調査との大きな差はみられません。

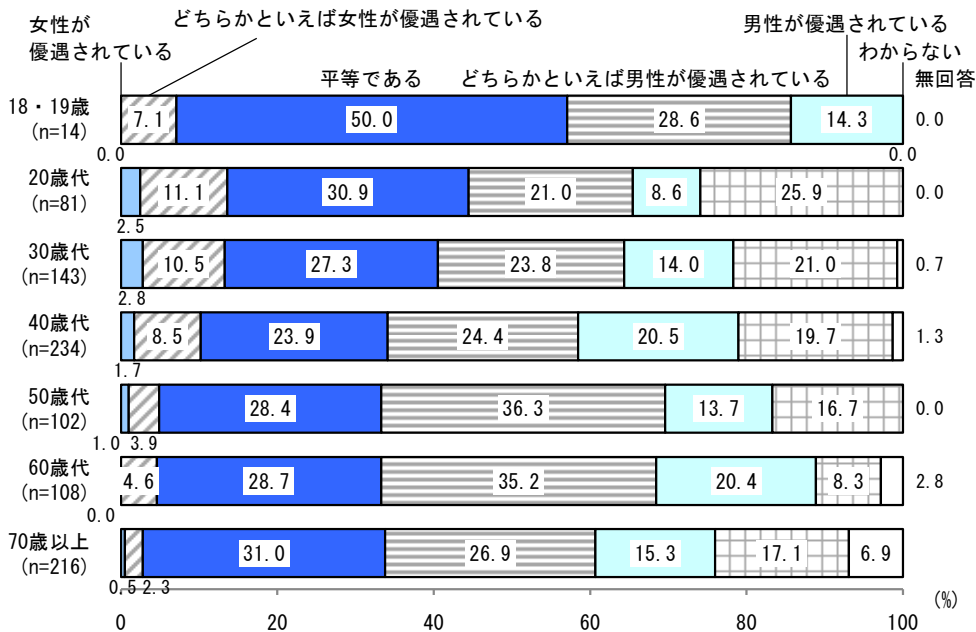


<④法律や制度で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が16.7ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも『女性優遇』意識の割合が7.9ポイント高く、「平等である」の割合が13.1ポイント高くなっています。



・年代別にみると、『女性優遇』意識の割合が20歳代で13.6%、30歳代で13.3%、40歳代で10.2%と他の年代より高くなっています。また、60歳代で『男性優遇』意識の割合が55.6%と高くなっています。



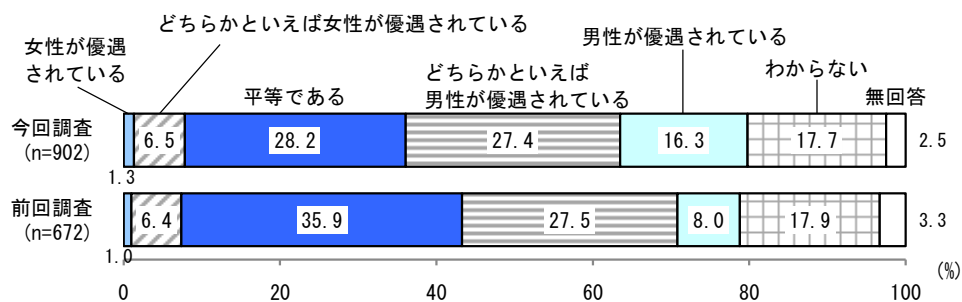
・性年代別にみると、男性50歳代で「平等である」の割合が43.5%となっている一方で、女性50歳代では26.8ポイント低くなっています。また、女性50歳代で「男性が優遇されている」の割合が22.2%となっている一方で、男性50歳代では17.9ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	1.3	6.5	28.2	27.4	16.3	17.7	2.5
女性18・19歳	5	-	20.0	60.0	-	20.0	-	-
女性20歳代	44	-	6.8	34.1	20.5	11.4	27.3	-
女性30歳代	94	1.1	5.3	24.5	28.7	17.0	22.3	1.1
女性40歳代	138	0.7	5.1	18.1	26.1	27.5	21.0	1.4
女性50歳代	54	1.9	1.9	16.7	40.7	22.2	16.7	-
女性60歳代	60	-	3.3	21.7	38.3	23.3	10.0	3.3
女性70歳以上	111	-	0.9	24.3	27.9	20.7	19.8	6.3
男性18・19歳	7	-	-	57.1	42.9	-	-	-
男性20歳代	35	5.7	17.1	28.6	20.0	5.7	22.9	-
男性30歳代	49	6.1	20.4	32.7	14.3	8.2	18.4	-
男性40歳代	95	3.2	13.7	31.6	22.1	10.5	17.9	1.1
男性50歳代	46	-	6.5	43.5	30.4	4.3	15.2	-
男性60歳代	48	-	6.3	37.5	31.3	16.7	6.3	2.1
男性70歳以上	104	1.0	3.8	38.5	26.0	9.6	13.5	7.7

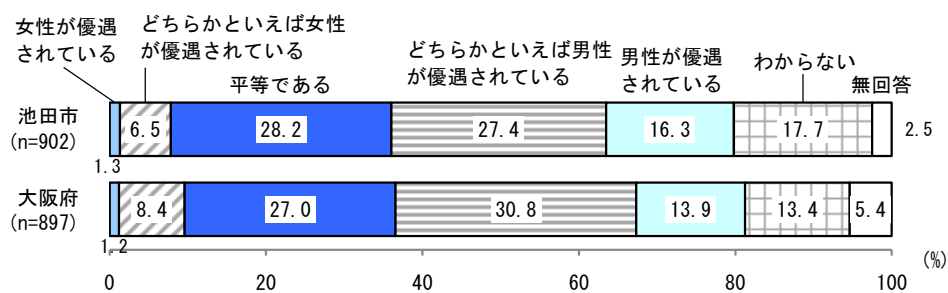
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「男性が優遇されている」の割合が8.3ポイント高く、「平等である」の割合が7.7ポイント低くなっています。



◇ 大阪府調査との比較

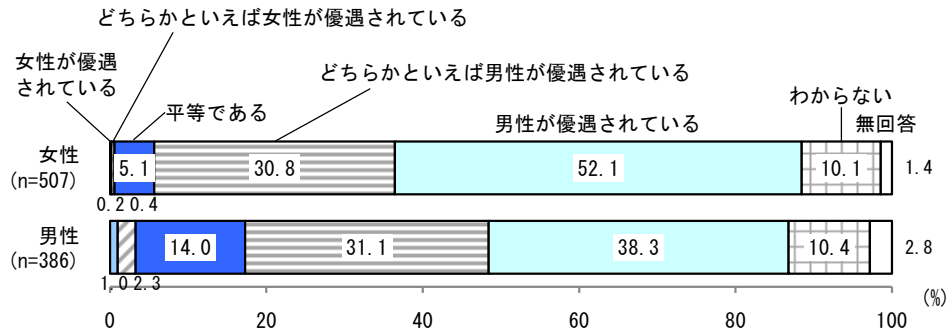
・大阪府調査との大きな差はみられません。



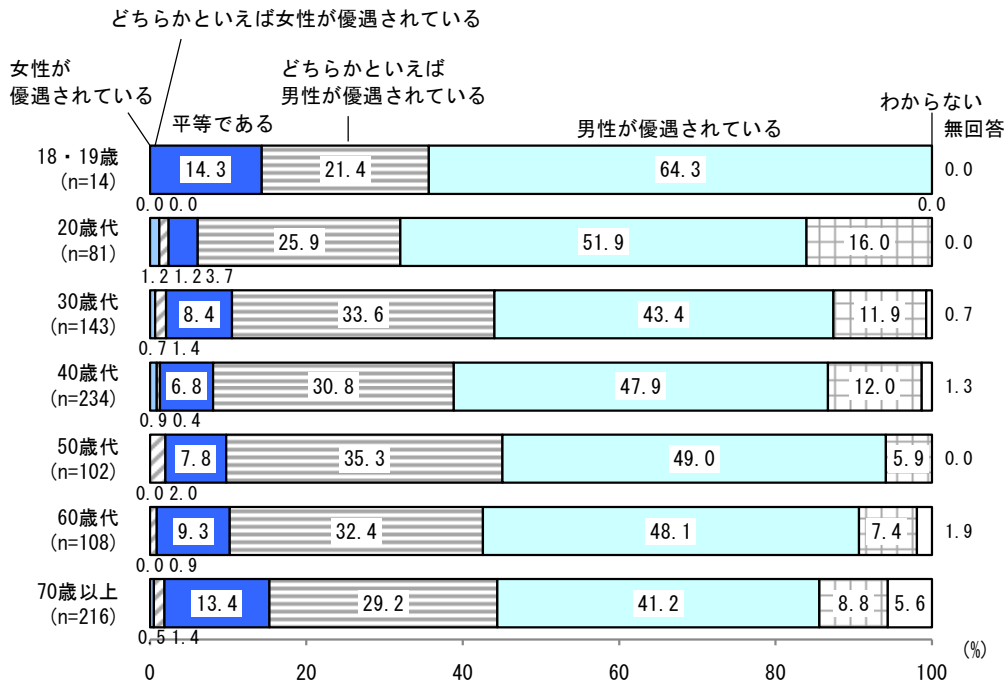
※大阪府調査では「法律や制度の上で」、本調査では「法律や制度で」と項目がやや異なることに注意が必要です。

<⑤政治の場で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が13.5ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「平等である」の割合が8.9ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で『男性優遇』意識の割合が70%を超えており、18・19歳で85.7%と高くなっています。



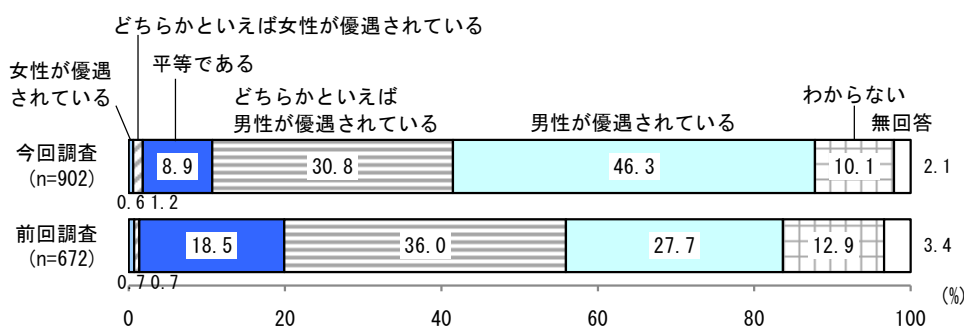
・性年代別にみると、女性30歳代で「男性が優遇されている」の割合が51.1%となっている一方で、男性30歳代では22.5ポイント低くなっています。また、女性50歳代で「男性が優遇されている」の割合が61.1%となっている一方で、男性50歳代では26.3ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	0.6	1.2	8.9	30.8	46.3	10.1	2.1
女性18・19歳	5	-	-	-	40.0	60.0	-	-
女性20歳代	44	-	2.3	6.8	25.0	52.3	13.6	1.1
女性30歳代	94	-	-	3.2	34.0	51.1	10.6	-
女性40歳代	138	-	-	5.1	28.3	53.6	11.6	2.7
女性50歳代	54	-	-	3.7	25.9	61.1	9.3	-
女性60歳代	60	-	-	5.0	36.7	50.0	6.7	1.1
女性70歳以上	111	0.9	0.9	7.2	32.4	46.8	9.0	2.1
男性18・19歳	7	-	-	28.6	14.3	57.1	-	-
男性20歳代	35	2.9	-	-	25.7	51.4	20.0	1.4
男性30歳代	49	2.0	4.1	18.4	32.7	28.6	14.3	1.7
男性40歳代	95	2.1	1.1	9.5	34.7	38.9	12.6	-
男性50歳代	46	-	4.3	13.0	45.7	34.8	2.2	-
男性60歳代	48	-	2.1	14.6	27.1	45.8	8.3	-
男性70歳以上	104	-	1.9	20.2	26.0	34.6	8.7	8.7

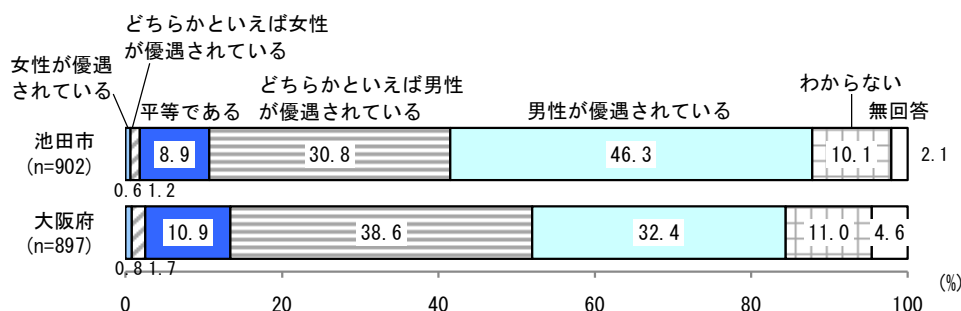
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「男性が優遇されている」の割合が18.6ポイント高く、「平等である」の割合が9.6ポイント、「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が5.2ポイント低くなっています。



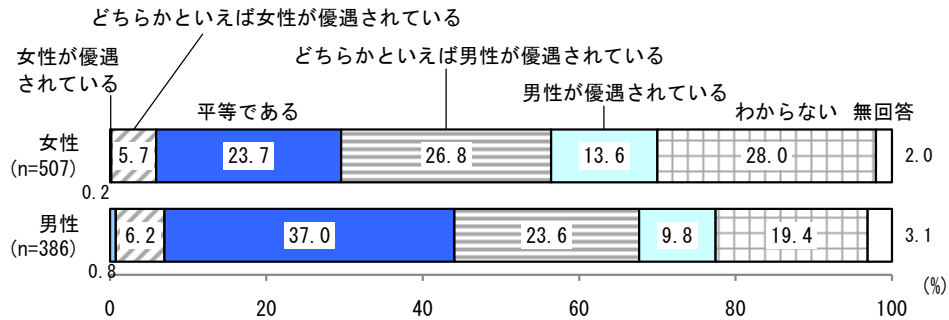
◇ 大阪府調査との比較

・大阪府調査と比べると、池田市は「男性が優遇されている」の割合が13.9ポイント高く、「どちらかといえば男性が優遇されている」の割合が7.8ポイント低くなっています。

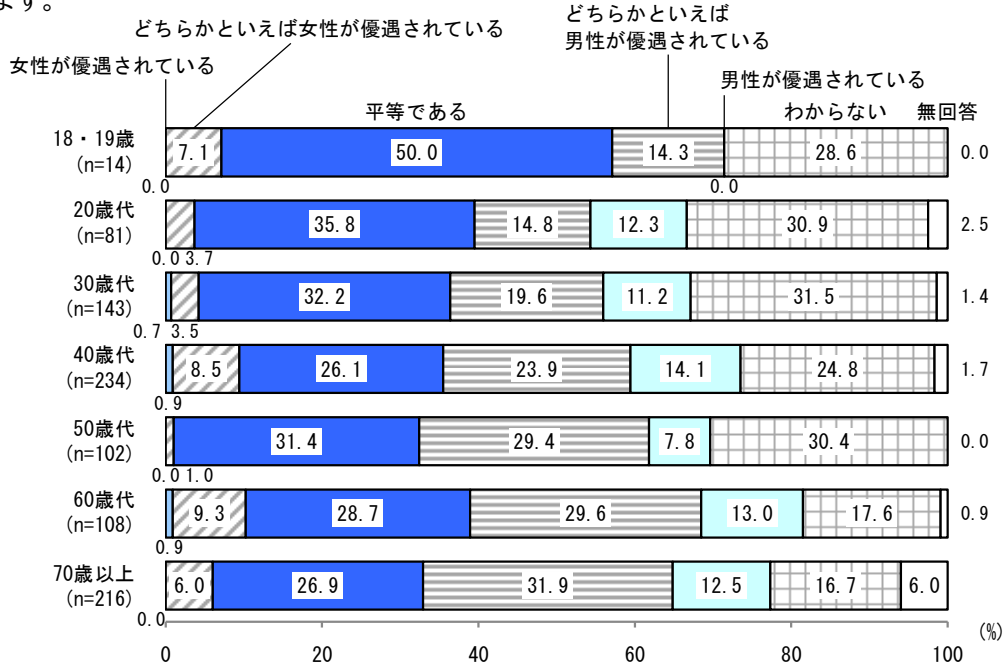


<⑥地域活動の場で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が7.0ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「平等である」の割合が13.3ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね年代が上がるほど『男性優遇』意識の割合が高い傾向にあり、70歳以上で44.4%と高くなっています。



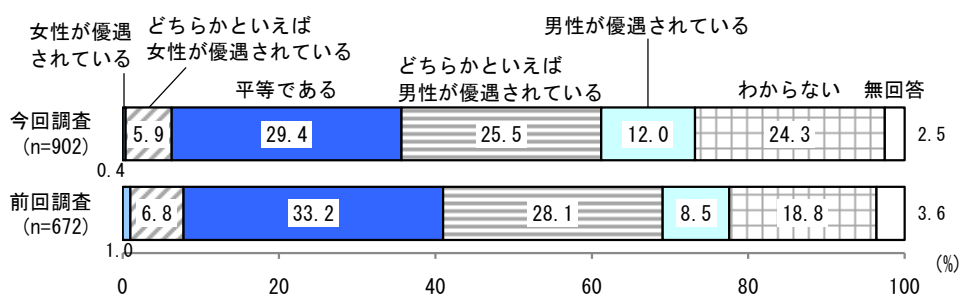
・性年代別にみると、男性30歳代で「平等である」の割合が42.9%となっている一方で、女性30歳代では26.3ポイント低くなっています。また、男性50歳代で「平等である」の割合が54.3%となっている一方で、女性50歳代では41.3ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れ て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れ て い る	男 性 が 優 遇 さ れ て い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	0.4	5.9	29.4	25.5	12.0	24.3	2.5
女性18・19歳	5	-	-	40.0	-	-	60.0	-
女性20歳代	44	-	-	36.4	13.6	13.6	36.4	2.1
女性30歳代	94	-	3.2	26.6	20.2	13.8	34.0	-
女性40歳代	138	-	8.0	22.5	25.4	14.5	27.5	4.5
女性50歳代	54	-	1.9	13.0	33.3	11.1	40.7	5.7
女性60歳代	60	1.7	11.7	21.7	36.7	10.0	18.3	1.1
女性70歳以上	111	-	6.3	23.4	31.5	16.2	18.0	2.1
男性18・19歳	7	-	14.3	57.1	14.3	-	14.3	-
男性20歳代	35	-	8.6	34.3	17.1	11.4	22.9	2.2
男性30歳代	49	2.0	4.1	42.9	18.4	6.1	26.5	-
男性40歳代	95	2.1	9.5	31.6	21.1	13.7	21.1	-
男性50歳代	46	-	-	54.3	23.9	4.3	17.4	-
男性60歳代	48	-	6.3	37.5	20.8	16.7	16.7	-
男性70歳以上	104	-	5.8	30.8	32.7	7.7	15.4	7.7

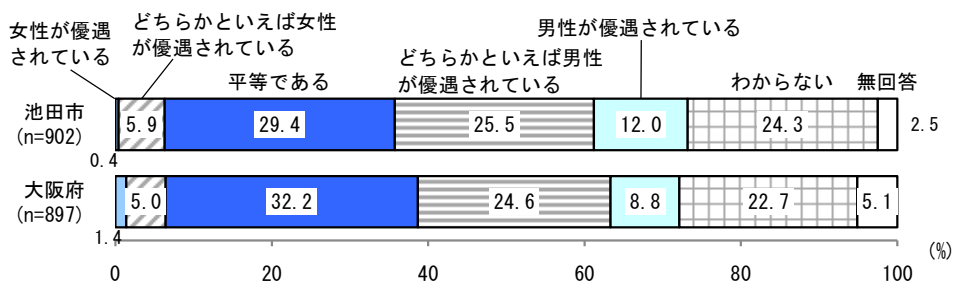
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。



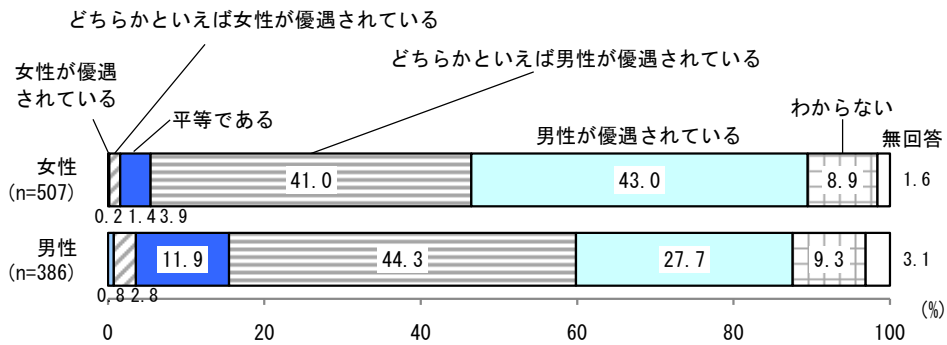
◇ 大阪府調査との比較

・大阪府調査との大きな差はみられません。

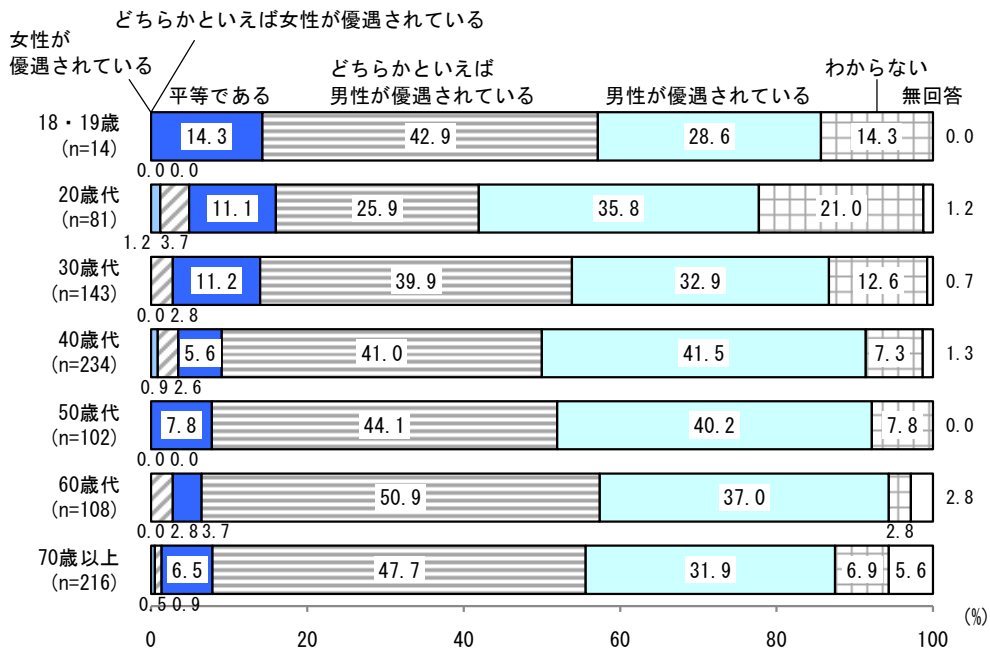


<⑦社会通念・慣習・しきたりで>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が12.0ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「平等である」の割合が8.0ポイント高くなっています。



・年代別にみると、20歳代を除く全ての年代で『男性優遇』意識の割合が70%を超え高い傾向にあり、60歳代で87.9%と高くなっています。



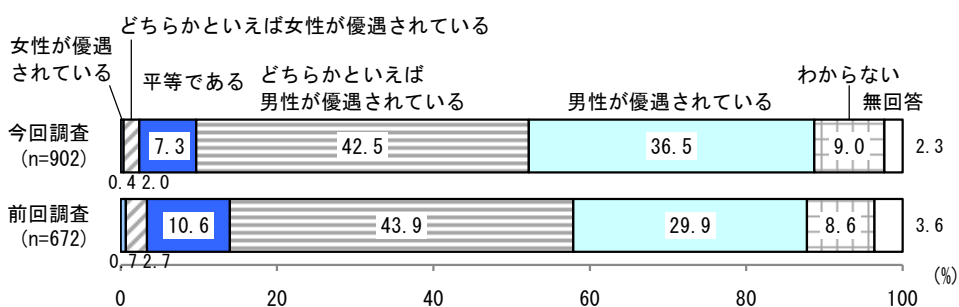
・性年代別にみると、女性20歳代で「男性が優遇されている」の割合が45.5%となっている一方で、男性20歳代では19.8ポイント低くなっています。また、女性30歳代で「男性が優遇されている」の割合が41.5%となっている一方で、男性30歳代では25.2ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	ど ち ら か と い え ば 女 性 が 優 遇 さ れて い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性 が 優 遇 さ れて い る	男 性 が 優 遇 さ れて い る	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	0.4	2.0	7.3	42.5	36.5	9.0	2.3
女性18・19歳	5	-	-	20.0	40.0	20.0	20.0	-
女性20歳代	44	-	4.5	9.1	20.5	45.5	20.5	1.1
女性30歳代	94	-	-	5.3	41.5	41.5	10.6	-
女性40歳代	138	-	1.4	2.9	39.1	46.4	8.7	3.6
女性50歳代	54	-	-	1.9	42.6	48.1	7.4	2.9
女性60歳代	60	-	3.3	1.7	48.3	41.7	3.3	1.1
女性70歳以上	111	0.9	0.9	3.6	46.8	37.8	6.3	4.2
男性18・19歳	7	-	-	14.3	57.1	14.3	14.3	-
男性20歳代	35	2.9	2.9	14.3	28.6	25.7	22.9	1.4
男性30歳代	49	-	8.2	22.4	36.7	16.3	16.3	1.7
男性40歳代	95	2.1	4.2	9.5	43.2	34.7	5.3	-
男性50歳代	46	-	-	15.2	45.7	30.4	8.7	-
男性60歳代	48	-	2.1	6.3	54.2	31.3	2.1	-
男性70歳以上	104	-	1.0	9.6	49.0	25.0	7.7	7.7

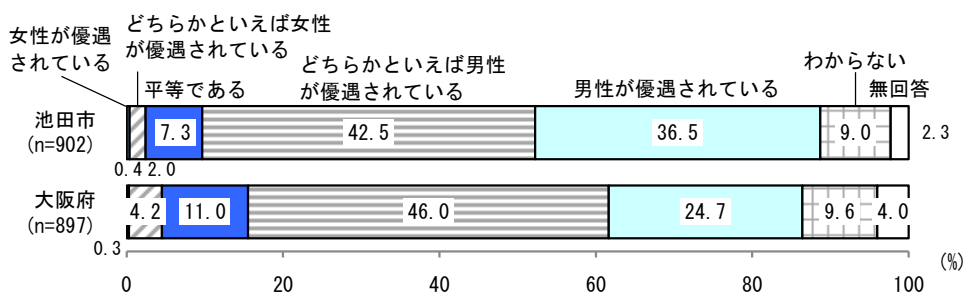
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「男性が優遇されている」の割合が6.6ポイント高くなっています。



◇ 大阪府調査との比較

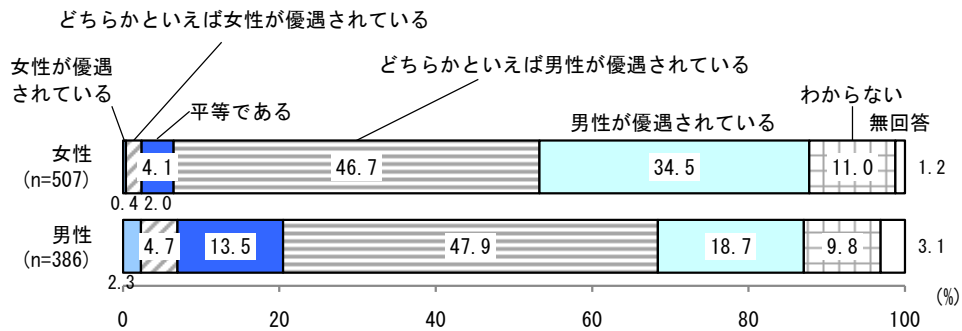
・大阪府調査と比べると、「男性が優遇されている」の割合が11.8ポイント高くなっています。



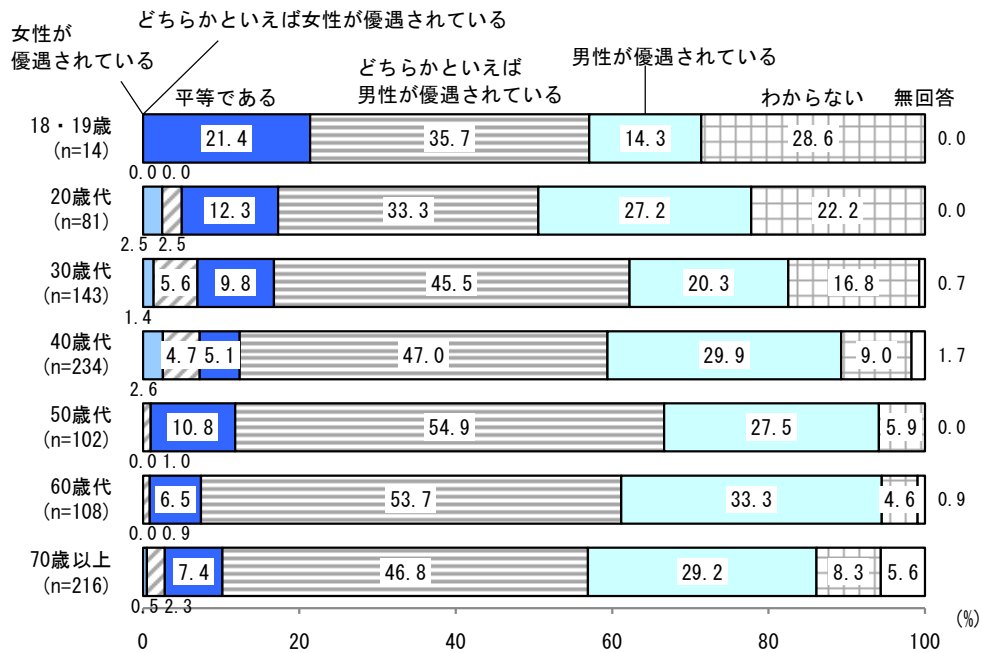
※大阪府調査では「社会通念・慣習・しきたりなどで」、本調査では「社会通念・慣習・しきたりで」と項目がやや異なることに注意が必要です。

<⑧社会全体で>

・性別にみると、女性は男性よりも『男性優遇』意識の割合が14.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「平等である」の割合が9.4ポイント高くなっています。



・年代別にみると、40歳以上の年代で『男性優遇』意識の割合が70%を超え高い傾向にあり、60歳代で87.0%と高くなっています。



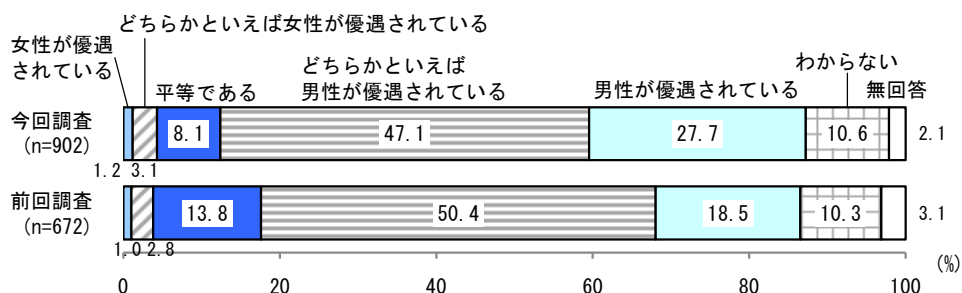
・性年代別にみると、女性30歳代で「男性が優遇されている」の割合が26.6%となっている一方で、男性30歳代では18.4ポイント低くなっています。また、女性50歳代で「男性が優遇されている」の割合が37.0%となっている一方で、男性50歳代では21.8ポイント低くなっています。

(%)

	全 体	女性 が優 遇さ れて いる	が ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	が ど ち ら か と い え ば 男 性	男 性 が 優 遇 さ れて いる	わ か ら な い	無 回 答
全 体	902	1.2	3.1	8.1	47.1	27.7	10.6	2.1
女性18・19歳	5	-	-	-	40.0	-	60.0	-
女性20歳代	44	-	2.3	11.4	31.8	34.1	20.5	1.1
女性30歳代	94	-	2.1	5.3	50.0	26.6	14.9	-
女性40歳代	138	0.7	1.4	0.7	48.6	36.2	10.9	2.7
女性50歳代	54	-	-	3.7	53.7	37.0	5.6	-
女性60歳代	60	-	1.7	5.0	50.0	40.0	3.3	2.1
女性70歳以上	111	0.9	3.6	4.5	42.3	36.9	9.0	2.1
男性18・19歳	7	-	-	42.9	42.9	-	14.3	-
男性20歳代	35	5.7	2.9	14.3	37.1	20.0	20.0	1.4
男性30歳代	49	4.1	12.2	18.4	36.7	8.2	20.4	-
男性40歳代	95	5.3	9.5	11.6	44.2	21.1	6.3	-
男性50歳代	46	-	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	-
男性60歳代	48	-	-	8.3	58.3	25.0	6.3	-
男性70歳以上	104	-	1.0	10.6	51.0	21.2	7.7	8.7

◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「男性が優遇されている」の割合が9.2ポイント高く、「平等である」の割合が5.7ポイント低くなっています。



※大阪府調査では「全体で」、本調査では「社会全体で」と項目が異なるため、比較は行っていません。

問17 家庭での分担について

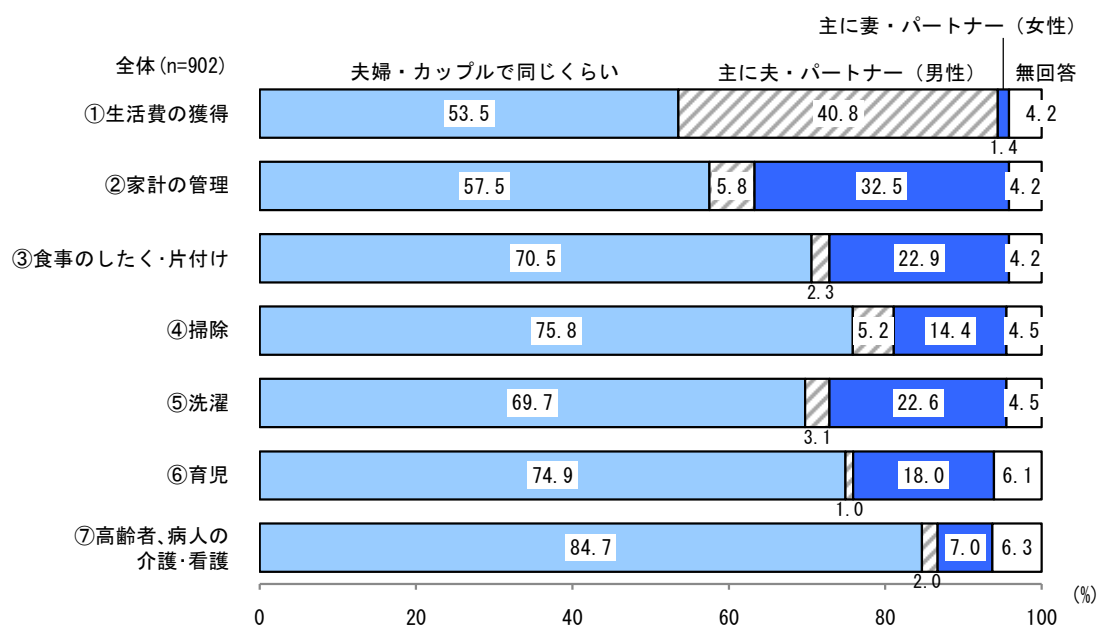
問17 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(①～⑦の項目について、理想と現実それぞれ○は1つずつ)

【①理想】

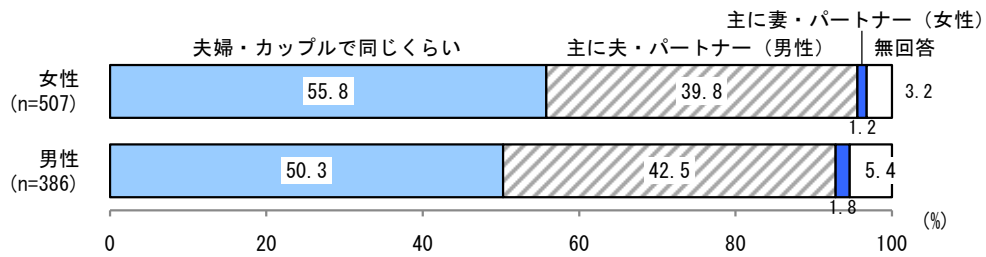
・家庭での分担(理想)については、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い順に「⑦高齢者、病人の介護・看護」(84.7%)、「④掃除」(75.8%)、「⑥育児」(74.9%)となっています。

また、「主に夫・パートナー(男性)」の割合が高い順は、「①生活費の獲得」(40.8%)、「②家計の管理」(5.8%)、「④掃除(5.2%)」となっている一方で、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が高い順は、「②家計の管理」(32.5%)、「③食事のしたく・片付け」(22.9%)、「⑤洗濯」(22.6%)となっています。

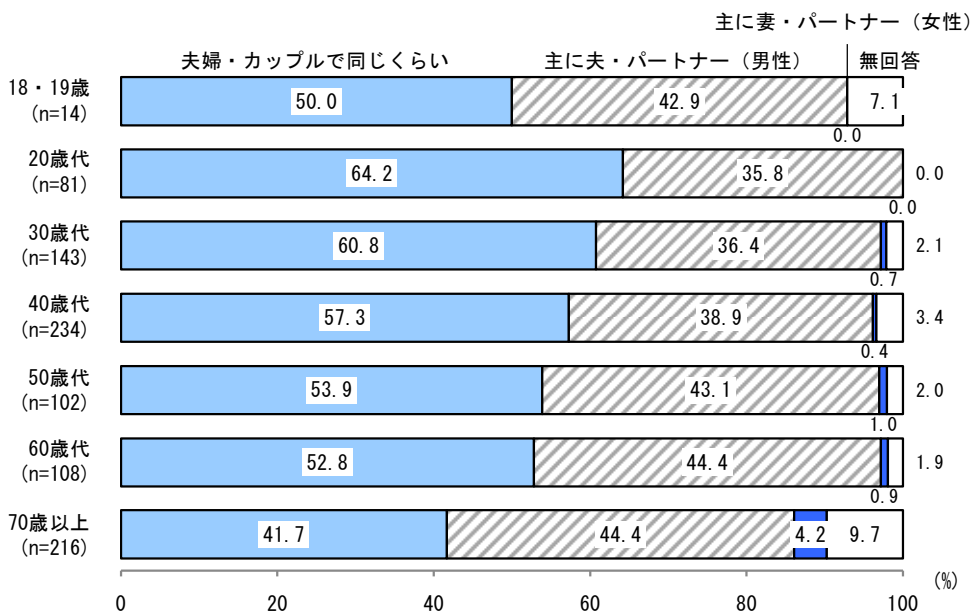


<①生活費の獲得>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が5.5ポイント高くなっています。

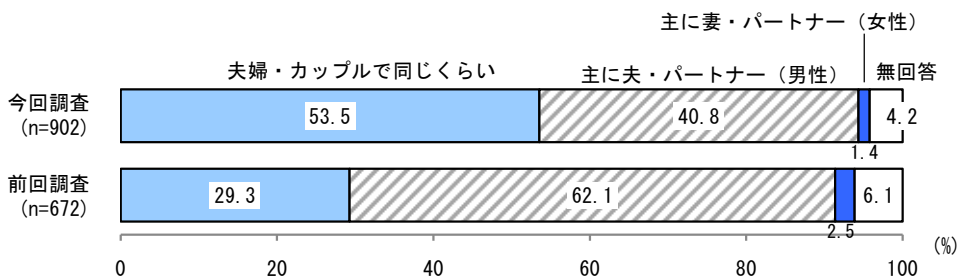


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあります。



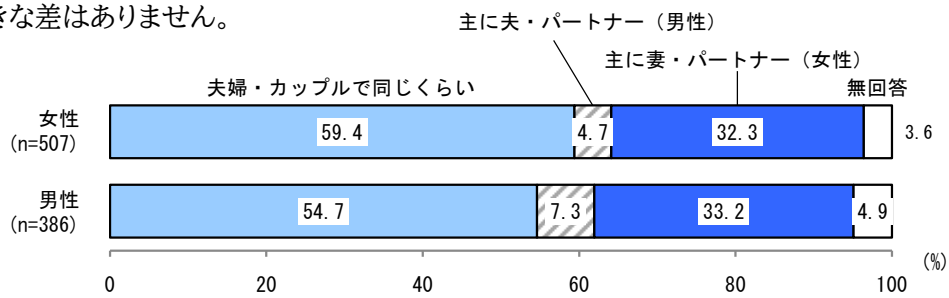
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が24.2ポイント高く、「主に夫・パートナー(男性)」の割合が21.3ポイント低くなっています。

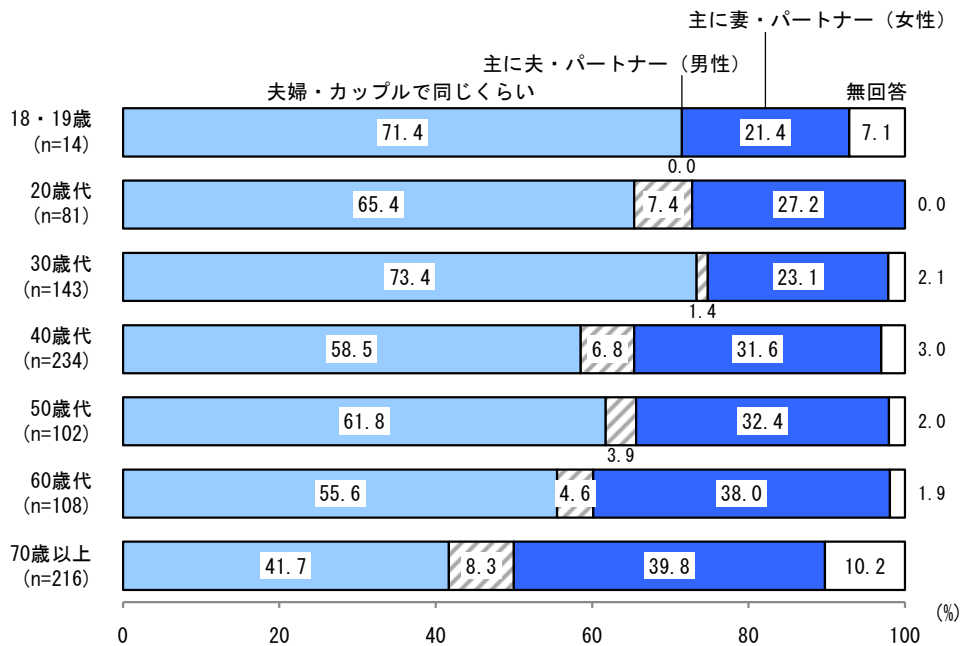


<②家計の管理>

・性別による大きな差はありません。

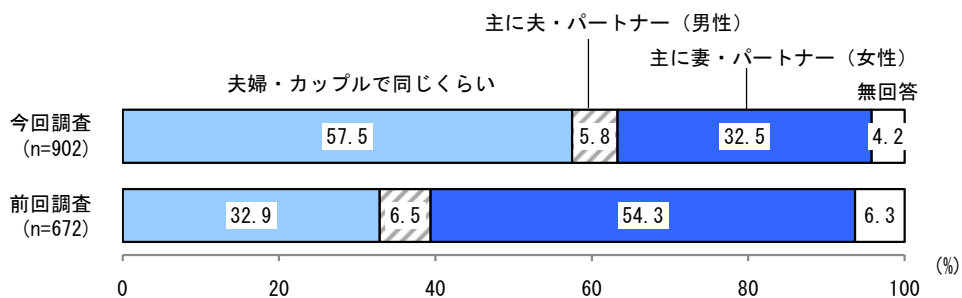


・年代別にみると、概ね年代が上がるほど「主に妻・パートナー(女性)」の割合が高い傾向にあります。



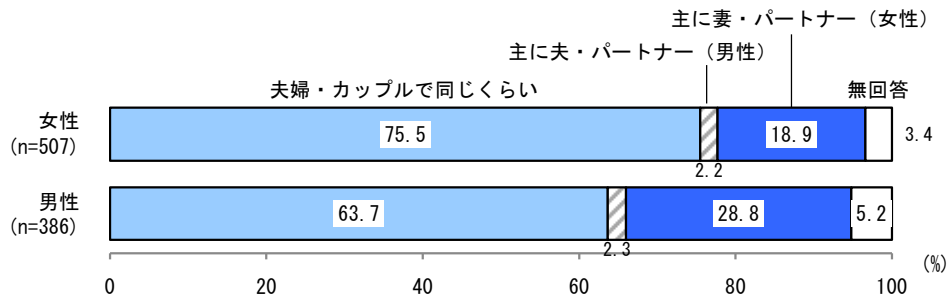
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が24.6ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が21.8ポイント低くなっています。

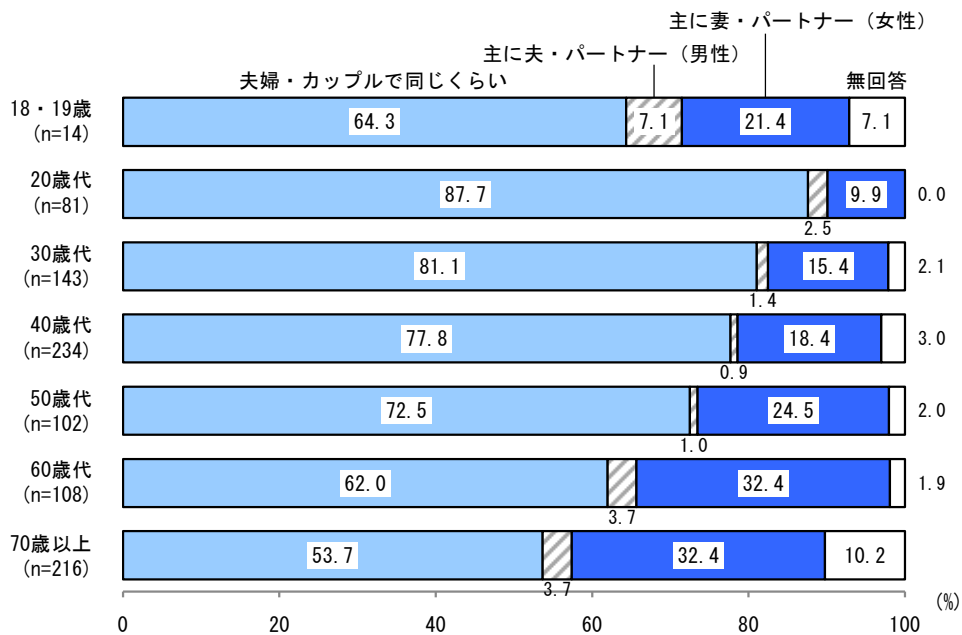


<③食事のしたく・片付け>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が11.8ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「主に妻・パートナー(女性)」と回答する割合が9.9ポイント高くなっています。

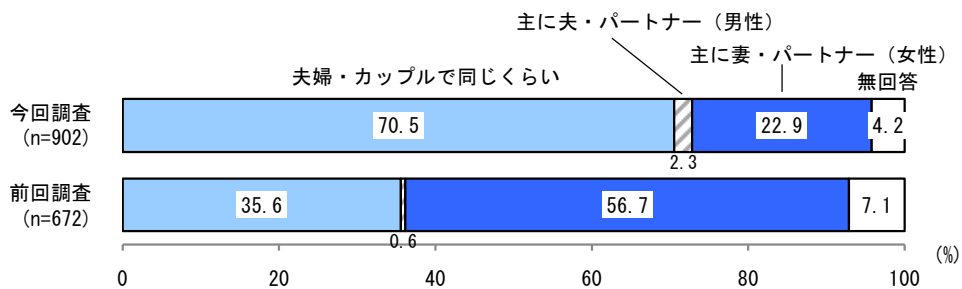


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあります。



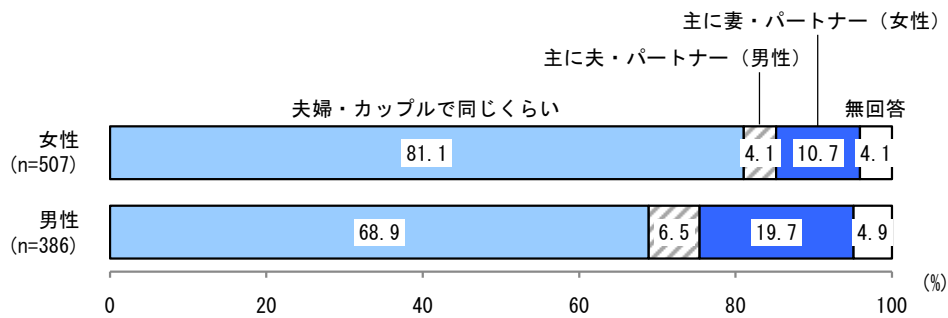
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が34.9ポイント高く、「主に妻・パートナー」の割合が33.8ポイント低くなっています。

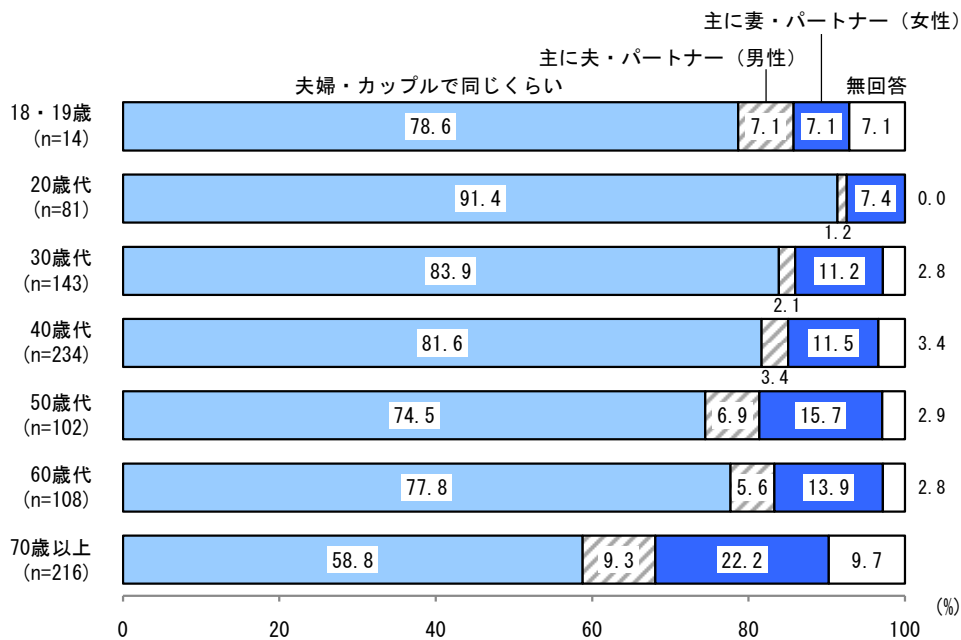


<④掃除>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が12.2ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が9.0ポイント高くなっています。

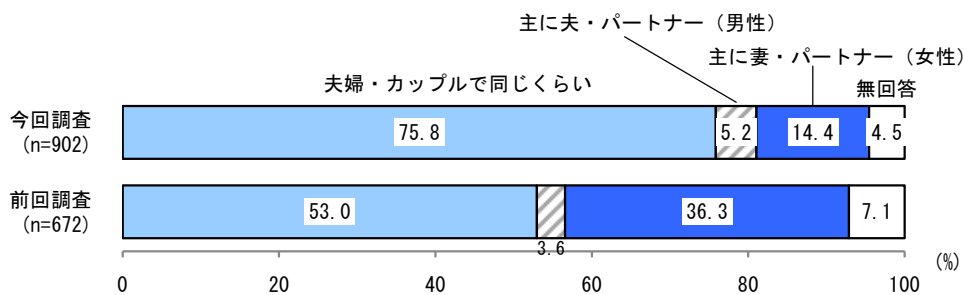


・年代別にみると、概ね年代が上がるほど「主に妻・パートナー」の割合が高い傾向にあります。



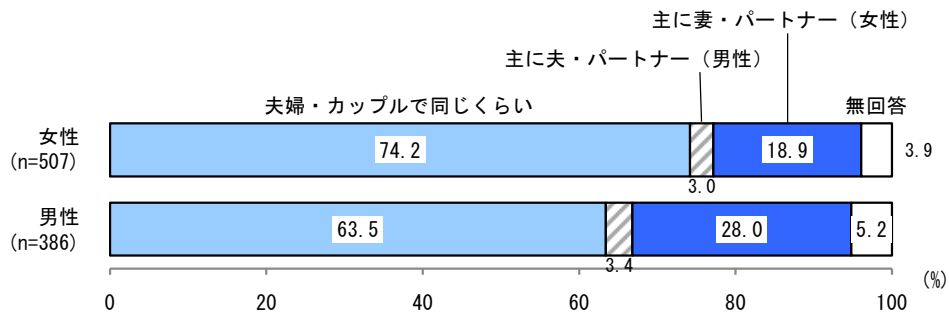
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が22.8ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が21.9ポイント低くなっています。

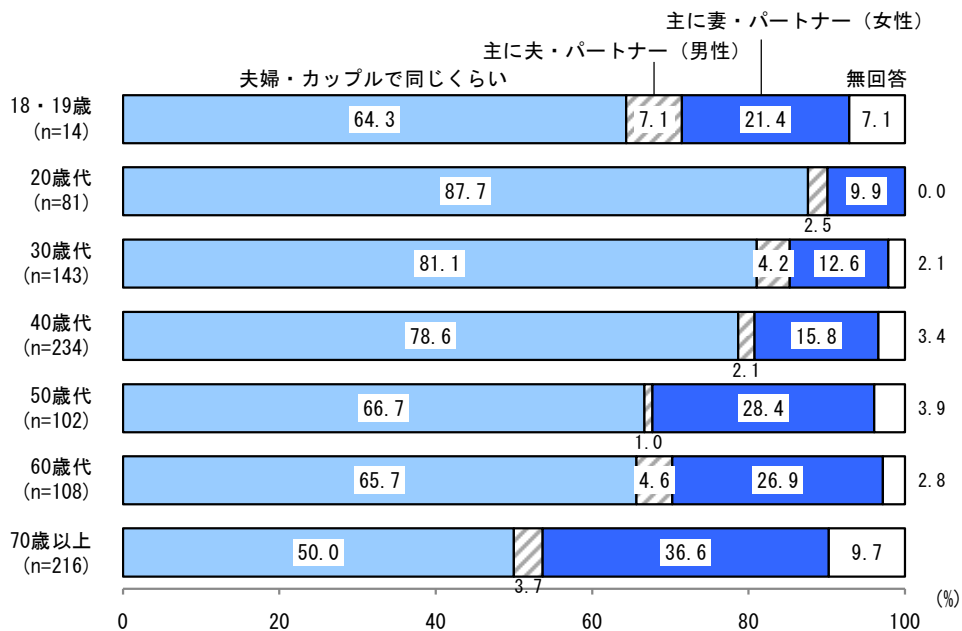


<⑤洗濯>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が10.7ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が9.1ポイント高くなっています。

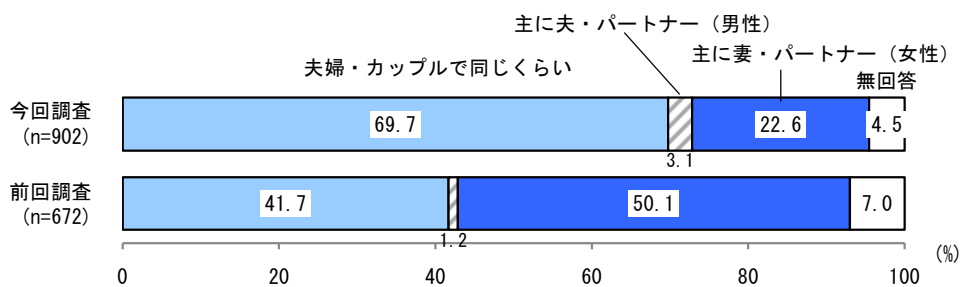


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあります。



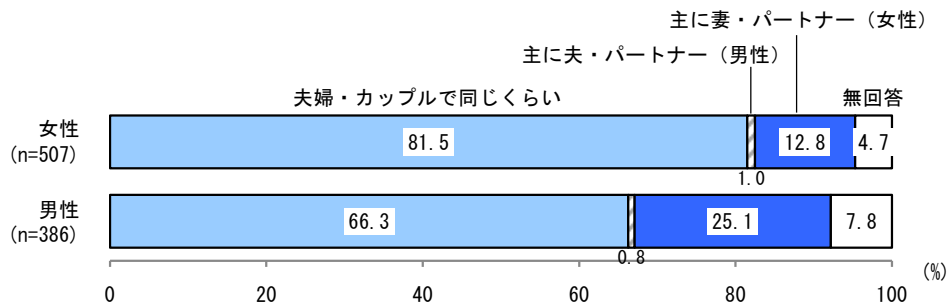
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が28.0ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が27.5ポイント低くなっています。

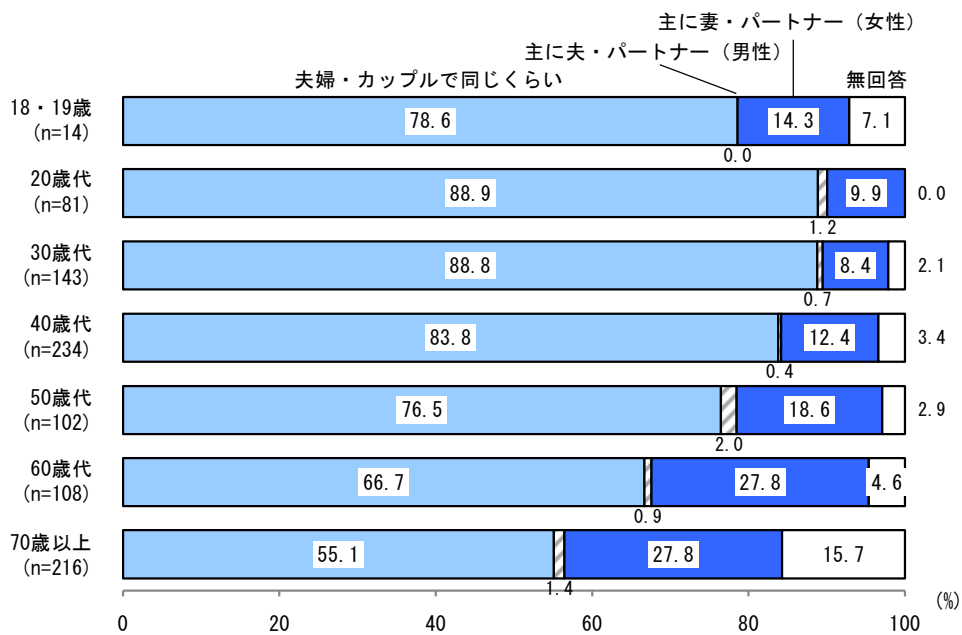


<⑥育児>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が15.2ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が12.3ポイント高くなっています。

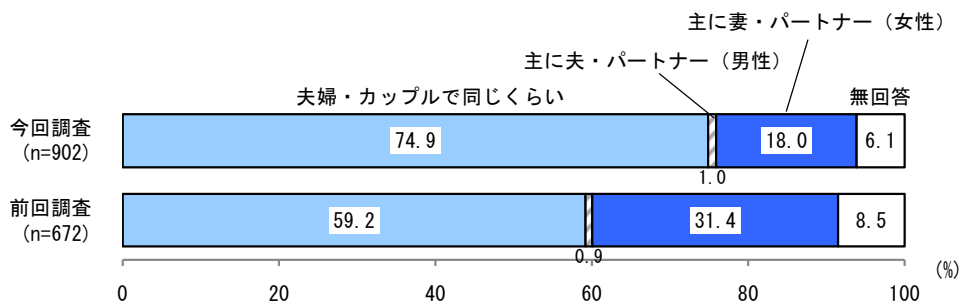


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあります。



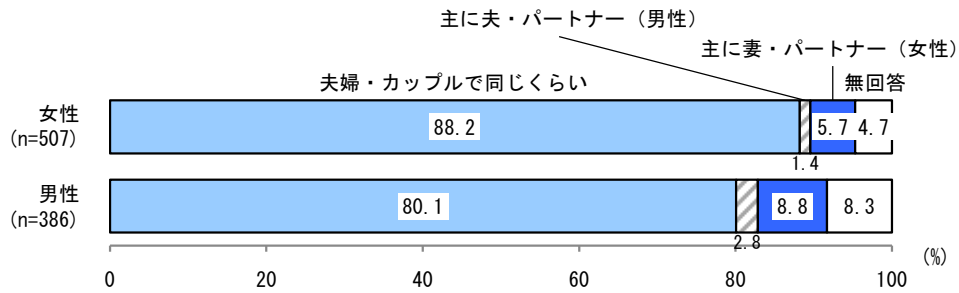
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が15.7ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が13.4ポイント低くなっています。

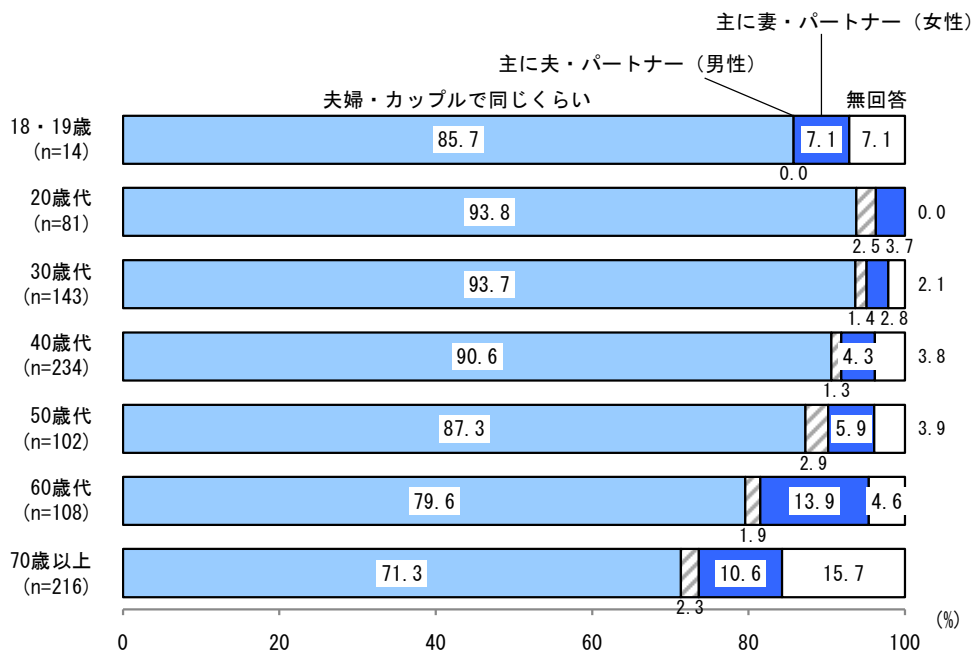


<⑦高齢者、病人の介護・看護>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が8.1ポイント高くなっています。

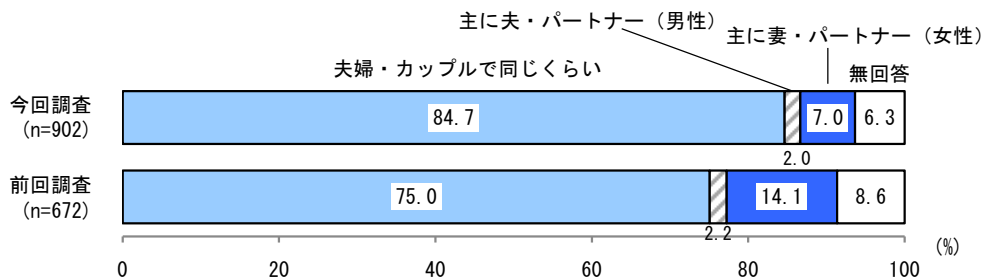


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあります。



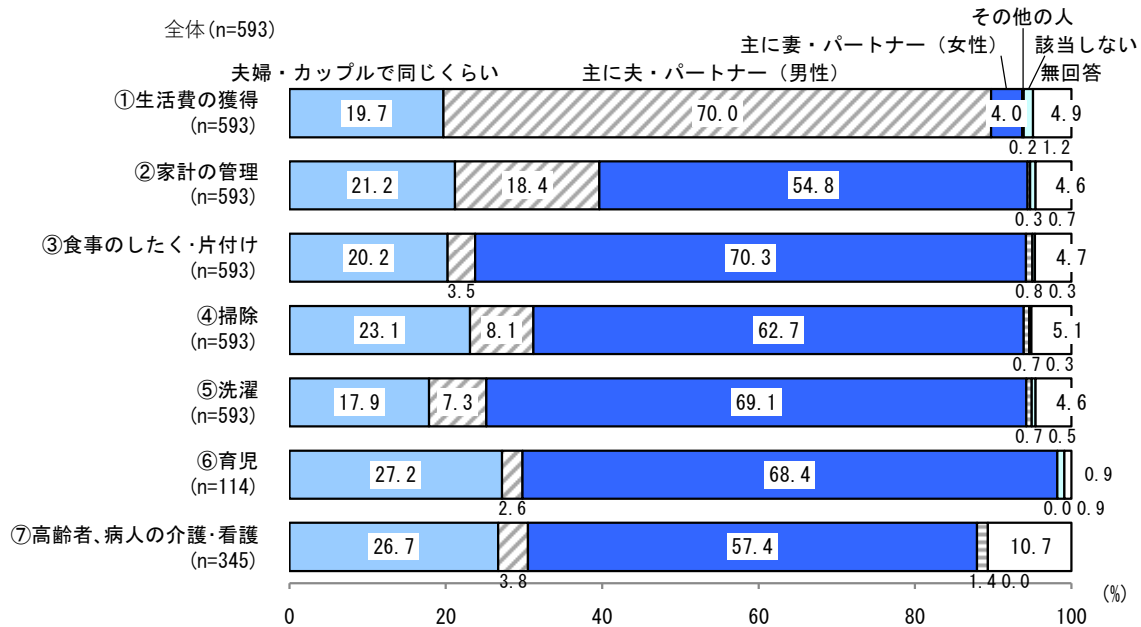
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が9.7ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が7.1ポイント低くなっています。



【②現実】

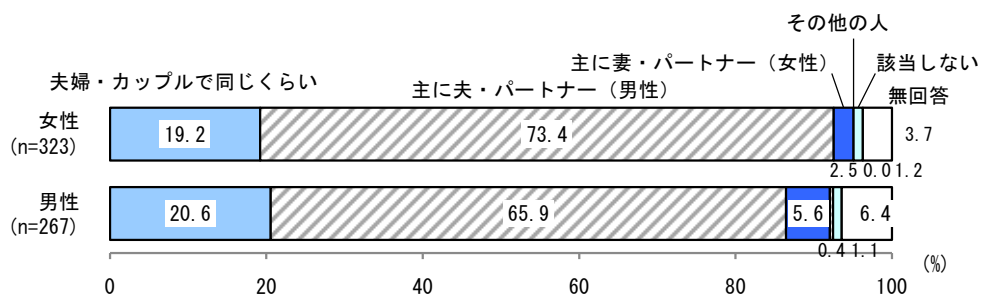
・家庭での分担（現実）については、「主に夫・パートナー（男性）」は「①生活費の獲得」で70.0%と他の項目を大きく上回っています。一方、「主に妻・パートナー（女性）」は「①生活費の獲得」以外の項目で高く、過半数を超えています。



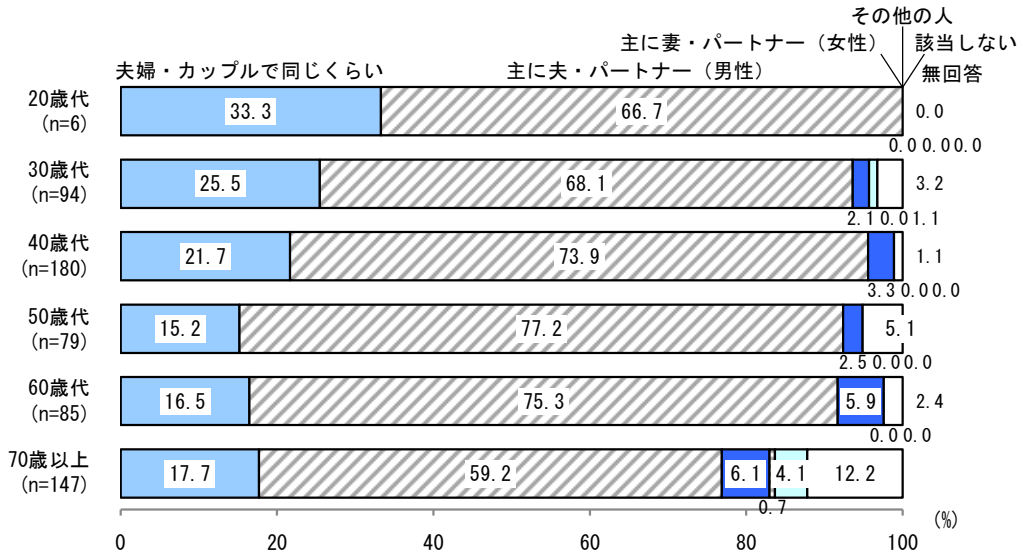
※「⑥育児」については、育児の定義（乳幼児を育てること）に従って、問3で「1. 結婚している（事実婚を含む）」を選択し、問11で「1. 3歳未満」あるいは「2. 3歳以上就学前」を選択された方で集計を行っているため回答者数が少なくなっています。また、「⑦高齢者、病人の介護・看護」については、「該当しない」を選択した方が全体の41.8%を占めているため、見やすさを考慮して「該当しない」を含めずにグラフを作成しています。

<①生活費の獲得>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に夫・パートナー（男性）」の割合が7.5ポイント高くなっています。



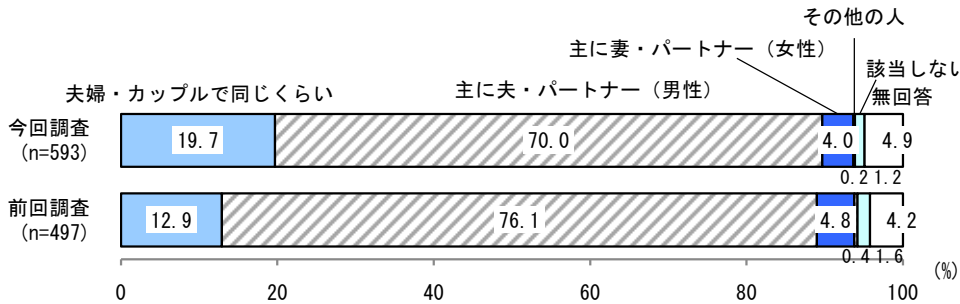
・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にある一方で、「主に夫・パートナー」は全ての年代で過半数を占めています。



※問17の現実①～⑦については、18・19歳の該当者がいないため掲載していません。

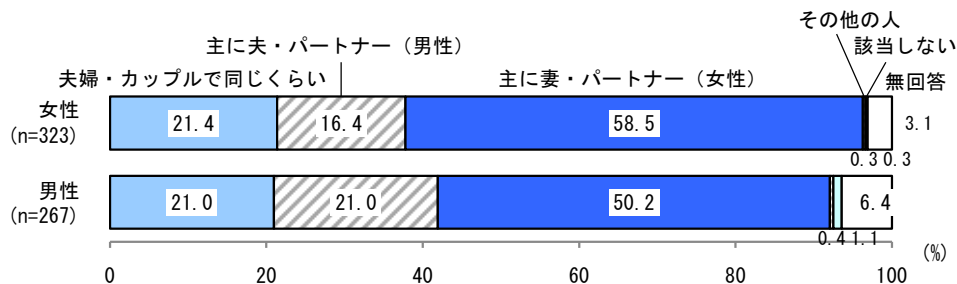
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が6.8ポイント高く、「主に夫・パートナー(男性)」の割合が6.1ポイント低くなっています。

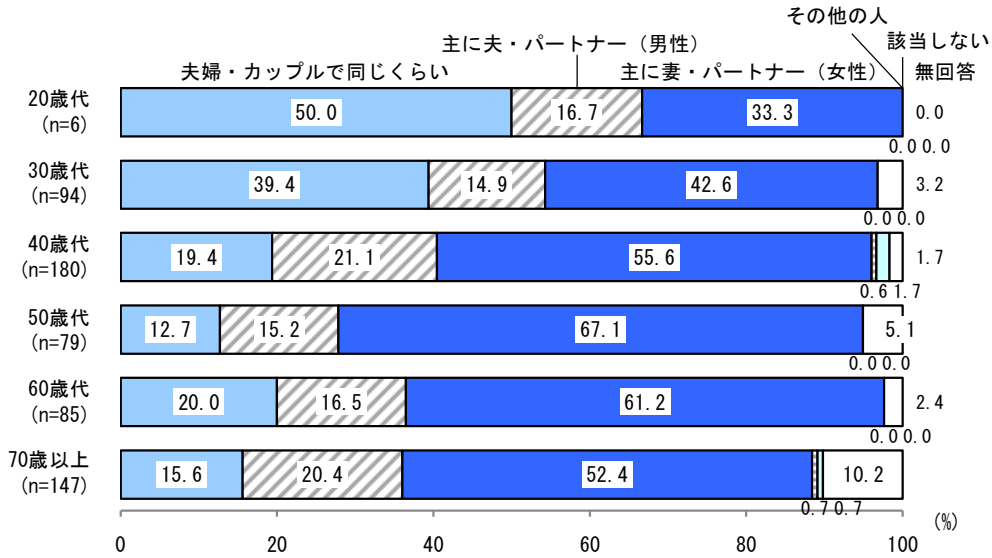


<②家計の管理>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が8.3ポイント高くなっています。

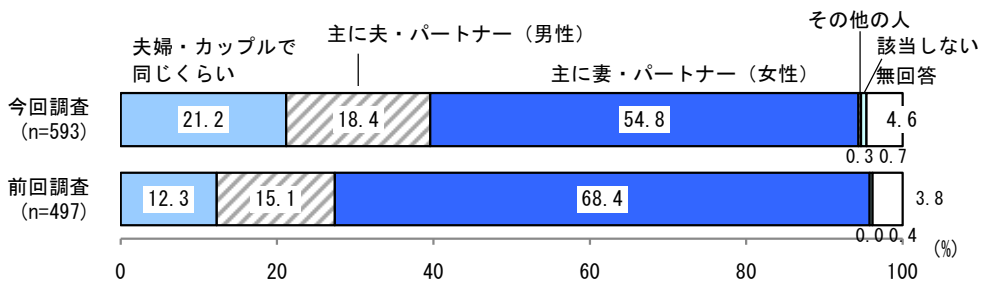


・年代別にみると、若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にあり、40歳以上の年代で「主に妻・パートナー(女性)」の割合が50%を超え高くなっています。



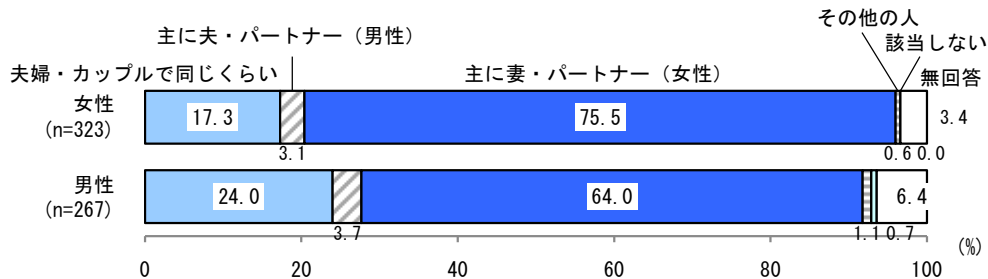
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が8.9ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が13.6ポイント低くなっています。

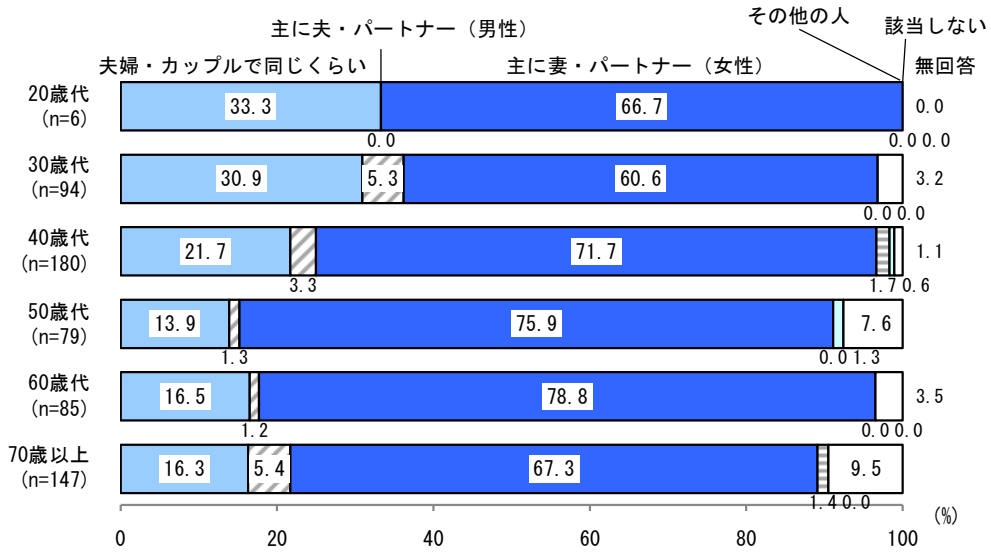


<③食事のしたく・片付け>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が11.5ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が6.7ポイント高くなっています。

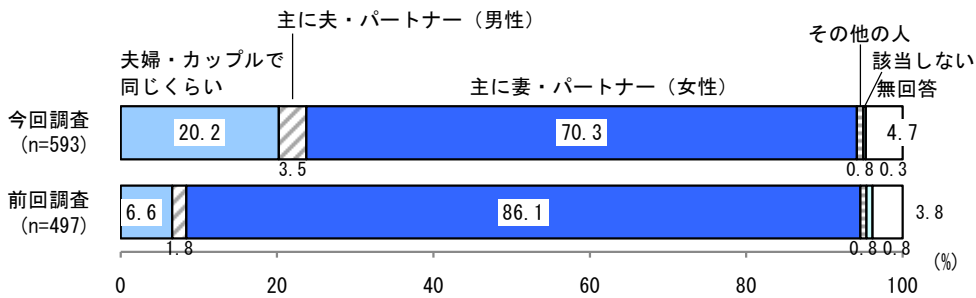


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が高い傾向にある一方で、「主に妻・パートナー(女性)」は全ての年代で60%を超え高くなっています。



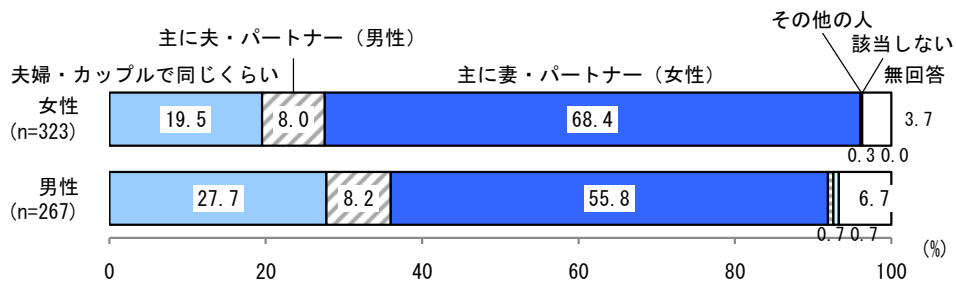
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が13.6ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が15.8ポイント低くなっています。

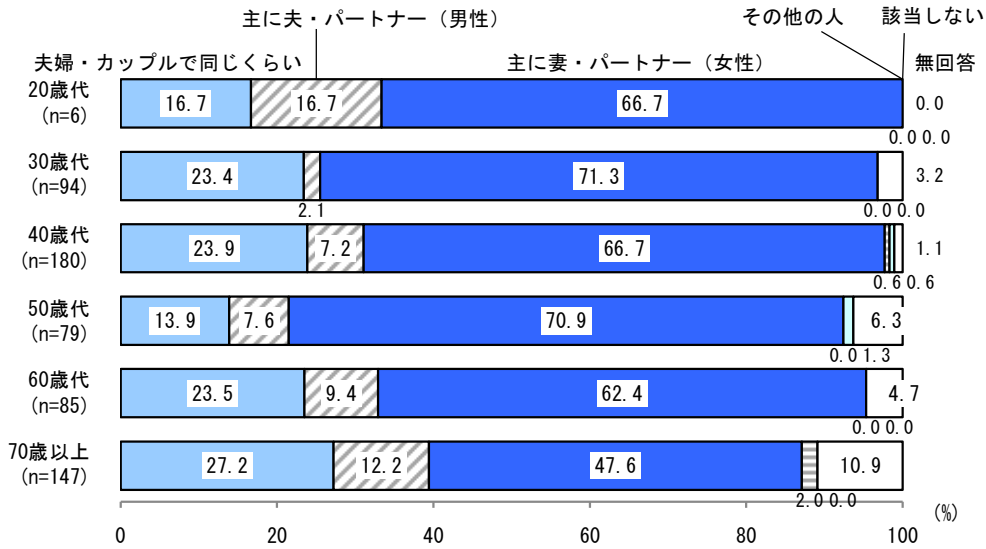


<④掃除>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が12.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が8.2ポイント高くなっています。

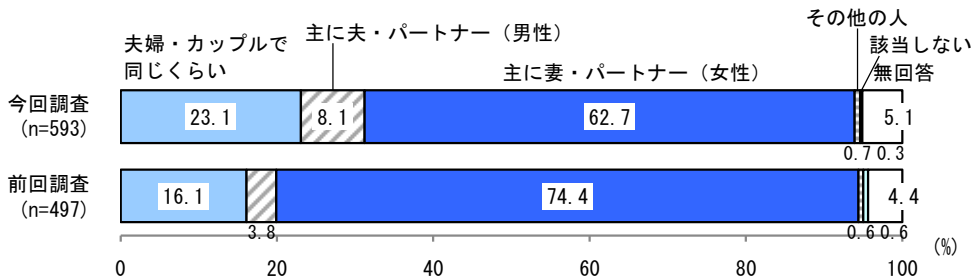


・年代別にみると、20～60歳代で「主に妻・パートナー(女性)」の割合が60%を超え高く、70歳以上で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が27.2%を占め、他の年代より高くなっています。



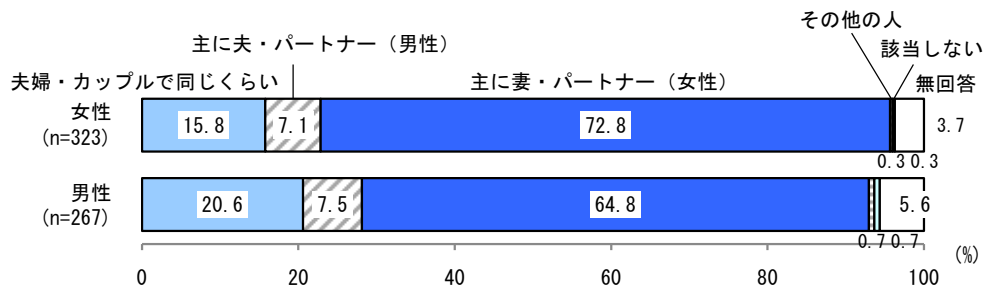
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が7.0ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が11.7ポイント低くなっています。

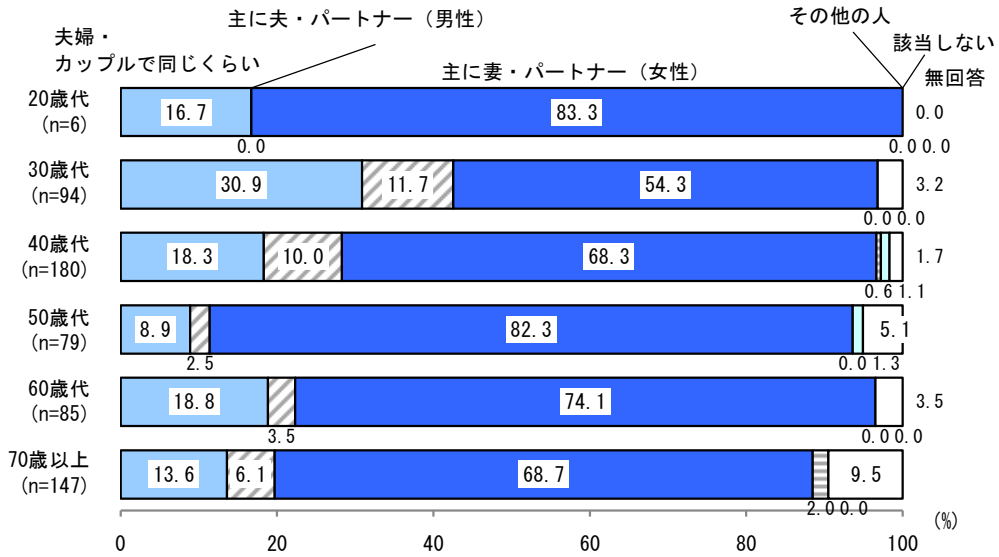


<⑤洗濯>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が8.0ポイント高くなっています。

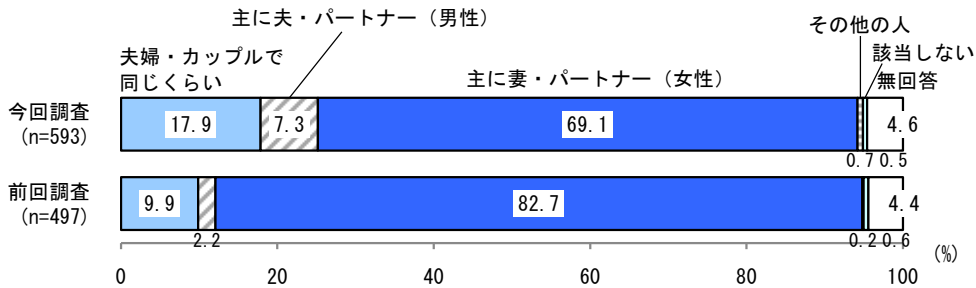


・年代別にみると、30歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が他の年代より高く、30.9%となっています。また、20歳代で「主に妻・パートナー(女性)」の割合が高く、83.3%となっています。



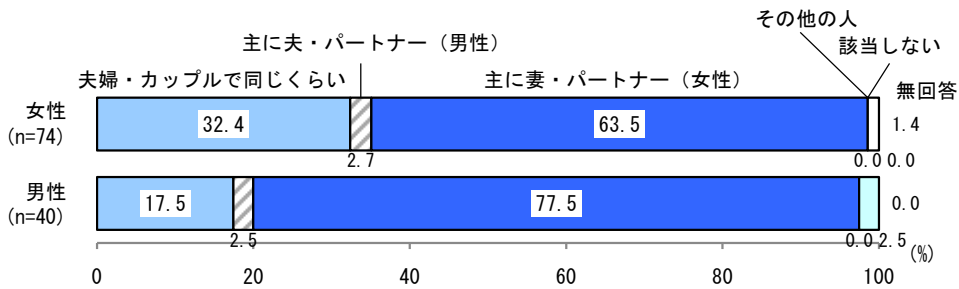
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が8.0ポイント、「主に夫・パートナー(男性)」の割合が5.1ポイント高く、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が13.6ポイント低くなっています。

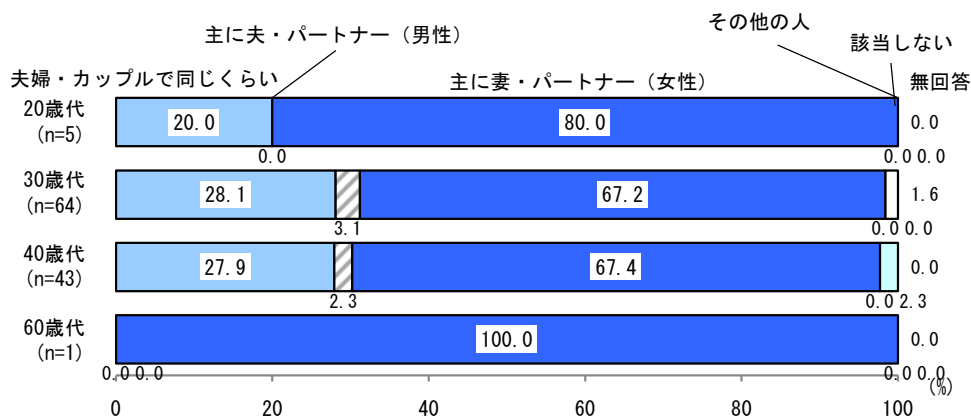


<⑥育児>

・性別にみると、女性は男性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が14.9ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が14.0ポイント高くなっています。



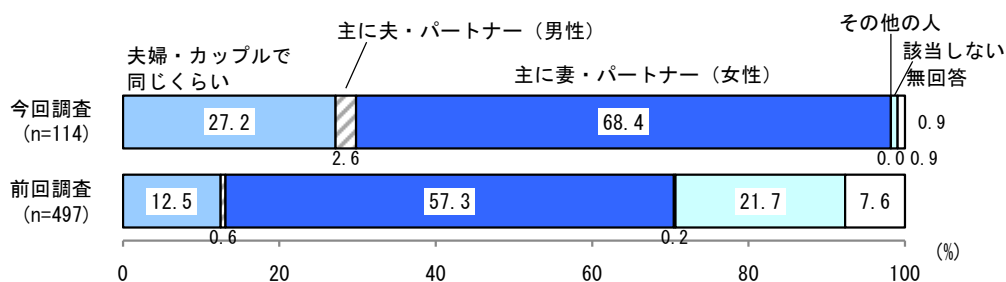
・年代別にみると、全ての年代で「主に妻・パートナー(女性)」の割合が過半数を占めています。



※50歳代、70歳以上は該当者がいないため掲載していません。

◇ 前回調査との比較

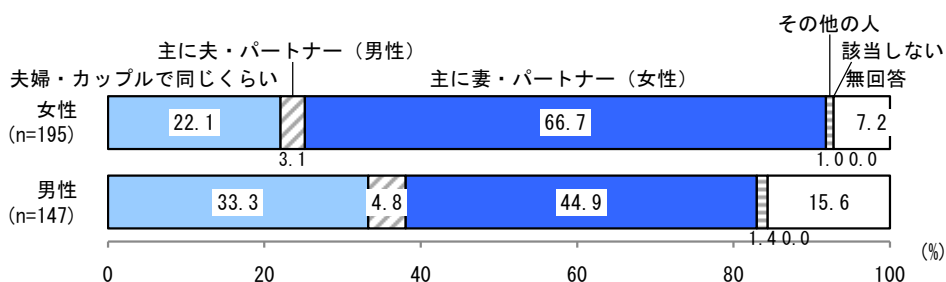
・前回調査と比べると、今回調査は「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が14.7ポイント、「主に妻・パートナー(女性)」の割合が11.1ポイント高くなっています。



※今回調査は、「⑥育児」について育児の定義(乳幼児を育てること)に従って、問3で「1. 結婚している(事実婚を含む)」を選択し、問11で「1. 3歳未満」あるいは「2. 3歳以上就学前」を選択された方で集計を行っているため、前回調査とは内訳が異なることに注意が必要です。

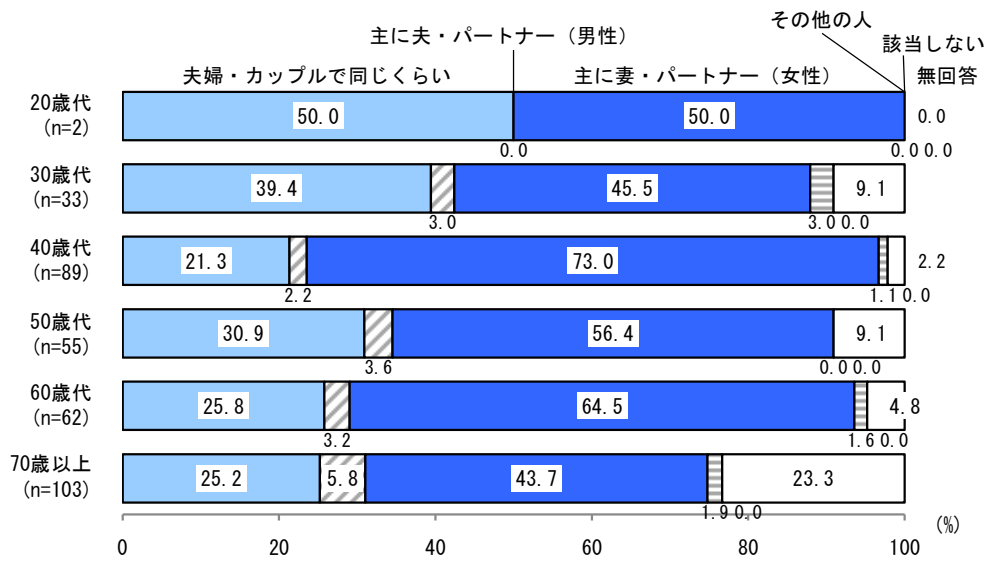
<⑦高齢者、病人の介護・看護>

・性別にみると、女性は男性よりも「主に妻・パートナー(女性)」の割合が21.8ポイント高く、男性は女性よりも「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が11.2ポイント高くなっています。



※「⑦高齢者、病人の介護・看護」については、「該当しない」を選択した方が女性で39.6%、男性で44.9%を占めているため、見やすさを考慮して「該当しない」を含めずにグラフを作成しています。

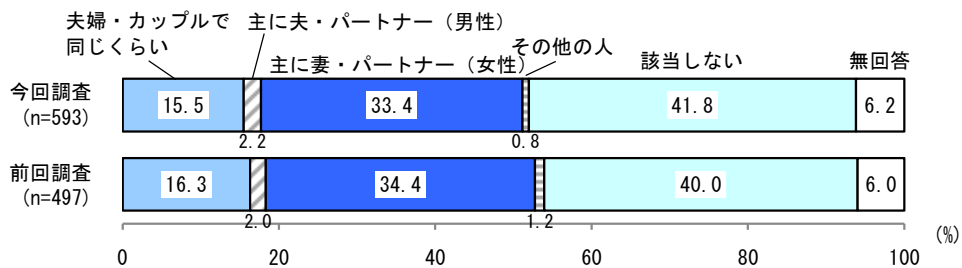
・年代別にみると、30歳代で「夫婦・カップルで同じくらい」の割合が他の年代より高く、39.4%となっており、40歳代で「主に妻・パートナー（女性）」の割合が73.0%と高くなっています。



※「⑦高齢者、病人の介護・看護」については、「該当しない」を選択した方が20～70歳以上で約30～70%を占めているため、見やすさを考慮して「該当しない」を含めずにグラフを作成しています。

◇ 前回調査との比較

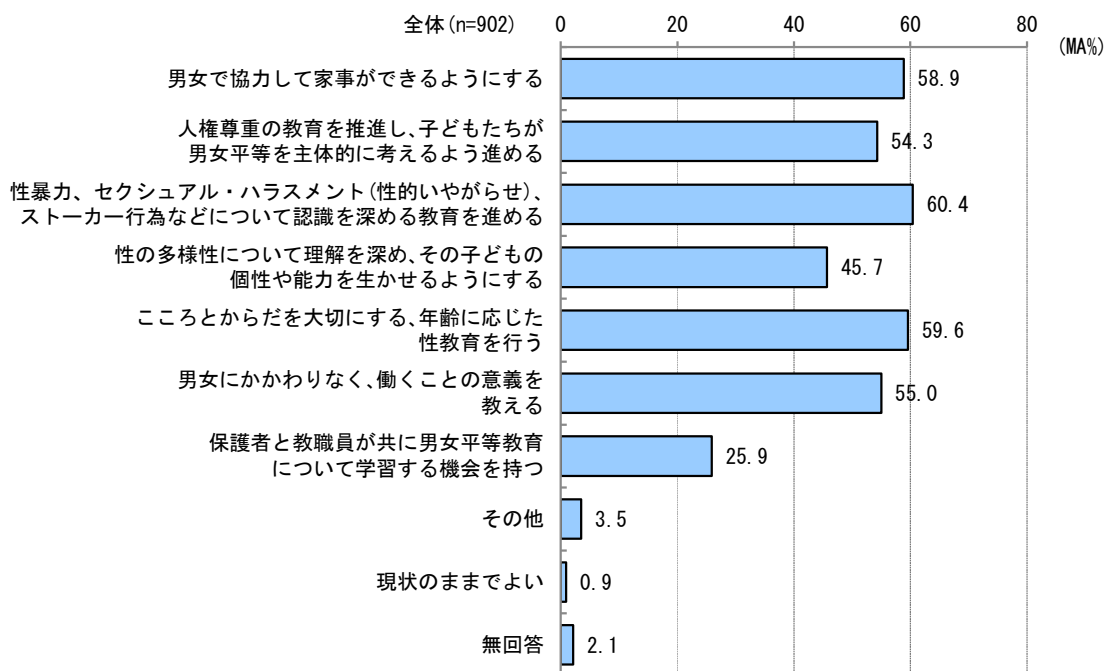
・前回調査との大きな差はみられません。



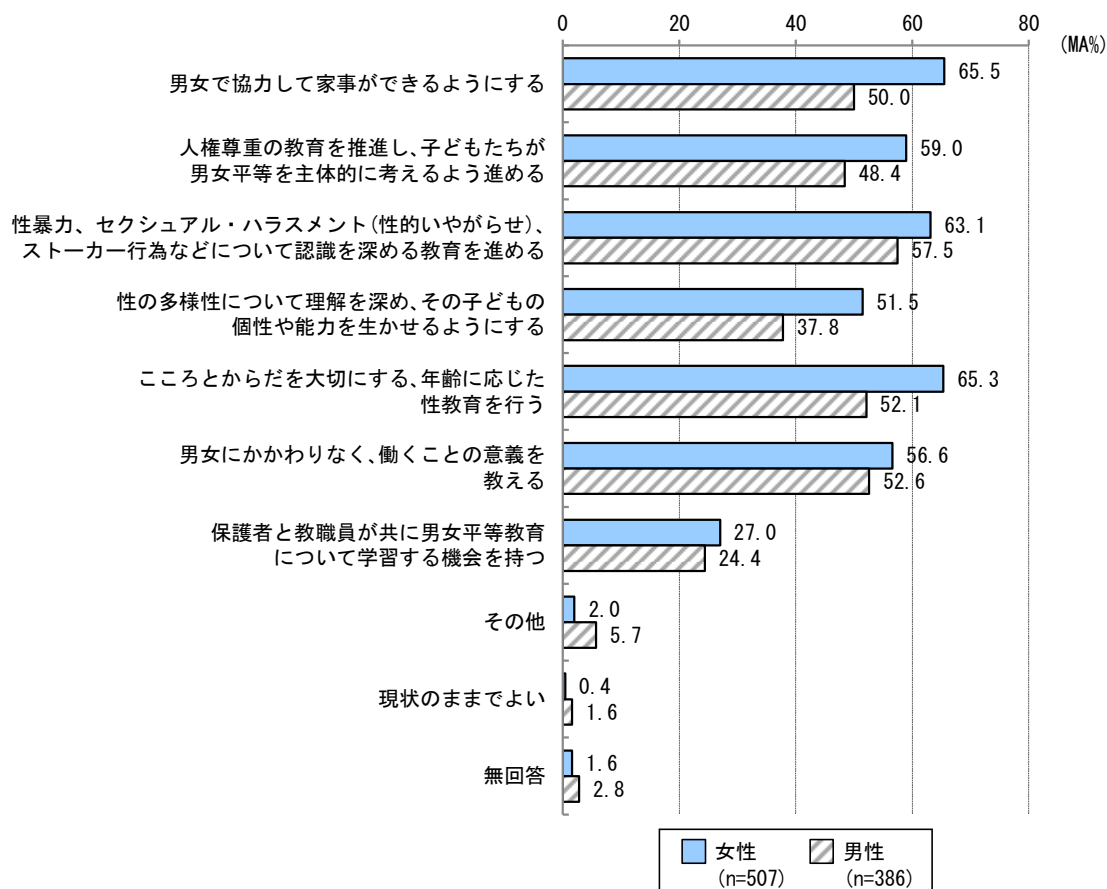
問18 小・中学校で進めてほしい男女平等の取組について

問18 あなたが小・中学校で進めてほしい男女平等の取組は、どれですか。(〇はいくつでも)

・小・中学校で進めてほしい男女平等の取組については、「性暴力、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、ストーカー行為などについて認識を深める教育を進める」が60.4%と最も高く、次いで「こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う」が59.6%、「男女で協力して家事ができるようにする」が58.9%となっています。

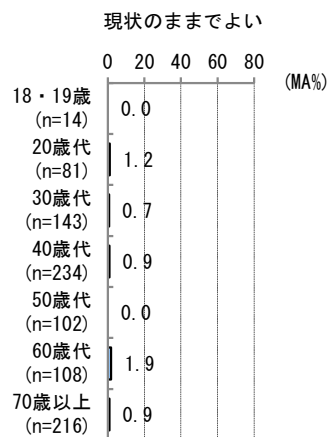
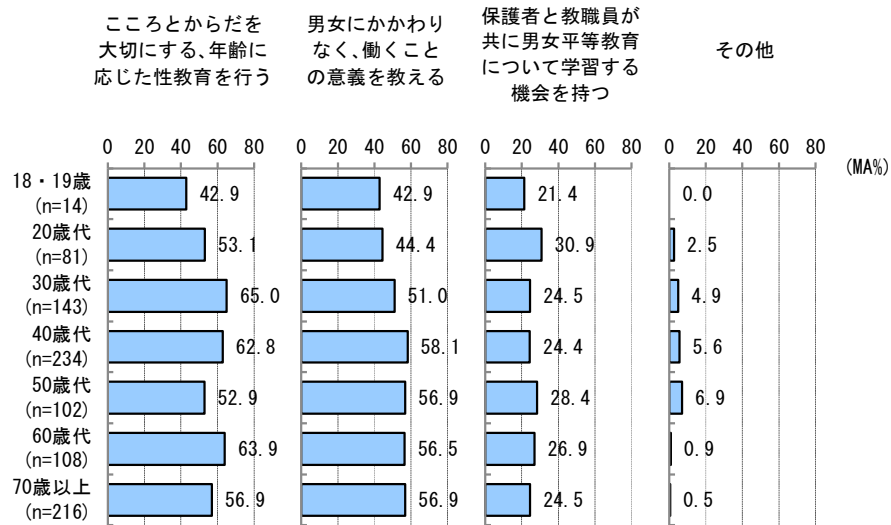
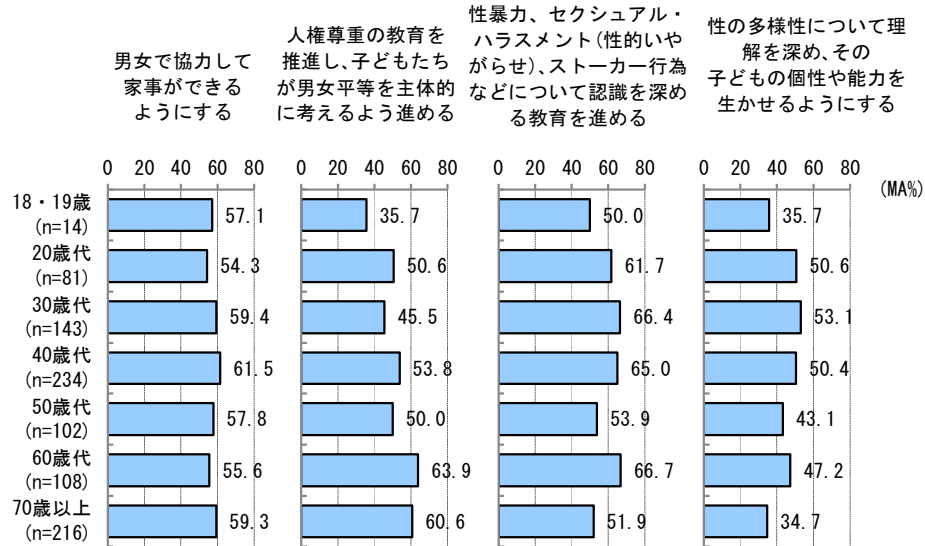


・性別にみると、ほとんどの項目で女性が男性の割合を上回っています。最も差が大きいのは「男女で協力して家事ができるようにする」で、女性は男性よりも15.5ポイント高くなっています。



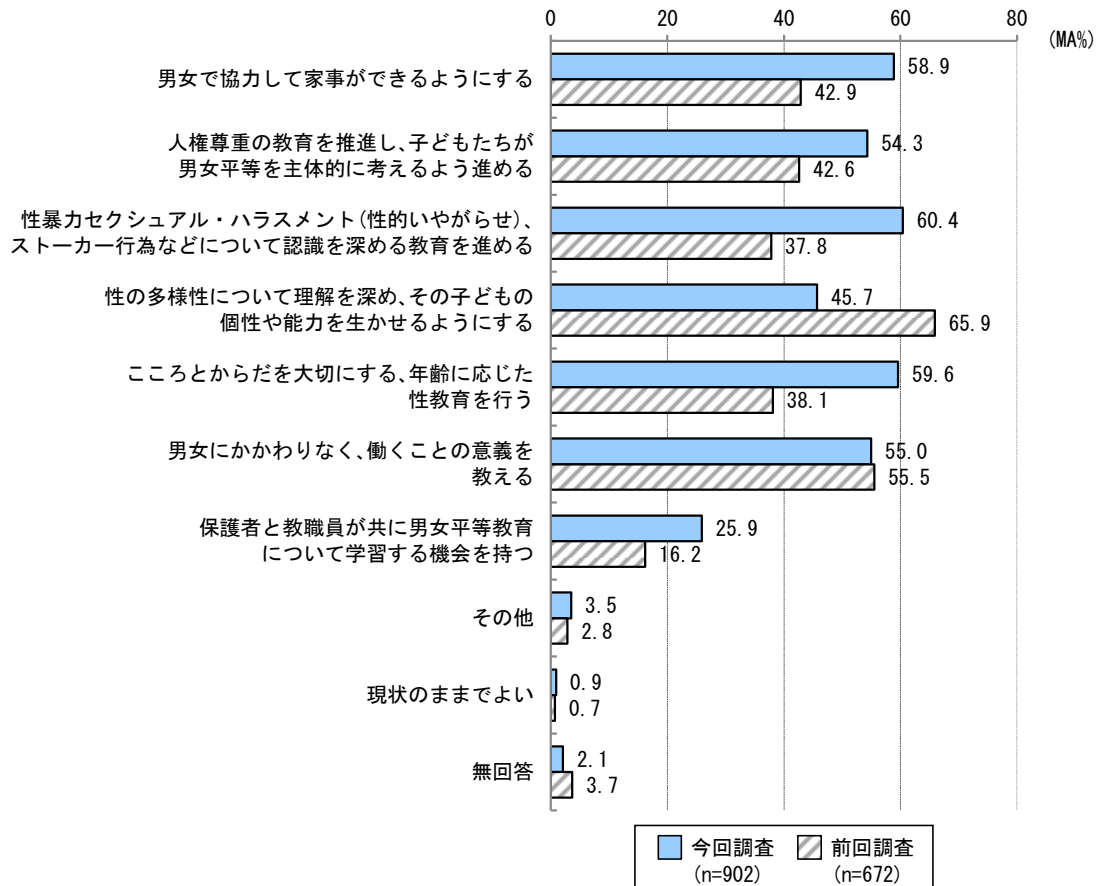
・年代別にみると、全ての年代で「男女で協力して家事ができるようにする」と「性暴力、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、ストーカー行為などについて認識を深める教育を進める」の割合が50%を超え高くなっています。

・一方で、「保護者と教職員が共に男女平等教育について学習する機会を持つ」と「現状のままでよい」は全ての年代で約30%を下回り、他の項目より低くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「性暴力セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、ストーカー行為などについて認識を深める教育を進める」の割合が22.6ポイント、「こことからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う」の割合が21.5ポイント、「男女で協力して家事ができるようにする」の割合が16.0ポイント、「人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるよう進める」の割合が11.7ポイント、「保護者と教職員が共に男女平等教育について学習する機会を持つ」の割合が9.7ポイント高くなっています。



※前回調査から選択肢が一部変わっているため、注意が必要です。

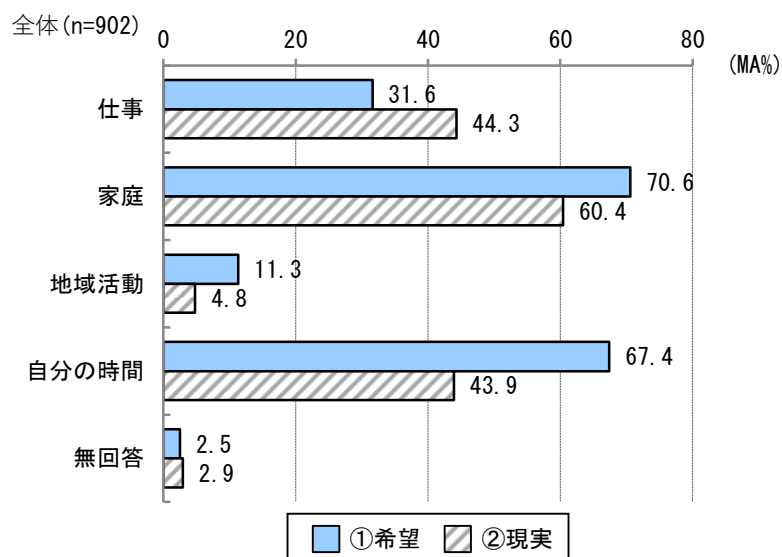
前回調査…「4. 男女にかかわりなく、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」

今回調査…「4. 性の多様性について理解を深め、その子どもの個性や能力を生かせるようにする」

問19 生活のなかで大切にしたいこと

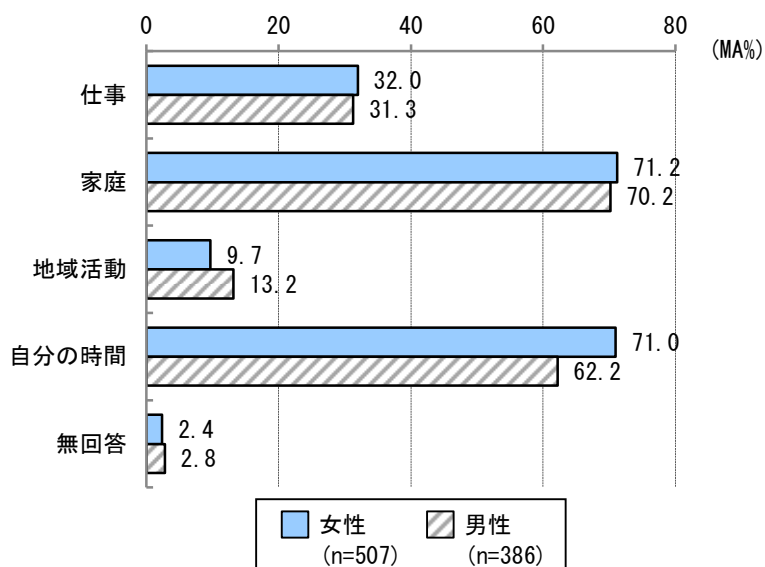
問19 あなたは、生活のなかで、「仕事」「家庭」「地域活動」「自分の時間」で、何を大切にしたいですか。また、現実(現状)では、何を大切にされていますか。(①と②それぞれ〇はいくつでも)

- ・①生活のなかで大切にしたいこと(希望)については、「家庭」が70.6%と最も高く、次いで「自分の時間」が67.4%、「仕事」が31.6%となっています。
- ・②生活のなかで大切にしていること(現実)については、「家庭」が60.4%と最も高く、次いで「仕事」が44.3%、「自分の時間」が43.9%となっています。

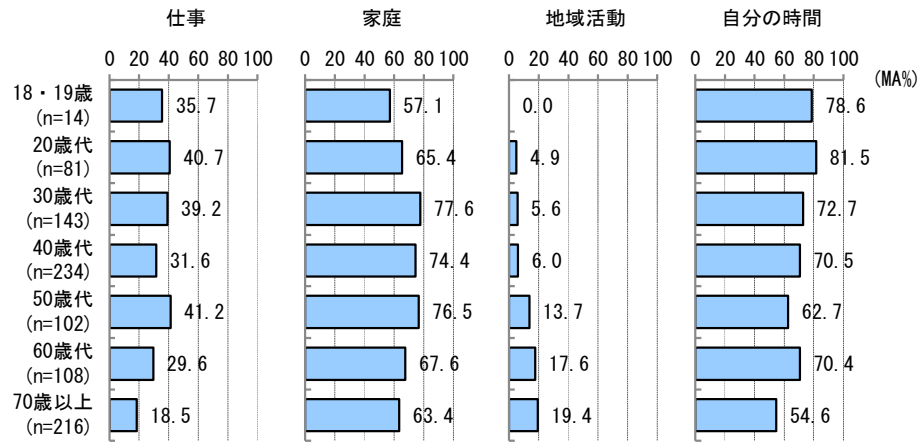


<①生活のなかでたいせつにしたいこと(希望)>

- ・性別にみると、女性は男性よりも「自分の時間」の割合が8.8ポイント高くなっています。

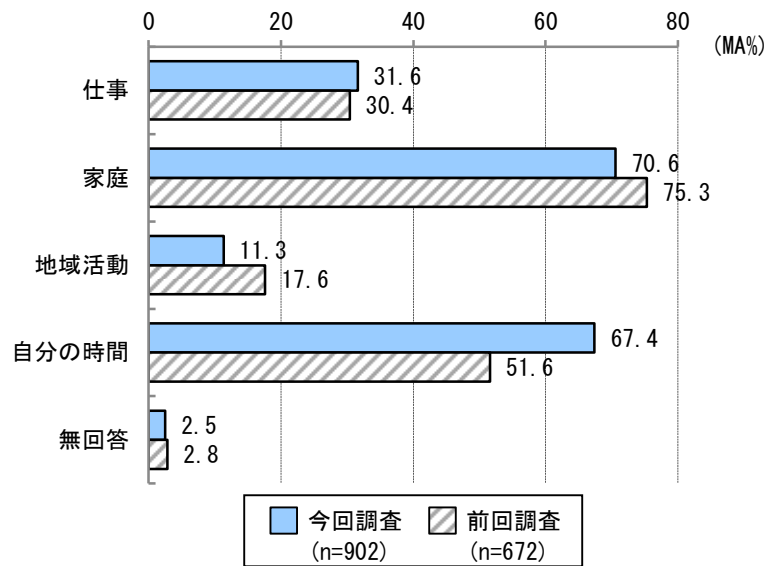


・年代別にみると、全ての年代で「家庭」と「自分の時間」の割合が50%を超え高くなっています。「仕事」は18～50歳代で30%を超えていますが、60～70歳以上では30%を下回り他の年代より低くなっています。また、「地域活動」は全ての年代で20%を下回り他の項目より低くなっています。



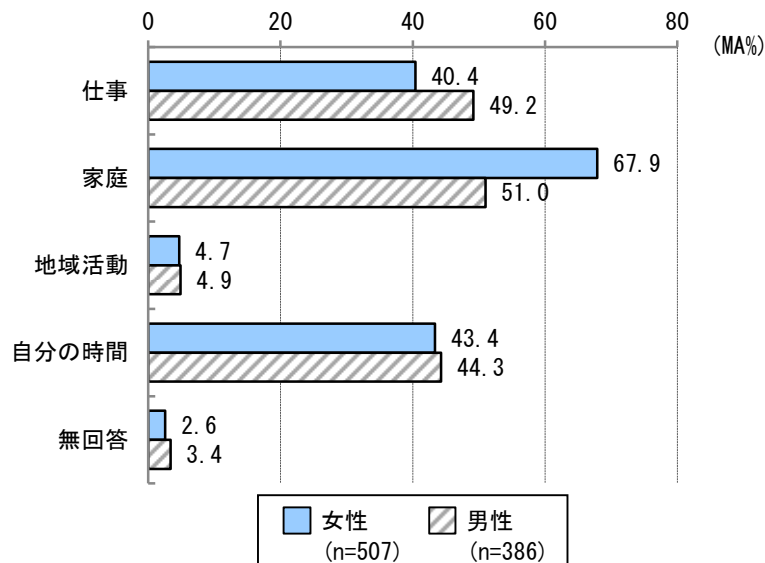
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「自分の時間」の割合が15.8ポイント高く、「地域活動」の割合が6.3ポイント低くなっています。

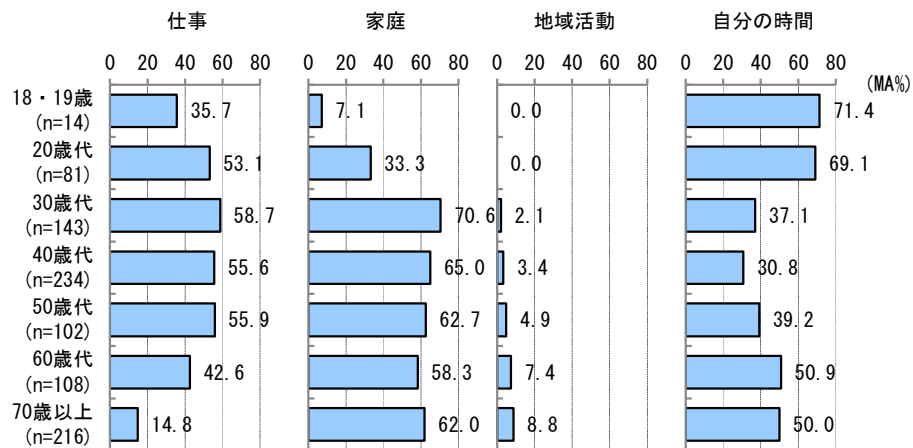


<②生活のなかで大切にしていること(現実)>

・性別にみると、女性は男性よりも「家庭」の割合が16.9ポイント高く、男性は「仕事」の割合が8.8ポイント高くなっています。

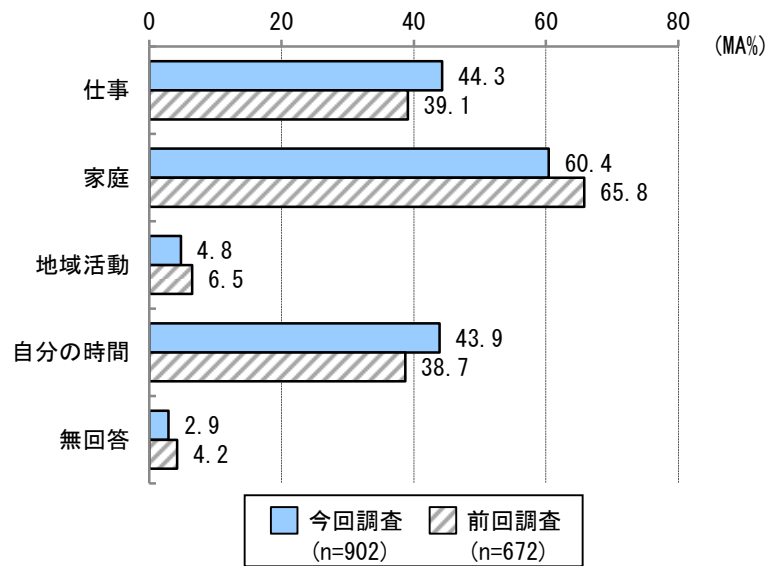


・年代別にみると、20～50歳代で「仕事」の割合が50%を超え高くなっている一方で、18～20歳代、60～70歳以上で「自分の時間」の割合が50%を超え高くなっています。また、30歳以上で「家庭」の割合が約60%を超え高くなっています。「地域活動」は年代が上がるほど高い傾向にあるものの、全ての年代で10%を下回っています。



◇ 前回調査との比較

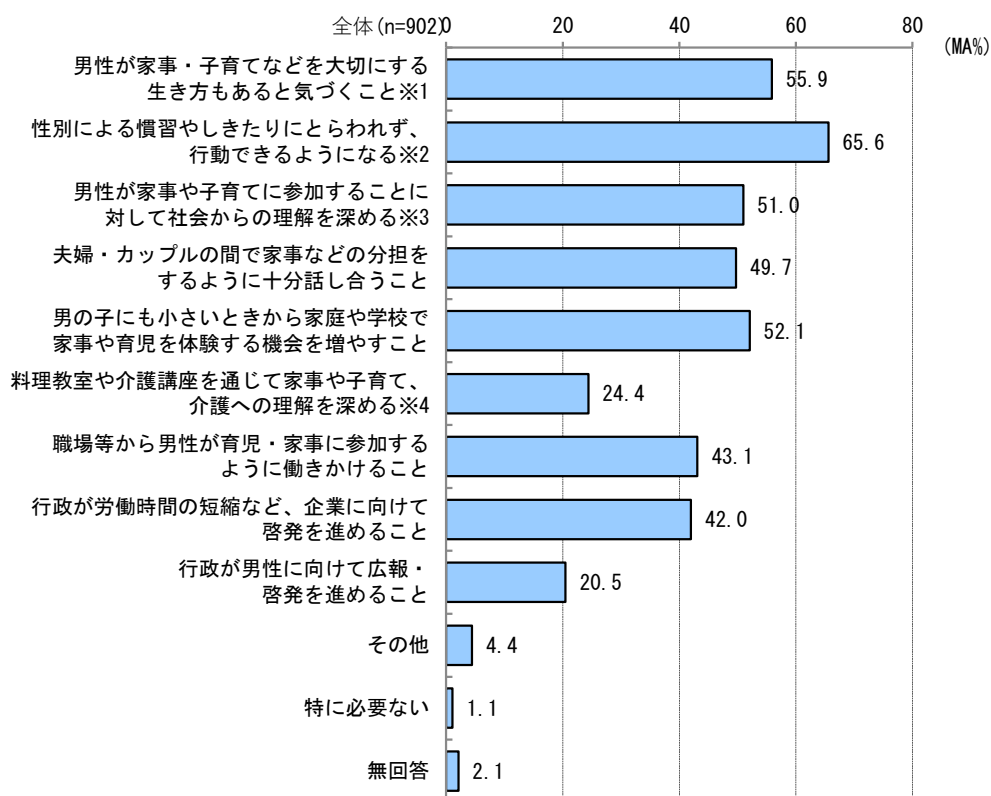
・前回調査と比べると、今回調査は「仕事」と「自分の時間」の割合がそれぞれ5.2ポイント高く、「家庭」の割合が5.4ポイント低くなっています。



問20 今後、男性の家事、子育て、介護への積極的な参加を促進するために必要なこと

問20 今後、男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

・今後、男性の家事、子育て、介護への積極的な参加を促進するために必要なことについては、「性別による慣習やしきたりにとらわれず、行動できるようになる」が65.6%と最も高く、次いで「男性が家事・子育てなどを大切にする生き方もあると気づくこと」が55.9%、「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」が52.1%となっています。



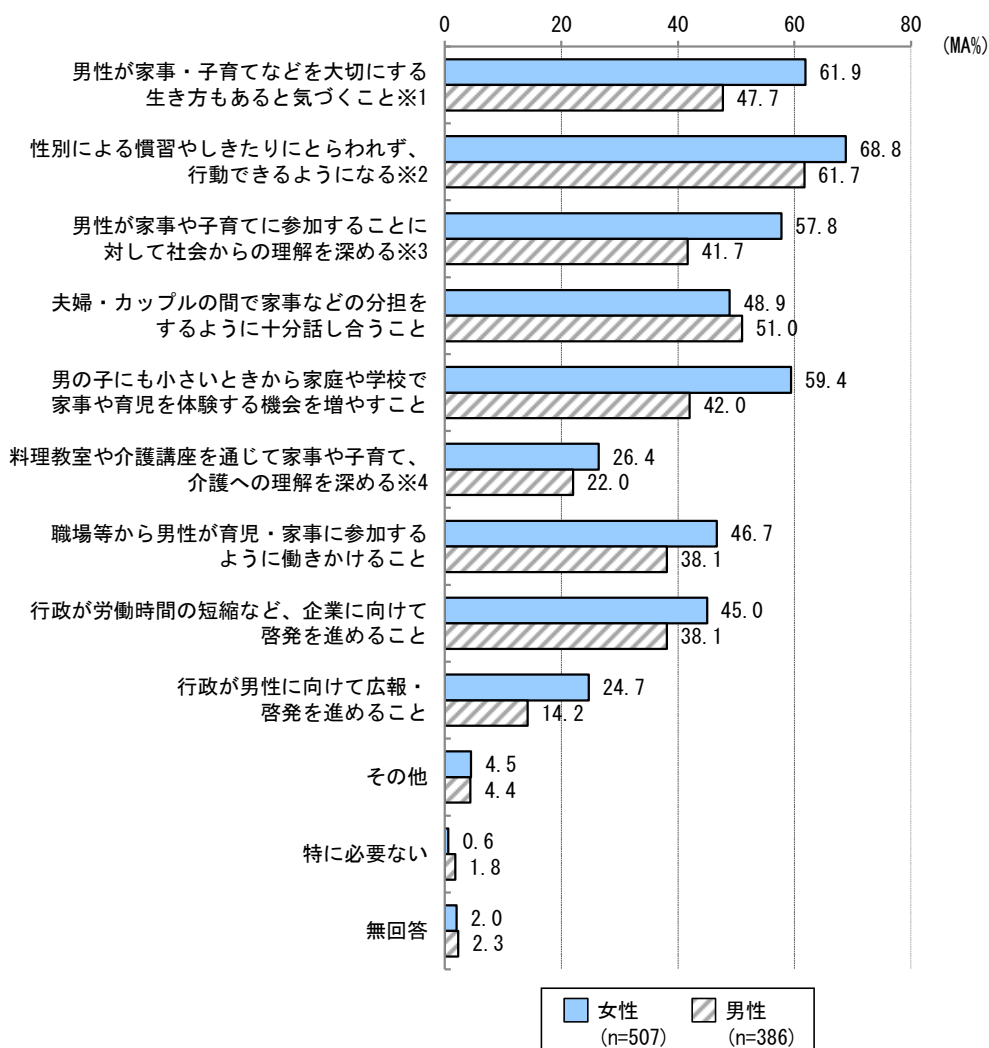
※1－男性自身が家事・子育て・介護などを大切にする生き方・考え方もあることに気づくこと

※2－男性も女性も男女の役割分担についての慣習やしきたりにとらわれずに考え、行動できるようになること

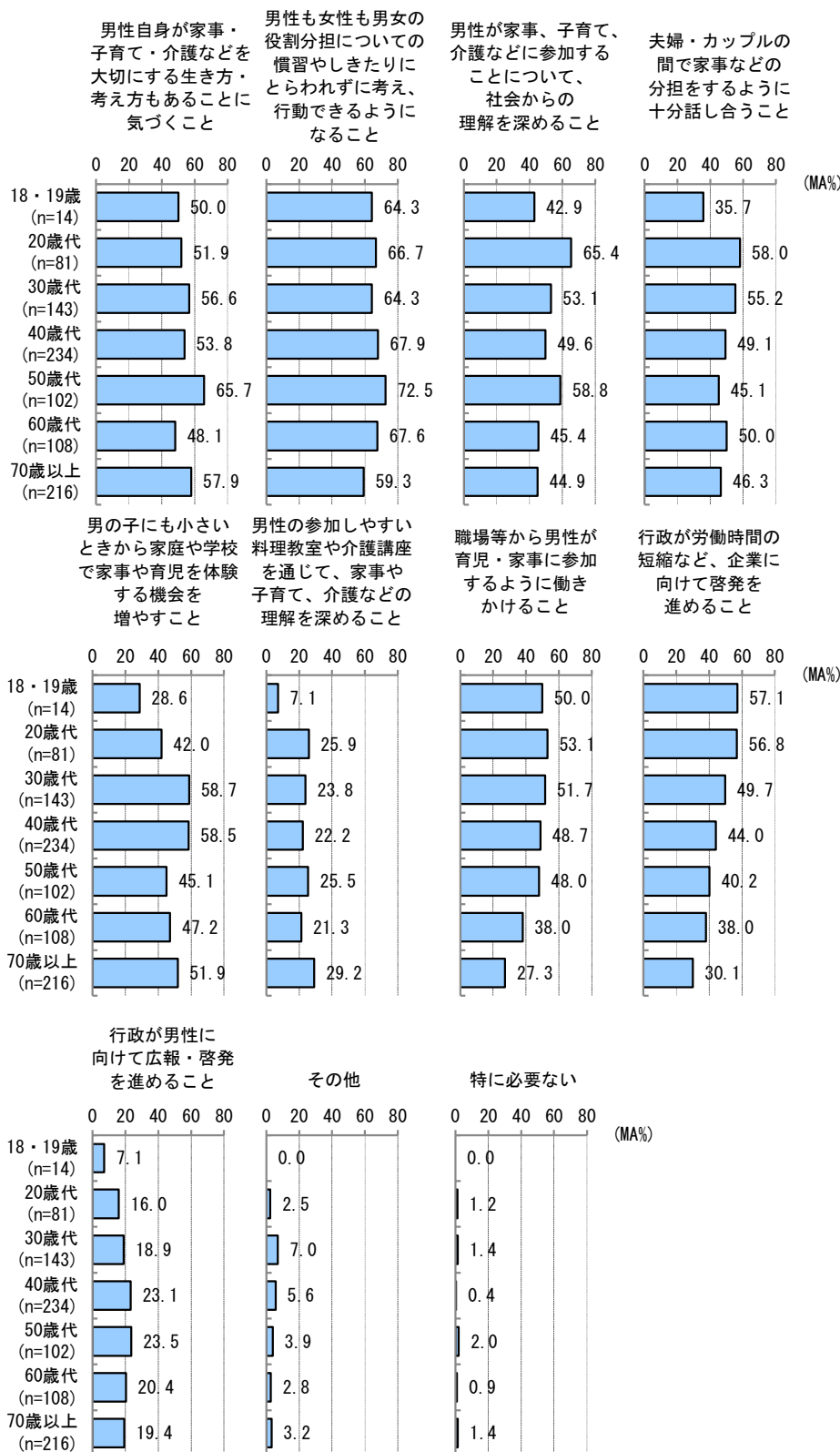
※3－男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの理解を深めること

※4－男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること

・性別にみると、ほとんどの項目で女性が男性の割合を上回っています。最も差が大きいのは「男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと」で、女性は男性よりも17.4ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「男性も女性も男女の役割分担についての慣習やしきたりにとらわれずに考え、行動できるようになること」の割合が50%を超え高くなっています。一方で、全ての年代で「男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること」と「行政が男性に向けて広報・啓発を進めること」の割合が30%を下回り低くなっています。



3. 男女平等・人権尊重に関する用語について

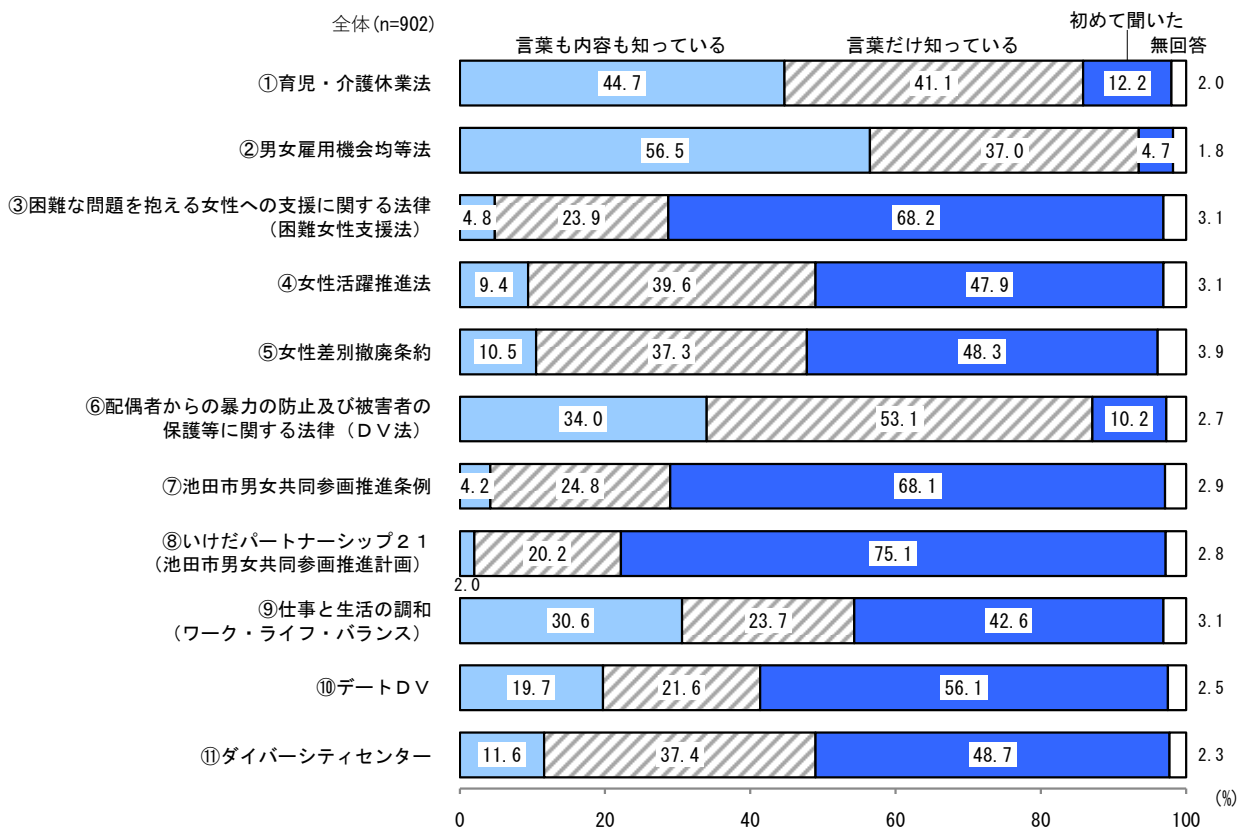
問21 用語の認知度について

問21 あなたが、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。

(①～⑩の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

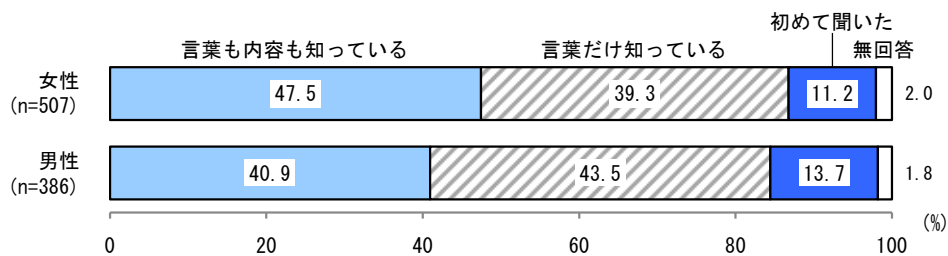
・男女平等・人権尊重に関する用語については、「言葉も内容も知っている」と「言葉だけ知っている」を合わせた『知っている』が「②男女雇用機会均等法」で93.5%と最も高く、次いで「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV法)」が87.1%、「①育児・介護休業法」が85.8%となっています。

・一方で、「初めて聞いた」の割合は、「⑧いけだパートナーシップ21(池田市男女共同参画推進計画)」で75.1%と最も高く、次いで「③困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(困難女性支援法)」が68.2%、「⑦池田市男女共同参画推進条例」が68.1%となっています。

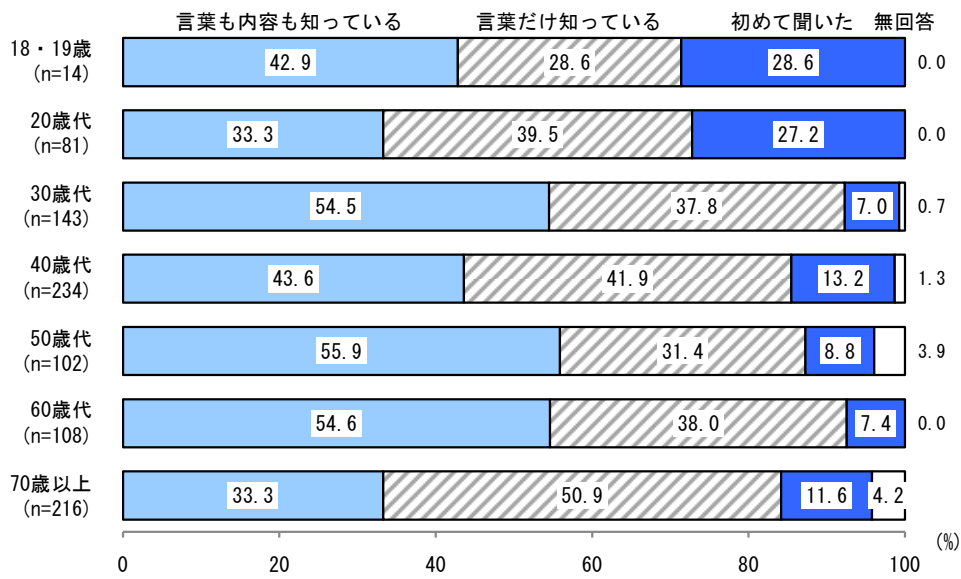


<①育児・介護休業法>

・性別にみると、女性は男性よりも「言葉も内容も知っている」の割合が6.6ポイント高くなっています。

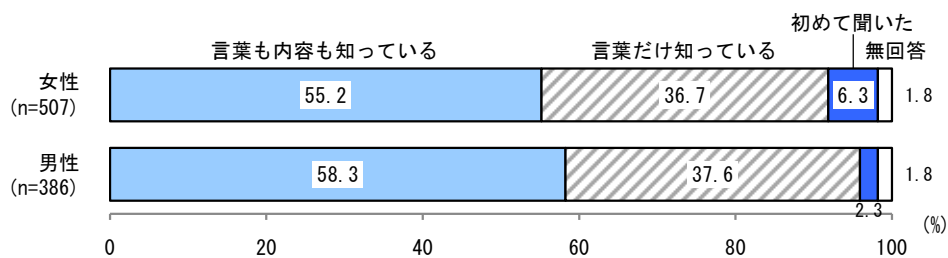


・年代別にみると、全ての年代で『知っている』の割合が70%を超えており、60歳代で92.6%と高くなっています。

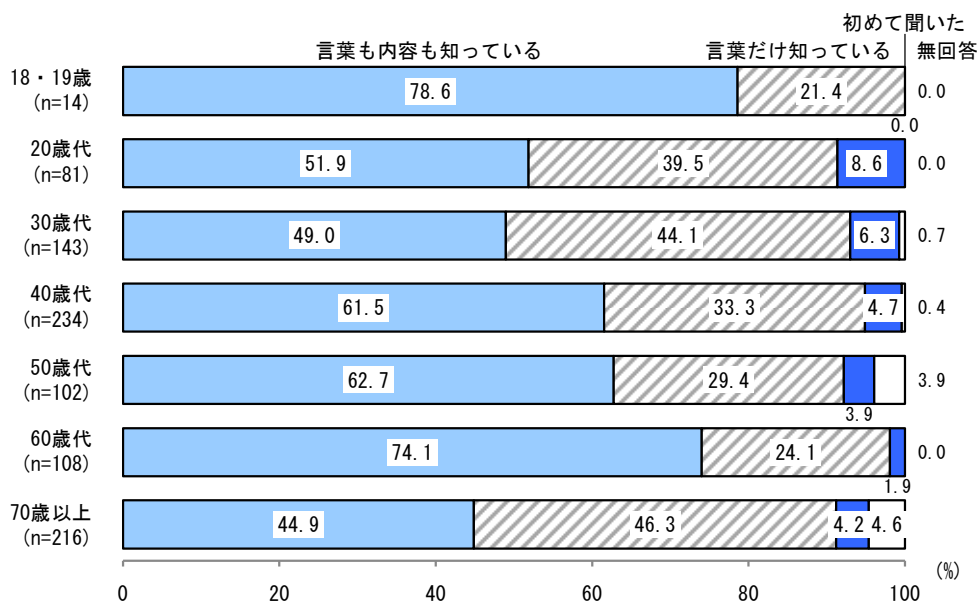


<②男女雇用機会均等法>

・性別による大きな差はありません。

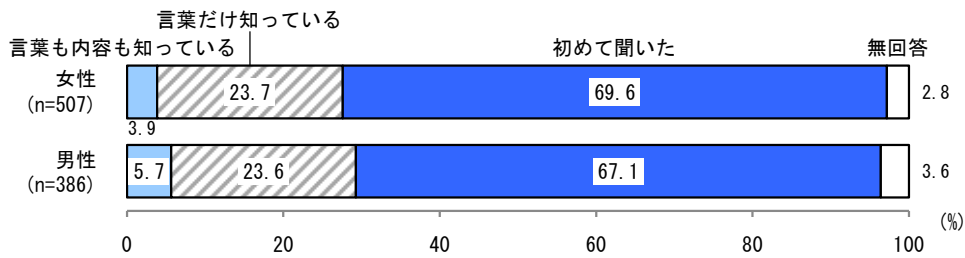


・年代別にみると、全ての年代で『知っている』の割合が90%を超えており、18・19歳で100.0%と高くなっています。

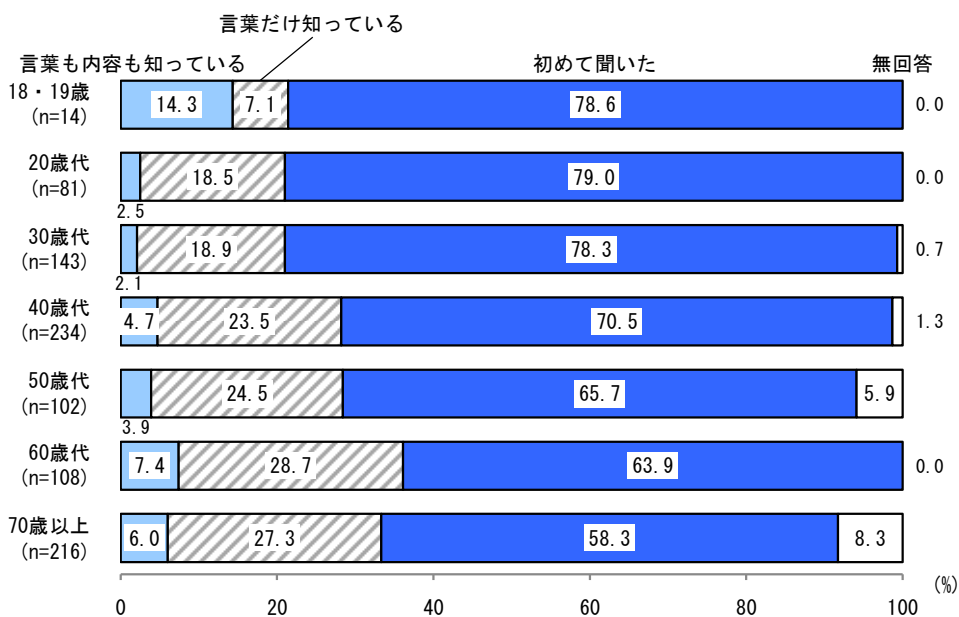


<③困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(困難女性支援法)>

・性別による大きな差はありません。

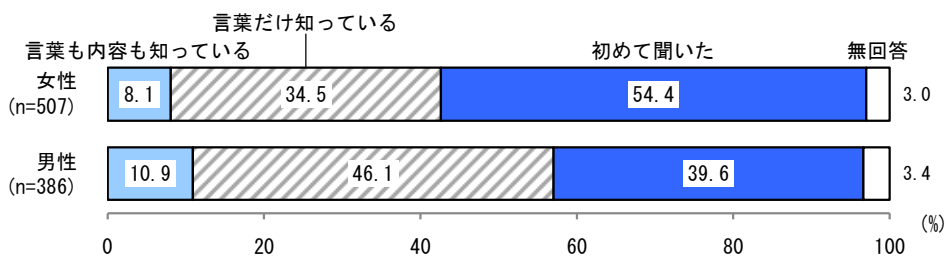


・年代別にみると、全ての年代で「初めて聞いた」の割合が50%を超えており、20歳代で79.0%と高くなっています。

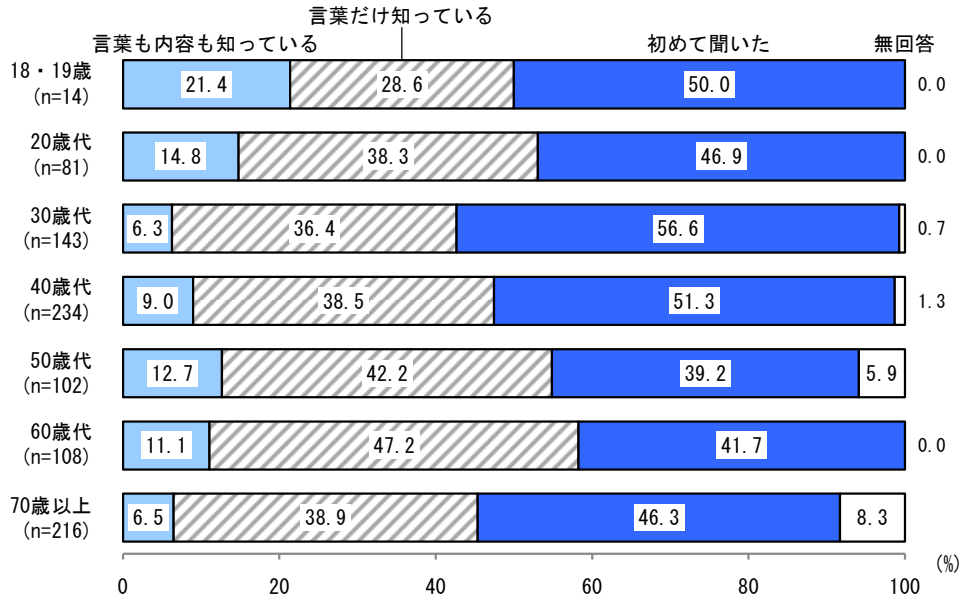


<④女性活躍推進法>

・性別にみると、女性は男性よりも「初めて聞いた」の割合が14.8ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「言葉だけ知っている」の割合が11.6ポイント高くなっています。

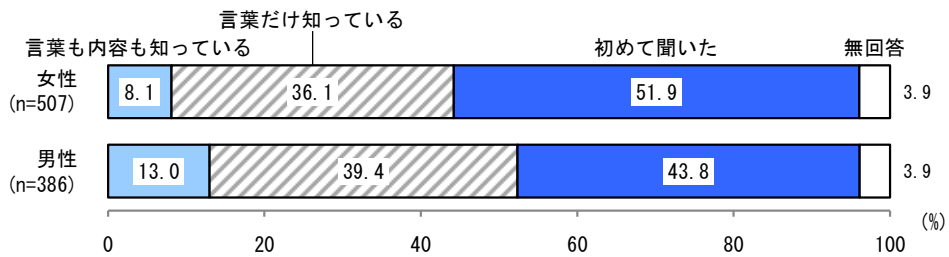


・年代別にみると、18～20歳代、50～60歳代で『知っている』の割合が50%を超え高い傾向にあります。一方で、30～40歳代、70歳以上で『知っている』の割合が50%を下回り、他の年代より低くなっています、

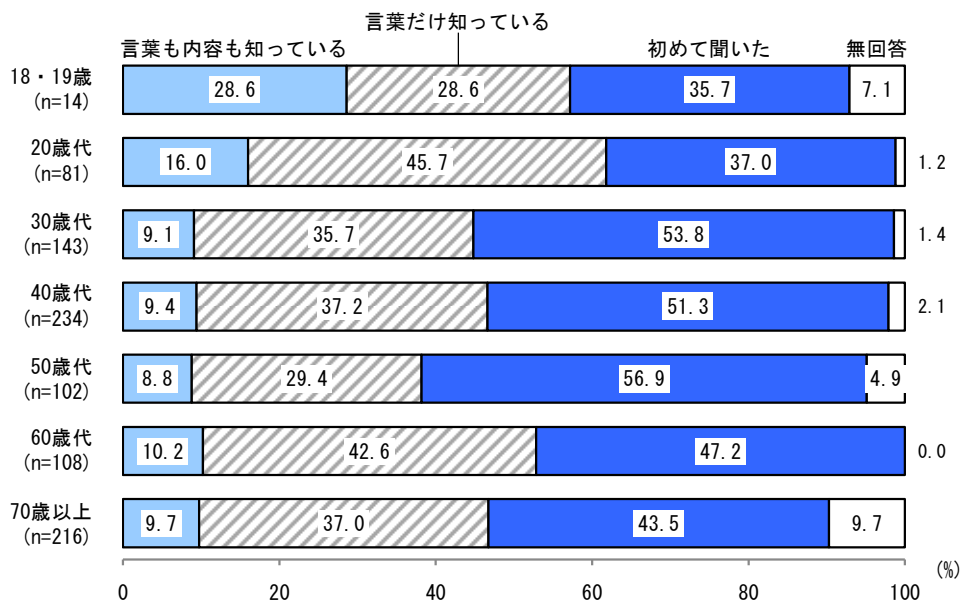


<⑤女性差別撤廃条約>

・性別にみると、女性は男性よりも「初めて聞いた」の割合が8.1ポイント高くなっています。

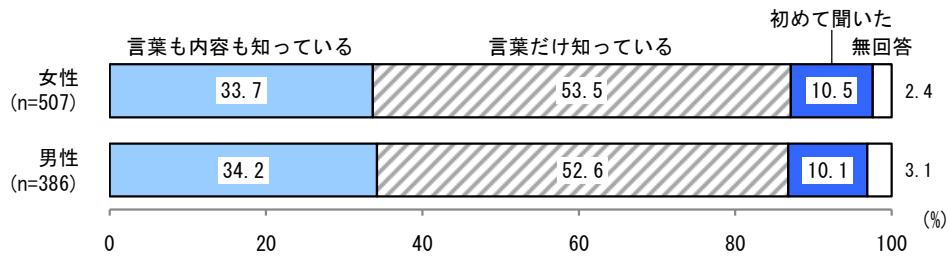


・年代別にみると、18～20歳代、60歳代で『知っている』の割合が50%を超え高くなっています。一方で、「初めて聞いた」の割合が30～50歳代で50%を超え高くなっています。

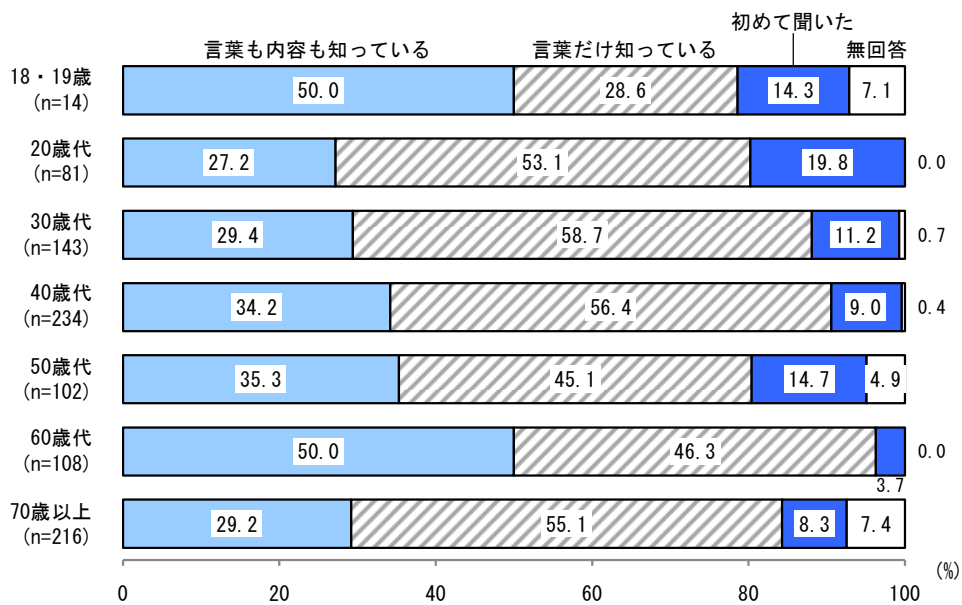


<⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV法)>

・性別による大きな差はありません。

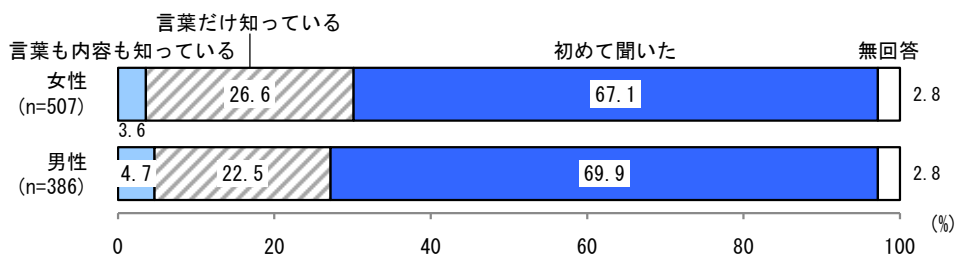


・年代別にみると、全ての年代で『知っている』の割合が70%を超えており、60歳代で96.3%と高くなっています。

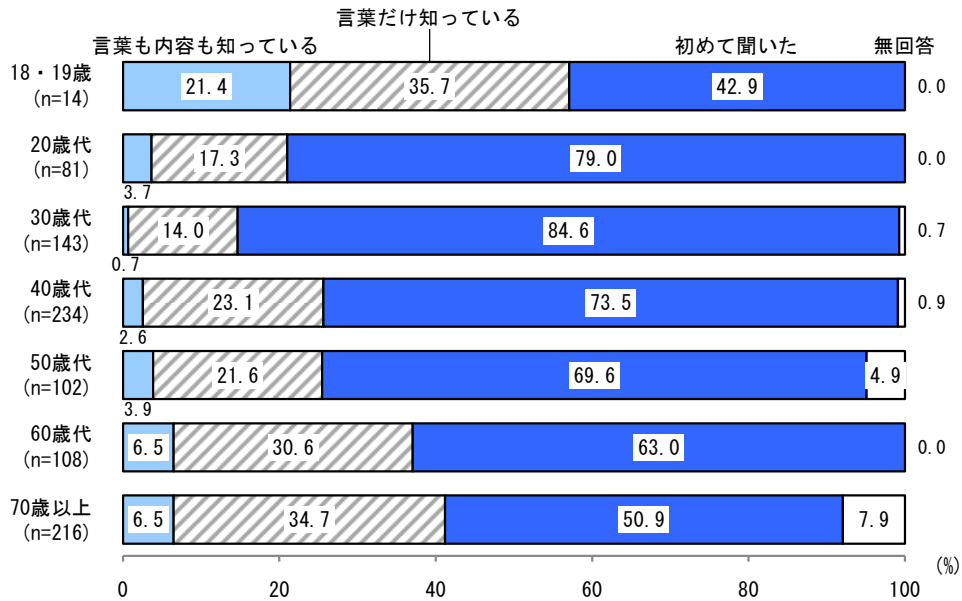


<⑦池田市男女共同参画推進条例>

・性別による大きな差はありません。

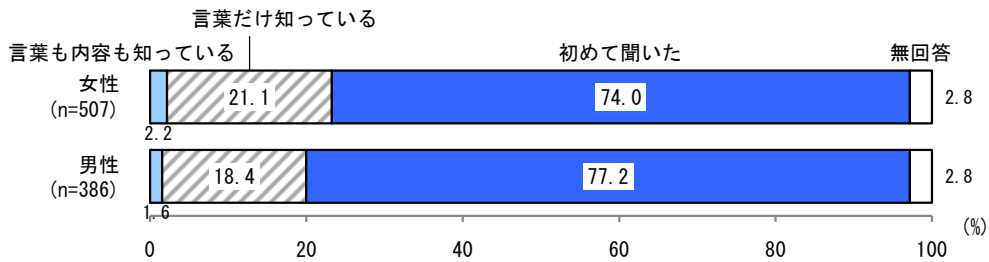


・年代別にみると、概ね年代が上がるほど『知っている』の割合が高い傾向にあり、70歳以上で41.2%となっています。一方で、「初めて聞いた」は若い年代ほど高い傾向にあり、30歳代で84.6%となっています。

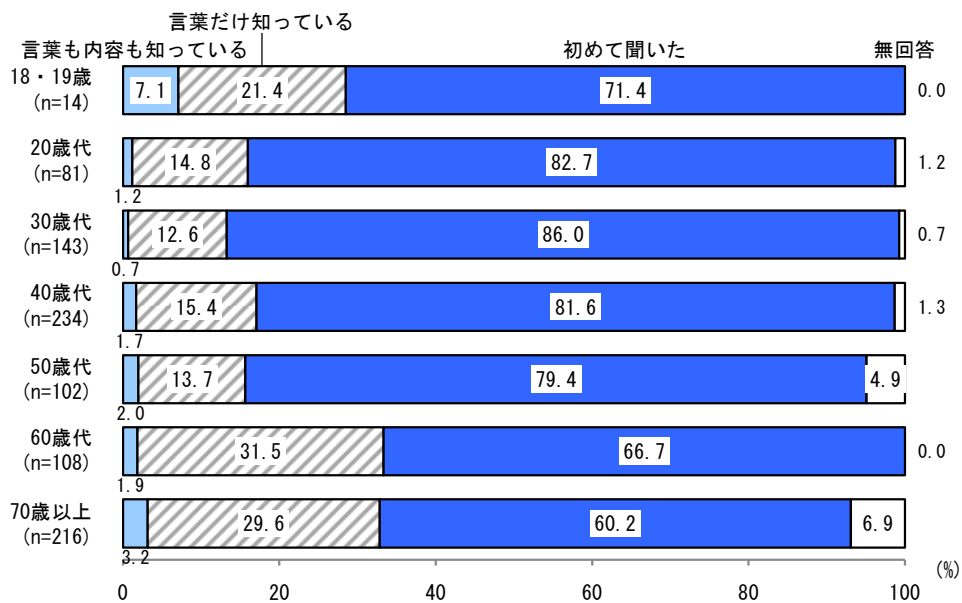


<⑧いけだパートナーシップ 21(池田市男女共同参画推進計画)>

・性別による大きな差はありません。

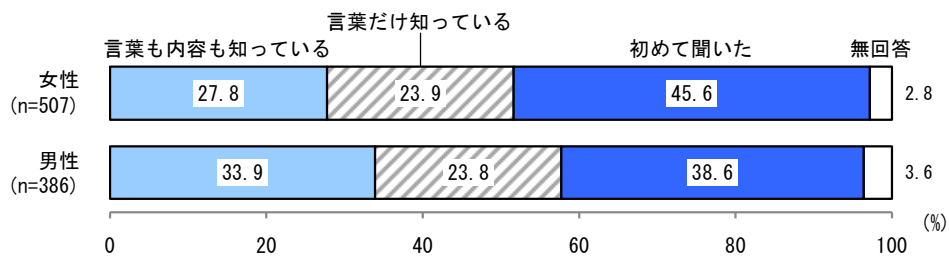


・年代別にみると、『知っている』の割合は高齢層で高く、60歳代で33.4%、70歳以上で32.8%となっています。一方で、全ての年代で「初めて聞いた」の割合が60%を超えており、30歳代で86.0%と高くなっています。

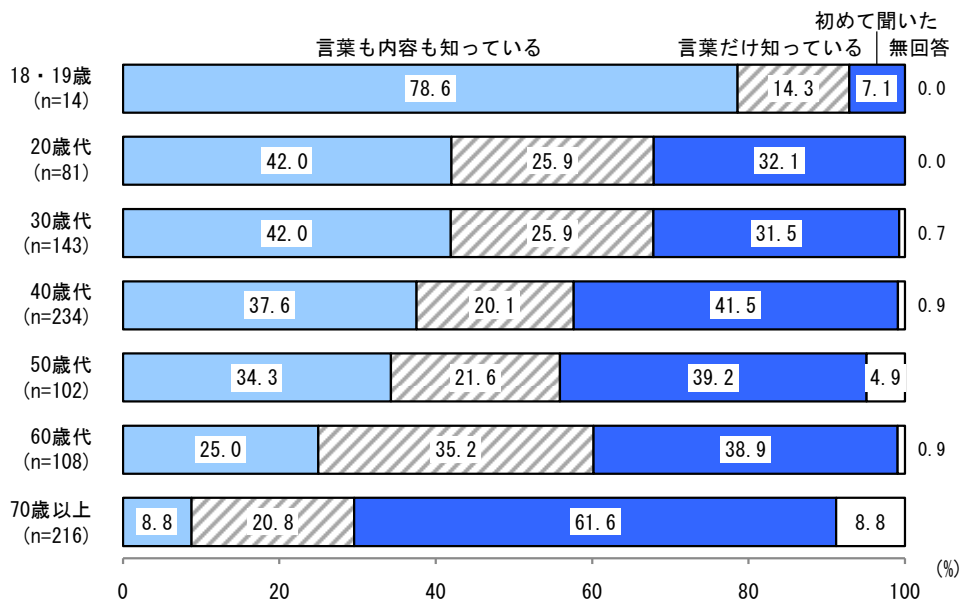


<⑨仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)>

・性別にみると、男性は女性よりも「言葉も内容も知っている」割合が6.1ポイント高くなっています。一方で、女性は「初めて聞いた」の割合が7.0ポイント高くなっています。

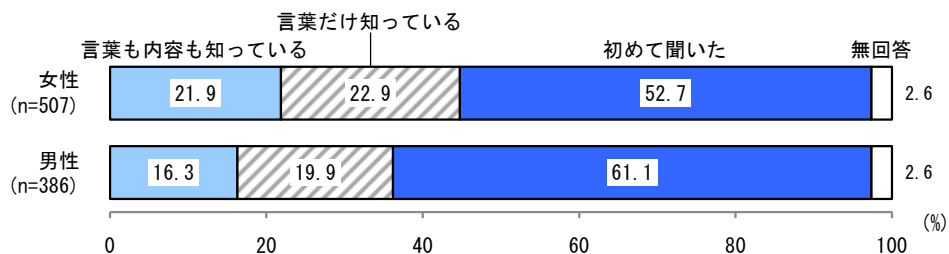


・年代別にみると、18～60歳代で『知っている』の割合が55%を超えている一方で、70歳以上では29.6%と他の年代より低くなっています。

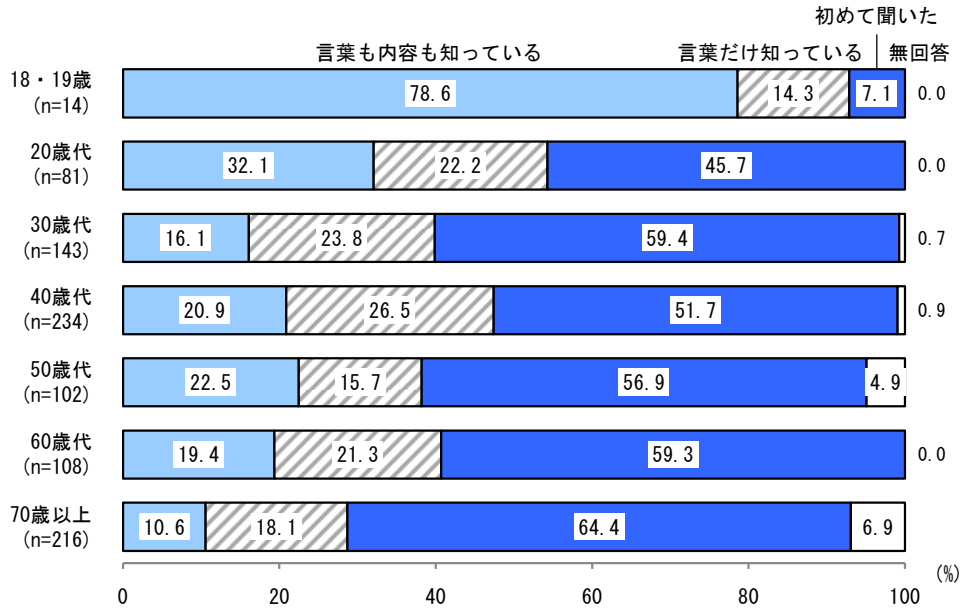


<⑩デートDV>

・性別にみると、女性は男性よりも「言葉も内容も知っている」の割合が5.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「初めて聞いた」の割合が8.4ポイント高くなっています。

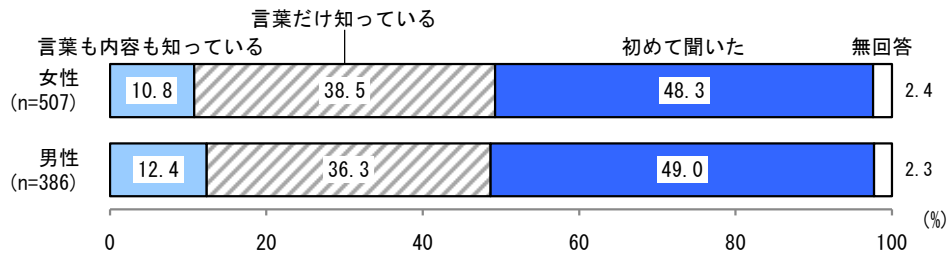


・年代別にみると、『知っている』の割合は18・19歳とそれ以外の年代の間で差があり、18・19歳では92.9%と高くなっているものの、70歳以上では28.7%と低くなっています。

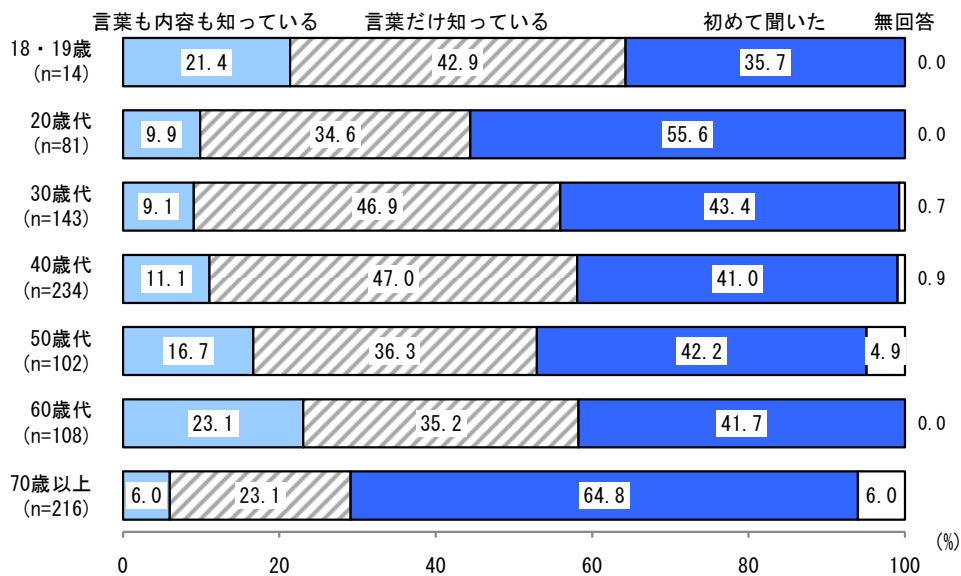


<⑩ダイバーシティセンター>

・性別による大きな差はありません。



・年代別にみると、18～60歳代で『知っている』の割合が約45%を超えている一方で、70歳以上では29.1%と他の年代より低くなっています。

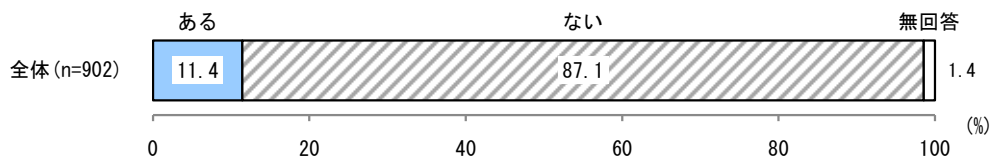


4. 男女間の暴力・人権尊重について

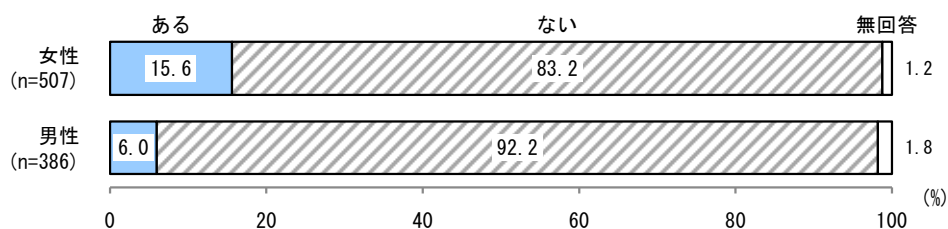
問22 自分の性別によってつらいと感じた経験

問22 あなたは、自分の性別によってつらいと感じることがありますか。(〇は1つ)

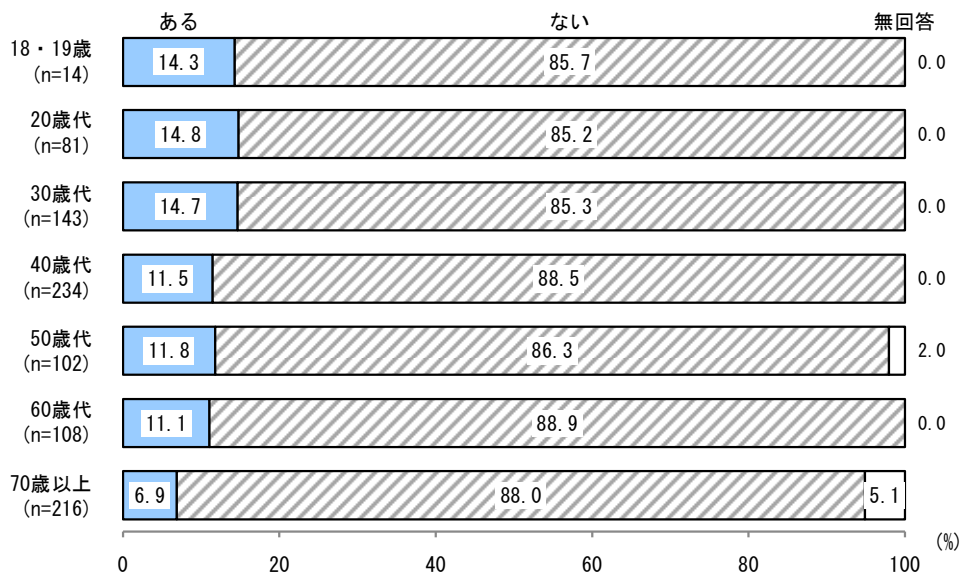
・自分の性別によってつらいと感じた経験については、「ない」が87.1%、「ある」が11.4%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「ある」の割合が9.6ポイント高く、男性は女性よりも「ない」の割合が9.0ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「ない」の割合が85%を超え高くなっています。

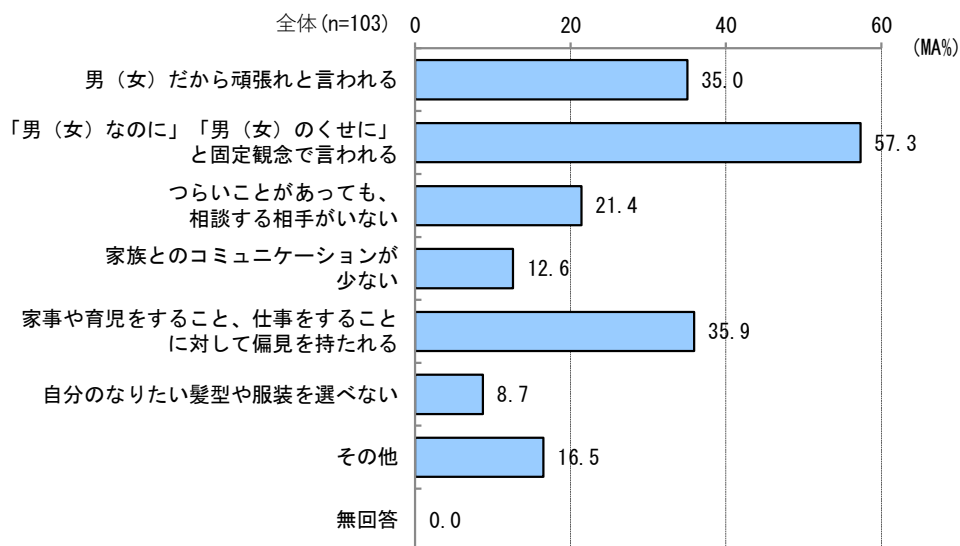


問22-1 性別によってつらいと感じた経験の内容

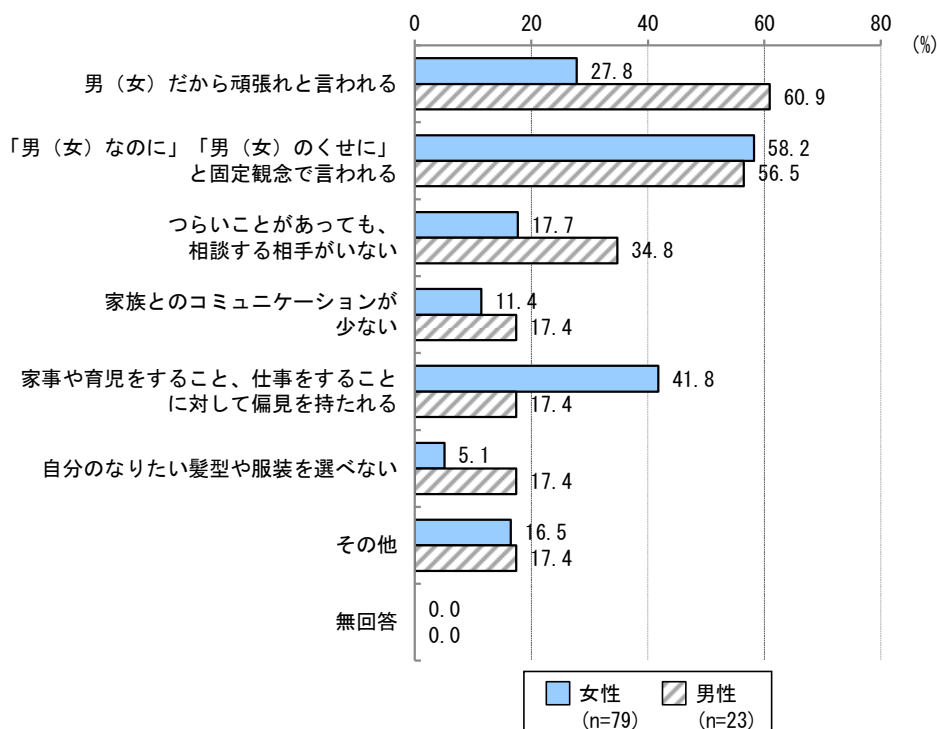
問22で「1.ある」と答えられた方におたずねします。

問22-1 それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

・性別によってつらいと感じた経験の内容については、「男(女)なのに」「男(女)のくせに」と固定観念で言われる」が57.3%と最も高く、次いで「家事や育児をすること、仕事をするに対して偏見を持たれる」が35.9%、「男(女)だから頑張れと言われる」が35.0%となっています。



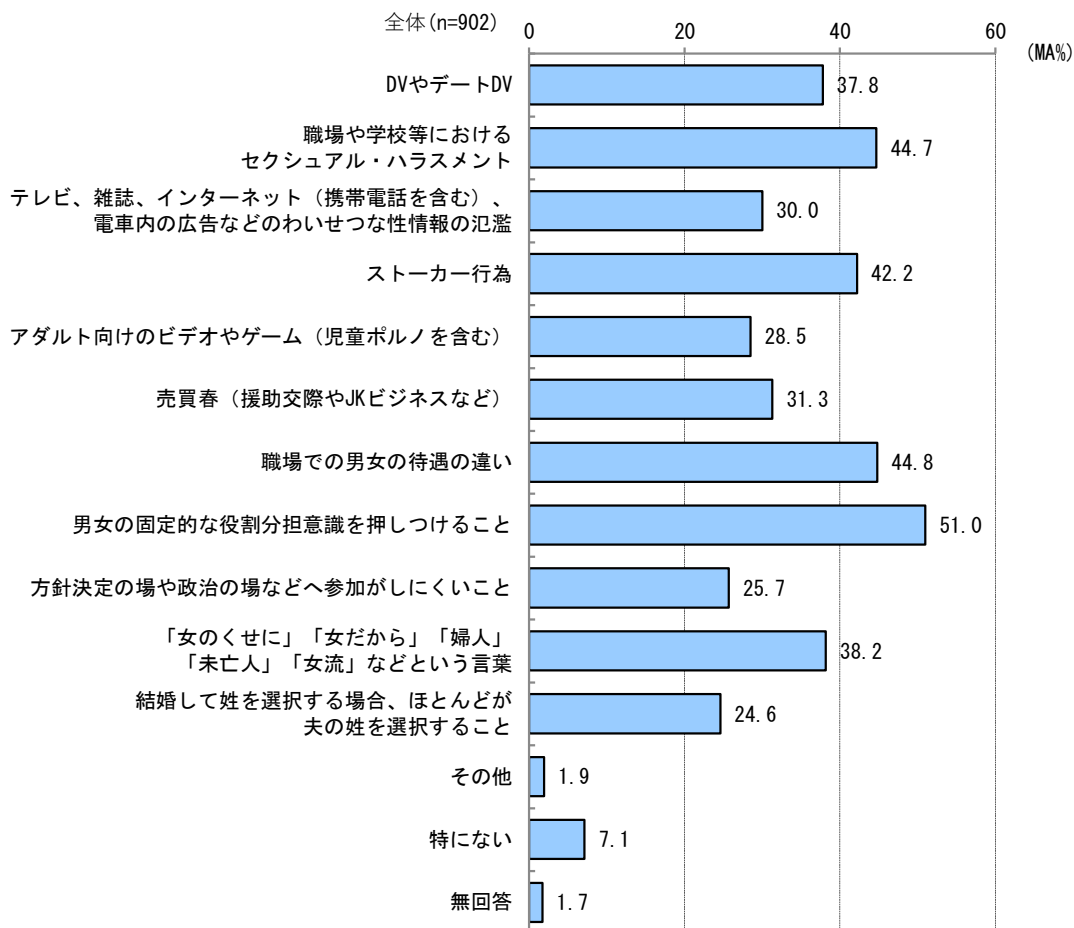
・性別にみると、女性は男性よりも「家事や育児をすること、仕事をするに対して偏見を持たれる」の割合が24.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「男(女)だから頑張れと言われる」の割合が33.1ポイント高くなっています。



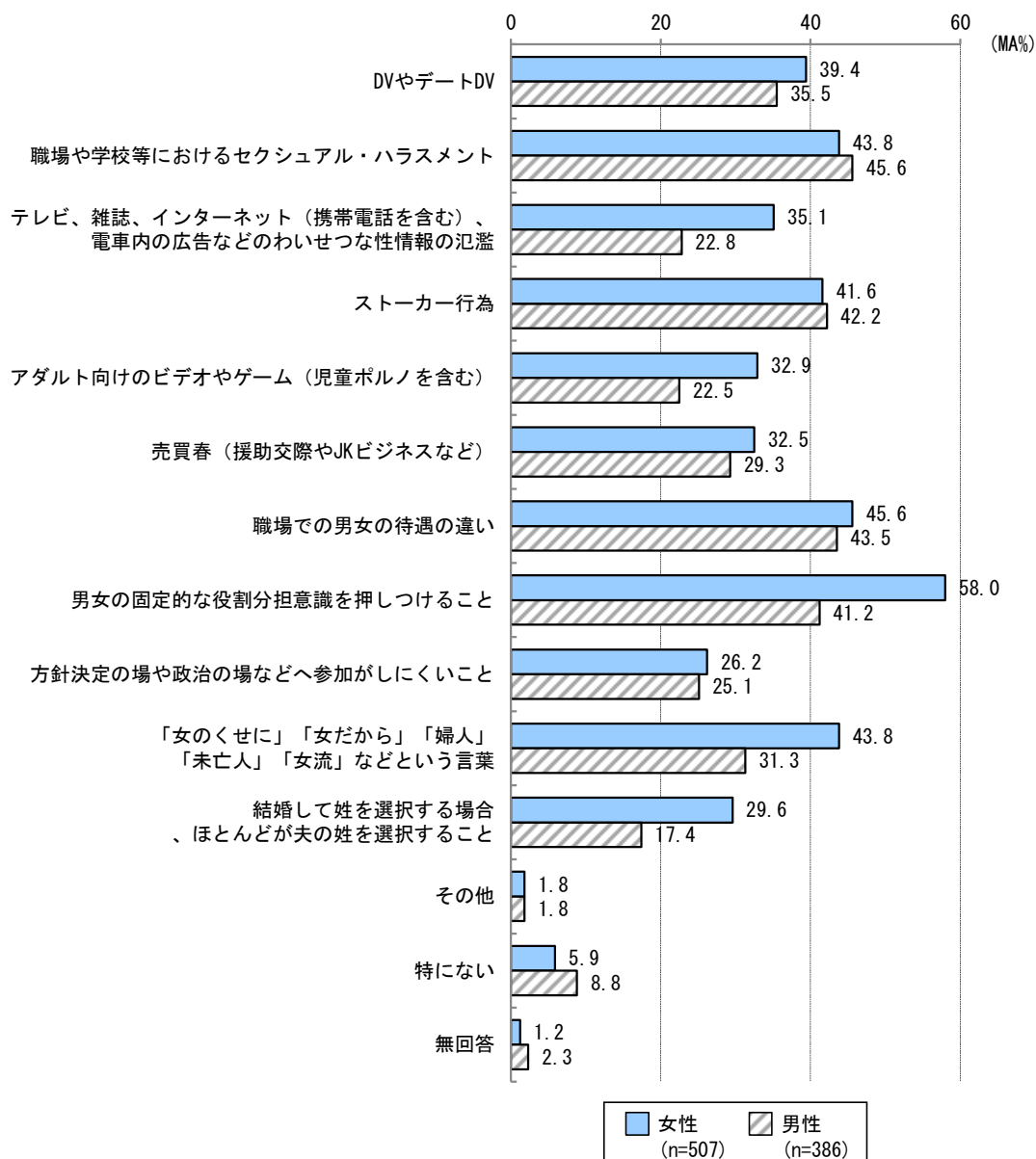
問23 女性の人権が守られていないと思うこと

問23 あなたが、女性の人権が守られていないと思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

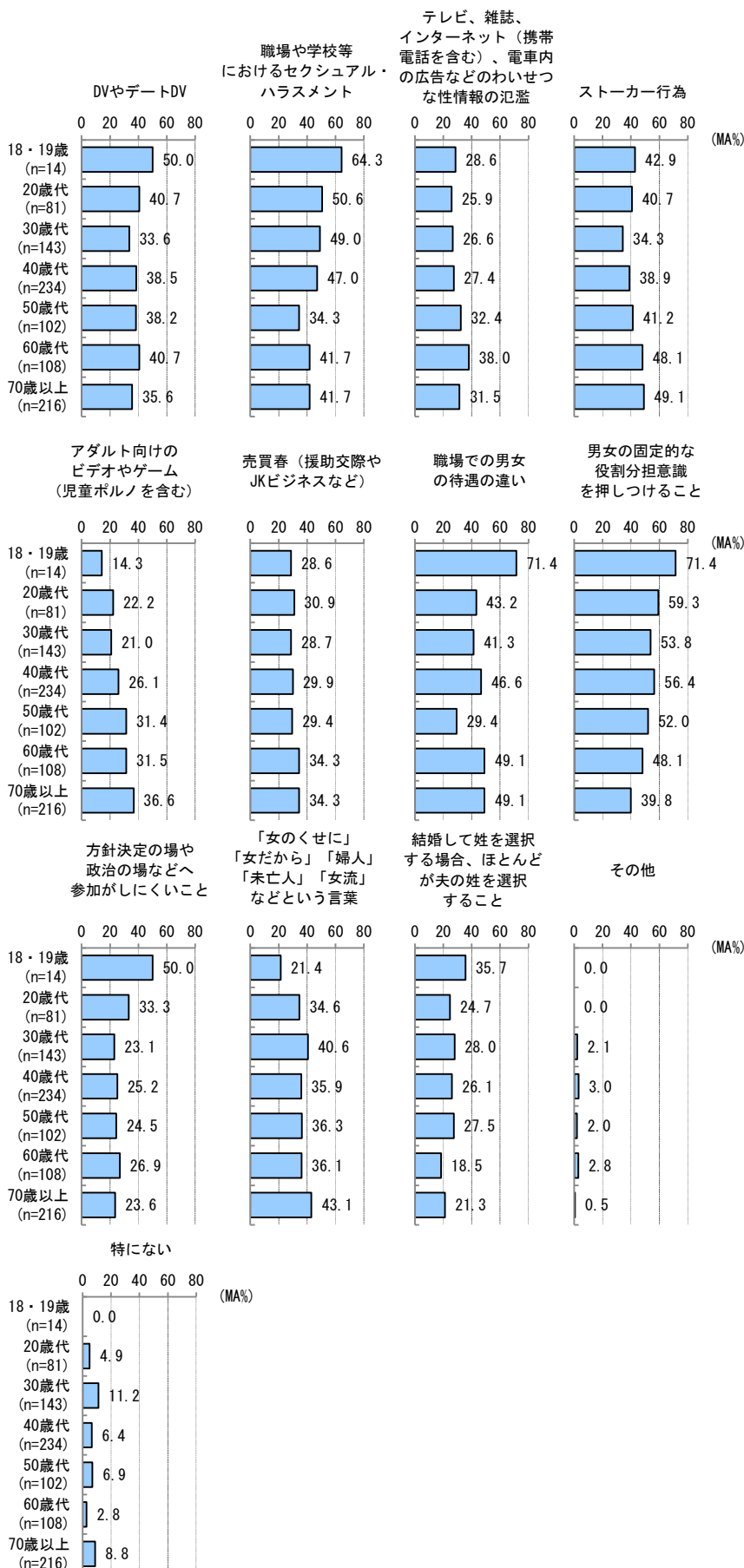
・女性の人権が守られていないと思うことについては、「男女の固定的な役割分担意識を押しつけること」が51.0%と最も高く、次いで「職場での男女の待遇の違い」が44.8%、「職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント」が44.7%となっています。



・性別にみると、ほとんどの項目で女性は男性よりも割合が高い傾向にあり、「男女の固定的な役割分担意識を押しつけること」の割合が16.8ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね年代が上がるほど「アダルト向けのビデオやゲーム(児童ポルノを含む)」の割合が高い傾向にあり、概ね若い年代ほど「男女の固定的な役割分担意識を押しつけること」の割合が高い傾向にあります。

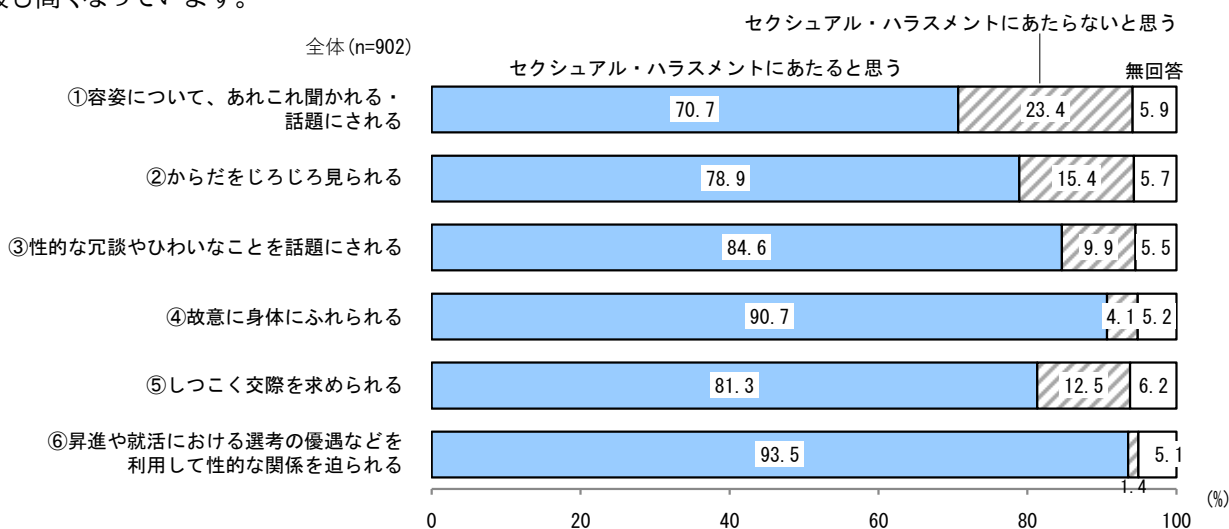


問24 セクシュアル・ハラスメントについて

問24 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)にあたると思いますか。また、あなたは、自分の意志に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。(①～⑥の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

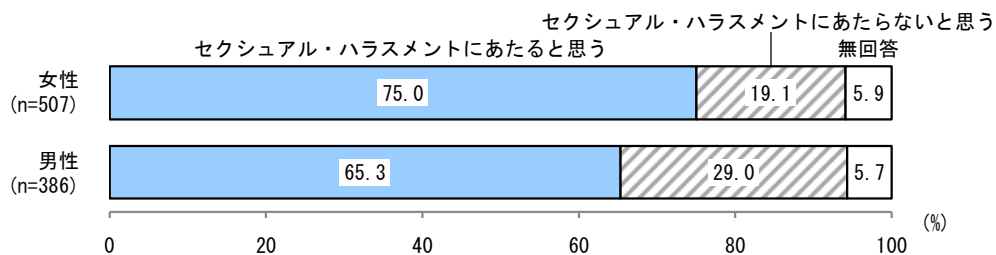
【①意識について】

・セクシュアル・ハラスメントに対する意識については、全ての項目で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」が70%を超えており、「⑥昇進や就活における選考の優遇などを利用して性的な関係を迫られる」で93.5%と最も高くなっています。

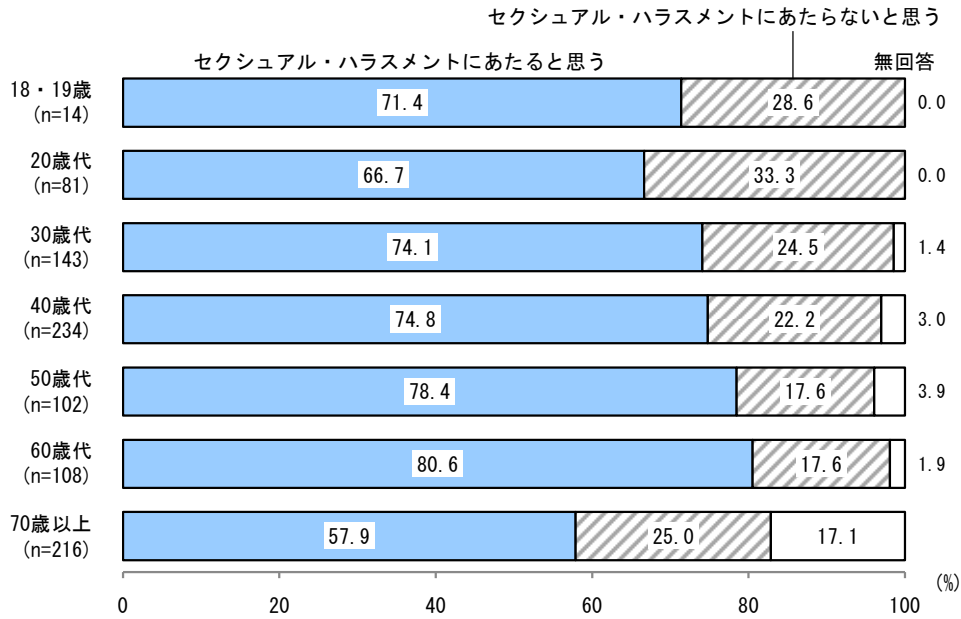


<①容姿についてあれこれ聞かれる>

・性別にみると、女性は男性よりも「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が9.7ポイント高い一方で、男性は女性よりも「セクシュアル・ハラスメントにあたらぬと思う」の割合が9.9ポイント高くなっています

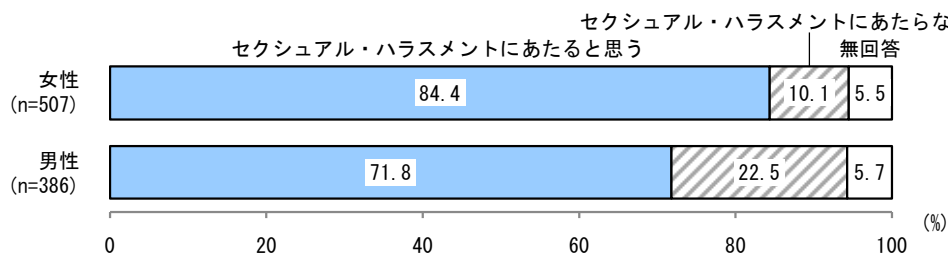


・年代別にみると、18～60歳代で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が65%を超えている一方で、70歳以上では57.9%と他の年代より低くなっています。

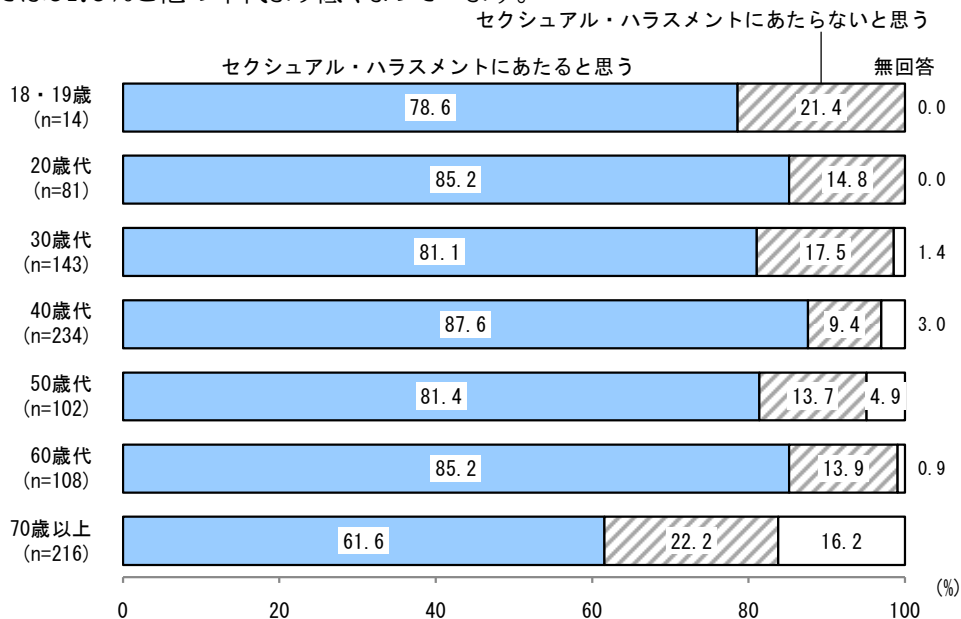


<②からだをじろじろ見られる>

・性別にみると、女性は男性よりも「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が12.6ポイント高い一方で、男性は女性よりも「セクシュアル・ハラスメントにあたらぬと思う」の割合が12.4ポイント高くなっています。

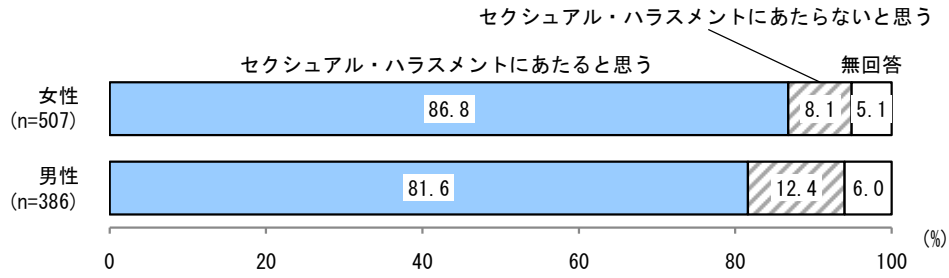


・年代別にみると、18～60歳代で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が75%を超えている一方で、70歳以上では61.6%と他の年代より低くなっています。

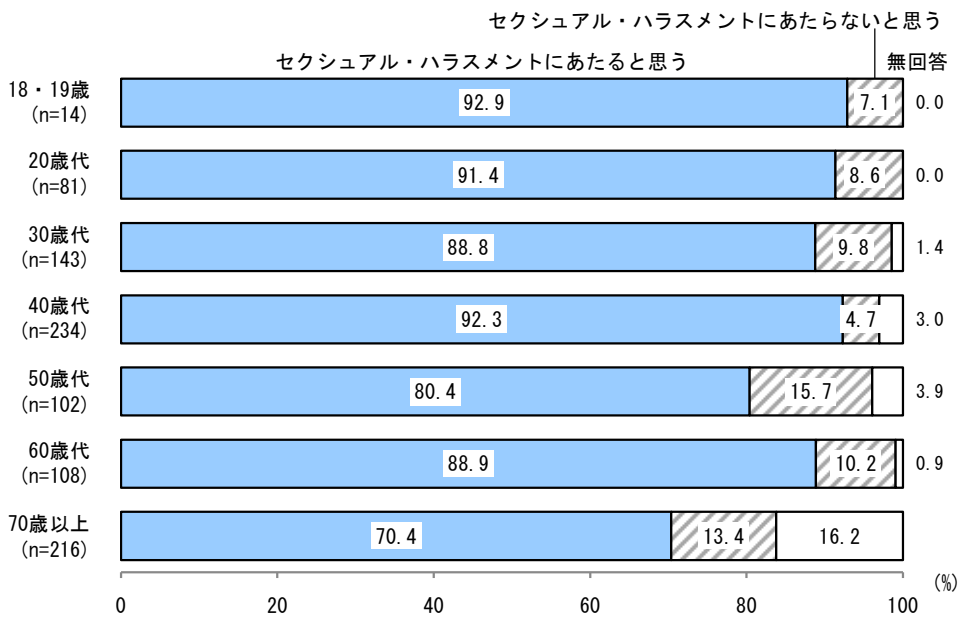


<③性的な冗談やひわいなことを話題にされる>

・性別にみると、女性は男性よりも「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が5.2ポイント高くなっています。

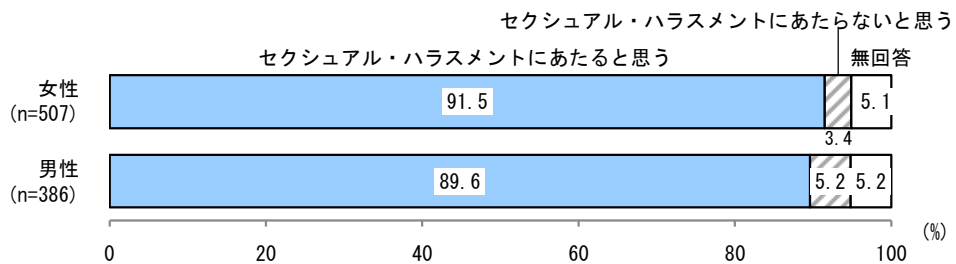


・年代別にみると、18～60歳代で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が80%を超えている一方で、70歳以上では70.4%と他の年代より低くなっています。

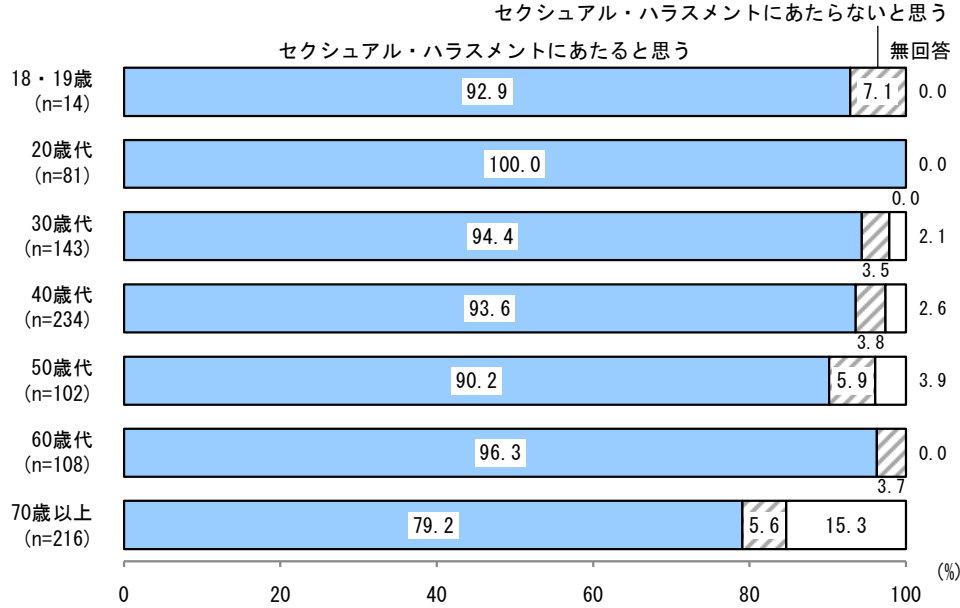


<④故意に身体にふれられる>

・性別による大きな差はありません。

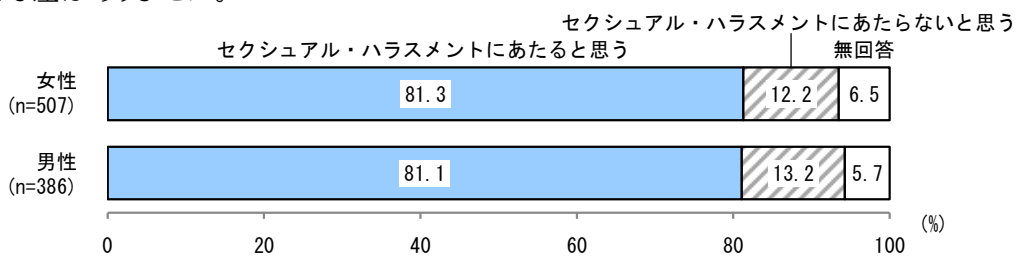


・年代別にみると、18～60歳代で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が90%を超えている一方で、70歳以上では79.2%と他の年代より低くなっています。

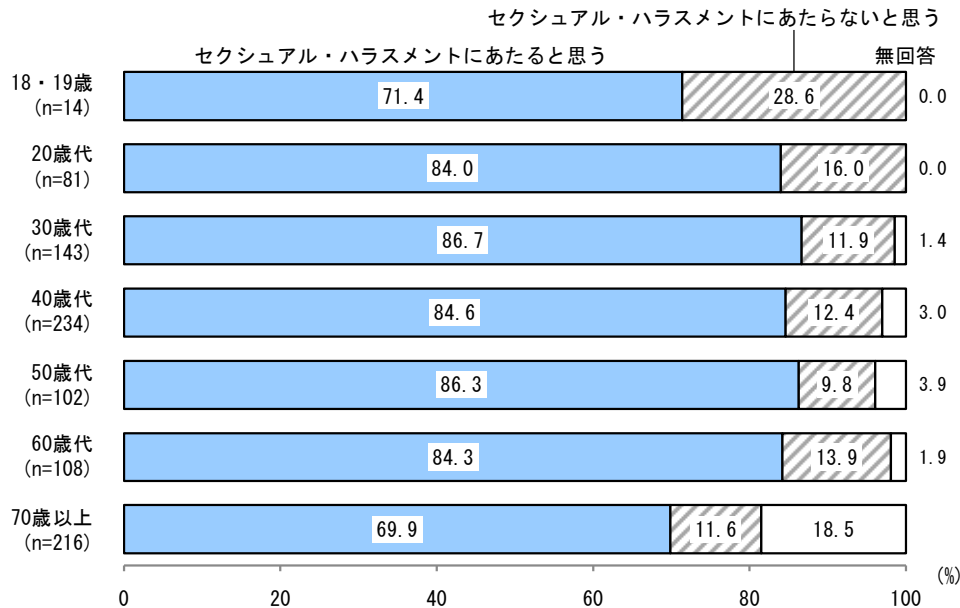


<⑤しつこく交際をもとめられる>

・性別による大きな差はありません。

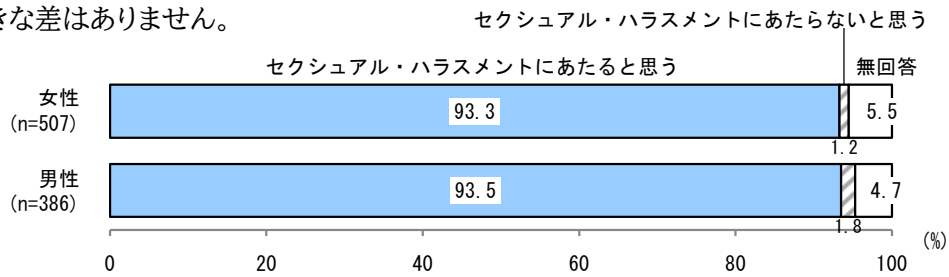


・年代別にみると、20～60歳代で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が80%を超えている一方で、18・19歳、70歳以上では約70%と他の年代より低くなっています。

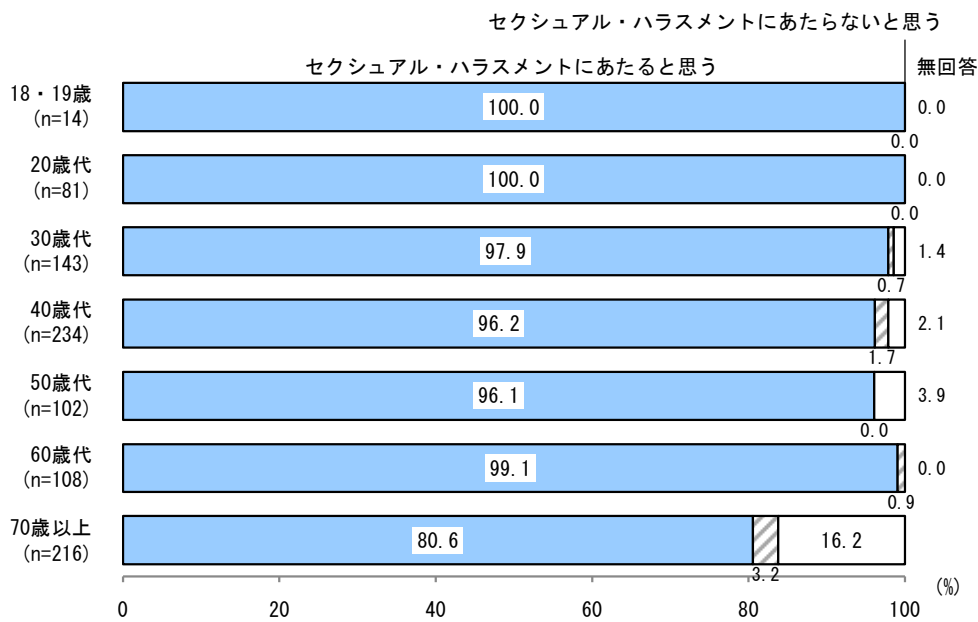


<⑥昇進や就活における選考の優遇などを利用して性的な関係を迫られる>

・性別による大きな差はありません。

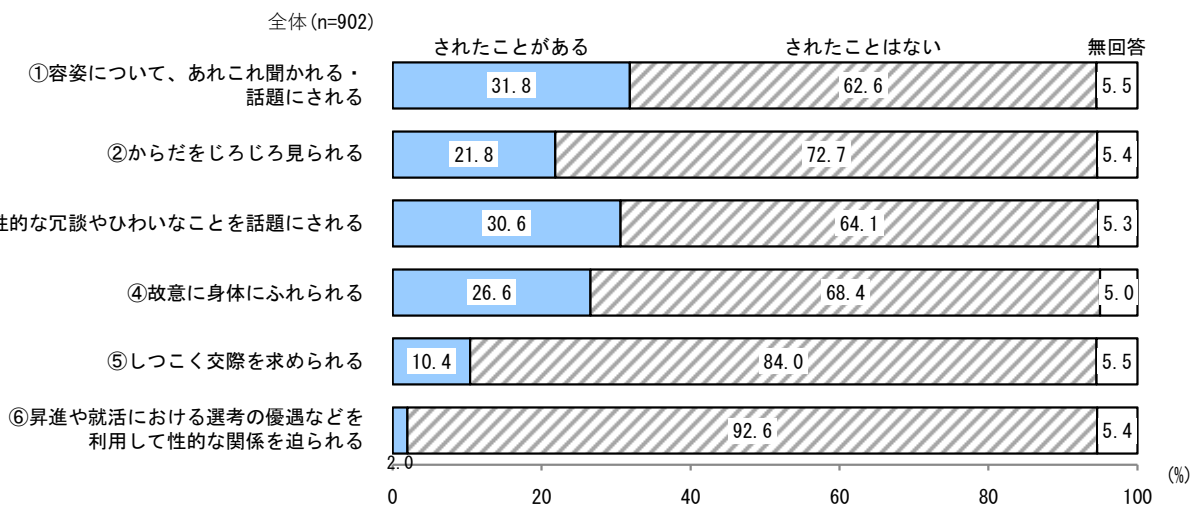


・年代別にみると、18～60歳で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が95%を超えている一方で、70歳以上では80.6%と他の年代より低くなっています。



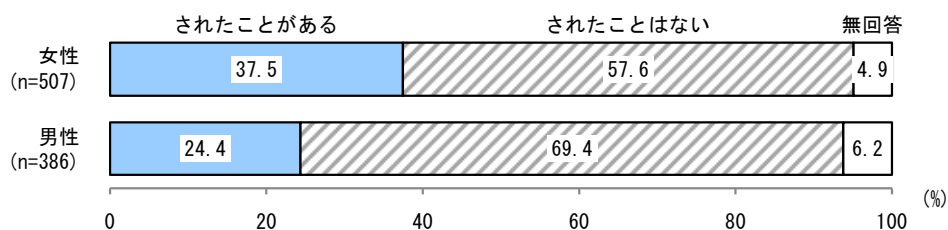
【②経験について】

・セクシュアル・ハラスメントをされた経験については、全ての項目で「されたことはない」が60%を超えているものの、「①容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる」と「③性的な冗談やひわいなことを話題にされる」で「されたことがある」が30%を超えています。

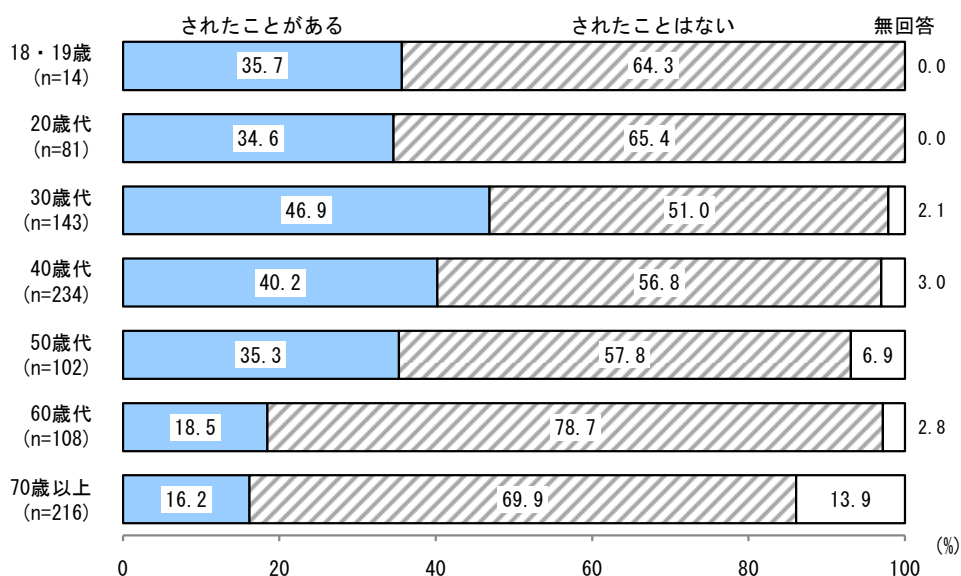


<①容姿についてあれこれ聞かれる>

・性別にみると、女性は男性よりも「されたことがある」の割合が13.1ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「されたことはない」の割合が11.8ポイント高くなっています。

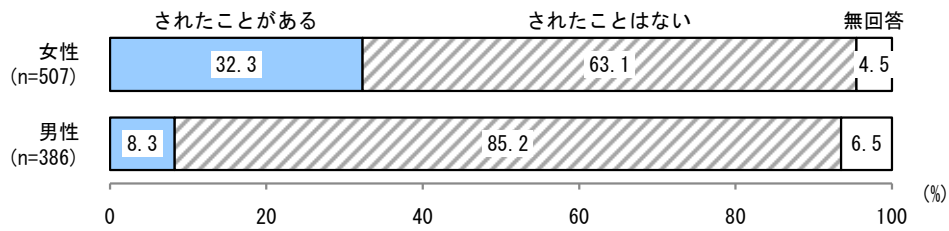


・年代別にみると、18～50歳代で「されたことがある」の割合が約35%を超えている一方で、60～70歳以上では20%未満と他の年代より低くなっています。

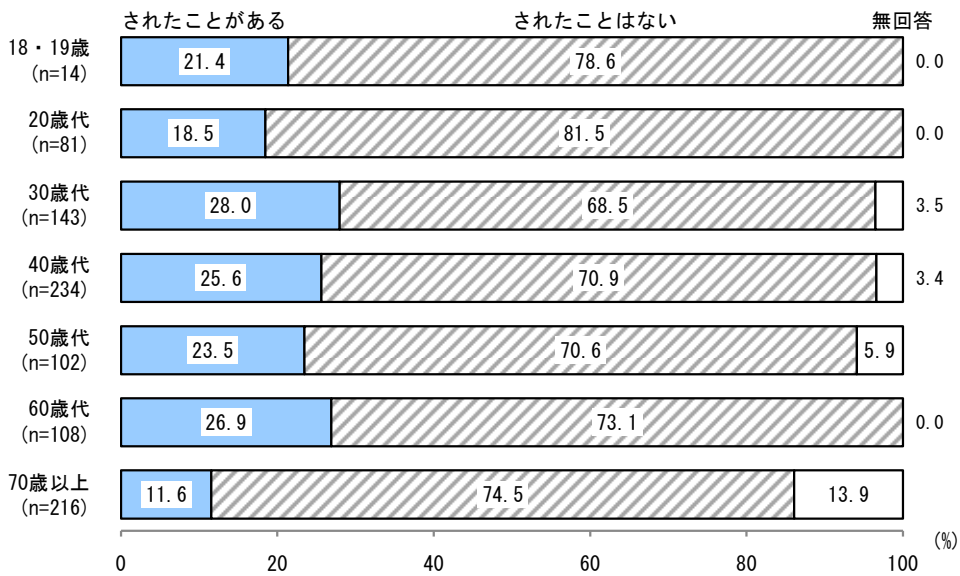


<②からだじろじろ見られる>

・性別にみると、女性は男性よりも「されたことがある」の割合が24.0ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「されたことはない」の割合が22.1ポイント高くなっています。

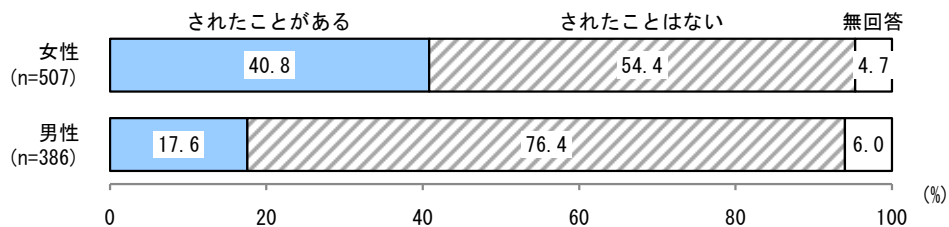


・年代別にみると、18～60歳代で「されたことがある」の割合が15%を超えている一方で、70歳以上では11.6%と他の年代より低くなっています。

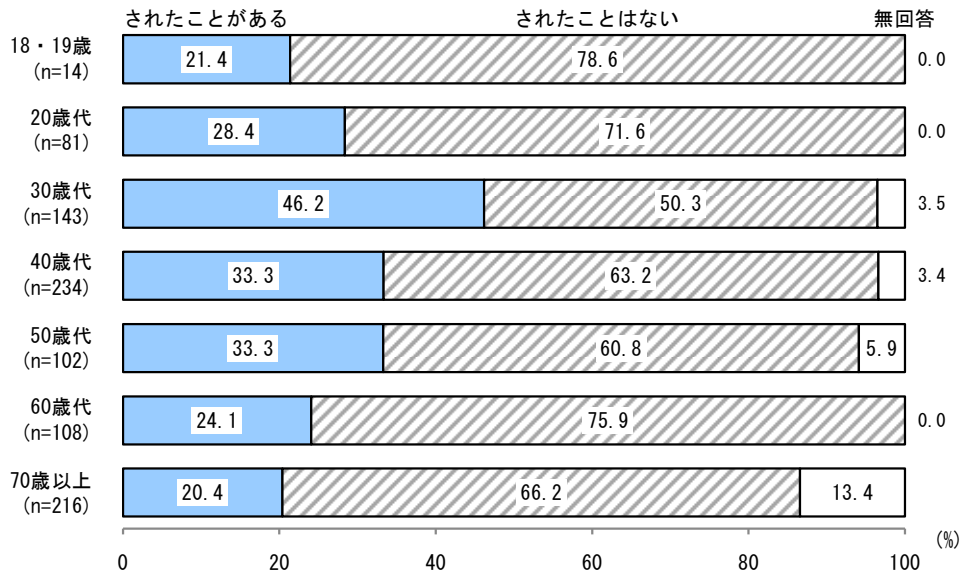


<③性的な冗談やひわいなことを話題にされる>

・性別にみると、女性は男性よりも「されたことがある」の割合が23.2ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「されたことはない」の割合が22.0ポイント高くなっています。

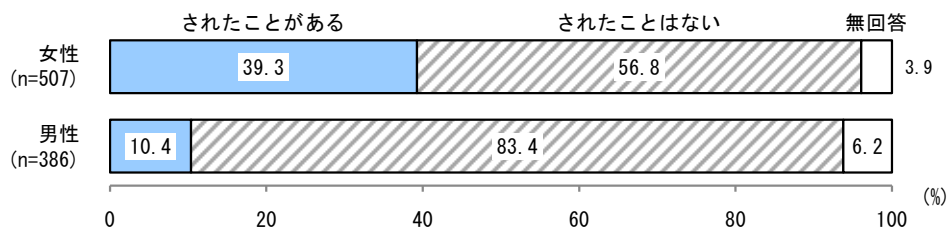


・年代別にみると、全ての年代で「されたことがある」の割合が20%を超えており、30歳代では46.2%と高くなっています。

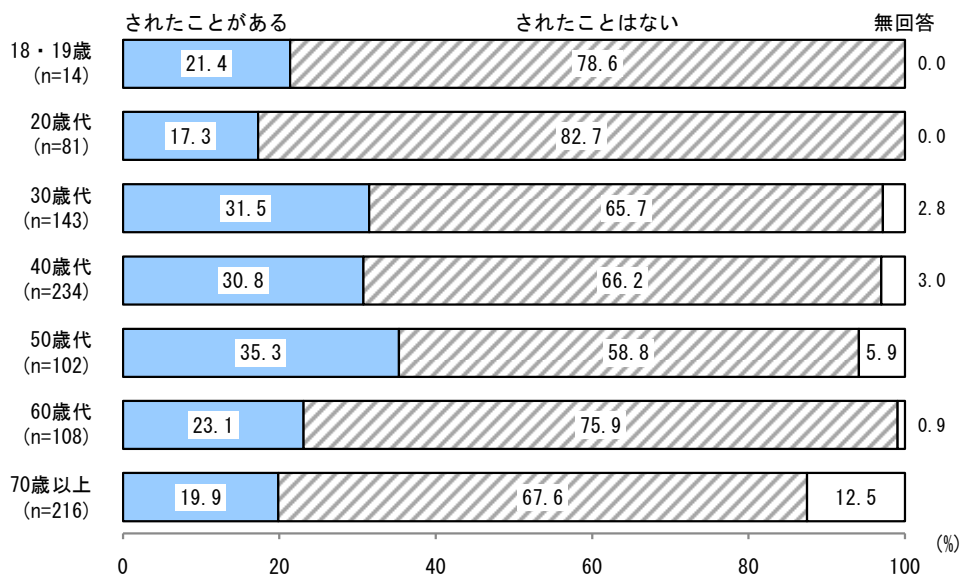


<④故意に身体にふれられる>

・性別にみると、女性は男性よりも「されたことがある」の割合が28.9ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「されたことはない」の割合が26.6ポイント高くなっています。

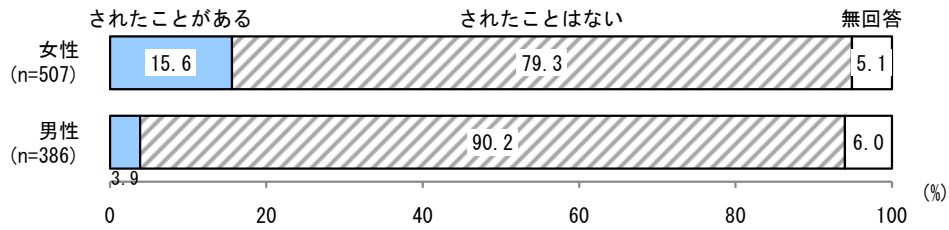


・年代別にみると、20歳代、70歳以上で「されたことがある」の割合が20%を下回っている一方で、その他の年代では20%を超えており、50歳代では35.3%となっています。

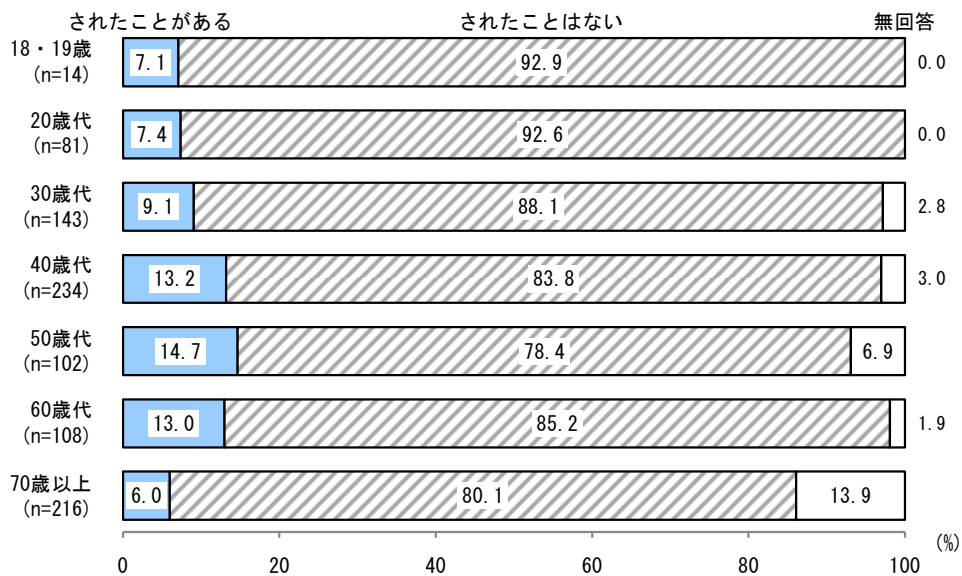


<⑤しつこく交際をもとめられる>

・性別にみると、女性は男性よりも「されたことがある」の割合が11.7ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「されたことはない」の割合が10.9ポイント高くなっています。

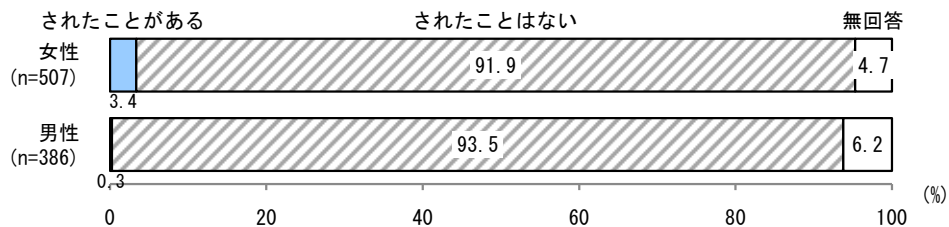


・年代別にみると、50歳代を除く全ての年代で「されたことはない」の割合が80%を超えています。



<⑥昇進や就活における選考の優遇などを利用して性的な関係を迫られる>

・性別による大きな差はありません。



・年代別に見ても大きな差はありません。

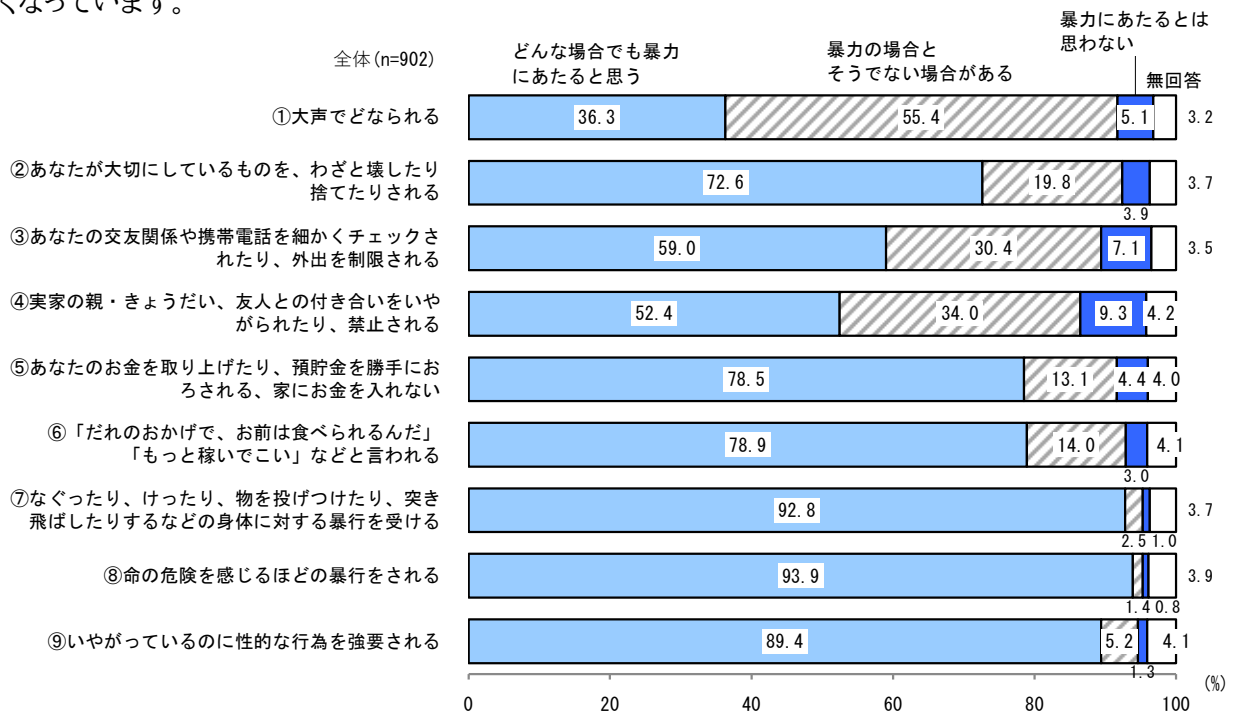


問25 配偶者や交際相手からの暴力について

問25 あなたは、配偶者※(事実婚・別居中を含む)・パートナーや交際相手から次の行為をされることは、「暴力」に当たると思いませんか。また、配偶者や交際相手がいる(いた)方は、実際に相手からされた(る)ことがありますか。(①～⑨の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

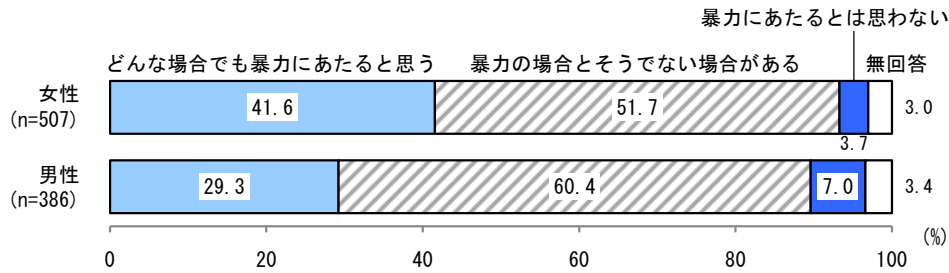
【①暴力にあたると思うか】

・配偶者や交際相手からの暴力については、ほとんどの項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が50%を超えている一方で、「①大声でどなられる」では「暴力の場合とそうでない場合がある」が55.4%を占め、最も高くなっています。

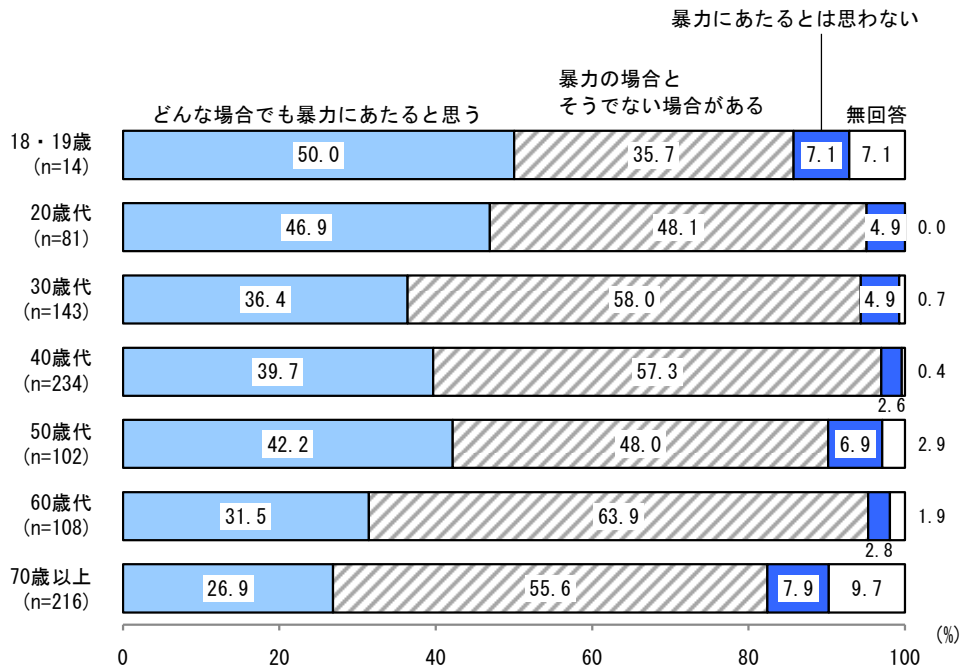


<①大声でどなられる>

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が12.3ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が8.7ポイント高くなっています。

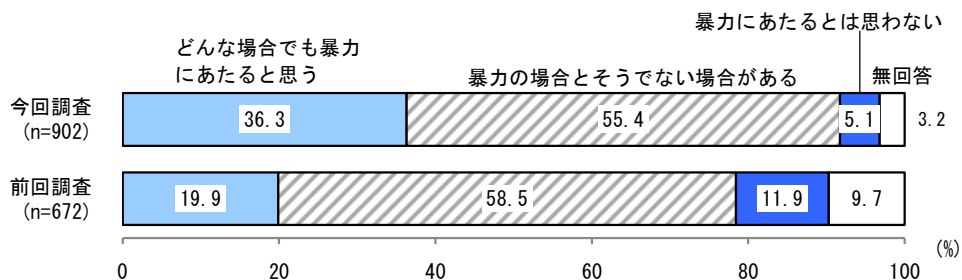


・年代別にみると、概ね若い年代ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあり18・19歳で50.0%となっています。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合は概ね年代が上がるほど高い傾向にあり、60歳代で63.9%となっています。



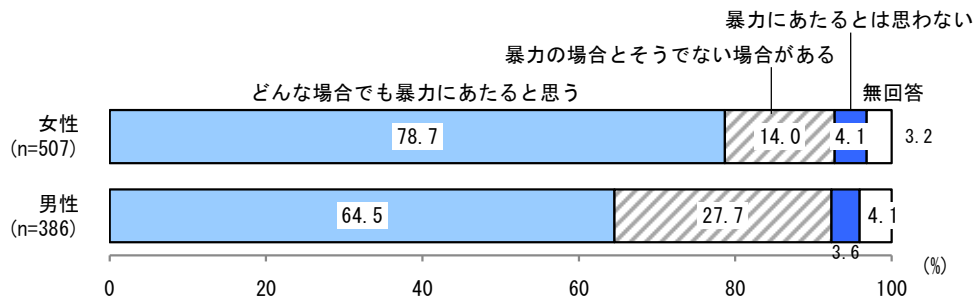
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が16.4ポイント高く、「暴力にあたると思わない」の割合が6.8ポイント低くなっています。

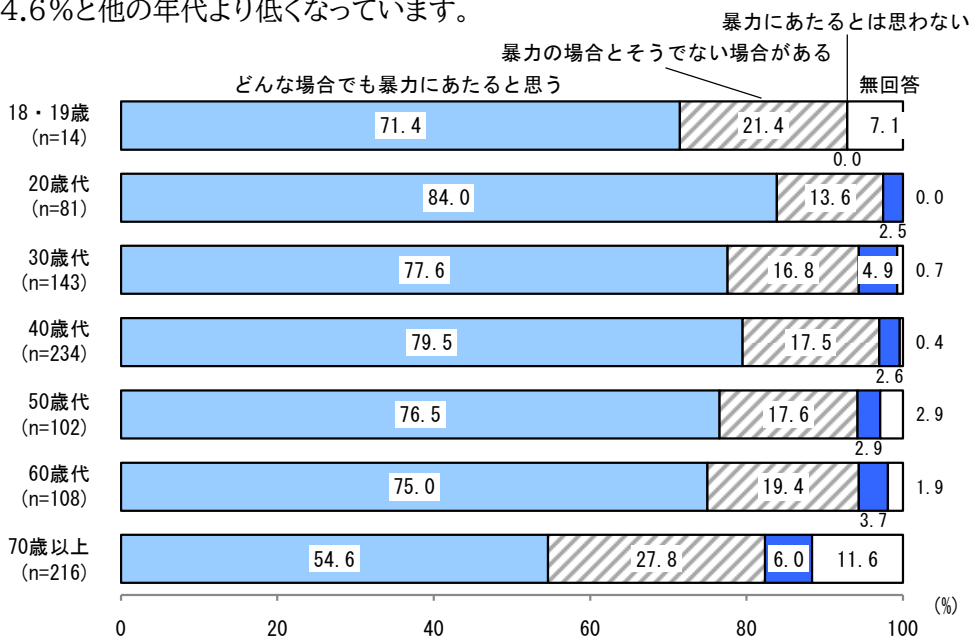


<②あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる>

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が14.2ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が13.7ポイント高くなっています。

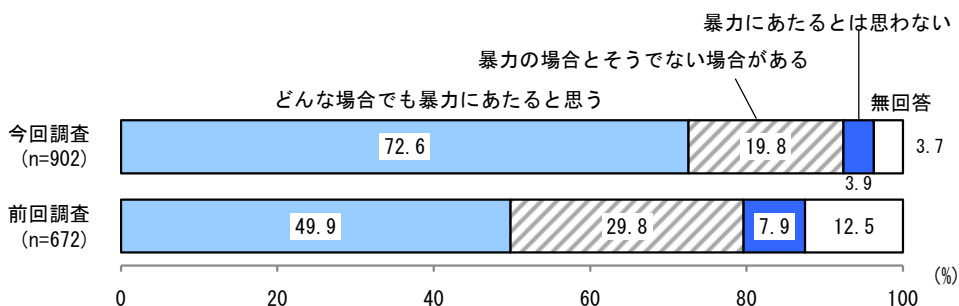


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70%を超えている一方で、70歳以上では54.6%と他の年代より低くなっています。



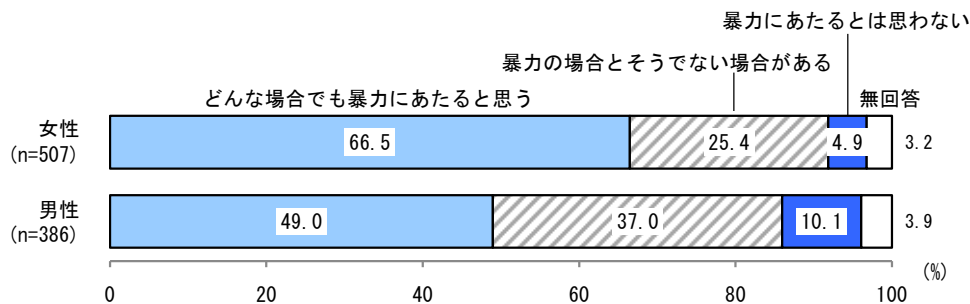
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が22.7ポイント高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が10.0ポイント低くなっています。

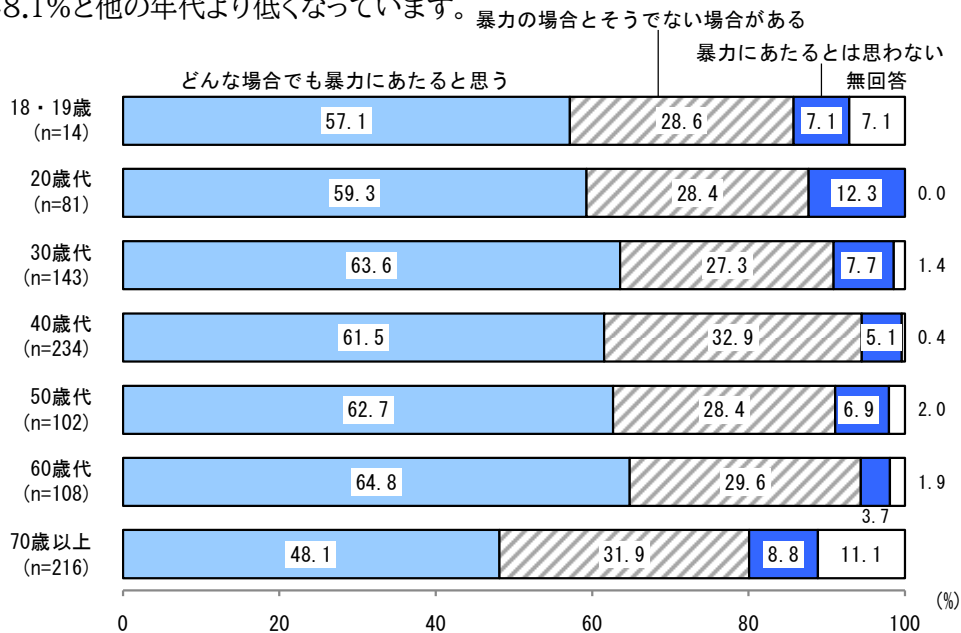


<③あなたの交友関係や携帯電話を細かくチェックされたり、外出を制限される>

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が17.5ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が11.6ポイント高くなっています。

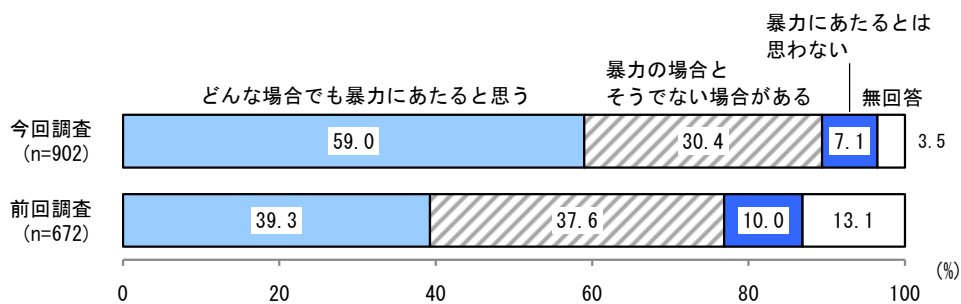


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が55%を超えている一方で、70歳以上では48.1%と他の年代より低くなっています。



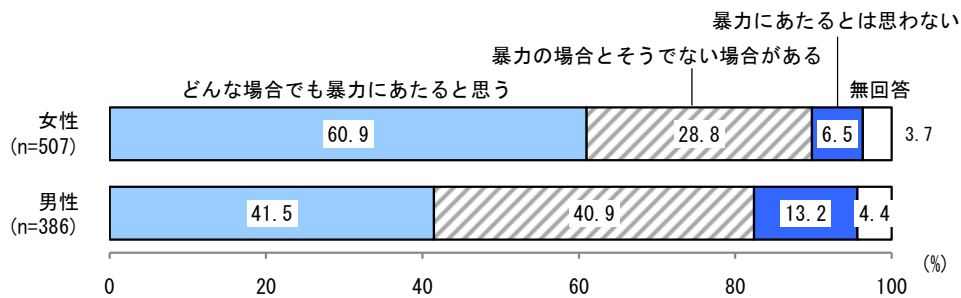
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が19.7ポイント高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が7.2ポイント低くなっています。

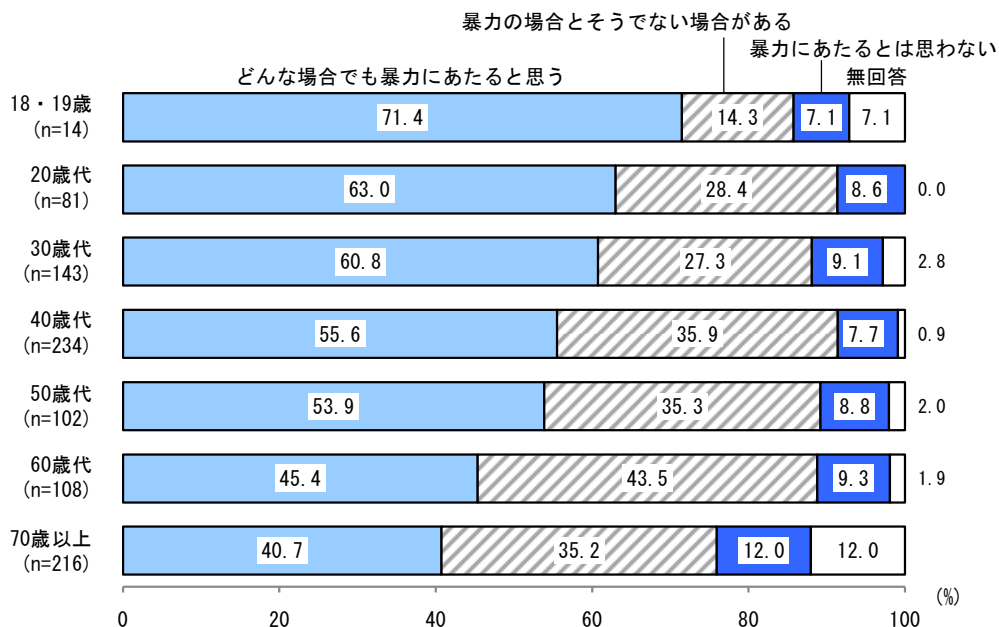


<④実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される>

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が19.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が12.1ポイント高くなっています。

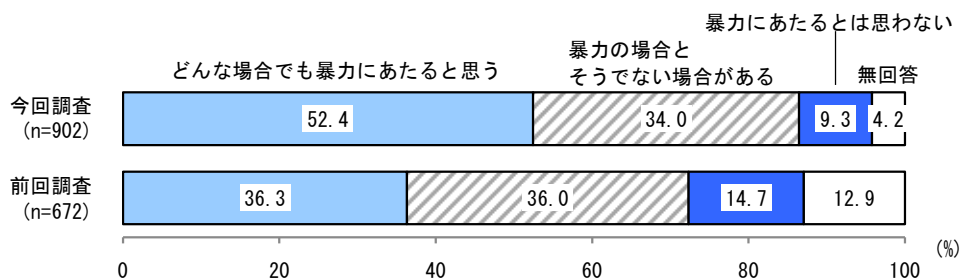


・年代別にみると、若い年代ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高い傾向にあり、18・19歳で71.4%と高くなっています。一方で、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合は概ね年代が上がるほど高い傾向にあり、60歳代で43.5%と高くなっています。



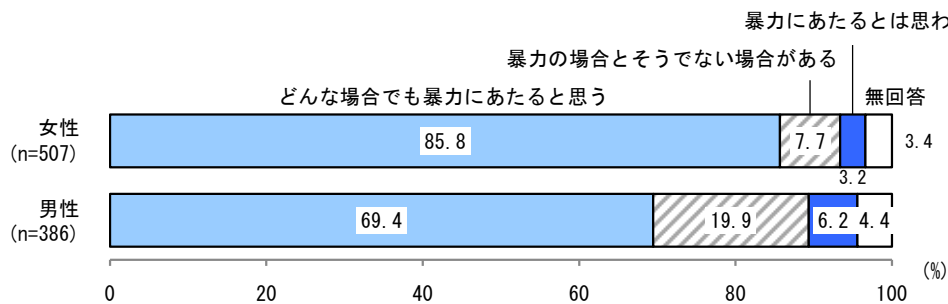
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が16.1ポイント高く、「暴力にあたるとは思わない」の割合が5.4ポイント低くなっています。

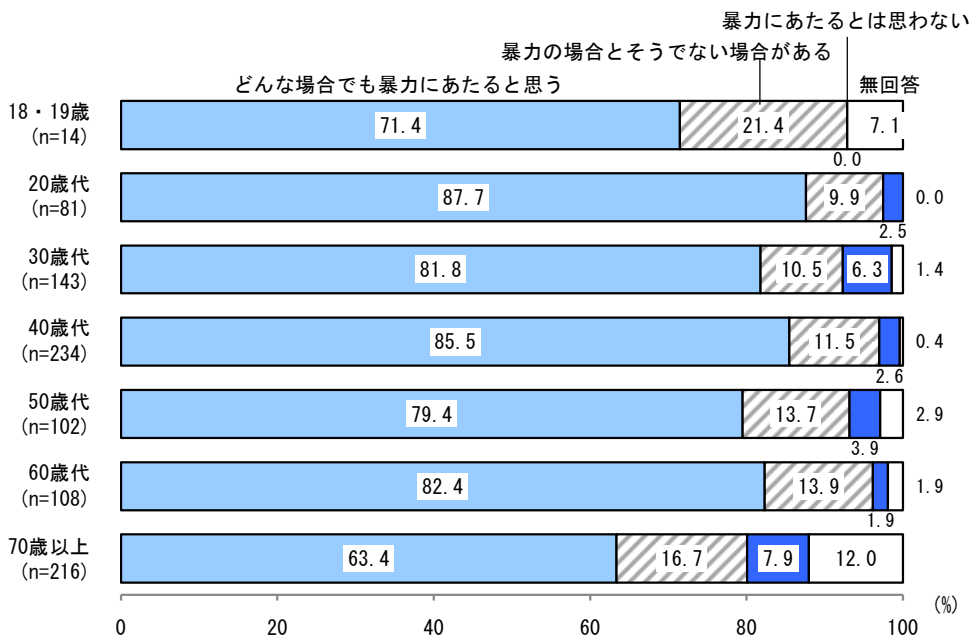


<⑤あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない>

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が16.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が12.2ポイント高くなっています。

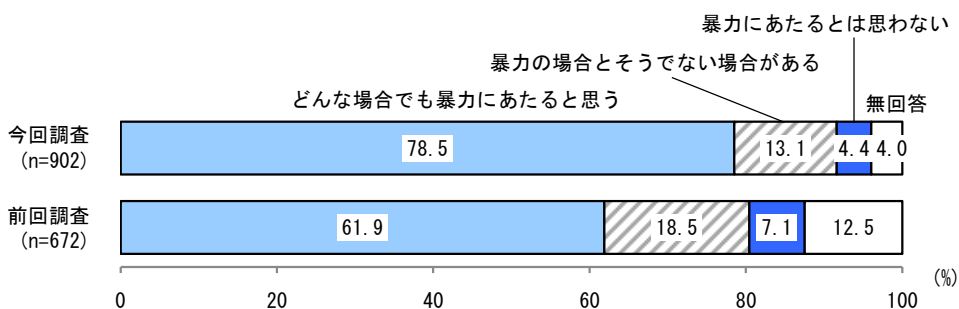


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が70%を超えている一方で、70歳以上では63.4%と他の年代より低くなっています。



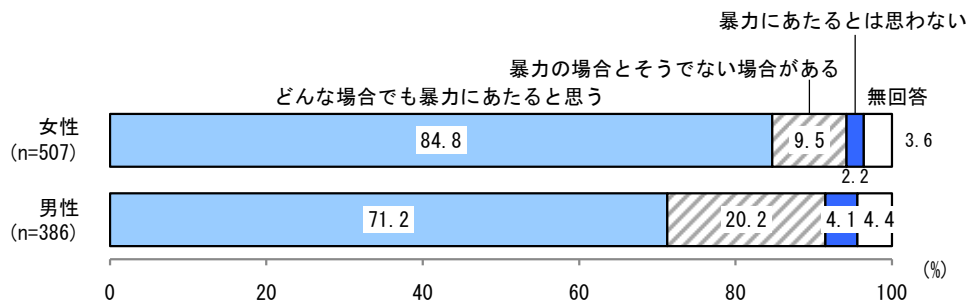
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が16.6ポイント高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が5.4ポイント低くなっています。

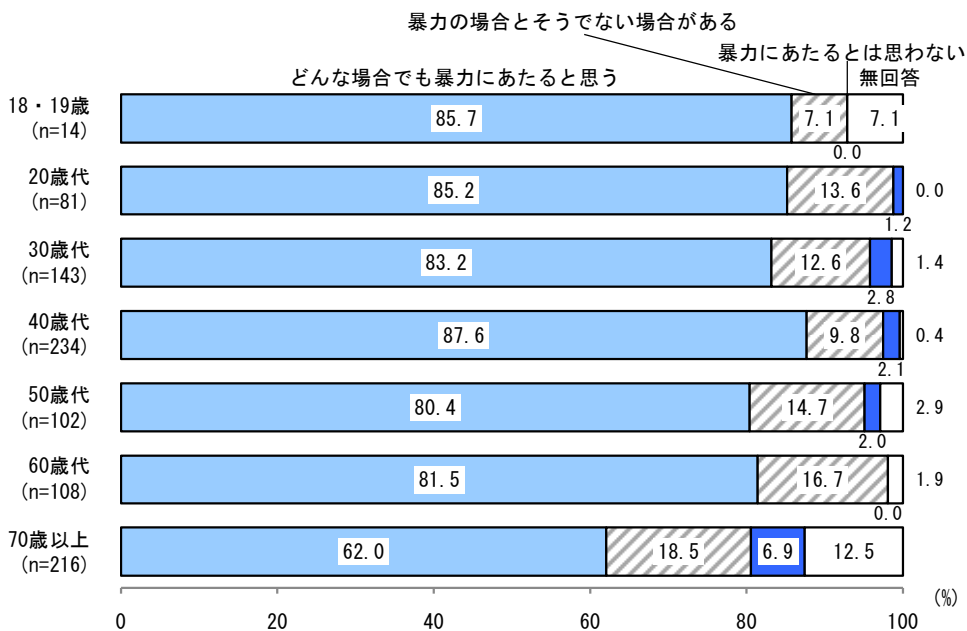


⑥「誰のおかげで、お前は食べられているんだ」「もっと稼いでこい」などと言われる

・性別にみると、女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が13.6ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が10.7ポイント高くなっています。

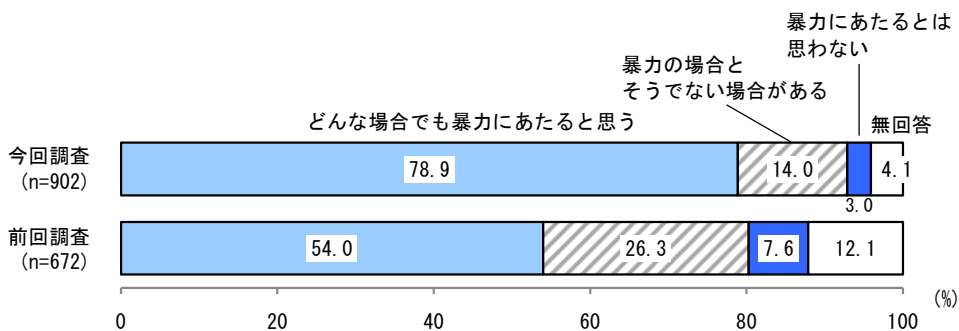


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が80%を超えている一方で、70歳以上では62.0%と他の年代より低くなっています。



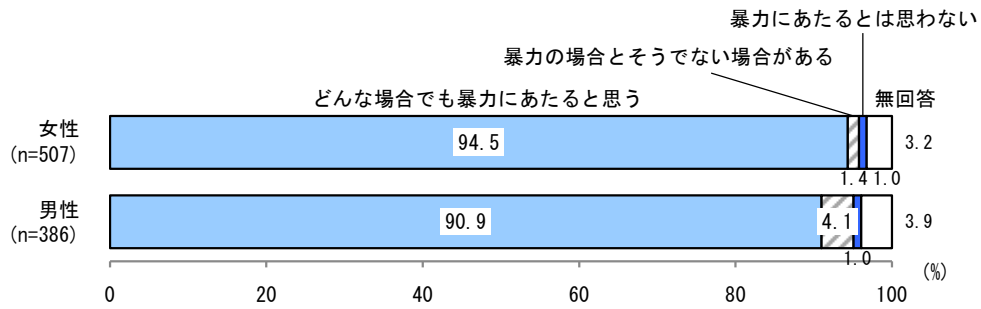
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が24.9ポイント高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が12.3ポイント低くなっています。

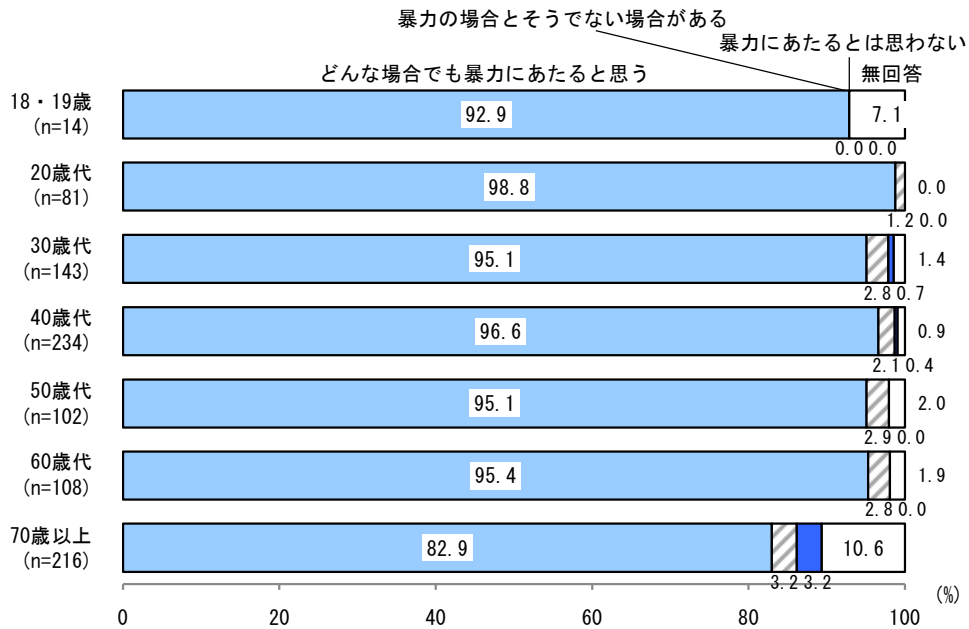


<⑦なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受ける>

・性別による大きな差はありません。

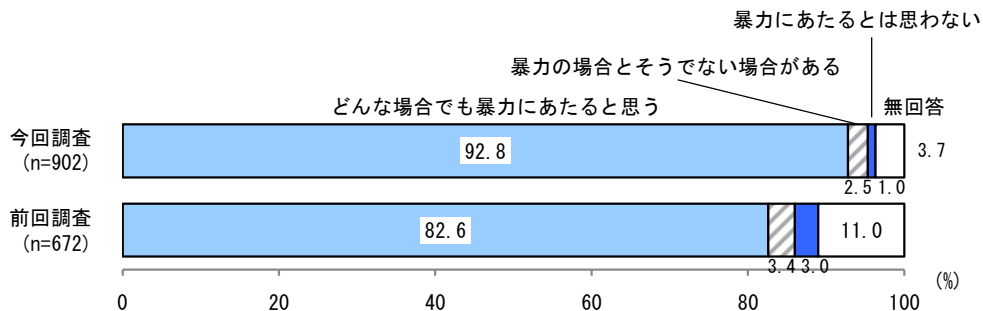


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が90%を超えている一方で、70歳以上では82.9%と他の年代より低くなっています。



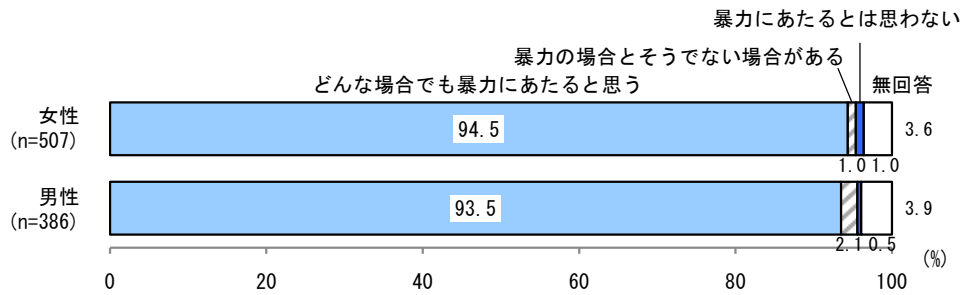
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が10.2ポイント高くなっています。

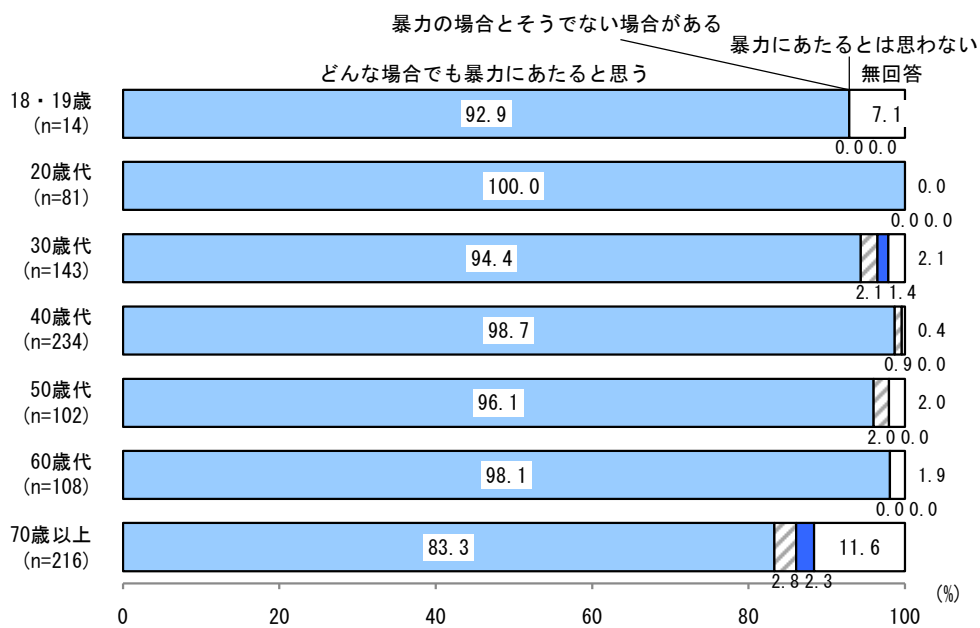


<⑧命の危険を感じるほどの暴行をされる>

・性別による大きな差はありません。

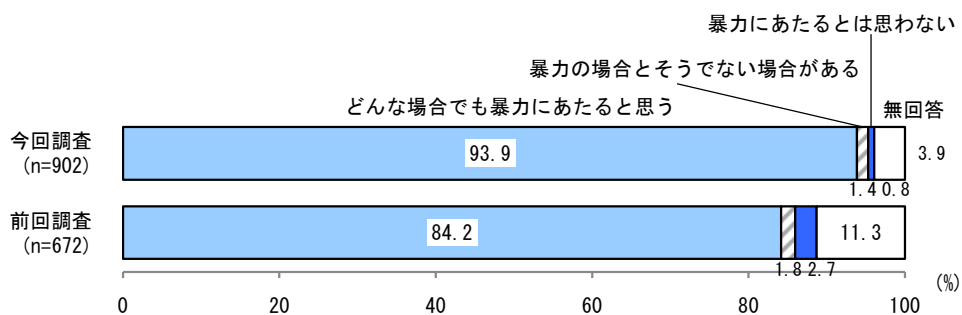


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が90%を超えている一方で、70歳以上では83.3%と他の年代より低くなっています。



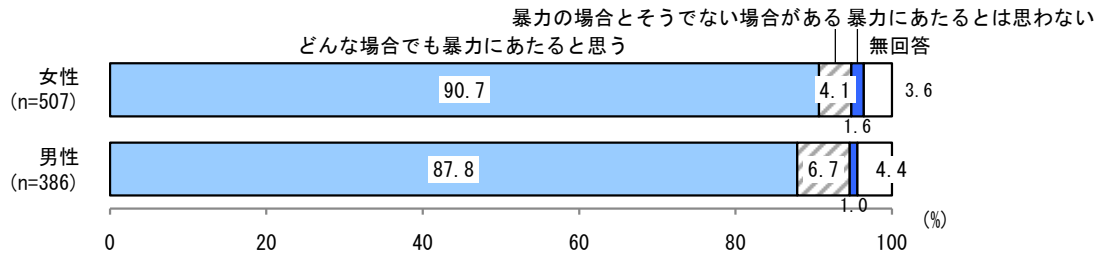
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が9.7ポイント高くなっています。

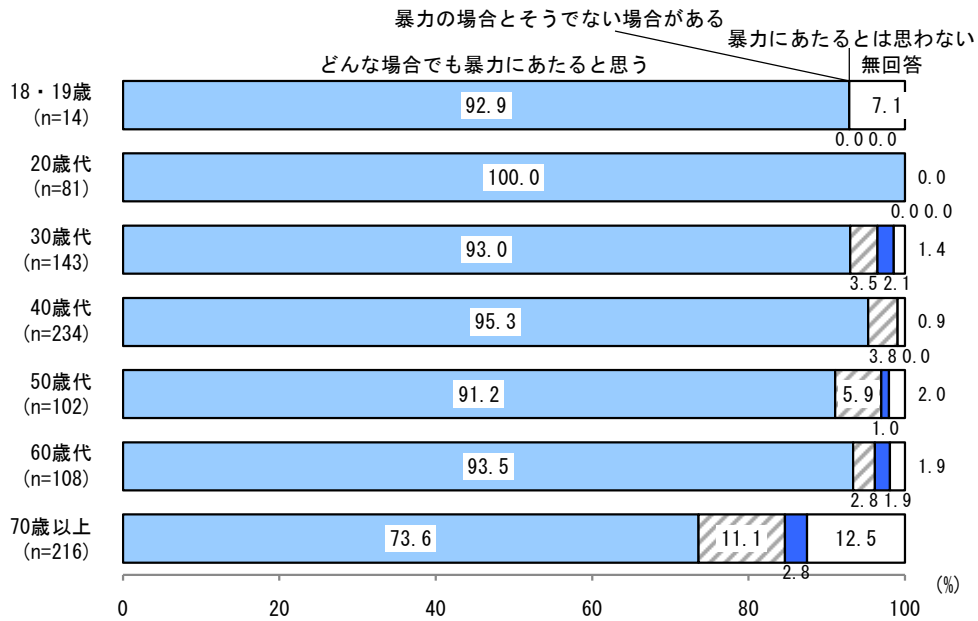


<⑨いやがっているのに性的な行為を強要される>

・性別による大きな差はありません。

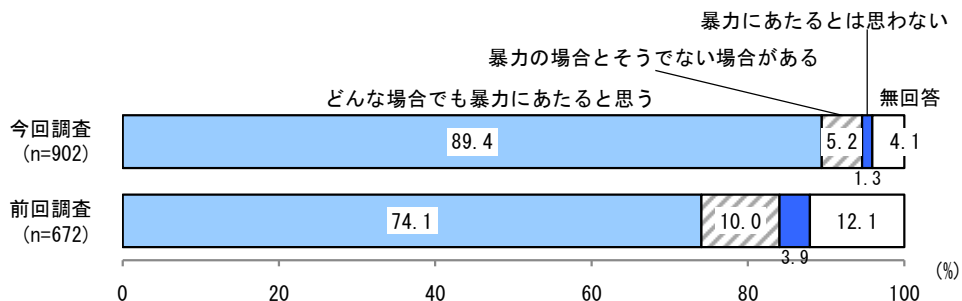


・年代別にみると、18～60歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が90%を超えている一方で、70歳以上では73.6%と他の年代より低くなっています。



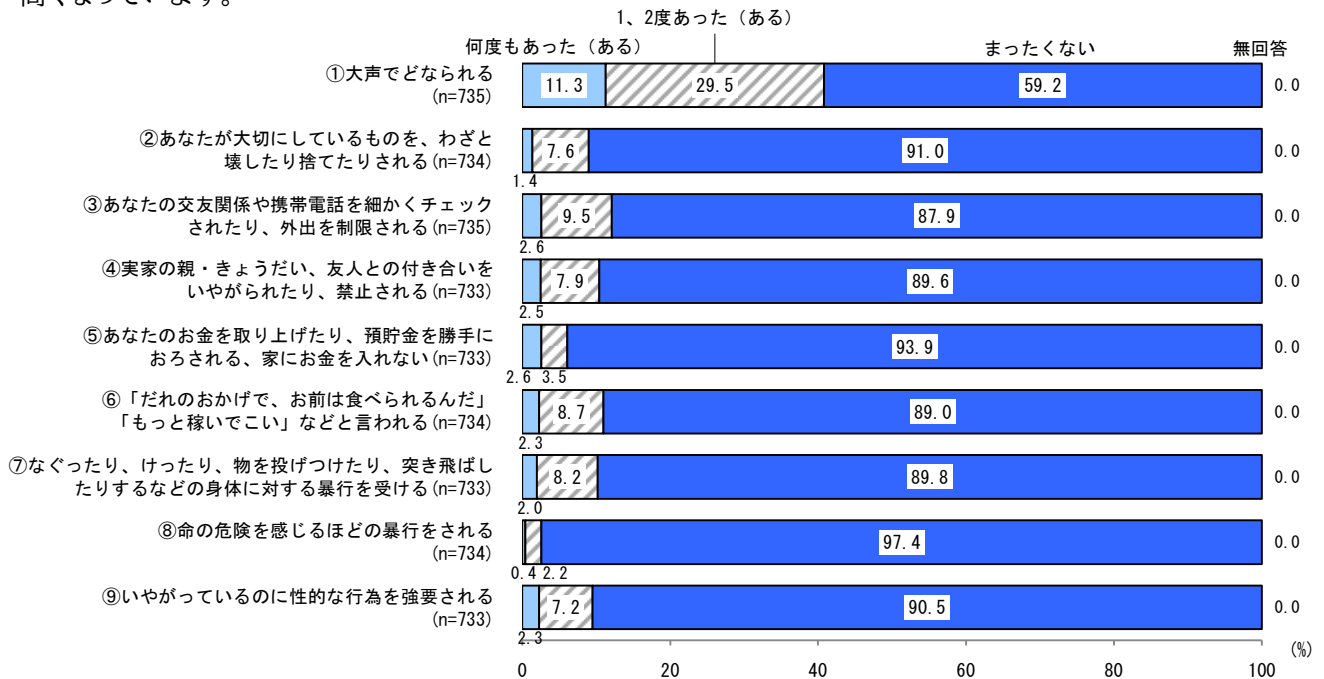
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が15.3ポイント高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」の割合が4.8ポイント低くなっています。



【②実際にされたことがあるか】

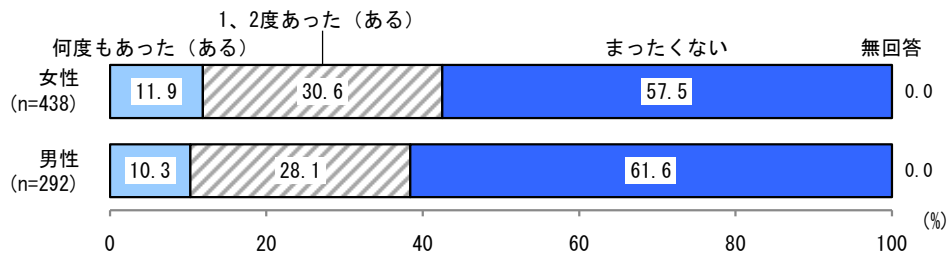
・配偶者や交際相手からの暴力被害については、全ての項目で「まったくない」が55%を超えている一方で、「①大声でどなられる」では「何度もあった(ある)」が11.3%、「1、2度あった(ある)」が29.5%と他の項目より高くなっています。



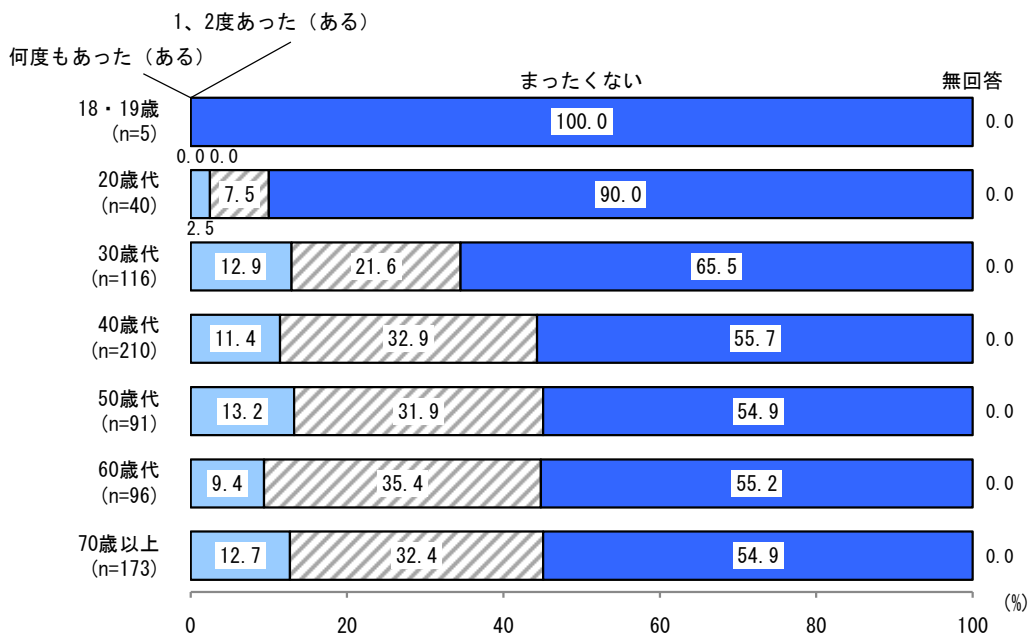
※全ての項目において、「無回答」の方が約20%を占めているため、見やすさを考慮して「無回答」を含めずにグラフを作成しています。性別、年代別のグラフにも同じ処理を行っています。

<①大声でどなられる>

・性別による大きな差はありません。

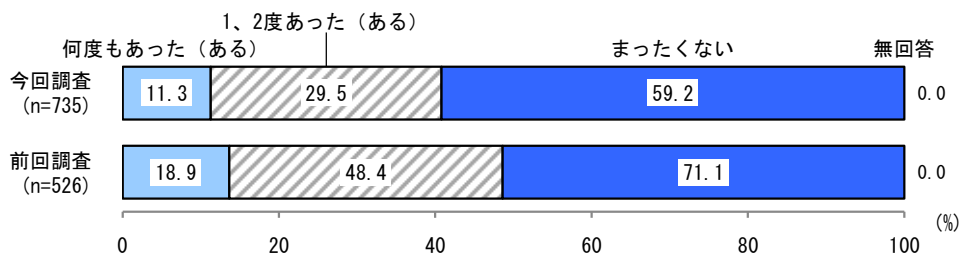


・年代別にみると、50歳代と70歳以上で「何度もあった」と「1, 2度あった」を合わせた「経験あり」の割合がともに45.1%と他の年代より高くなっています。



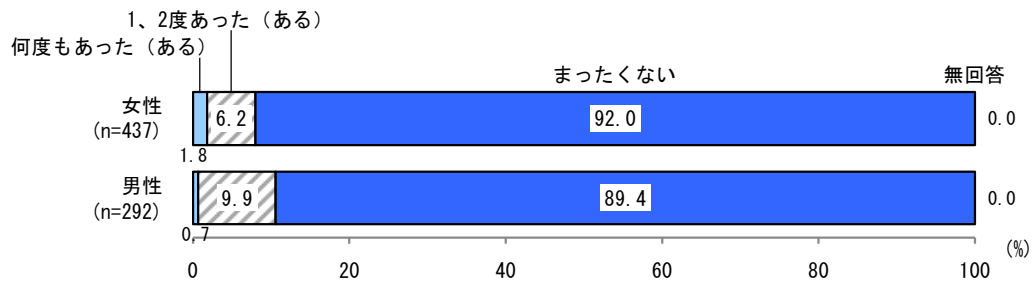
◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「1, 2度あった(ある)」の割合が18.9ポイント、「まったくない」の割合が11.9ポイント、「何度もあった(ある)」の割合が7.6ポイント低くなっています。

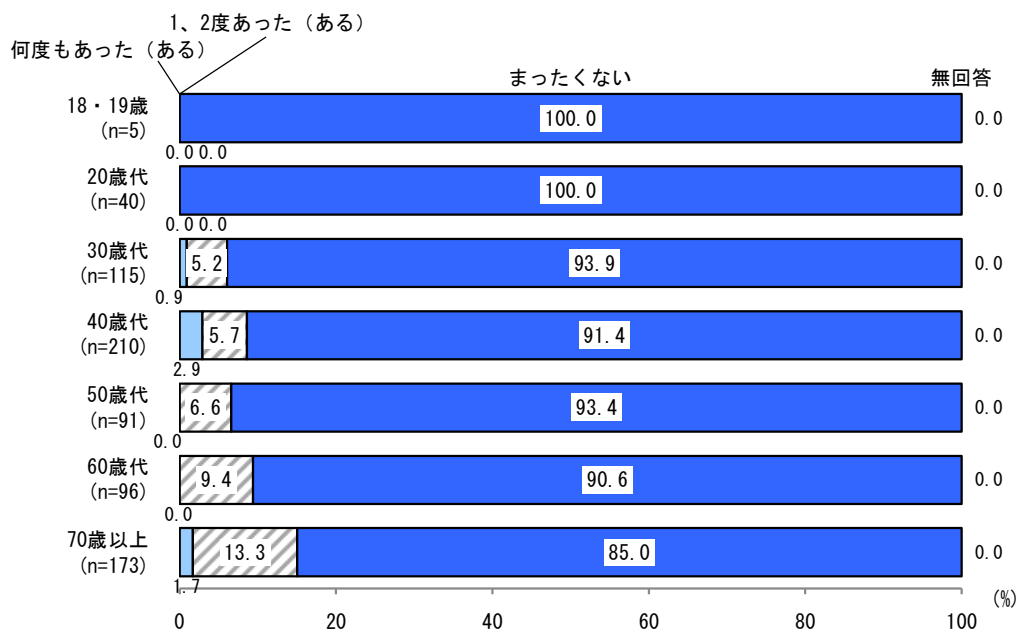


<②あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる>

・性別による大きな差はありません。

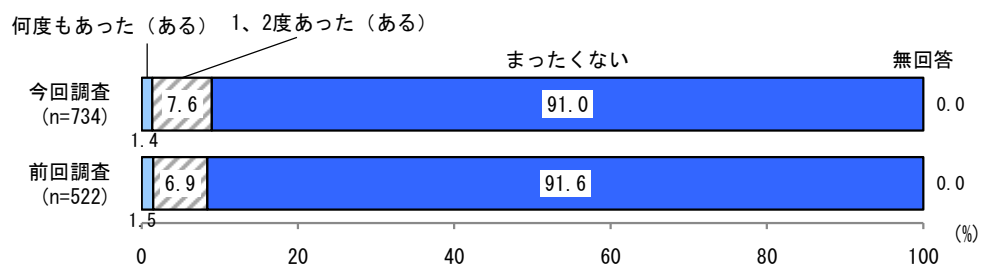


・年代別にみると、70歳以上で『経験あり』の割合が15.0%と他の年代より高くなっています。



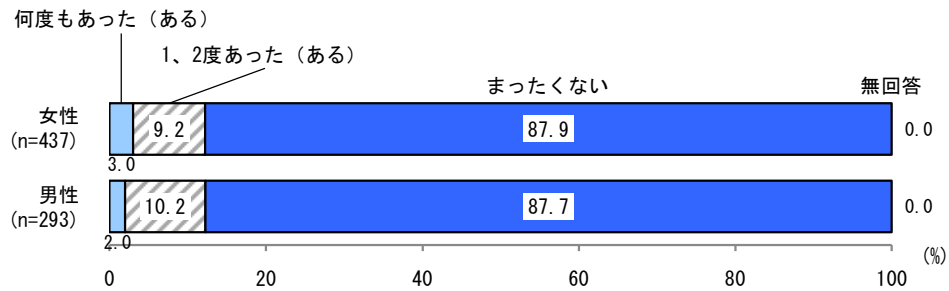
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

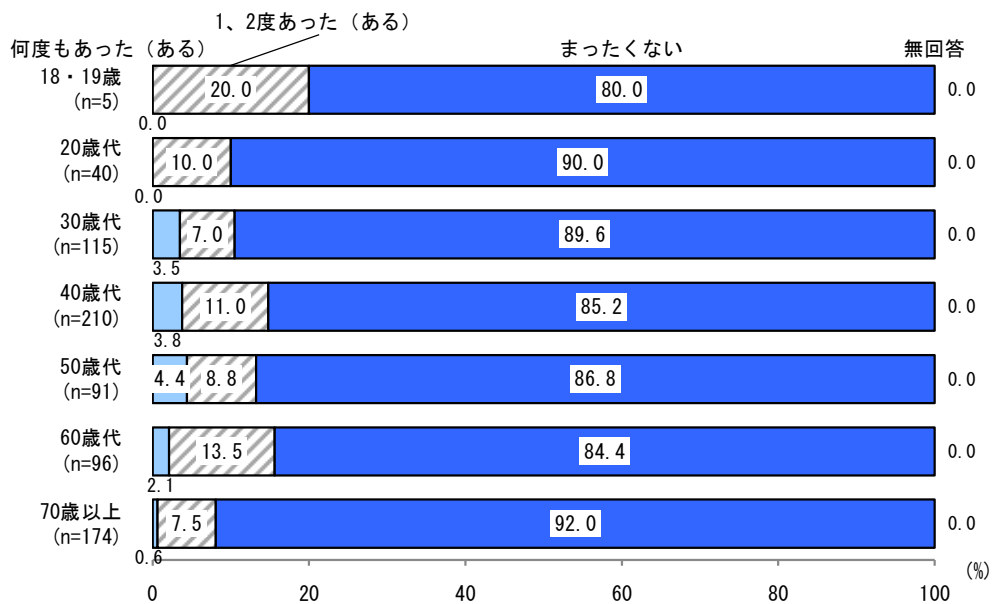


<③あなたの交友関係や携帯電話を細かくチェックされたり、外出を制限される>

・性別による大きな差はありません。

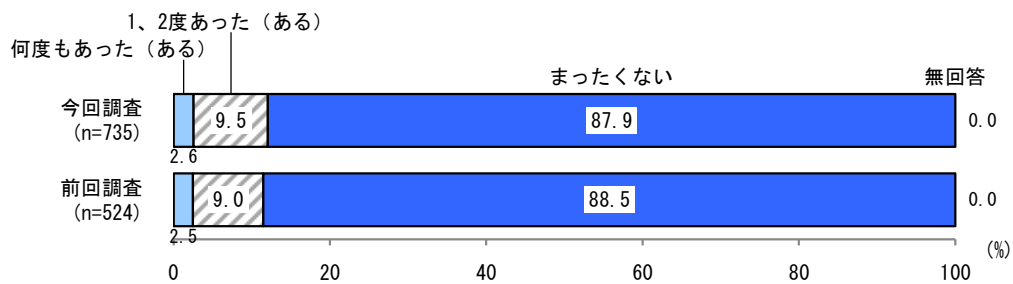


・年代別にみると、60歳代で『経験あり』の割合が15.6%と他の年代より高くなっています。



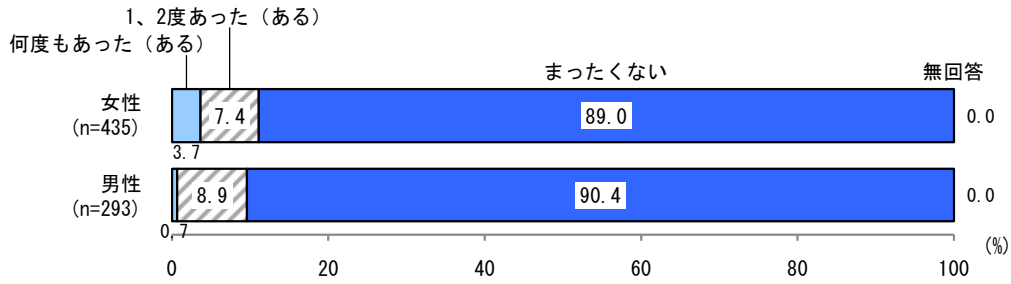
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

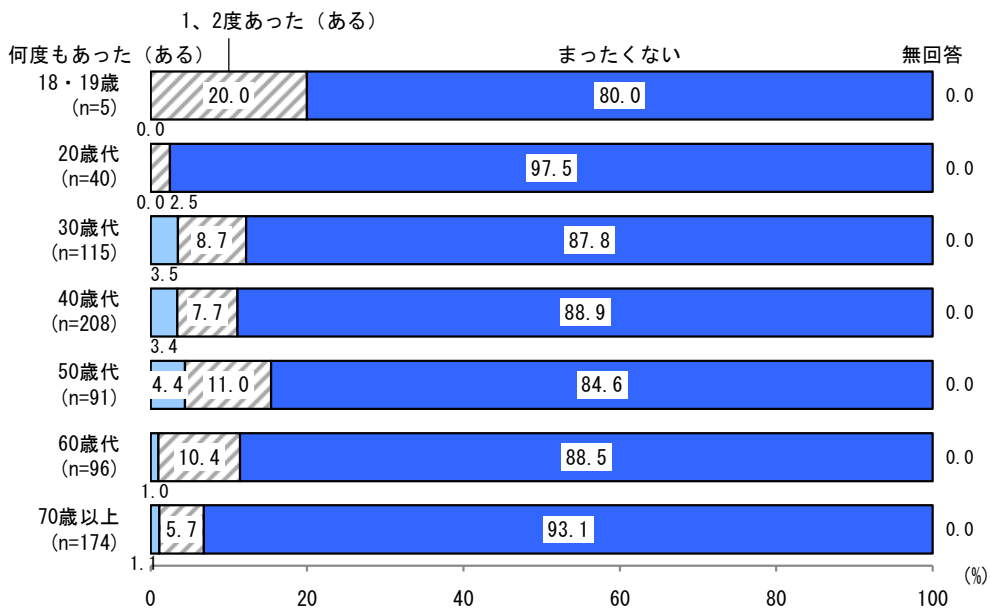


<④実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される>

・性別による大きな差はありません。

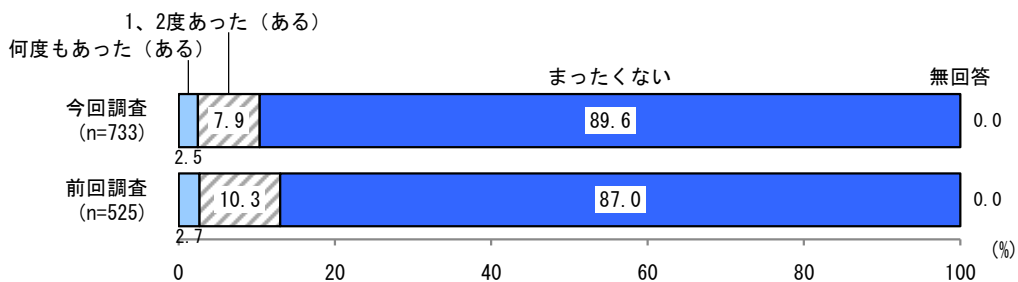


・年代別にみると、50歳代で『経験あり』の割合が15.4%と他の年代より高くなっています。



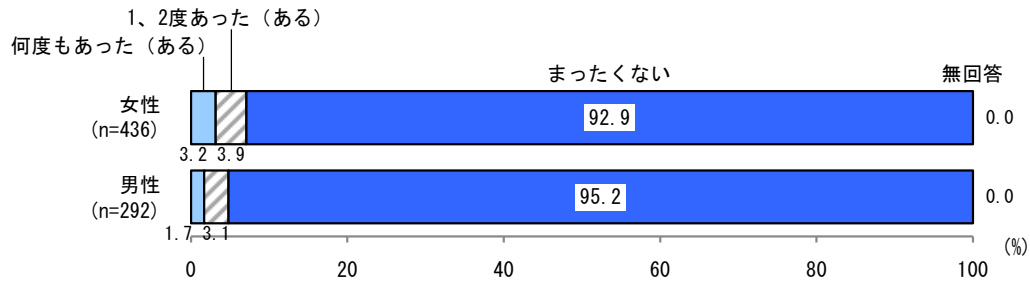
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

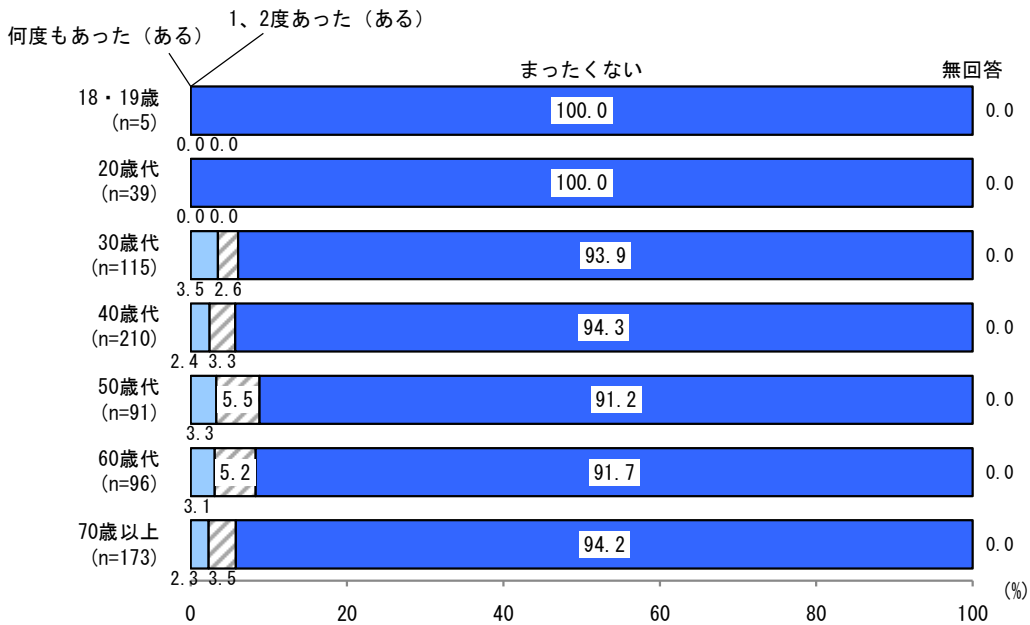


<⑤あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない>

・性別による大きな差はありません。

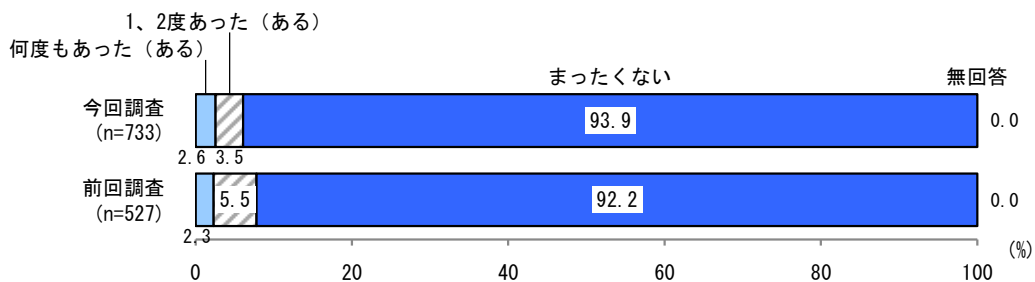


・年代別にみると、50歳代で『経験あり』の割合が8.8%と他の年代より高くなっています。



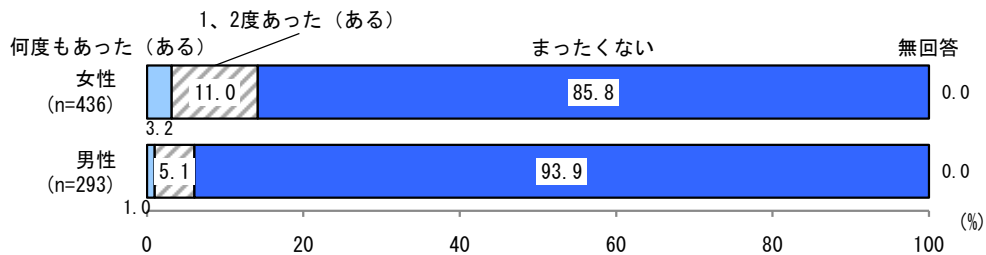
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

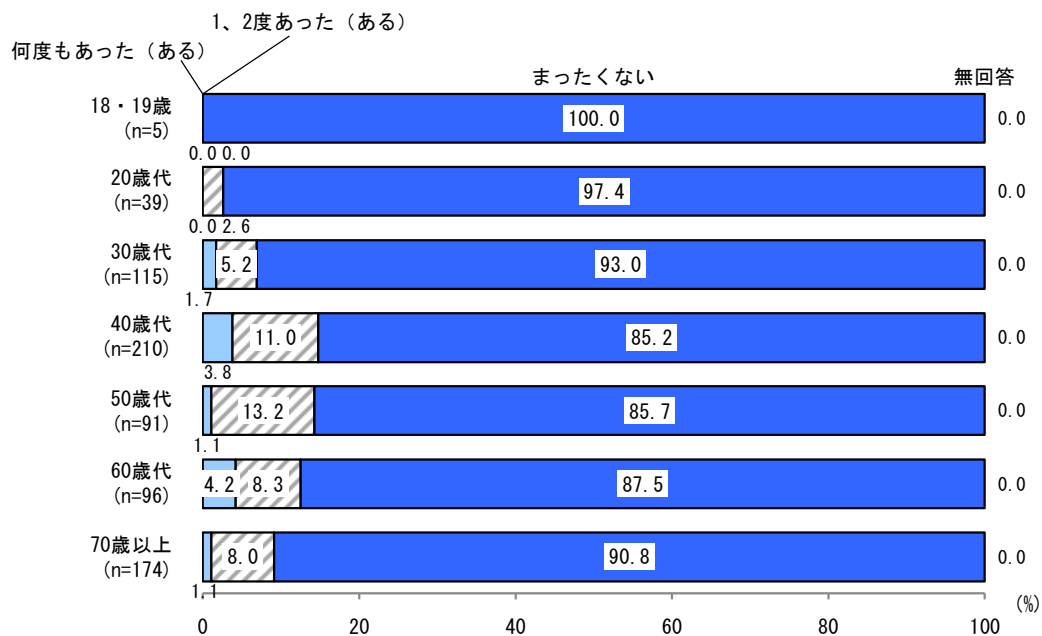


<⑥「誰のおかげで、お前は食べられているんだ」「もっと稼いでこい」などと言われる>

・性別にみると、女性は男性よりも『経験あり』の割合が8.1ポイント高く、男性は女性よりも「まったくない」の割合が8.1ポイント高くなっています。

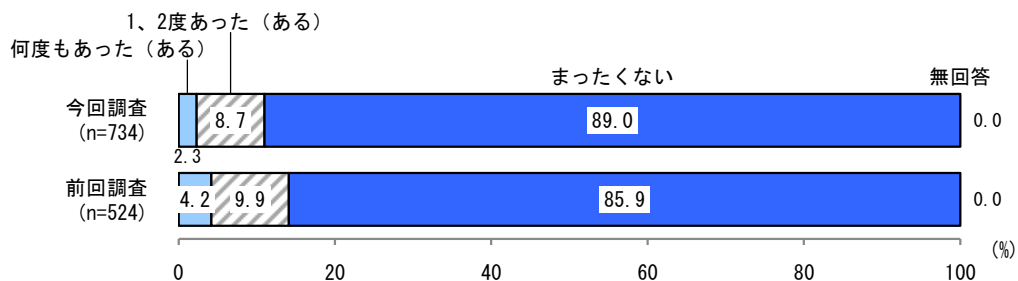


・年代別にみると、40歳代で『経験あり』の割合が14.8%と他の年代より高くなっています。



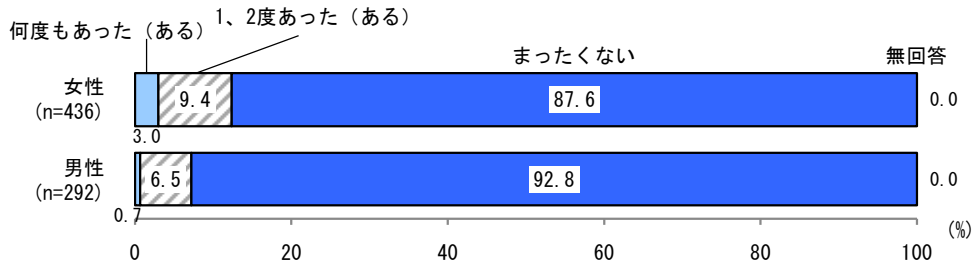
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

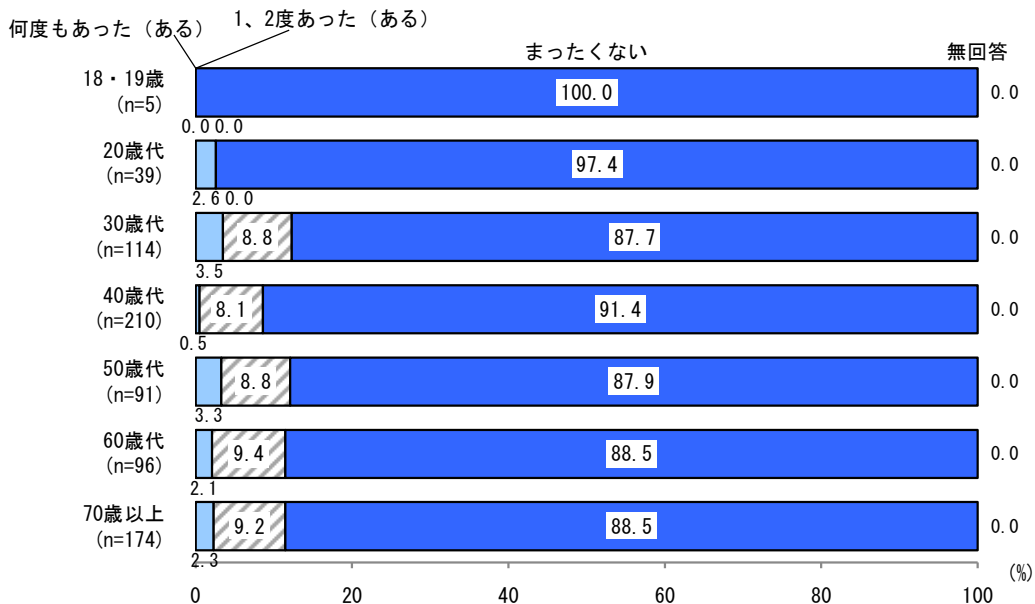


<⑦なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受ける>

・性別にみると、女性は男性よりも『経験あり』の割合が5.2ポイント高く、男性は女性よりも「まったくない」の割合が5.2ポイント高くなっています。

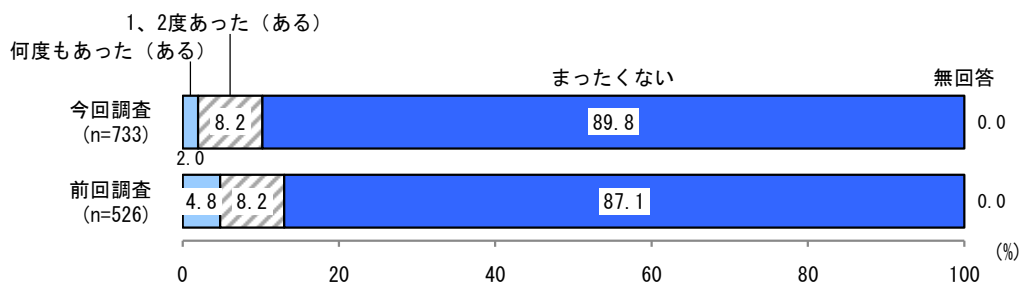


・年代別にみると、30歳代で『経験あり』の割合が12.3%と他の年代より高くなっています。



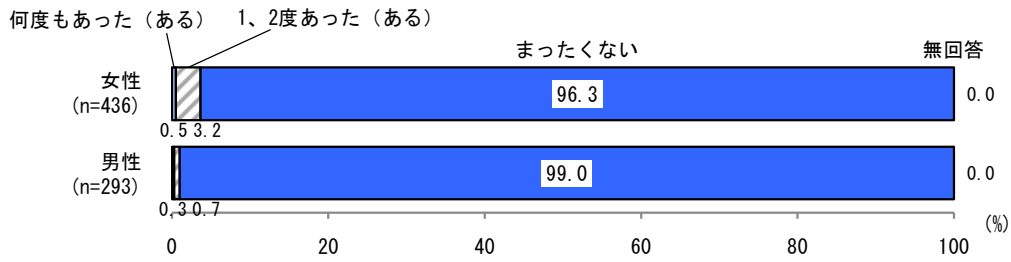
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

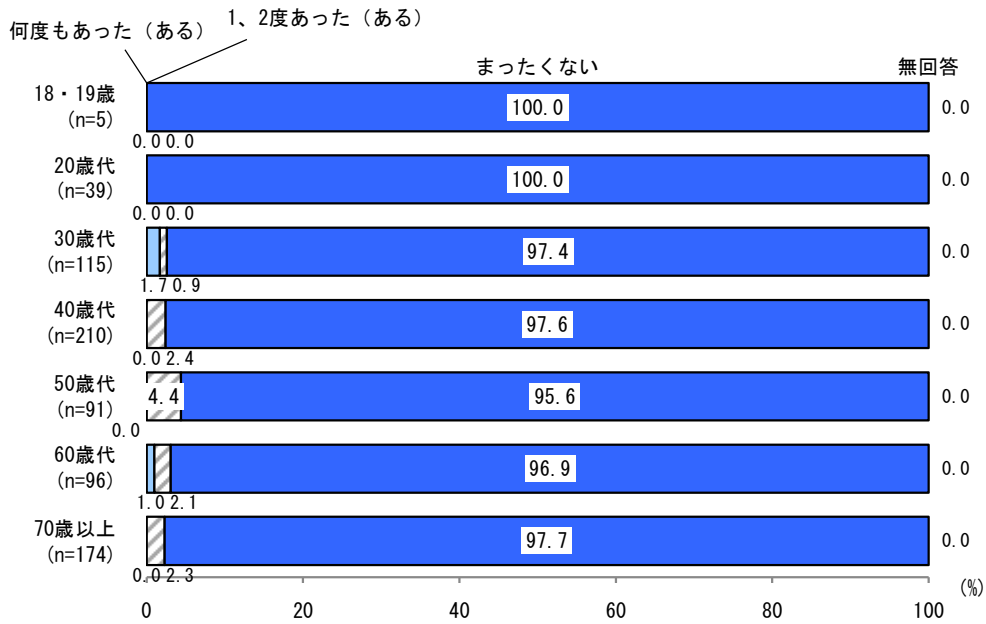


<⑧命の危険を感じるほどの暴行をされる>

・性別による大きな差はありません。

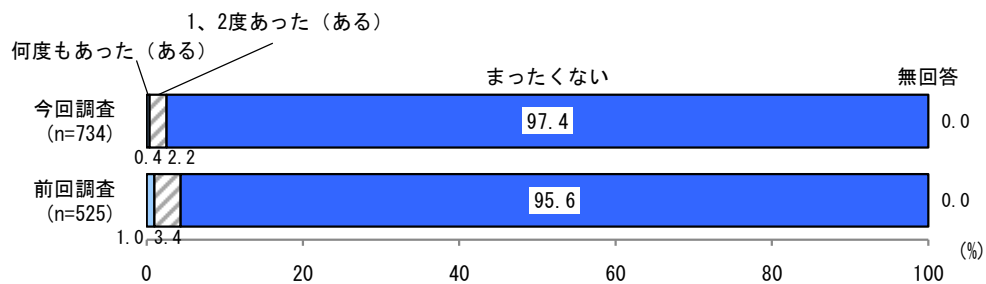


・年代別にみると、50歳代で『経験あり』の割合が4.4%と他の年代より高くなっています。



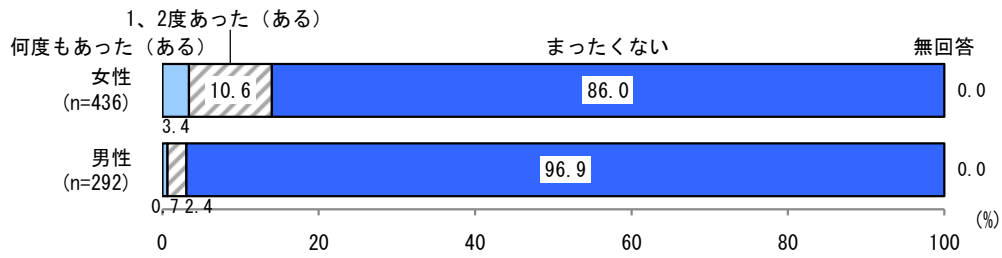
◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

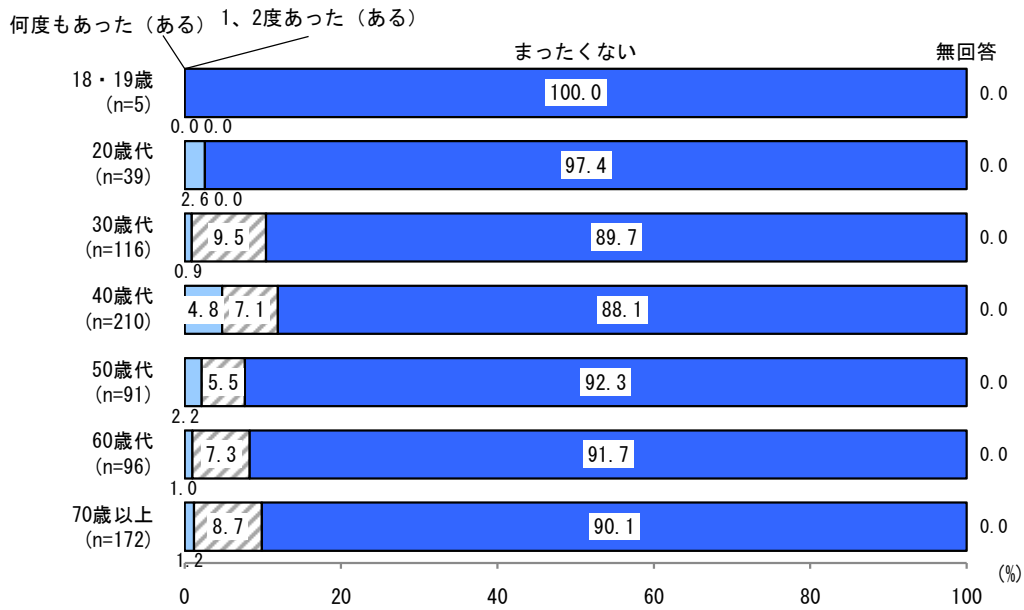


<⑨いやがっているのに性的な行為を強要される>

・性別にみると、女性は男性よりも『経験あり』の割合が10.9ポイント高くなっています。

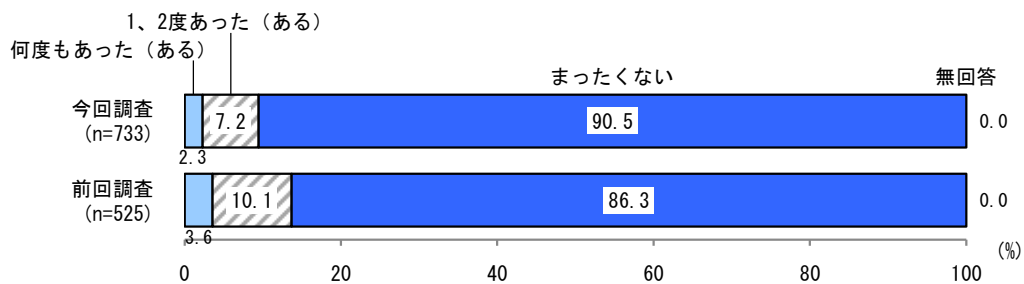


・年代別にみると、40歳代で『経験あり』の割合が11.9%と他の年代より高くなっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査との大きな差はみられません。

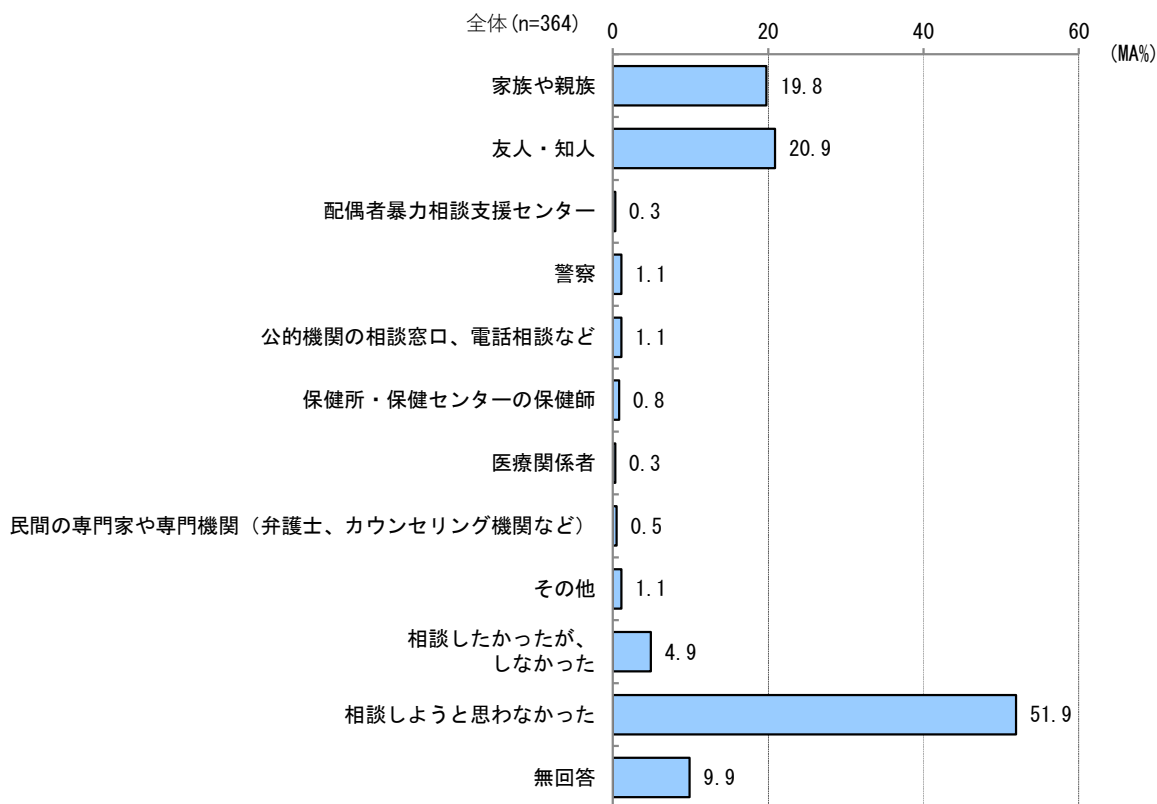


問26 暴力を受けた際の対応について

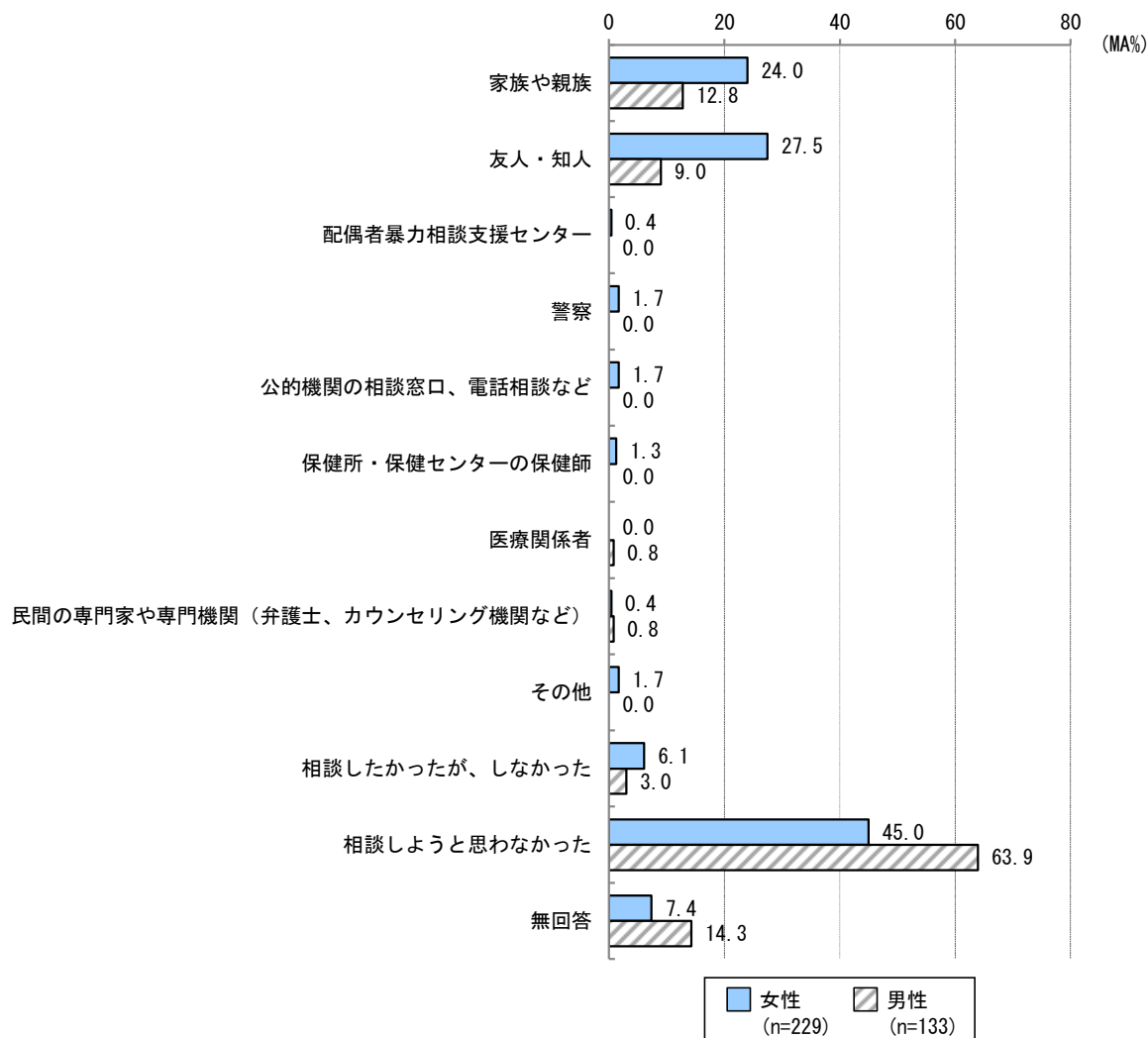
【問25で「何度もあった(ある)」、「1、2度あった(ある)」と答えられた方におたずねします。】

問26 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(〇はいくつでも)

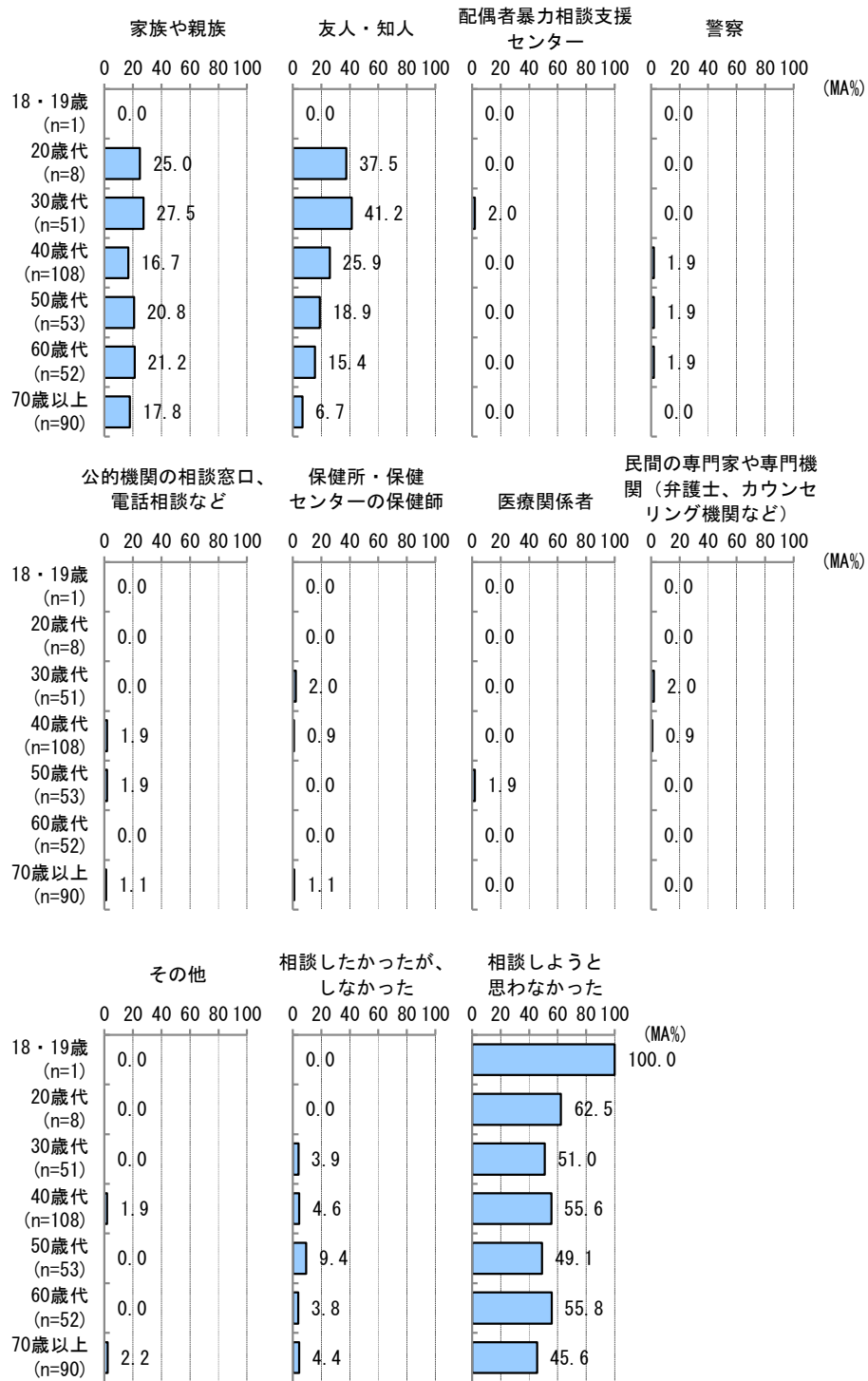
・暴力を受けた際の対応については、「相談しようと思わなかった」が51.9%と最も高く、次いで「友人や知人」が20.9%、「家族や親族」が19.8%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「友人・知人」の割合が18.5ポイント高く、男性は女性よりも「相談しようと思わなかった」の割合が18.9ポイント高くなっています。

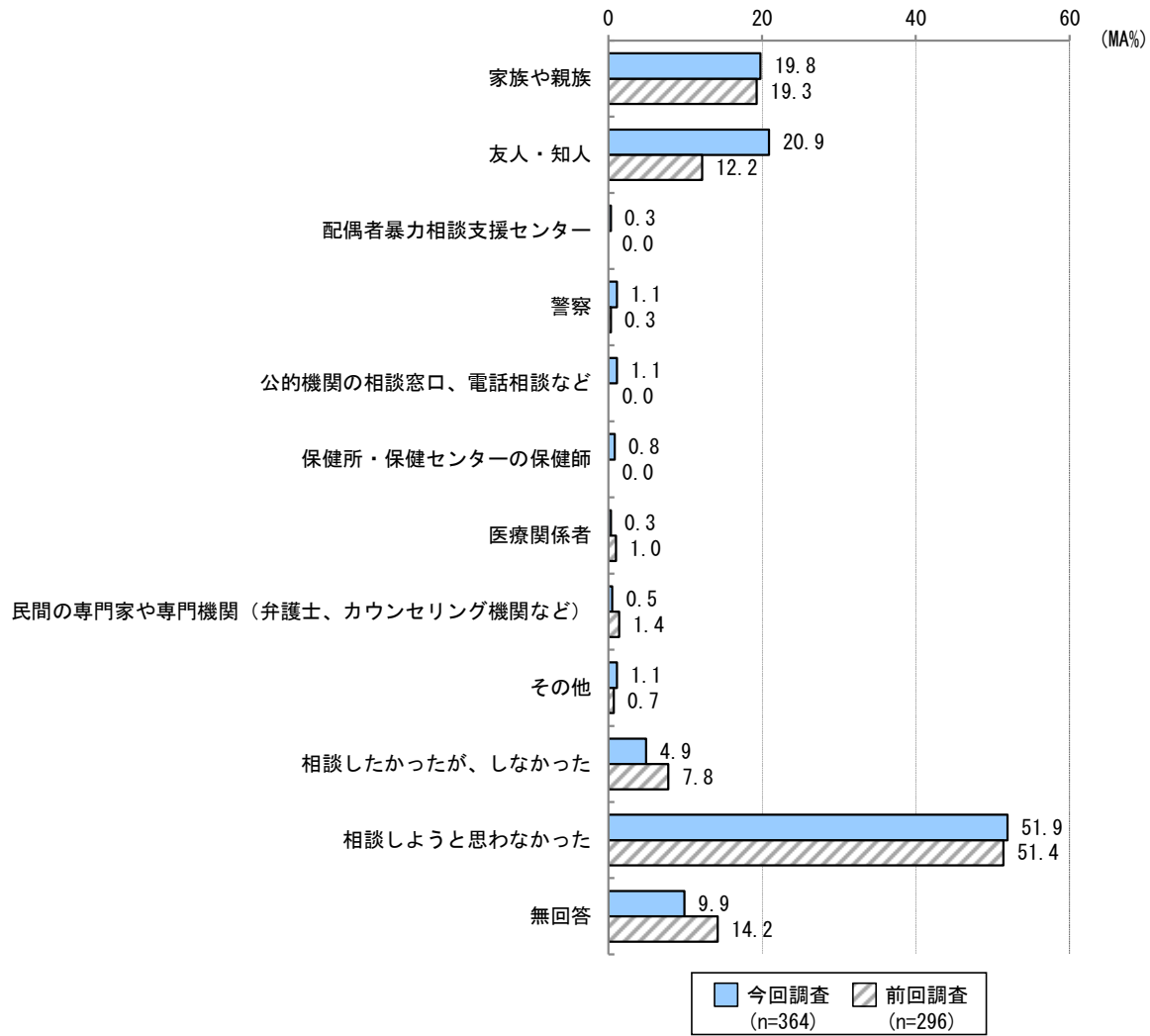


・年代別にみると、30～70歳以上で「相談しようと思わなかった」の割合が45%を超えています。また、概ね若い年代ほど「友人・知人」の割合が高い傾向にあり、30歳代で41.2%となっています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「友人・知人」の割合が8.7ポイント高くなっています。

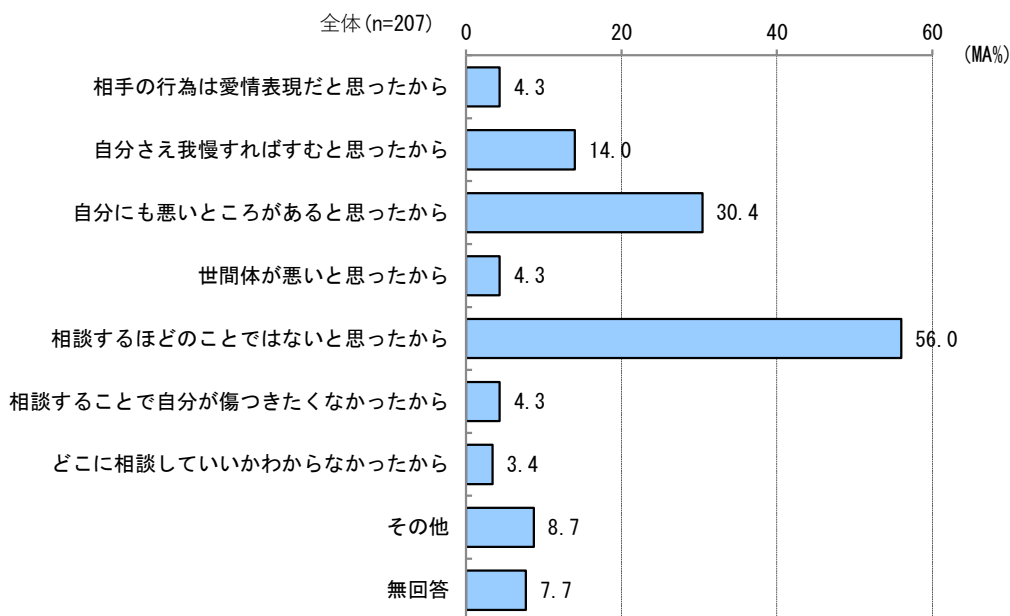


問26-1 相談しなかった理由

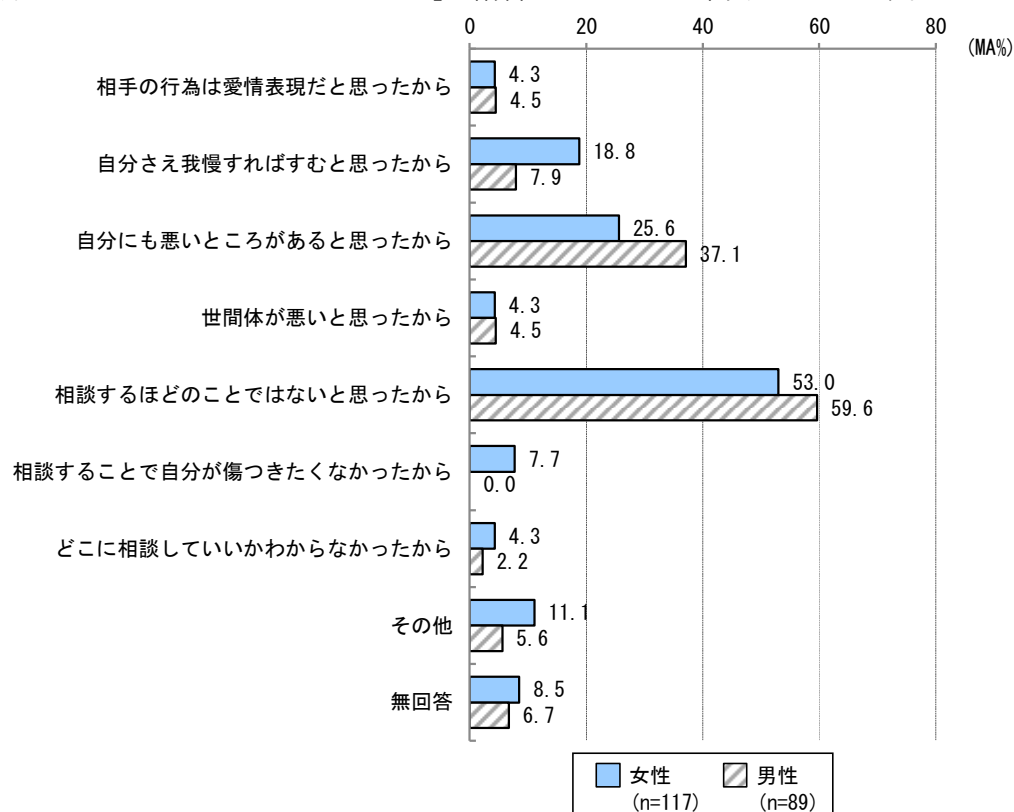
【問26で「10.相談したかったが、相談しなかった」「11.相談しようと思わなかった」と答えた人におたずねします。】

問26-1 あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

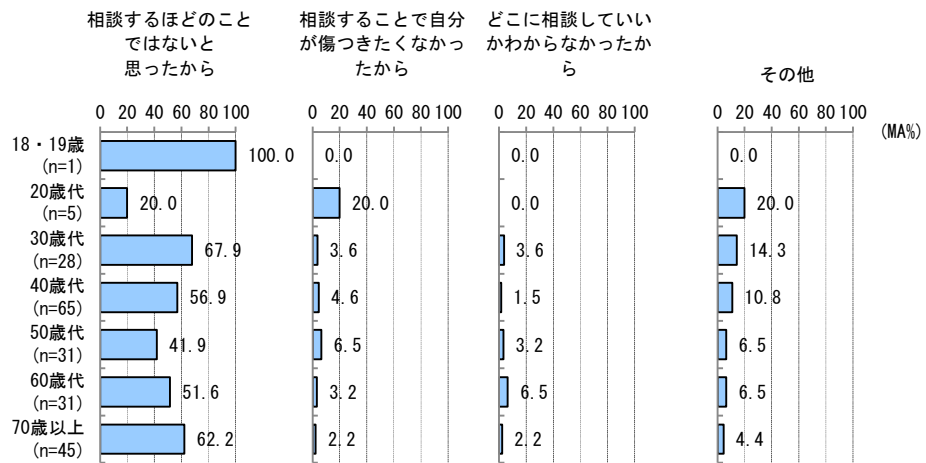
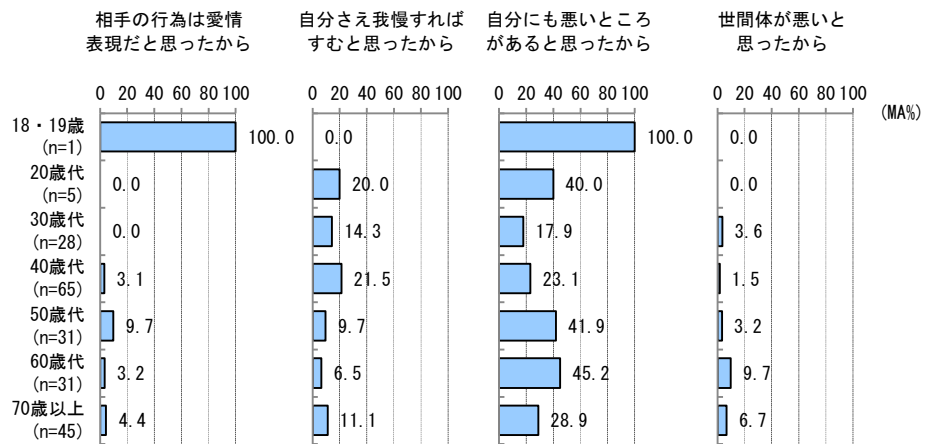
・相談しなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が56.0%と最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が30.4%、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」が14.0%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「自分さえ我慢すればすむと思ったから」の割合が10.9ポイント高く、男性は女性よりも「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が11.5ポイント高くなっています。

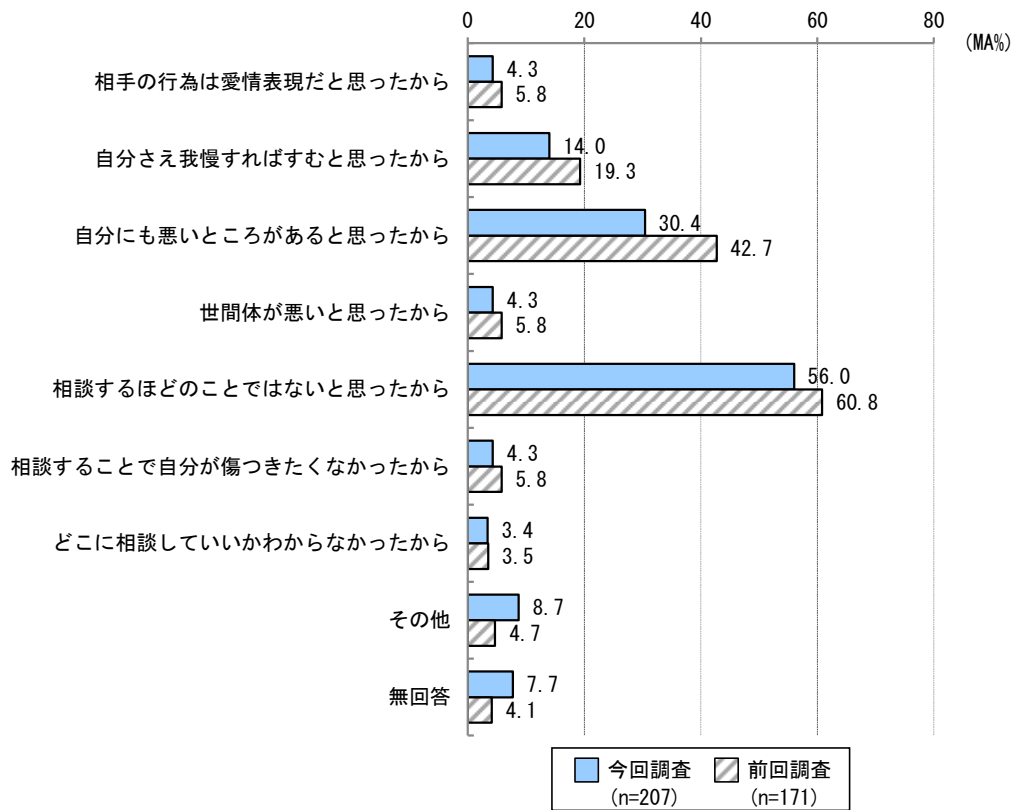


・年代別にみると、50～60歳代で「自分にも悪いところがあったから」の割合が40%を超えており、30～40歳代、60歳以上で「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が50%を超えています。



◇ 前回調査との比較

・前回調査と比べると、今回調査は「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が12.3ポイント、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」の割合が5.3ポイント低くなっています。

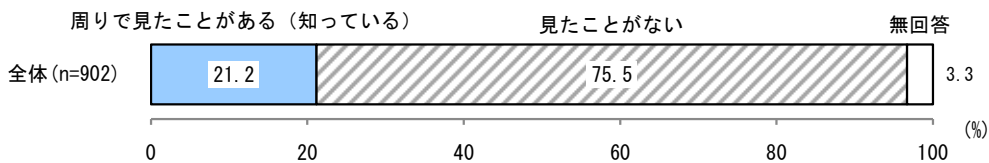


5. 困難な問題を抱える女性の支援について

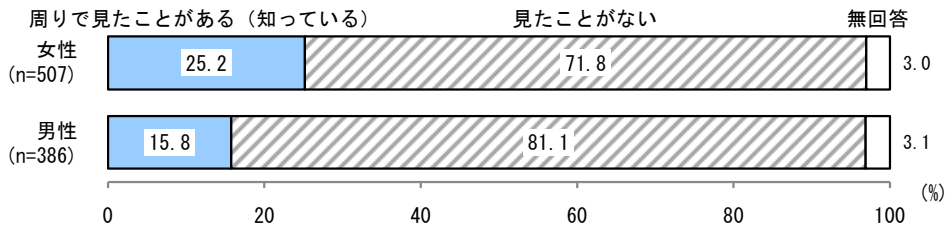
問27 困難な問題を抱えている女性について見たり聞いたりした経験の有無について

問27 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されます。あなたの周りで困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたことがありますか。(〇は1つ)

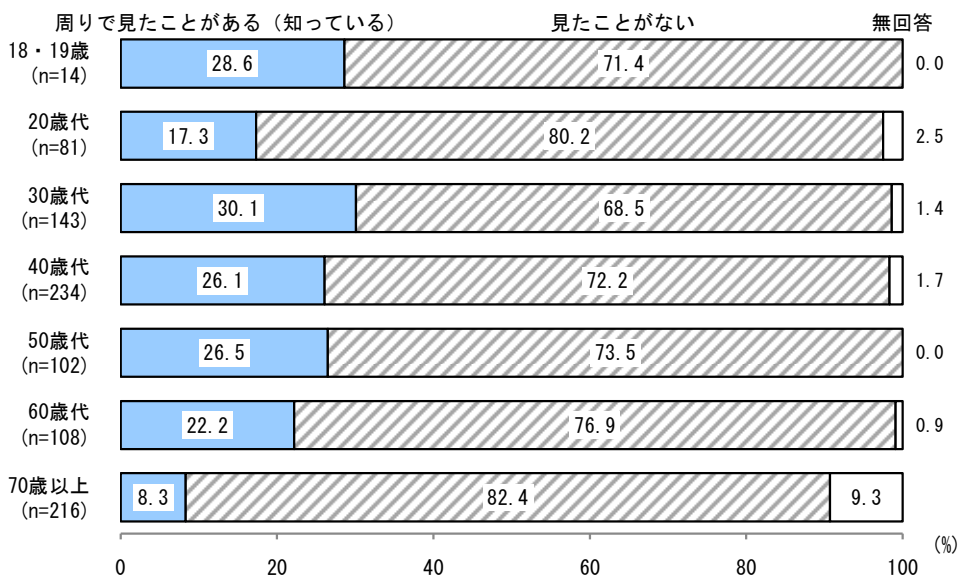
・困難な問題を抱えている女性については、「見たことがない」が75.5%、「周りで見たことがある(知っている)」が21.2%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「周りで見たことがある(知っている)」の割合が9.4ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「見たことがない」の割合が9.3ポイント高くなっています。



・年代別にみると、18・19歳、30～60歳代で「周りで見たことがある(知っている)」の割合が20%を超えている一方で、20歳代と70歳以上では20%を下回っており、他の年代より低くなっています。

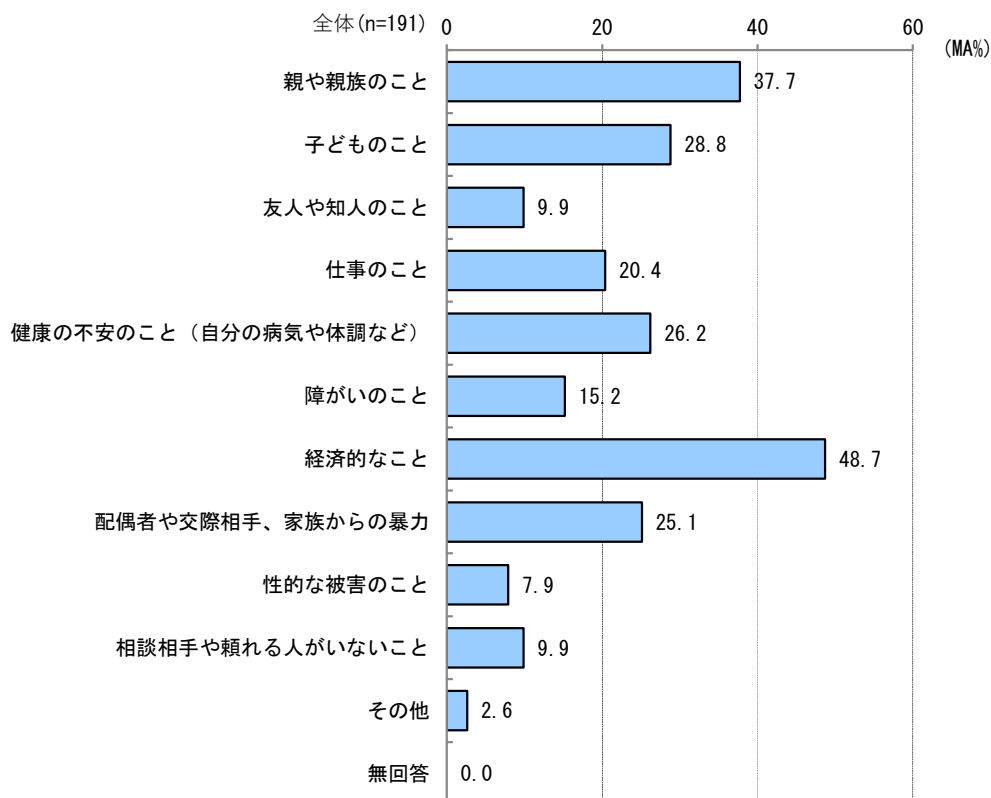


問27-1 どのような問題を抱えているのか

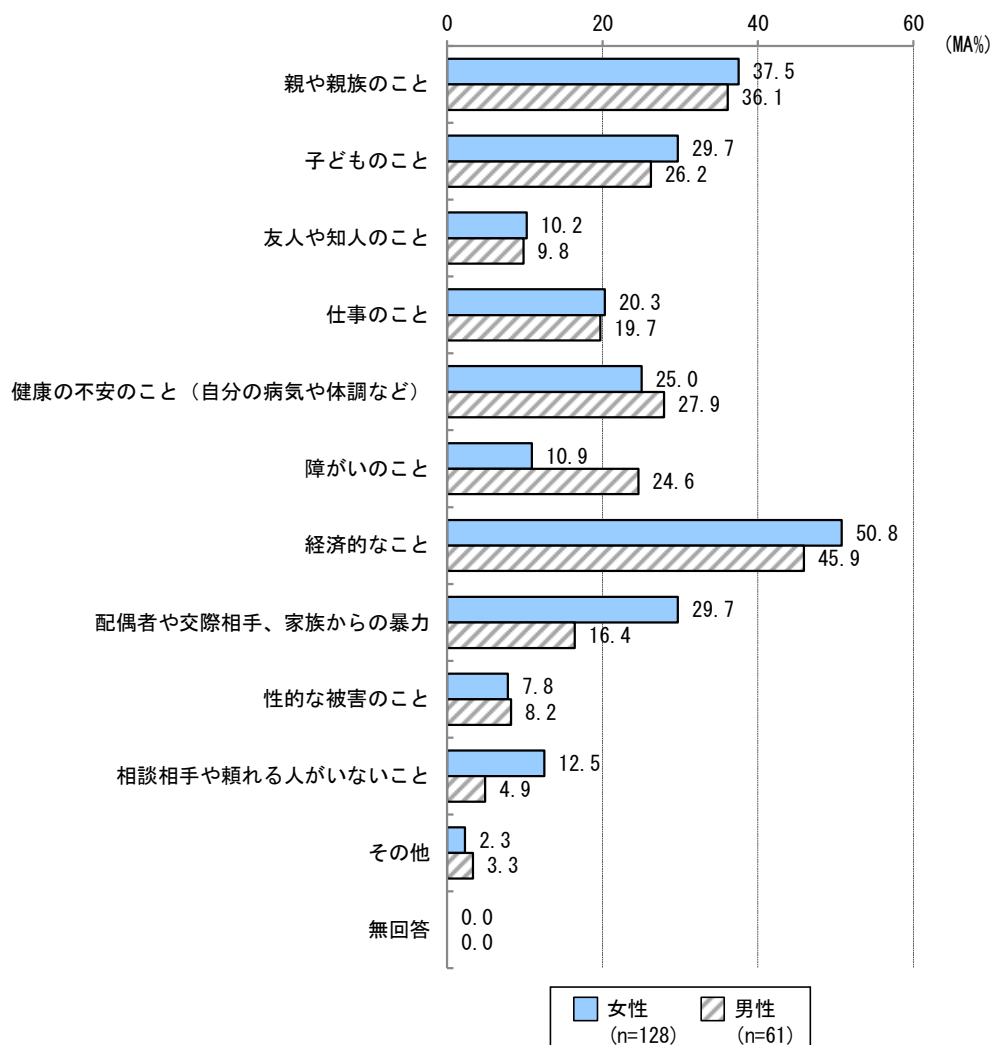
【問27で「1.周りで見たことがある(知っている)」と答えた人におたずねします。】

問27-1 周りの方はどのような問題を抱えていますか。(〇はいくつでも)

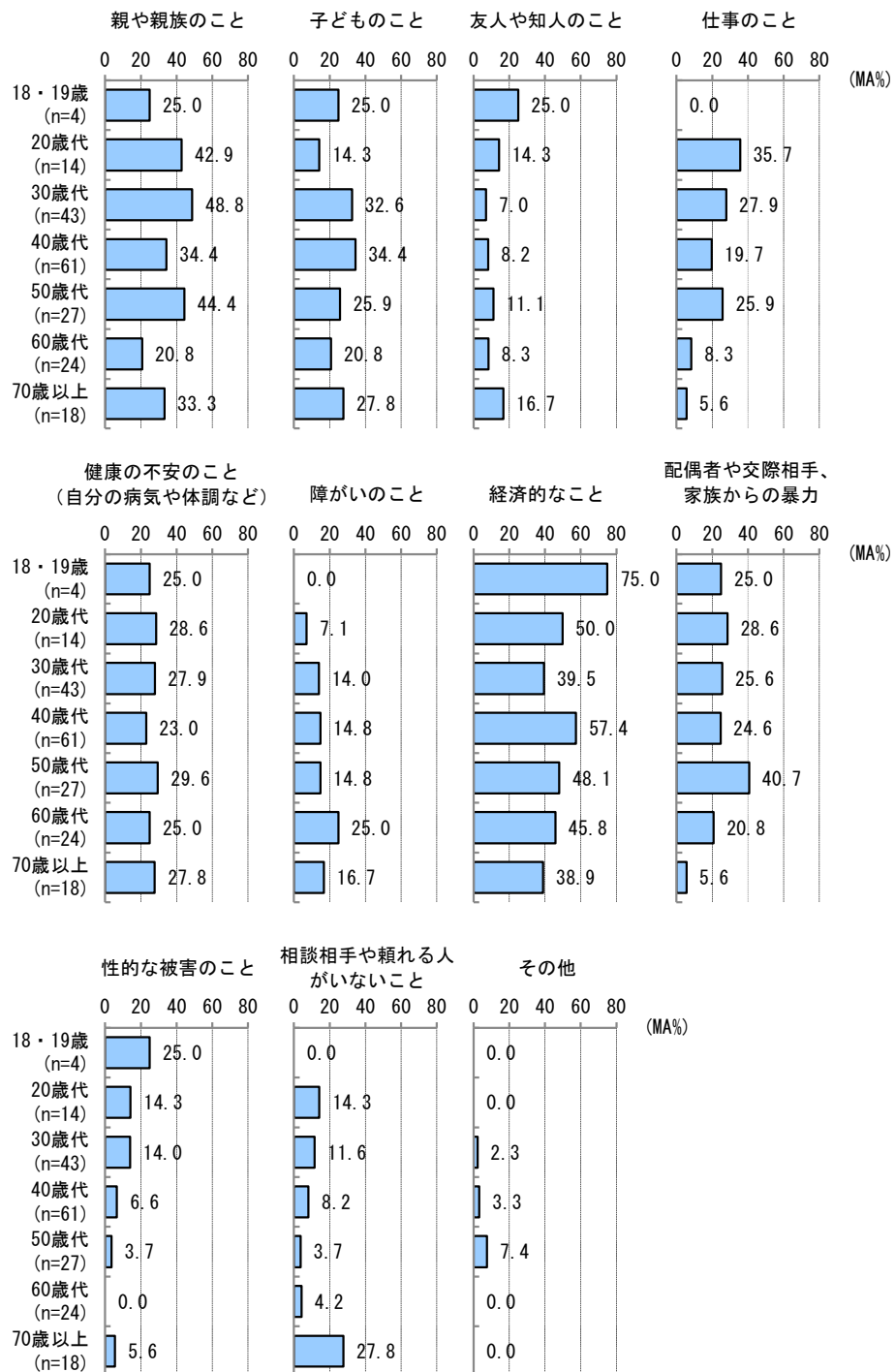
・どのような問題を抱えているのかについては、「経済的なこと」が48.7%と最も高く、次いで「親や親族のこと」が37.7%、「子どものこと」が28.8%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「配偶者や交際相手、家族からの暴力」の割合が13.3ポイント高く、男性は女性よりも「障がいのこと」の割合が13.7ポイント高くなっています。



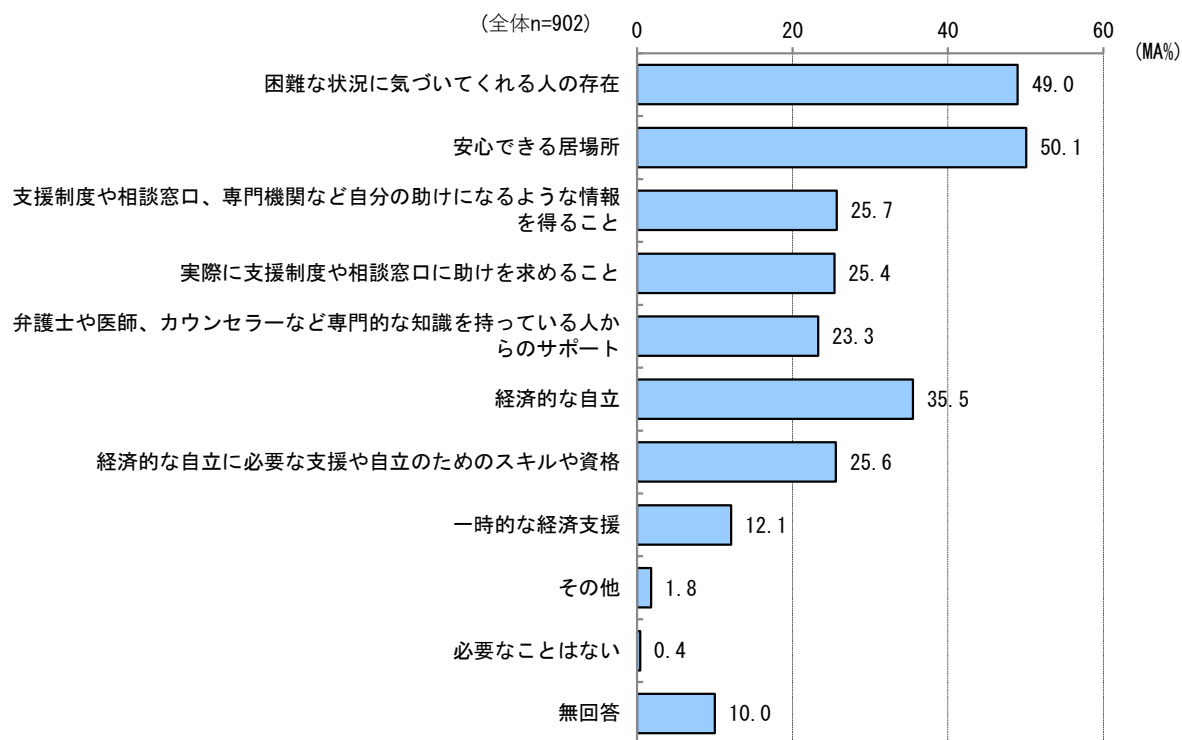
・年代別にみると、30～70歳以上で「経済的なこと」の割合が35%を超えており、40歳代で57.4%となっています。



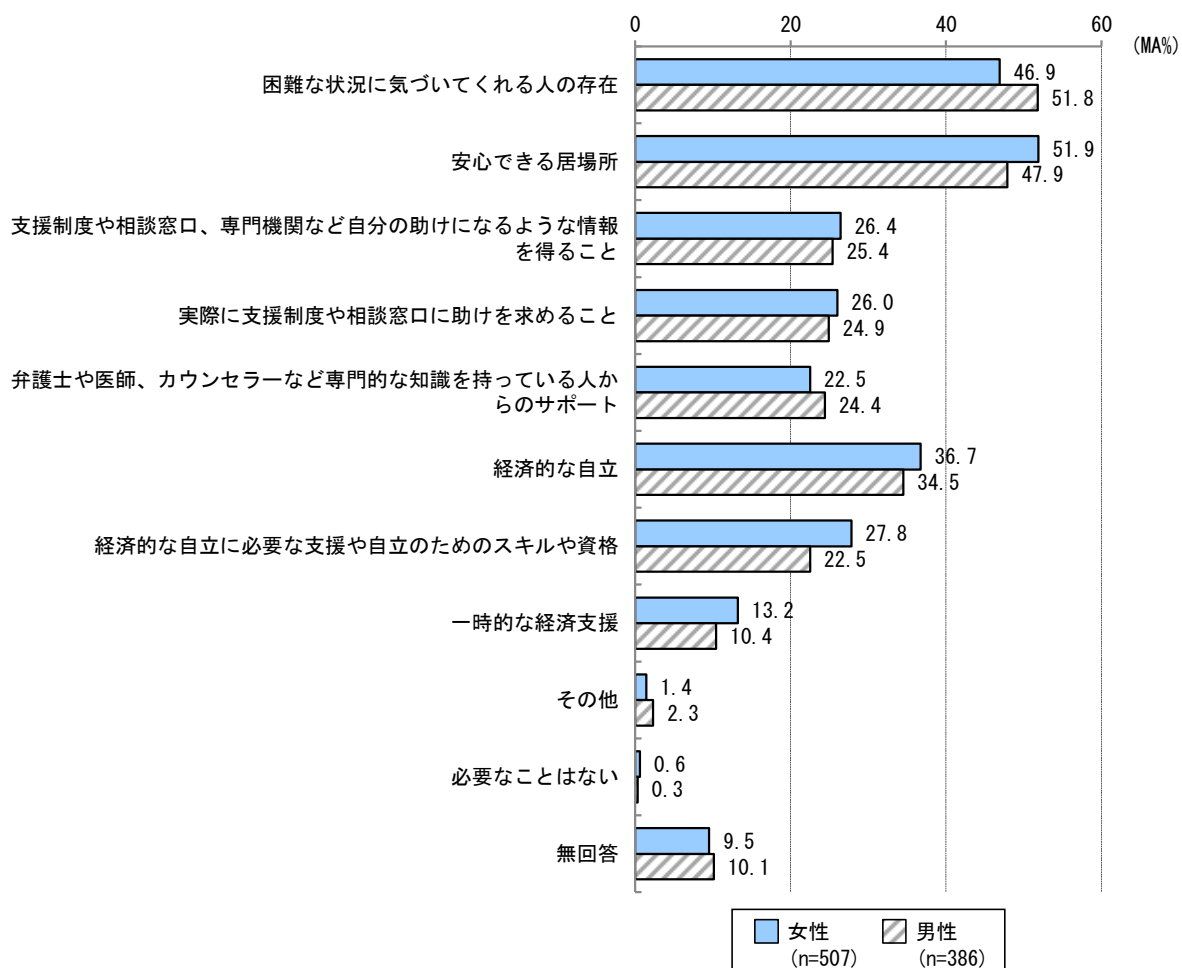
問28 女性が困難な状況から回復するために必要なこと

問28 女性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

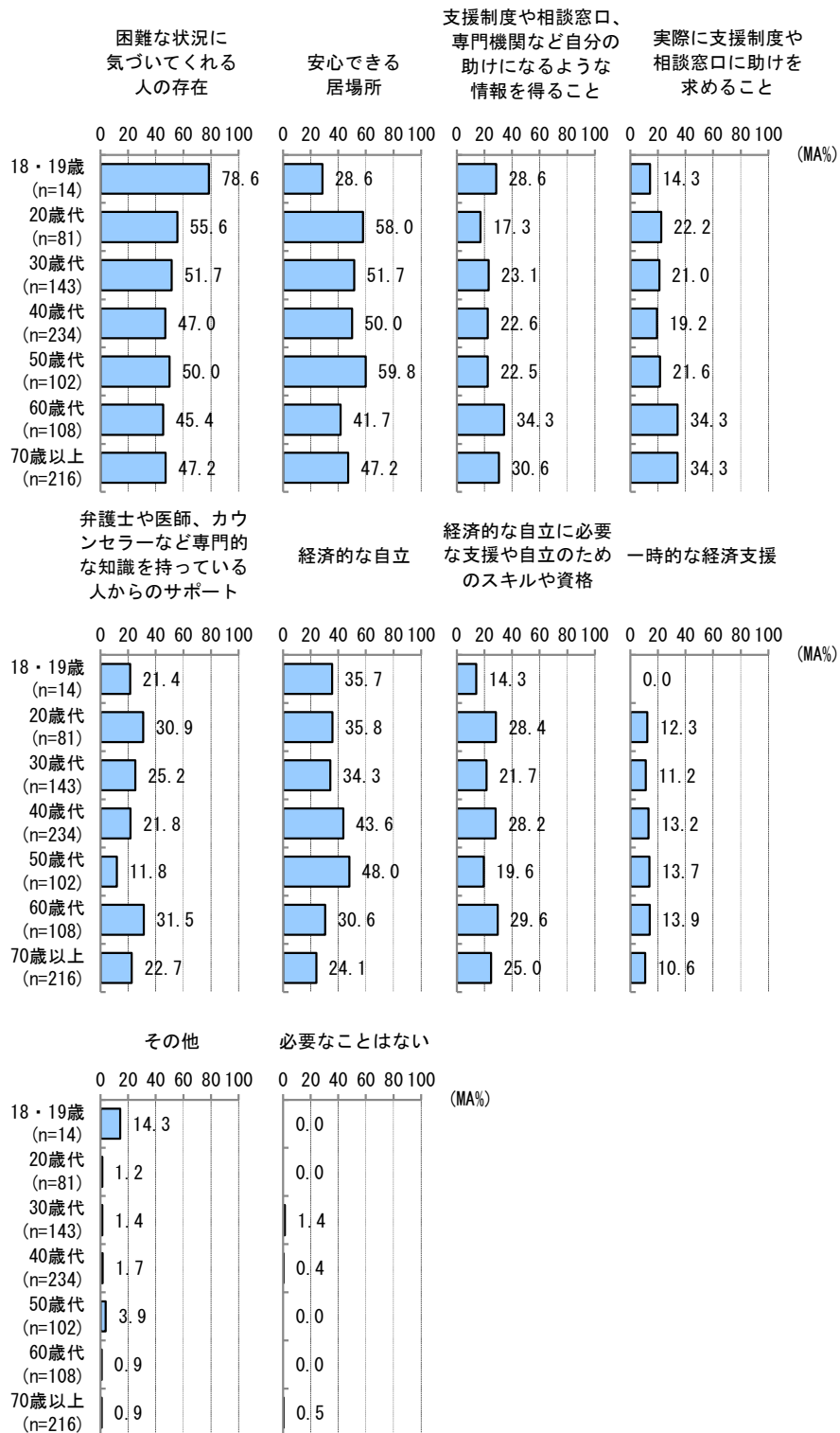
・女性が困難な状況から回復するために必要なことについては、「安心できる居場所」が50.1%と最も高く、次いで「困難な状況に気づいてくれる人の存在」が49.0%、「経済的な自立」が35.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「経済的な自立に必要な支援や自立のためのスキルや資格」の割合が5.3ポイント高くなっています。



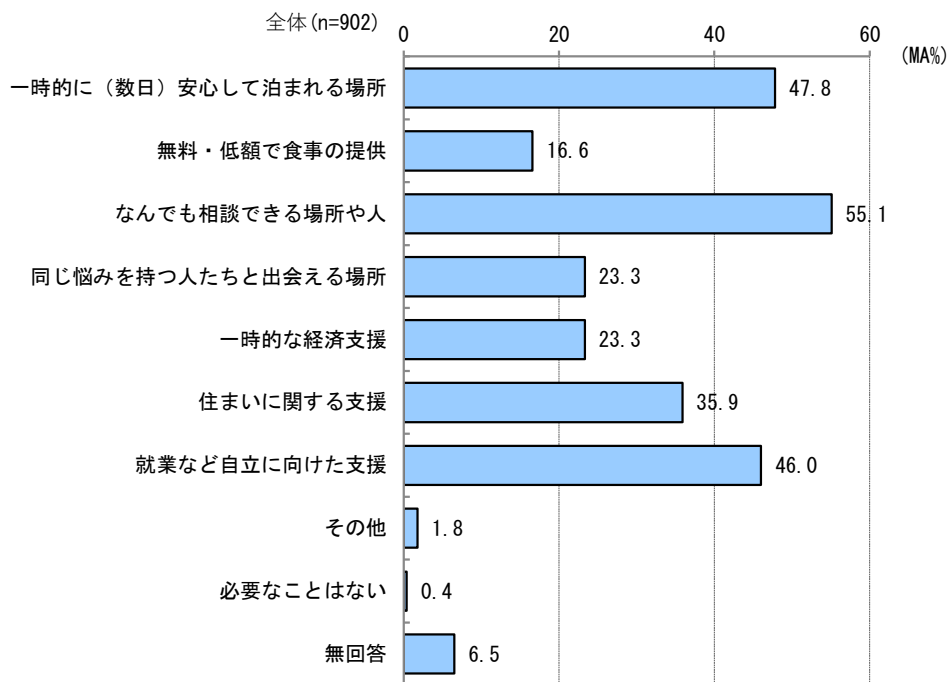
・年代別にみると、20歳以上で「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が45%を超えており、20歳代で55.6%と高くなっています。また、20歳以上で「安心できる居場所」の割合が40%を超えています。



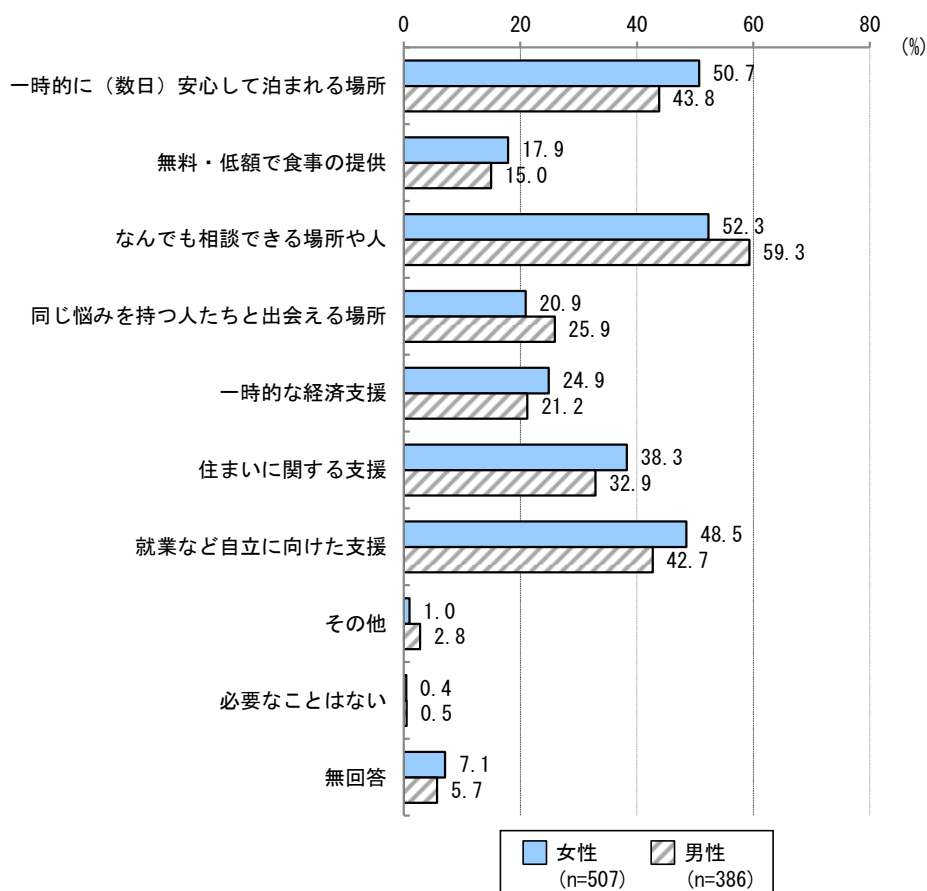
問29 家に居場所がない女性たちへのサポート

問29 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちにどのようなサポートがあるといいと思いますか。(特に必要だと思うものを3つまで○)

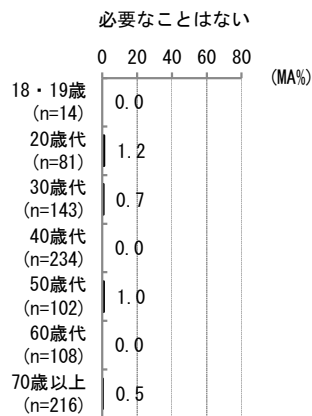
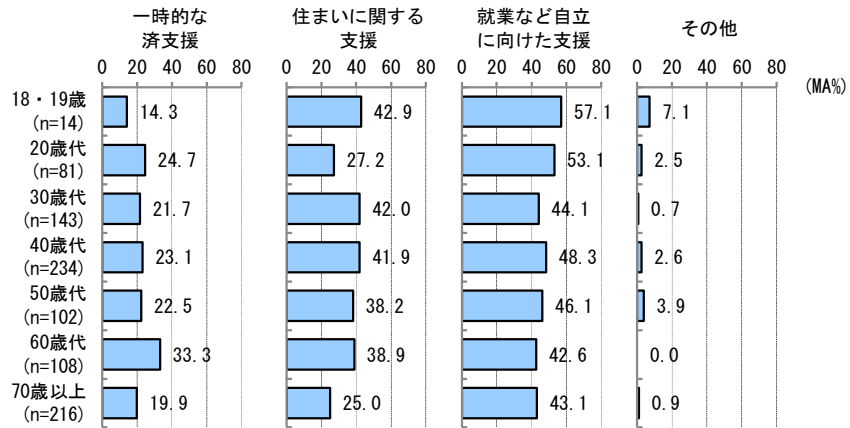
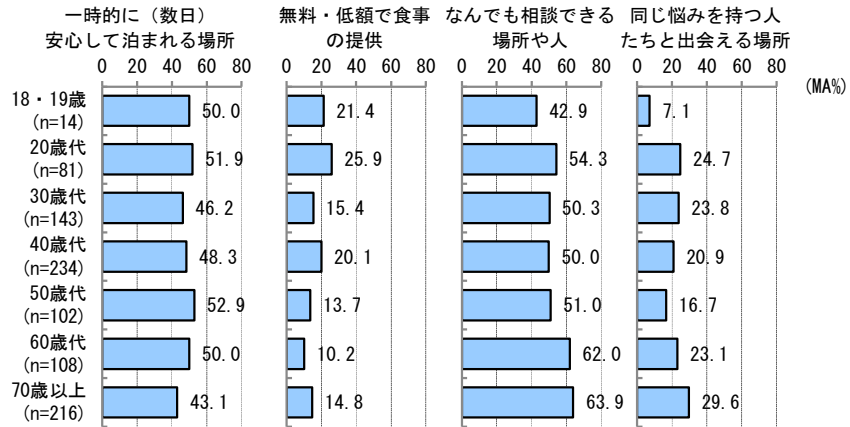
・家に居場所がない女性たちへのサポートについては、「なんでも相談できる場所や人」が55.1%と最も高く、次いで「一時的に(数日)安心して泊まれる場所」が47.8%、「就業など自立に向けた支援」が46.0%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「一時的に(数日)安心して泊まれる場所」の割合が6.9ポイント高く、男性は女性より「なんでも相談できる場所や人」の割合が7.0ポイント高くなっています。



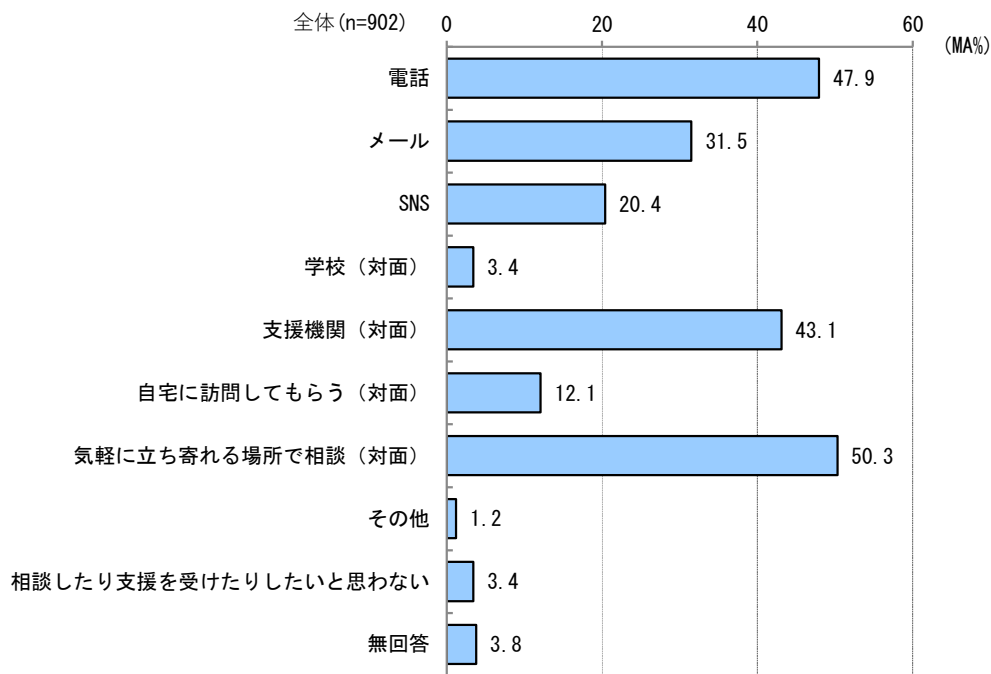
・年代別にみると、概ね年代が上がるほど「なんでも相談できる場所や人」の割合が高い傾向にあり、70歳以上で63.9%となっています。一方で、「就業など自立に向けた支援」の割合は概ね若い年代ほど高い傾向にあり、18・19歳で57.1%となっています。



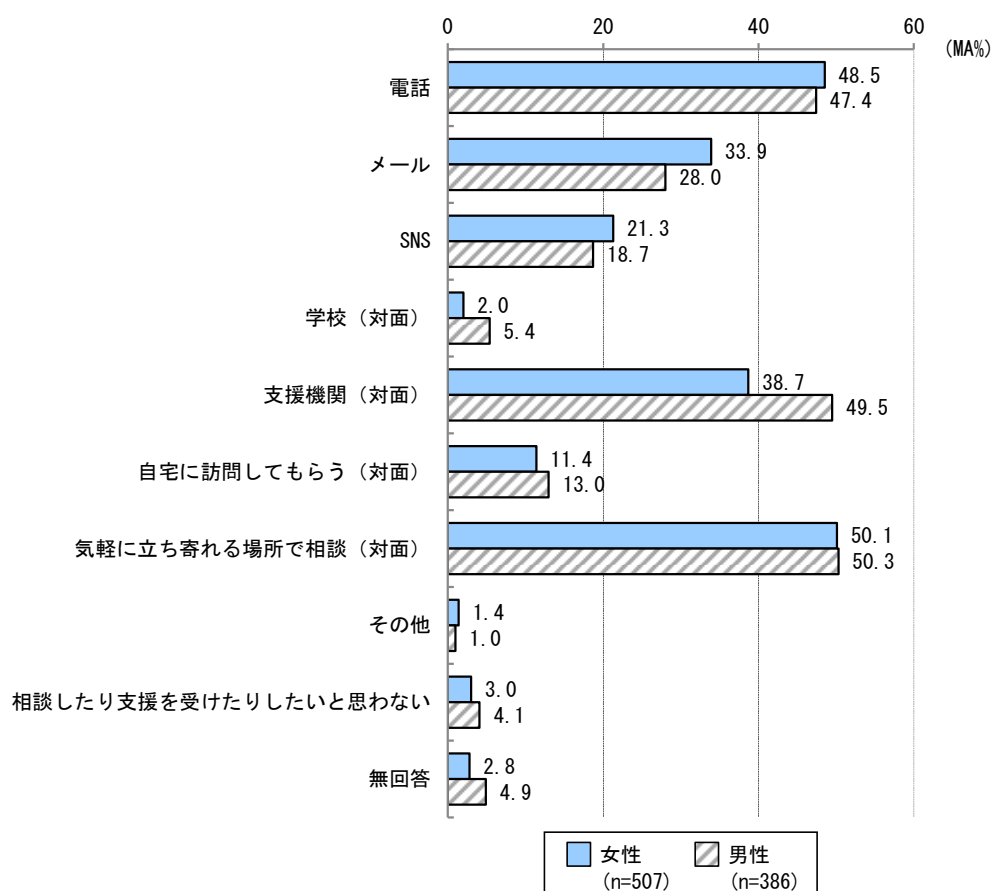
問30 相談するとしたらどのような方法や場所がいいか

問30 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。(〇はいくつでも)

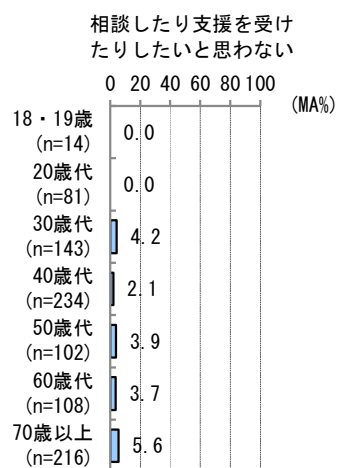
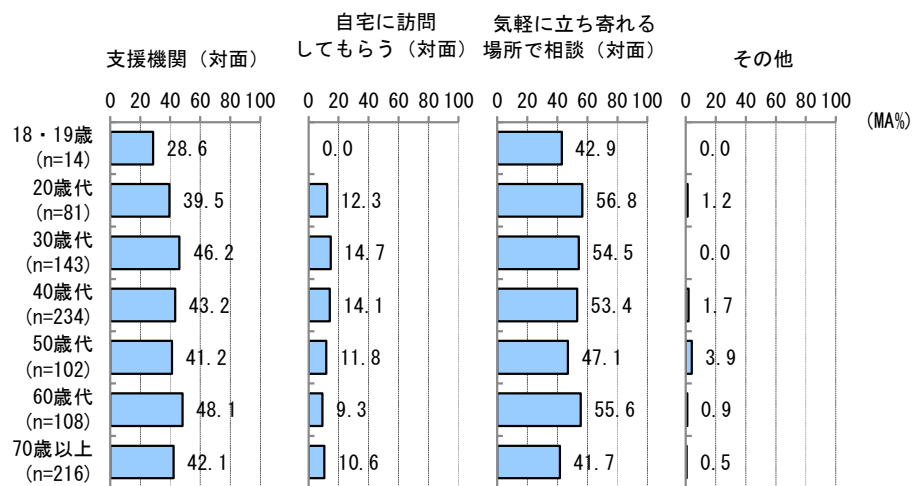
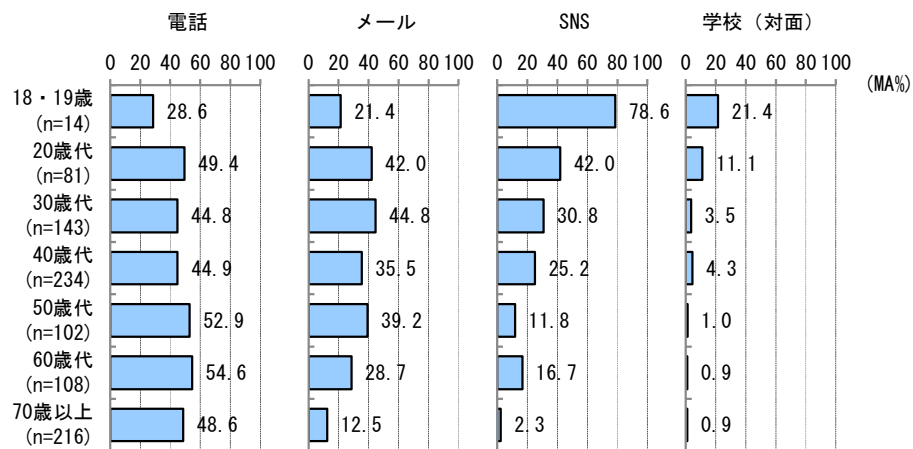
・相談するとしたらどのような方法や場所がいいかについては、「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」が50.3%と最も高く、次いで「電話」が47.9%、「支援機関(対面)」が43.1%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「メール」の割合が5.9ポイント高く、男性は女性より「支援機関(対面)」の割合が10.8ポイント高くなっています。



・年代別にみると、概ね若い年代ほど「SNS」の割合が高い傾向にあり、18・19歳で78.6%となっています。また、全ての年代で「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」の割合が40%を超えており、20歳代で56.8%となっています。

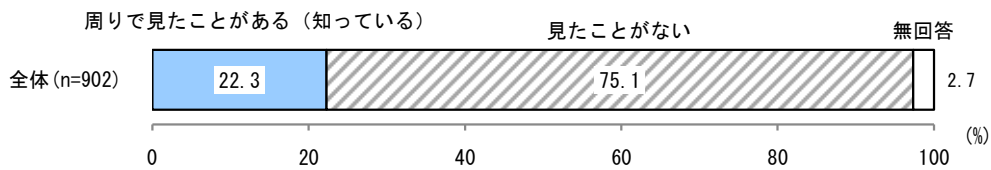


6. 困難な問題を抱える男性の支援について

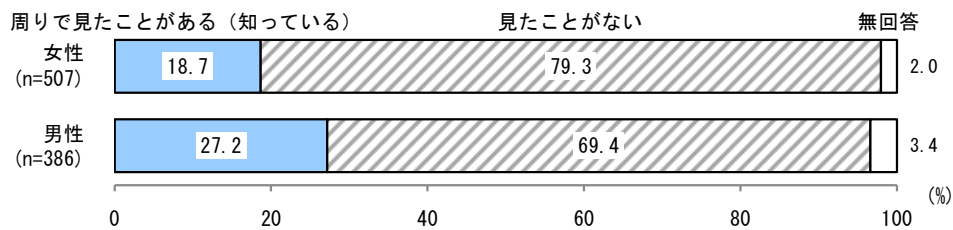
問31 困難な問題を抱えている男性について見たり聞いたりした経験の有無について

問31 厚生労働省・警察庁による「令和4年中自殺の状況」によると、男性の自殺者数は女性の約2.1倍であり、様々な問題を抱える男性の増加が想定されます。あなたの周りで困難な問題を抱えている男性を見たか聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

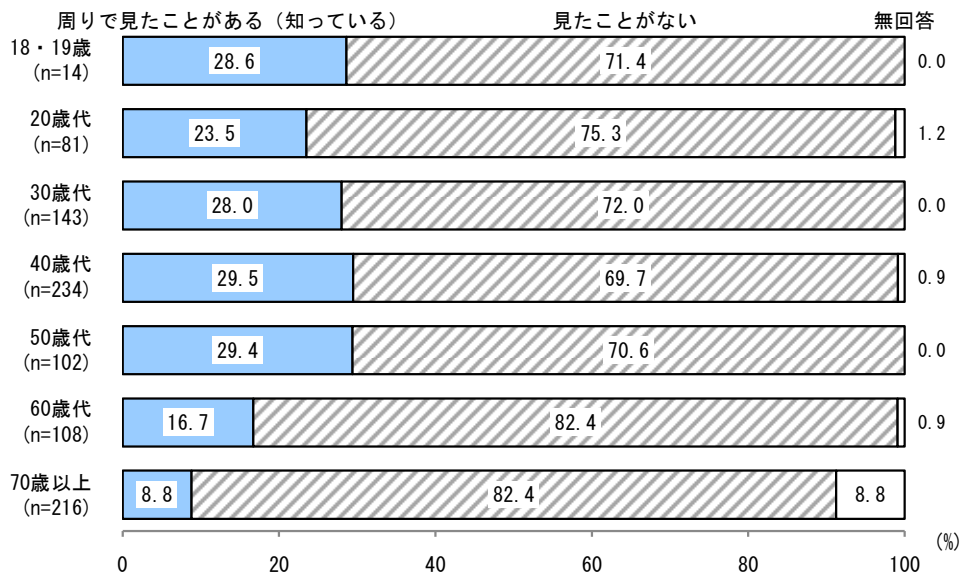
・困難な問題を抱えている男性については、「見たことがない」が75.1%、「周りで見たことがある(知っている)」が22.3%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「見たことがない」の割合が9.9ポイント高くなっています。一方で、男性は女性よりも「周りで見たことがある(知っている)」の割合が8.5ポイント高くなっています。



・年代別にみると、18～50歳代で「周りで見たことがある(知っている)」の割合が20%を超えており、40歳代で29.5%となっています。一方で、「見たことがない」の割合は40歳代を除く全ての年代で約70%を超えており、60歳代と70歳以上でともに82.4%となっています。

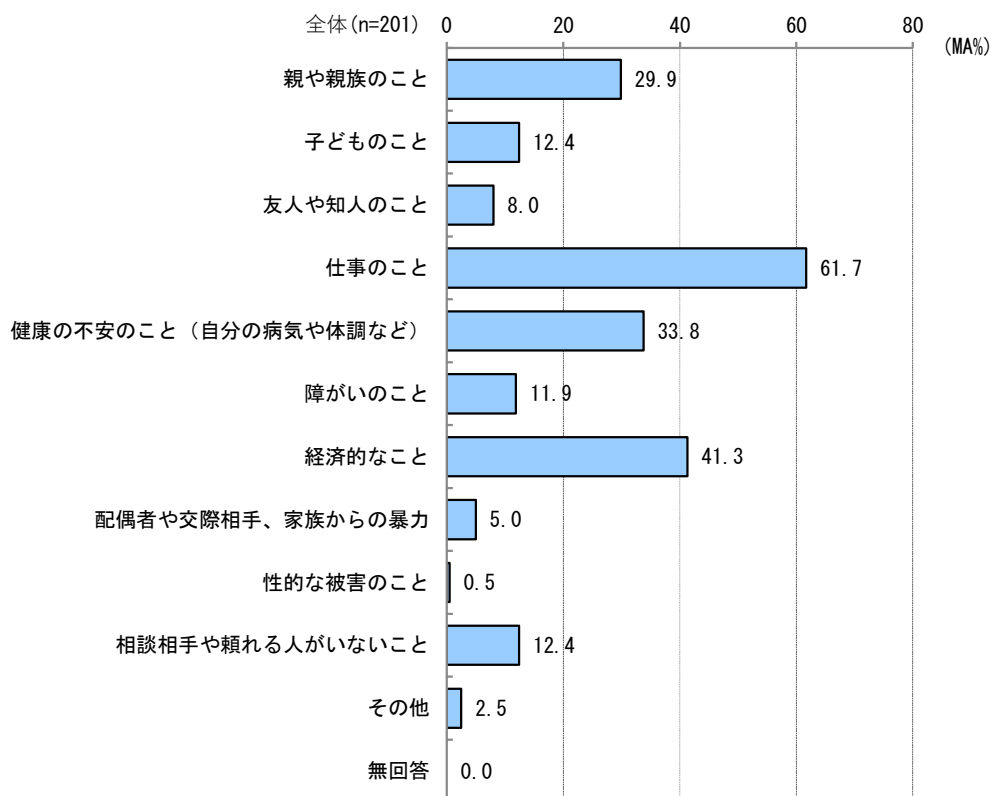


問31-1 どのような問題を抱えているのか

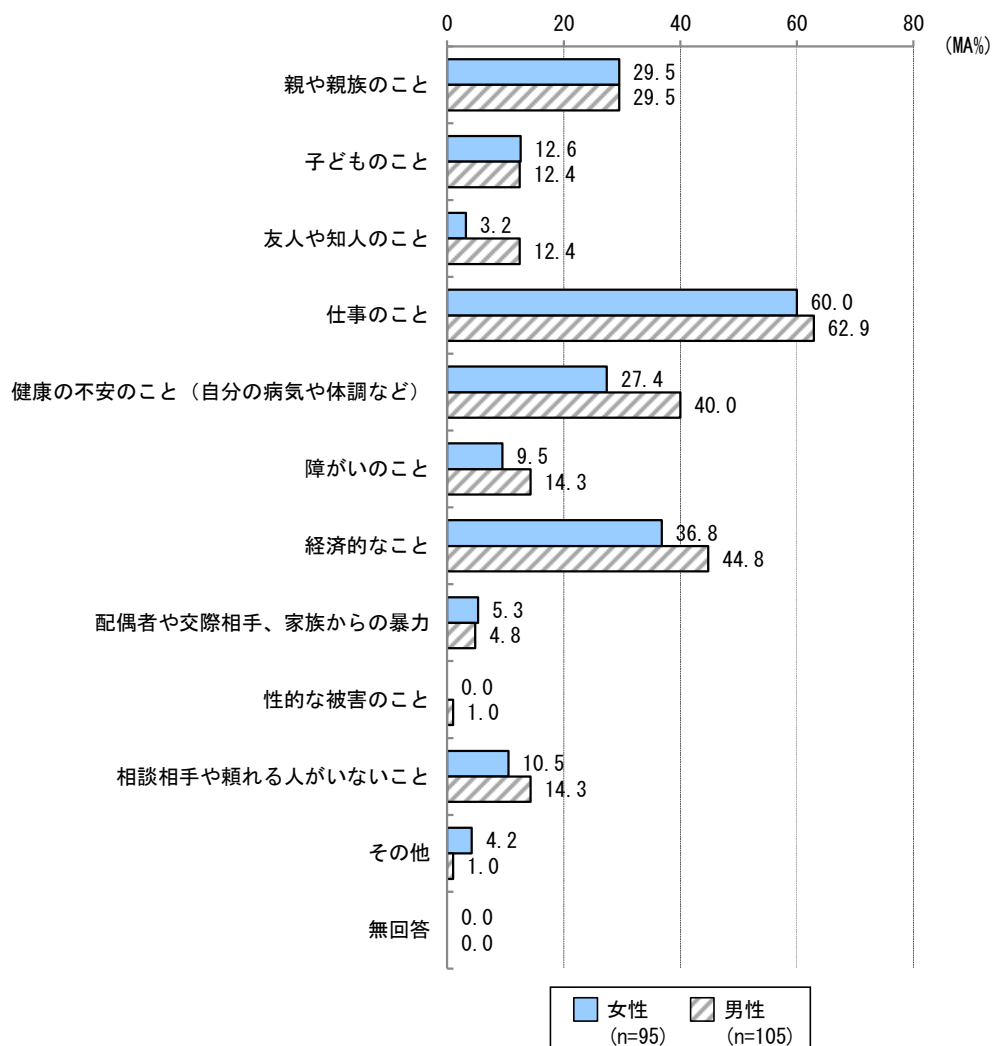
【問31で「1.周りで見たことがある(知っている)」と答えた人におたずねします。】

問31-1 周りの方はどのような問題を抱えていますか。(〇はいくつでも)

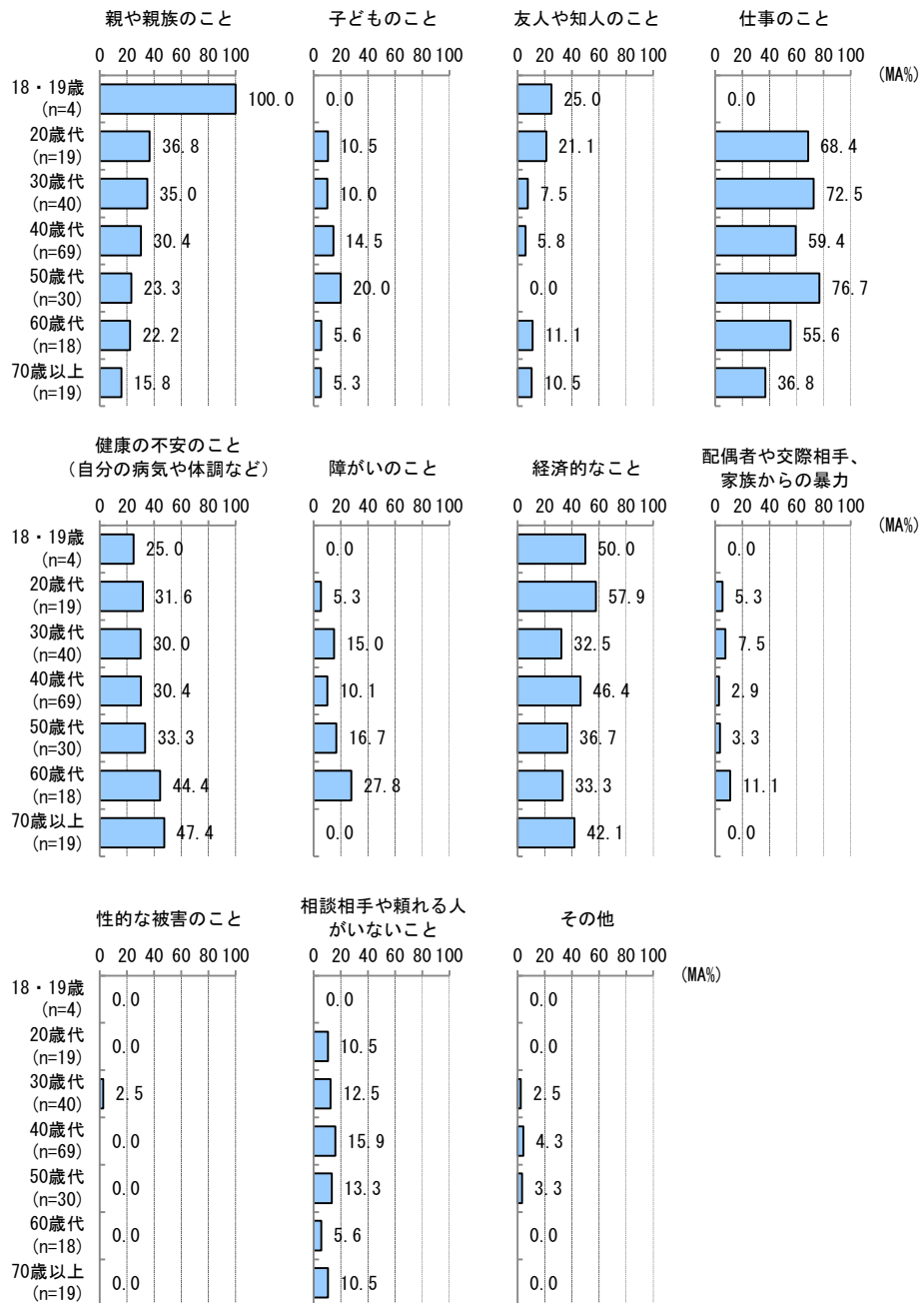
・どのような問題を抱えているのかについては、「仕事のこと」が61.7%と最も高く、次いで「経済的なこと」が41.3%、「健康の不安のこと(自分の病気や体調など)」が33.8%となっています。



・性別にみると、男性が女性の割合を上回っている項目が多く、「健康の不安のこと(自分の病気や体調など)」では女性より12.6ポイント高くなっています。



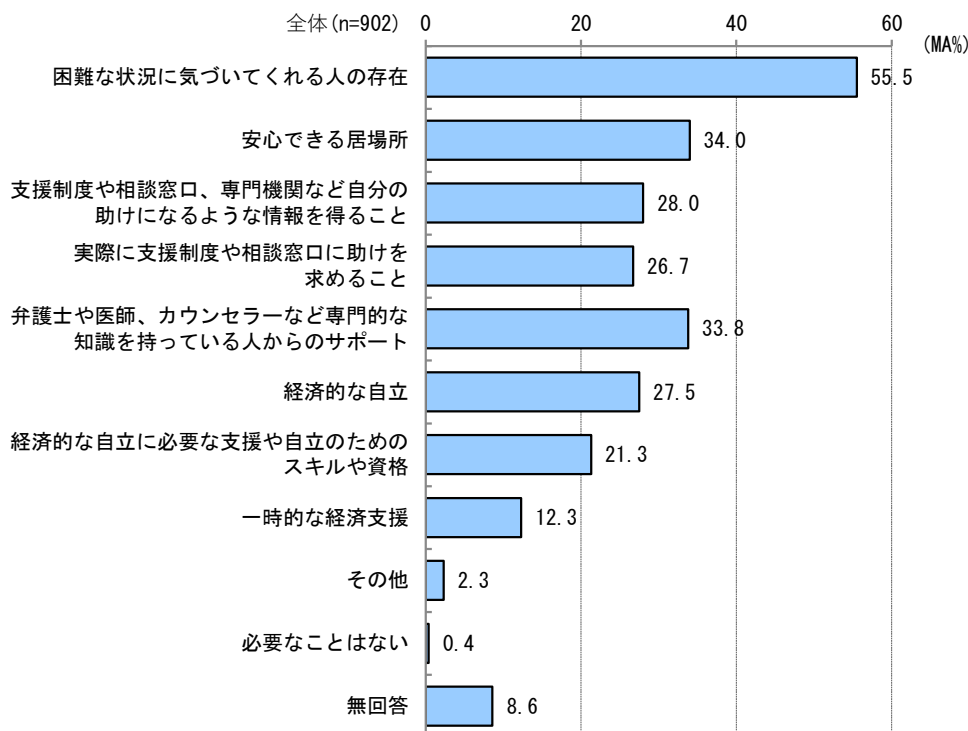
・年代別にみると、若い年代ほど「親や親族のこと」の割合が高い傾向にあり、20歳代で36.8%となっています。また、「健康の不安のこと(自分の病気や体調など)」の割合は概ね年代が上がるほど高い傾向にあり、70歳以上で47.4%となっています。



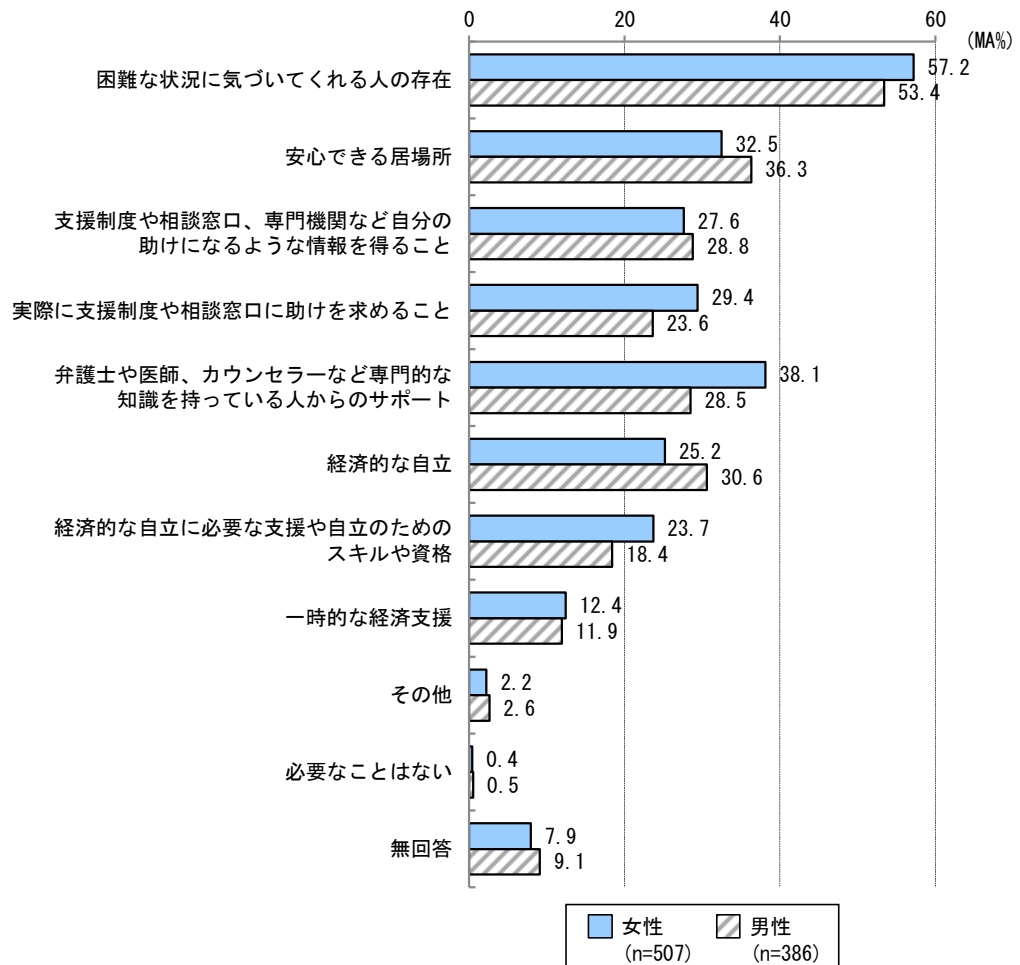
問32 男性が困難な状況から回復するために必要なこと

問32 男性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (特に必要だと思うものを3つまで○)

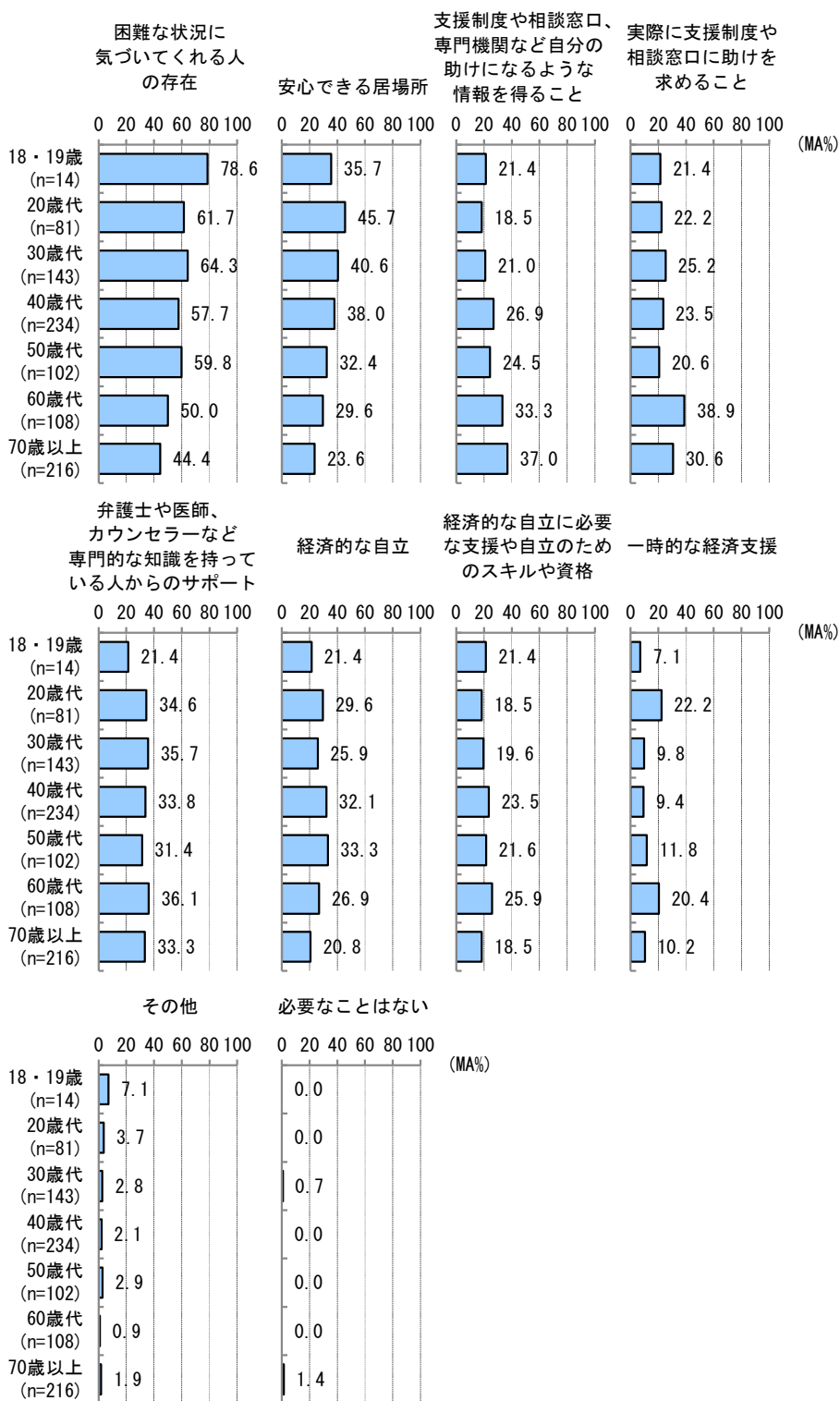
・男性が困難な状況から回復するために必要なことについては、「困難な状況に気づいてくれる人の存在」が55.5%と最も高く、次いで「安心できる居場所」が34.0%、「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」が33.8%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート」の割合が9.6ポイント高く、男性は女性よりも「経済的な自立」の割合が5.4ポイント高くなっています。



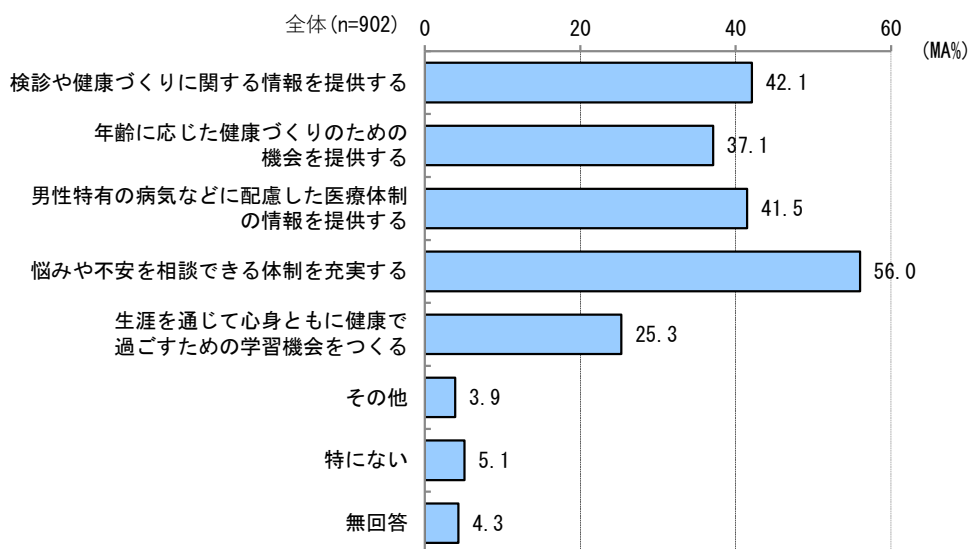
・年代別にみると、全ての年代で「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が40%を超えており、18・19歳で78.6%となっています。一方で、「支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること」は概ね年代が上がるほど高い傾向にあり、70歳以上で37.0%と高くなっています。



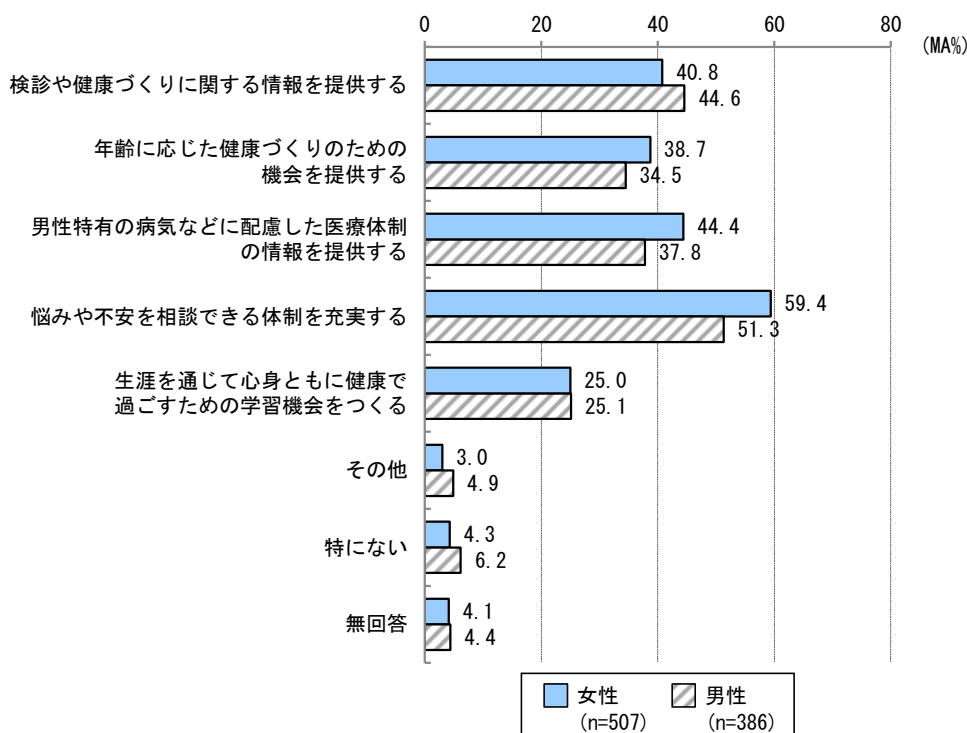
問33 男性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組

問33 男性のこころとからだの健康を保つために、池田市はどのような取組をする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

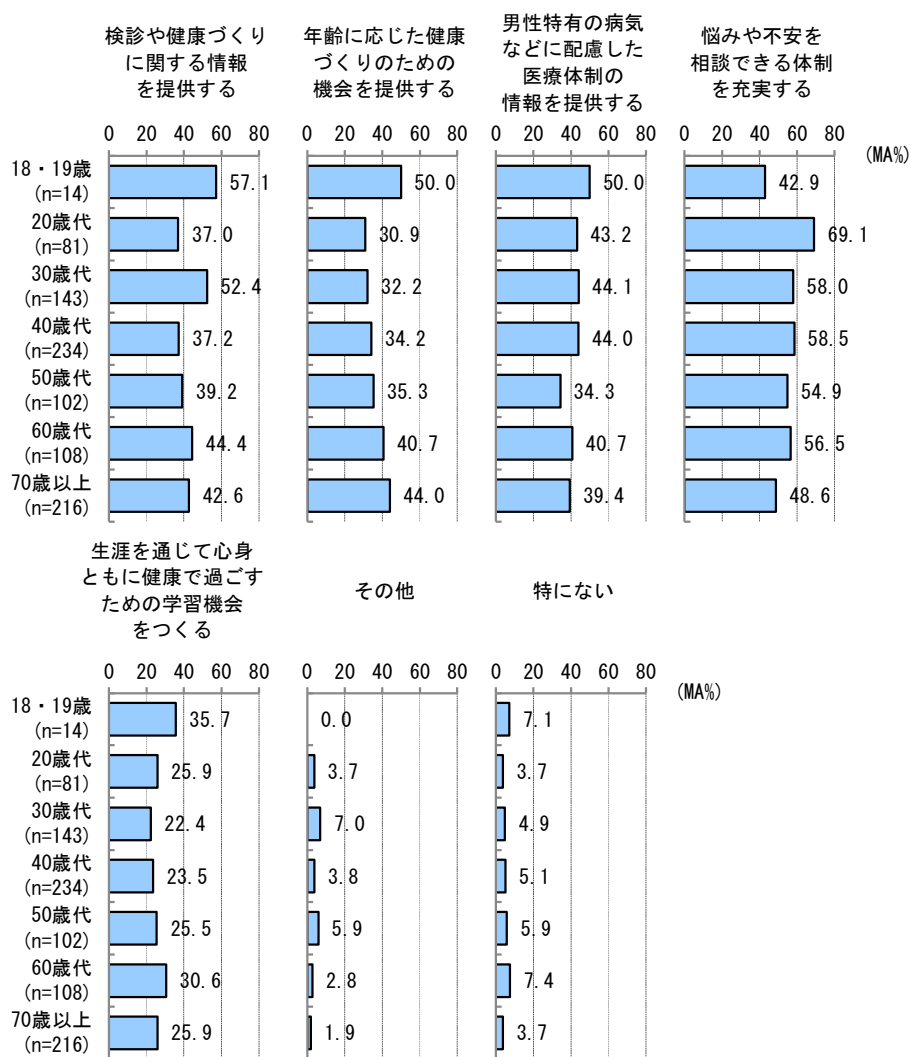
・男性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組については、「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が56.0%と最も高く、次いで「検診や健康づくりに関する情報を提供する」が42.1%、「男性特有の病気などに配慮した医療体制の情報を提供する」が41.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「男性特有の病気などに配慮した医療体制の情報を提供する」の割合が6.6ポイント、「悩みや不安を相談できる体制を充実する」の割合が8.1ポイント高くなっています。



・年代別にみると、全ての年代で「悩みや不安を相談できる体制を充実する」の割合が40%を超えており、20歳代で69.1%と高くなっています。一方で、「年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する」の割合は18・19歳を除いて年代が上がるほど高い傾向にあり、70歳以上で44.0%と高くなっています。

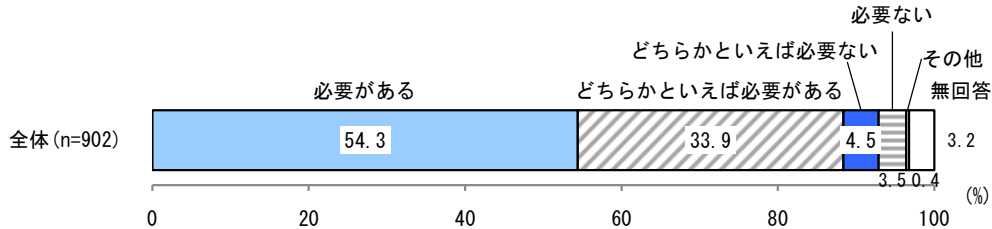


7. 男女共同参画の取組について

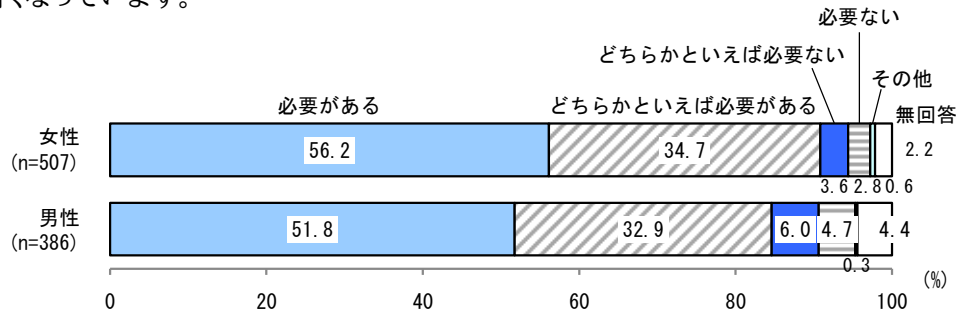
問34 防災・災害復興対策における性別に配慮した対応

問34 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。

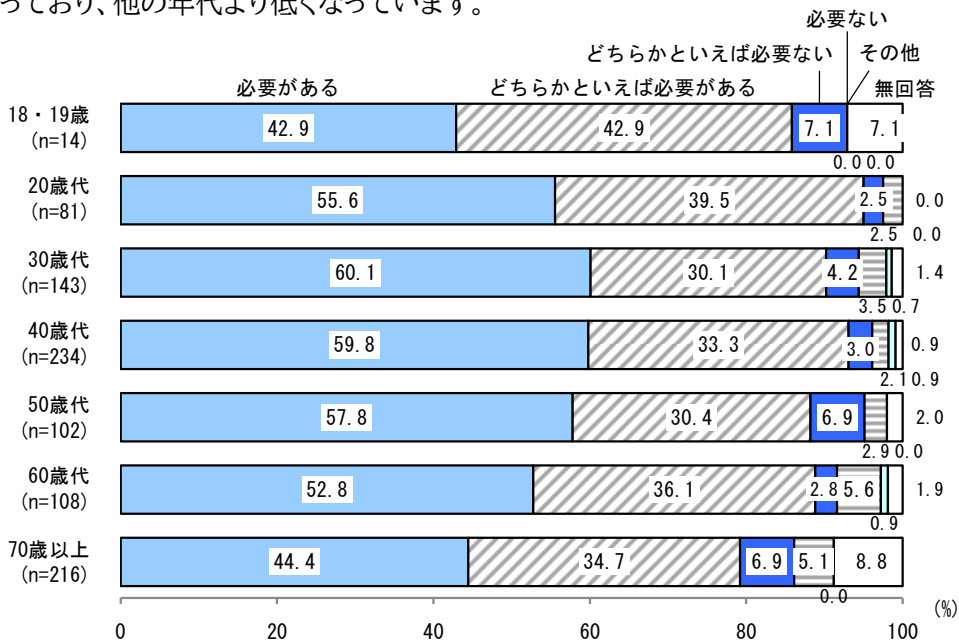
・防災・災害復興対策における性別に配慮した対応については、「必要がある」が54.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要がある」33.9%、「どちらかといえば必要ない」が4.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」を合わせた『必要がある』の割合が6.2ポイント高くなっています。



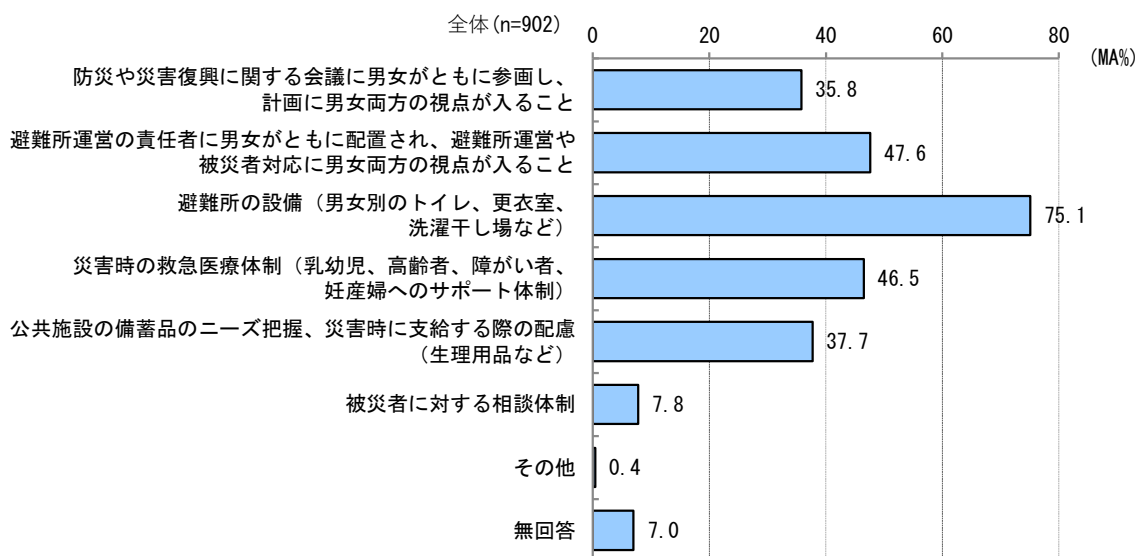
・年代別にみると、20～60歳代で「必要がある」の割合が50%を超えている一方で、18・19歳と70歳以上では45%を下回っており、他の年代より低くなっています。



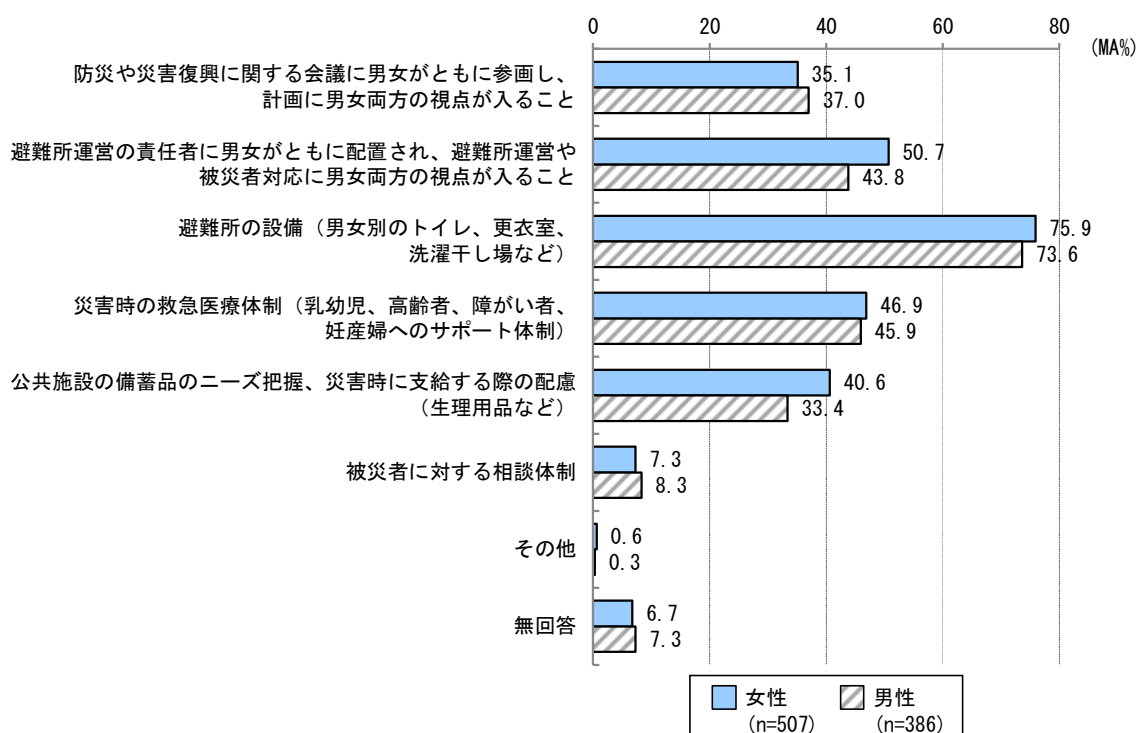
問35 防災・災害復興対策において必要と思われる性別に配慮した対応

問35 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことはどのようなことだと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

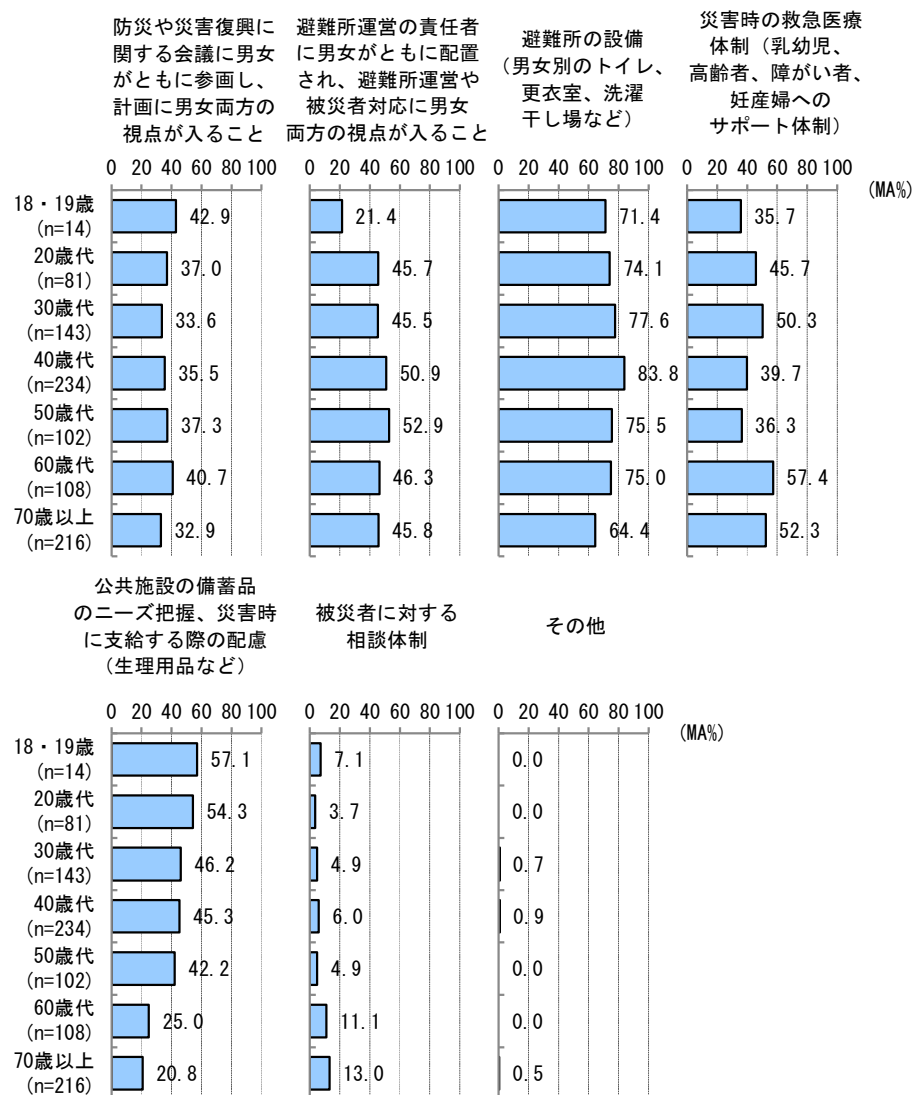
・防災・災害復興対策において必要と思われる性別に配慮した対応については、「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など)」が75.1%と最も高く、次いで「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が47.6%、「災害時の救急医療体制(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制)」が46.5%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」の割合が6.9ポイント、「公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮(生理用品など)」の割合が7.2ポイント高くなっています。



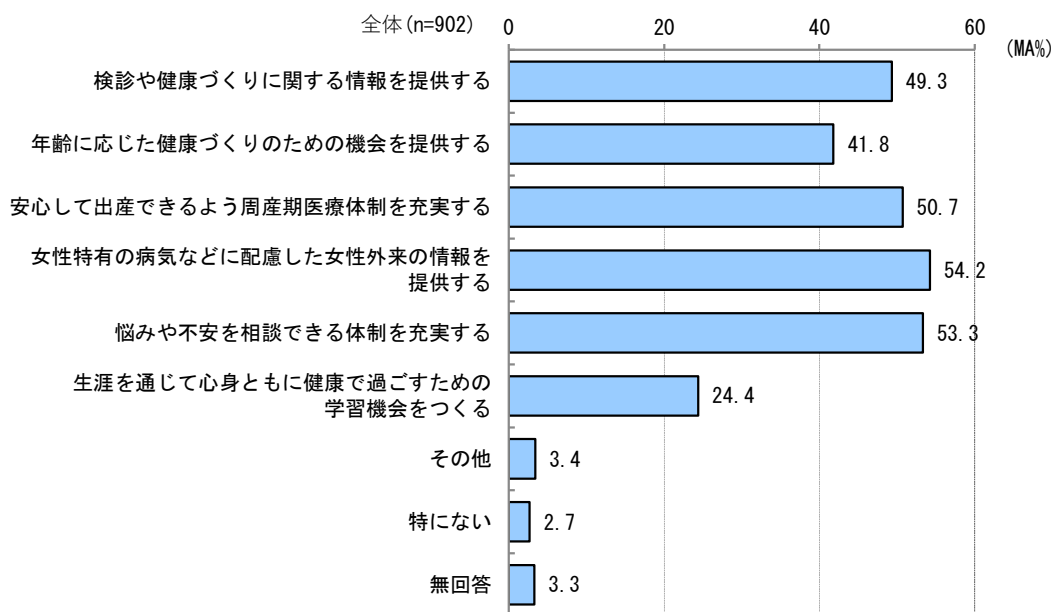
・年代別にみると、全ての年代で「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など)」の割合が60%を超えており、40歳代で83.8%となっています。また、若い年代ほど「公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮(生理用品など)」の割合が高い傾向にあり、18・19歳で57.1%となっています。



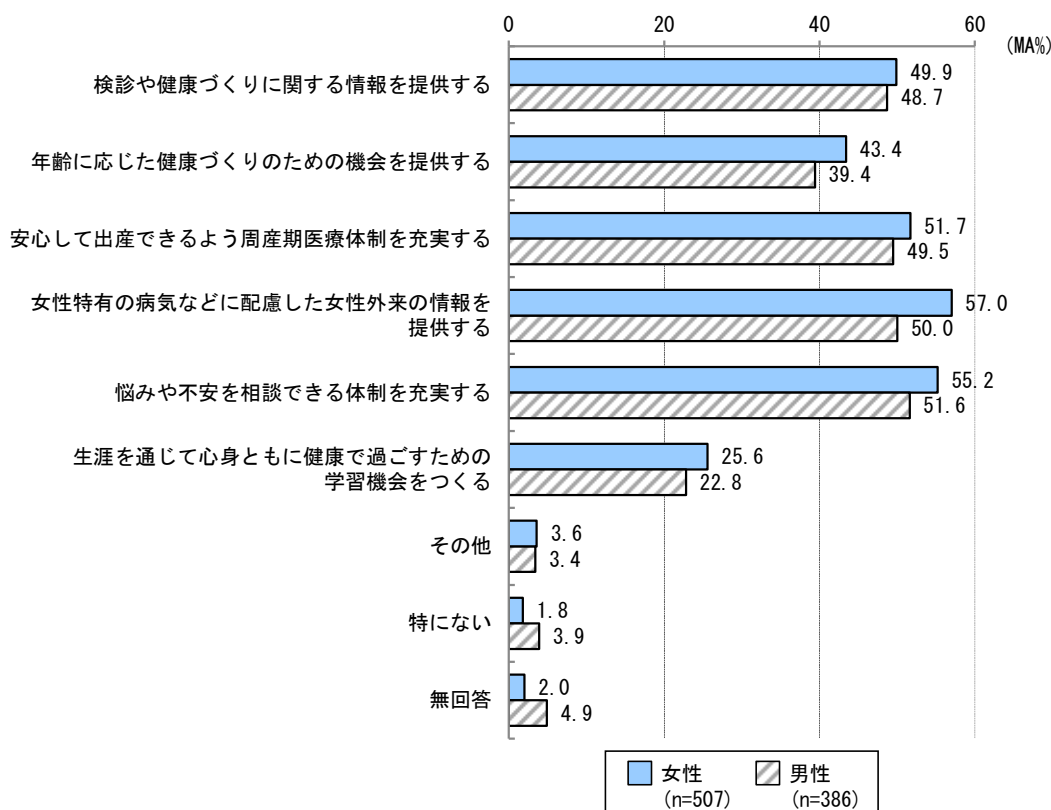
問36 女性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組

問36 女性のこころとからだの健康を保つために、池田市はどのような取組をする必要があると思いますか。(〇はいくつでも)

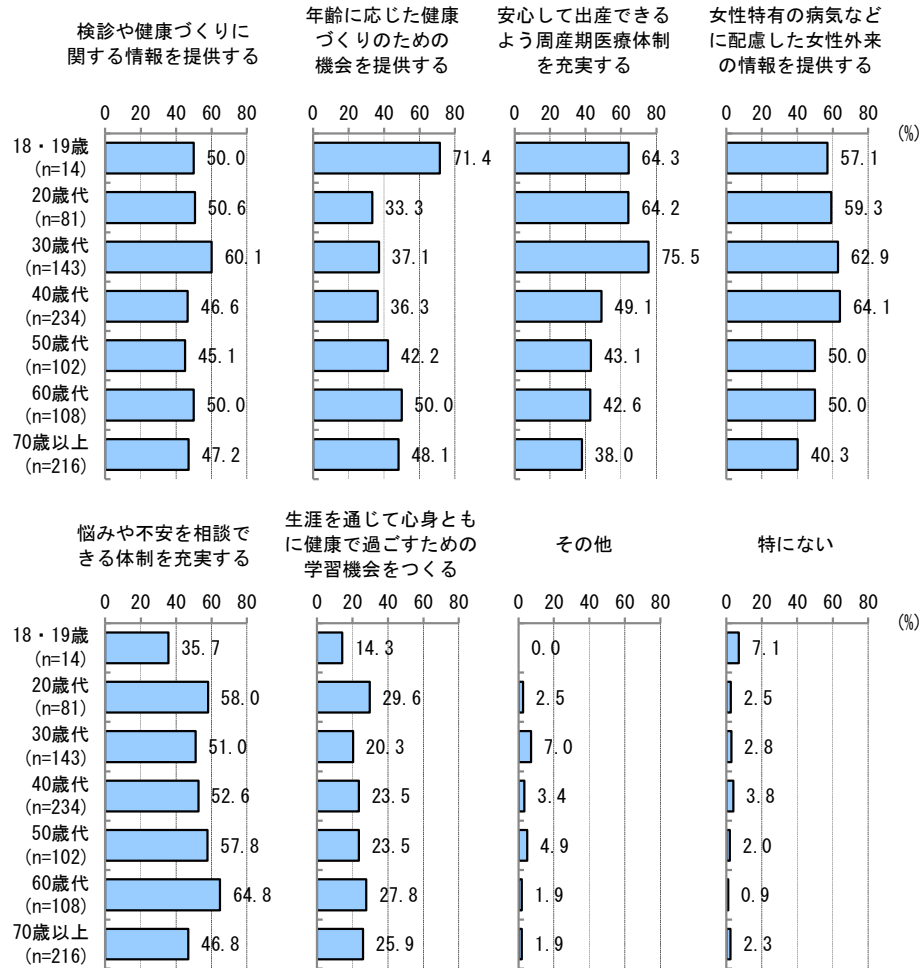
・女性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組については、「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」が54.2%と最も高く、次いで「悩みや不安を相談できる体制を充実する」が53.3%、「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」が50.7%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」の割合が7.0ポイント高くなっています。



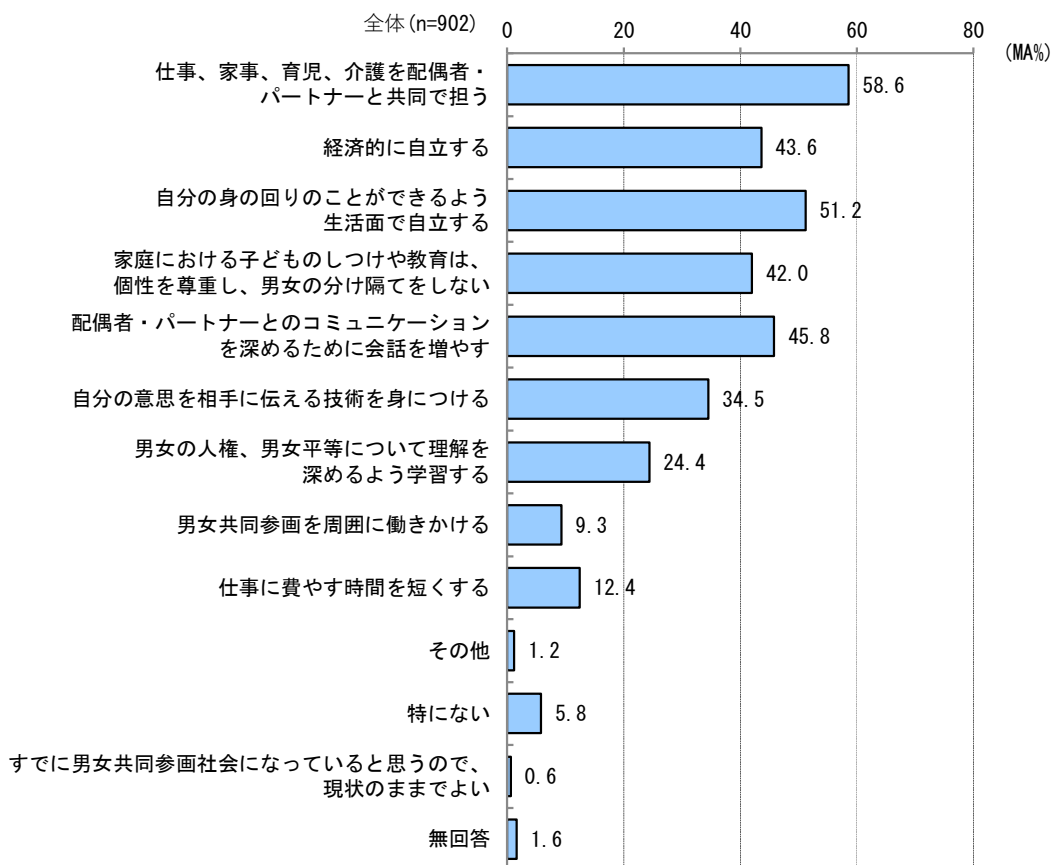
・年代別にみると、全ての年代で「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」の割合が40%を超えており、40歳代で64.1%と高くなっています。また、概ね若い年代ほど「安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する」の割合が高い傾向にあり、30歳代で75.5%と高くなっています。



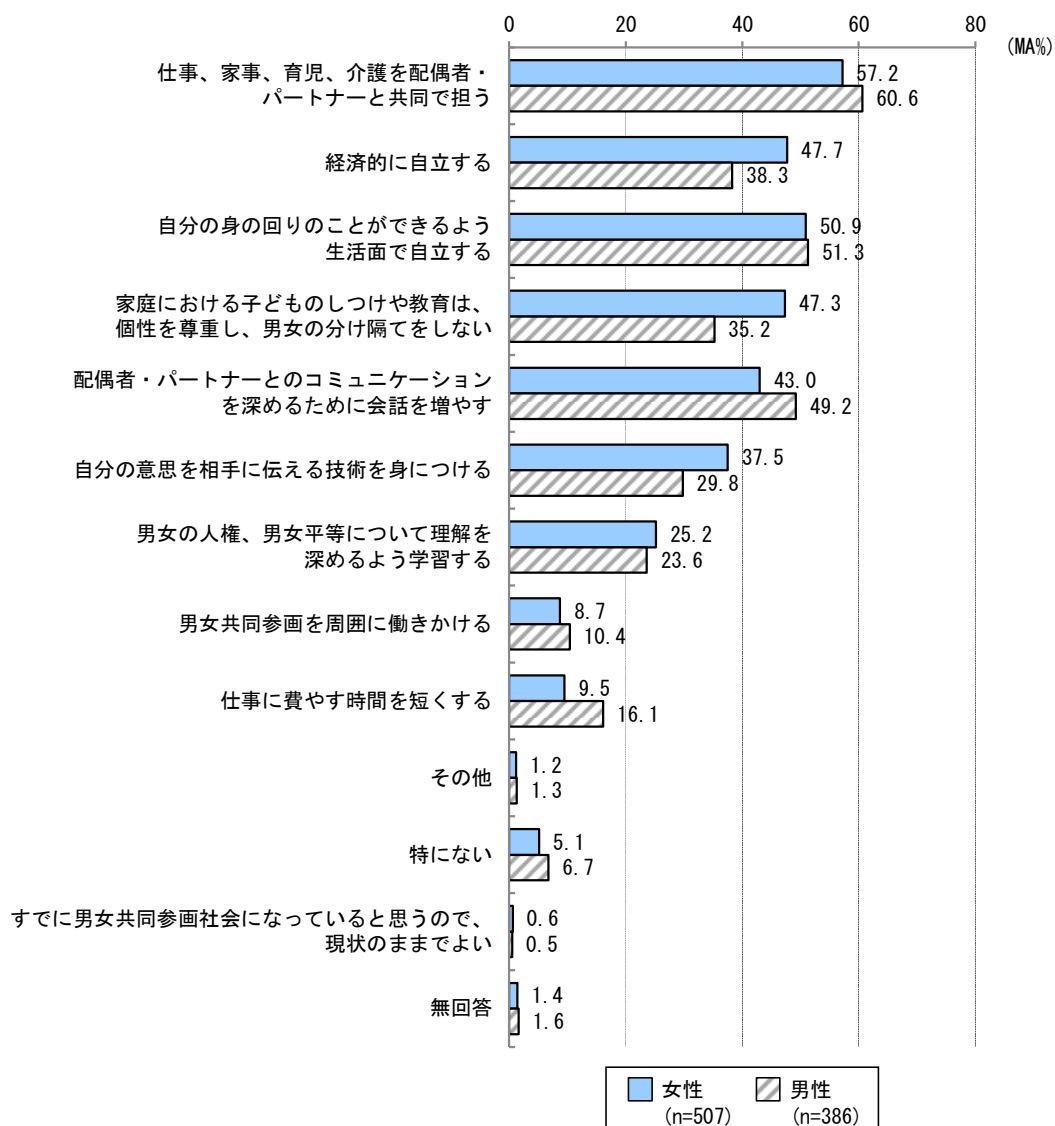
問37 男女共同参画社会をつくるためにできることについて

問37 男女ともに社会における責任を分かち合う「男女共同参画社会」をつくるために、あなた自身には何ができるとお考えですか。(〇はいくつでも)

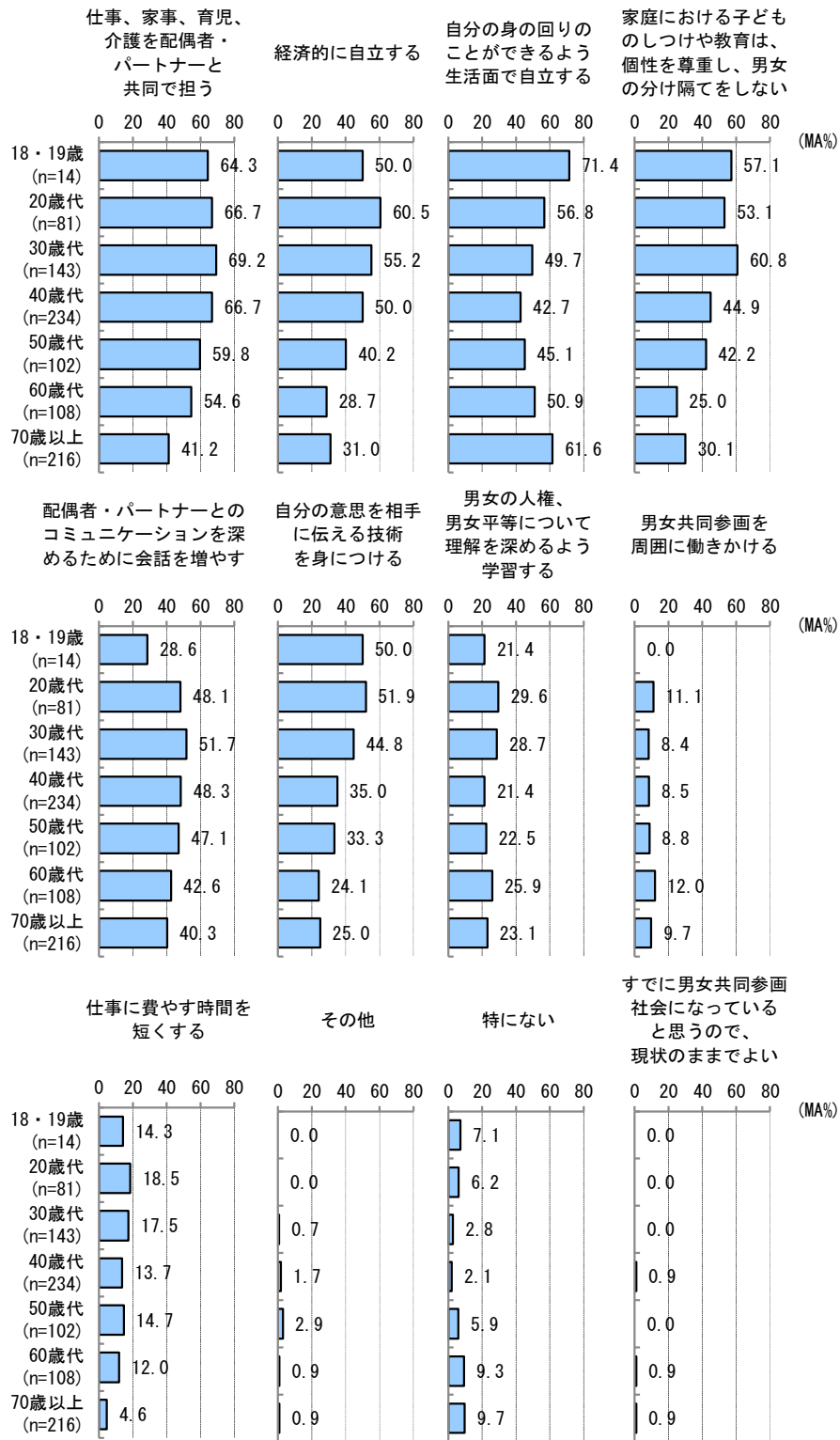
・男女共同参画社会をつくるためにできることについては、「仕事、家事、育児、介護を配偶者・パートナーと共同で担う」が58.6%と最も高く、次いで「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」が51.2%、「配偶者・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす」が45.8%となっています。



・性別にみると、女性は男性よりも「家庭における子どものしつけや教育は、個性を尊重し、男女の分け隔てをしない」の割合が12.1ポイント高く、男性は女性よりも「仕事に費やす時間を短くする」の割合が6.6ポイント高くなっています。

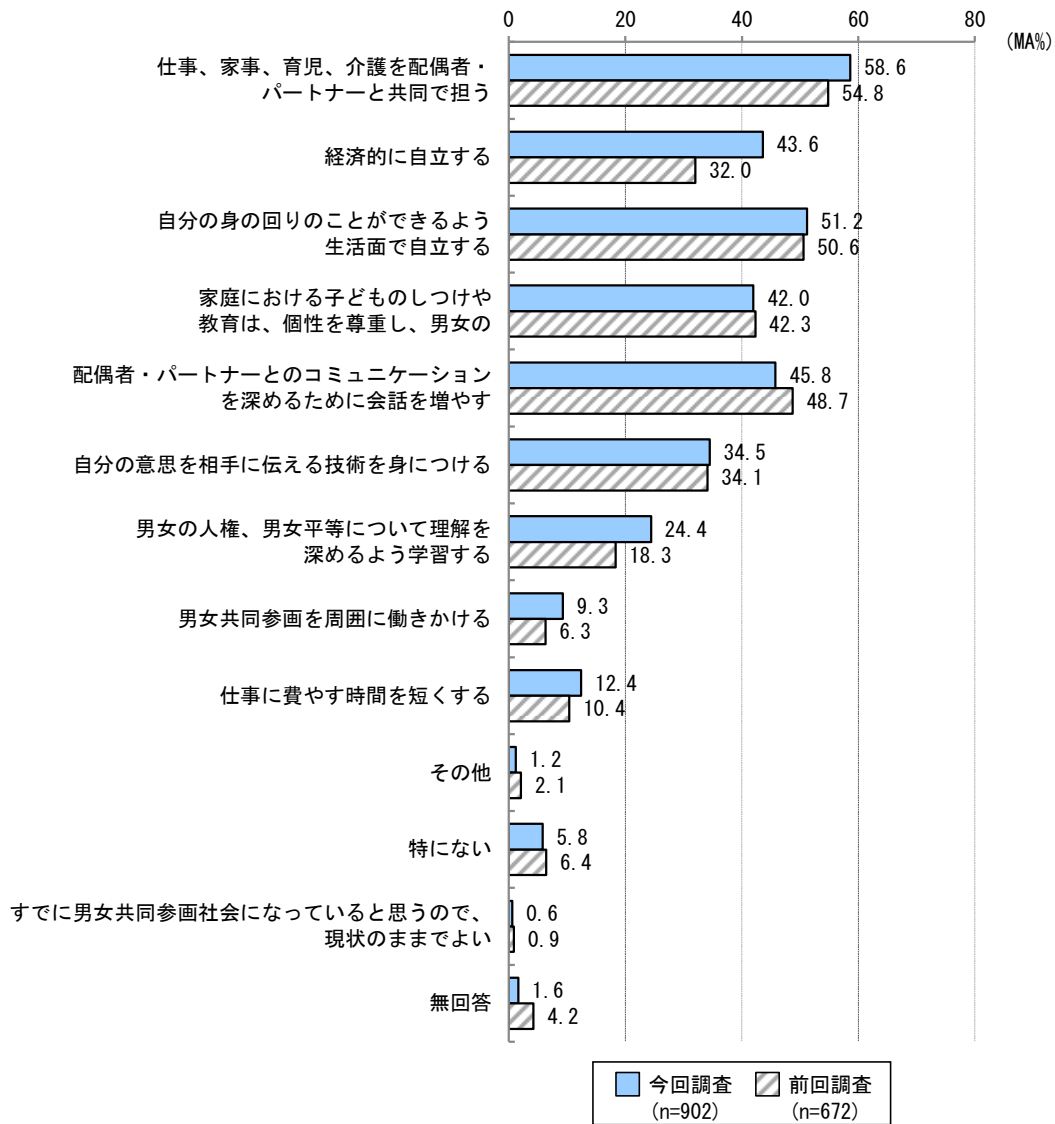


・年代別にみると、全ての年代で「仕事、家事、育児、介護を配偶者・パートナーと共同で担う」と「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」の割合が40%を超えています。また、概ね若い年代ほど「自分の意思を相手に伝える技術を身につける」の割合が高い傾向にあり、20歳代で51.9%と高くなっています。



◇ 前回調査との比較

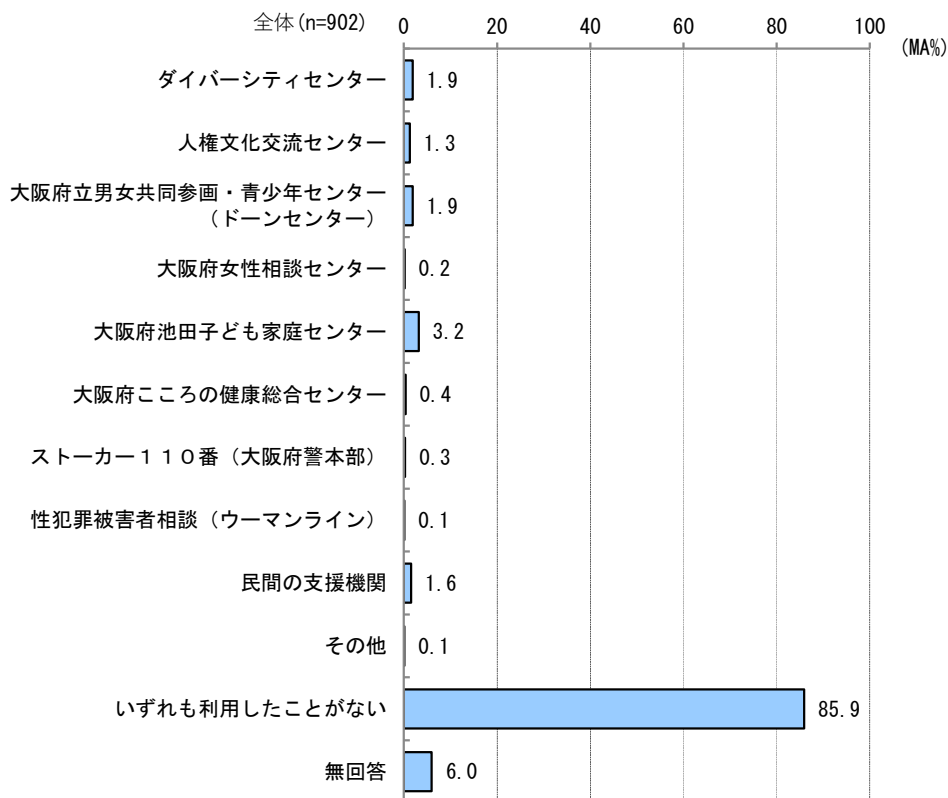
・前回調査と比べると、今回調査は「経済的に自立する」の割合が11.6ポイント、「男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する」の割合が6.1ポイント高くなっています。



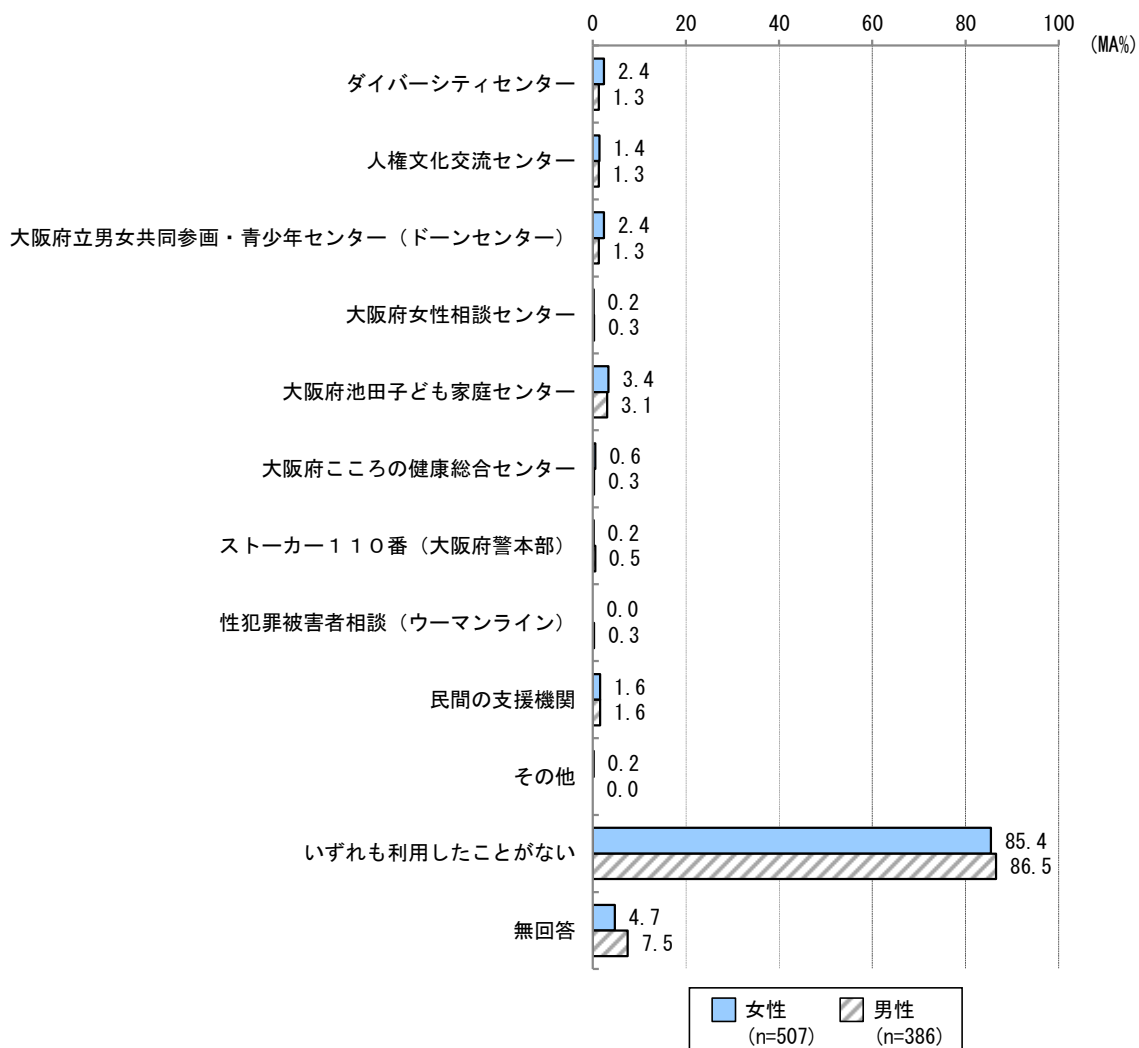
問38 行政機関や支援機関を利用した経験の有無について

問38 あなたは、下記の行政機関や支援機関を利用したことがありますか。(〇はいくつでも)

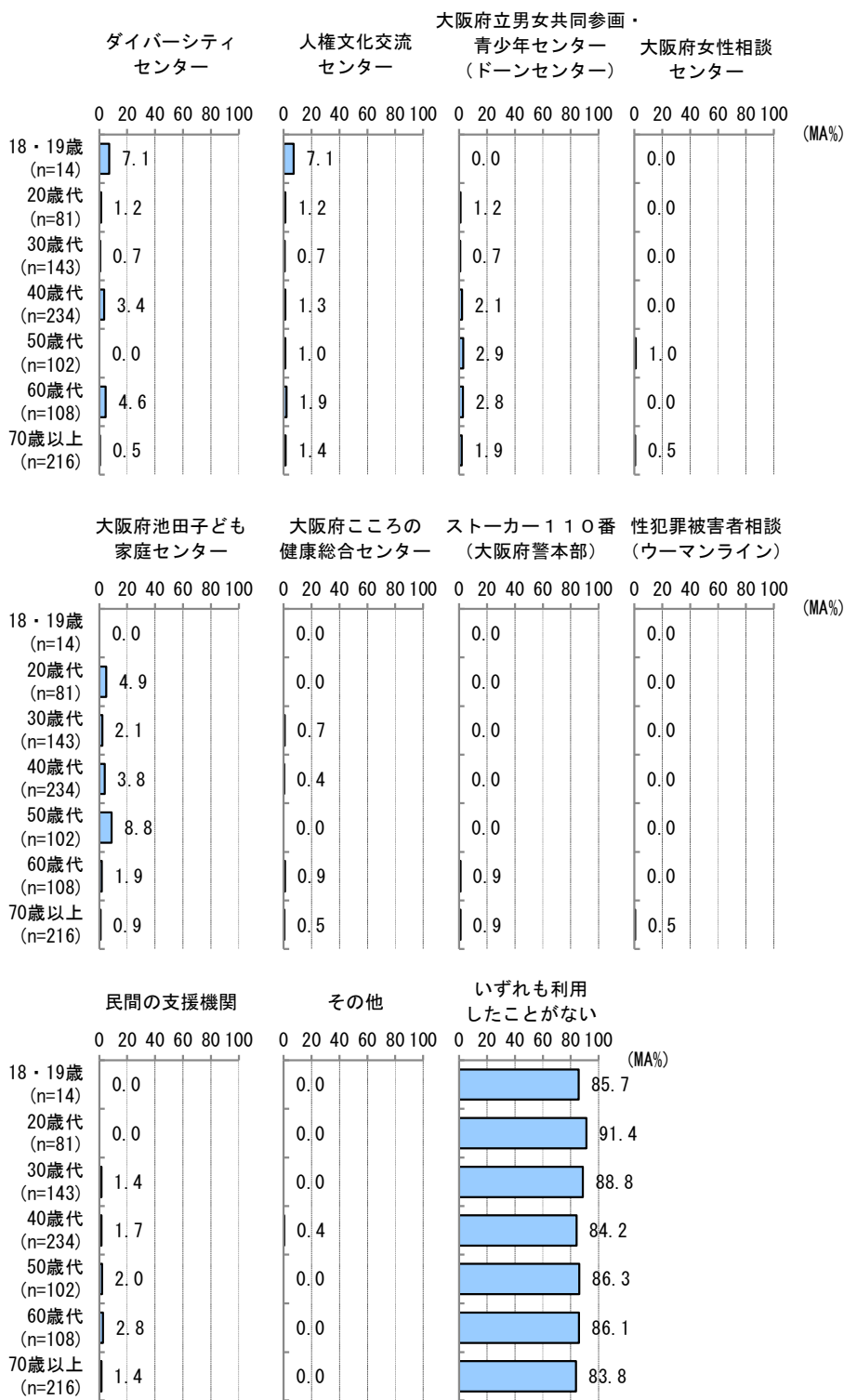
・行政機関や支援機関を利用した経験の有無については、「いずれも利用したことがない」が85.9%と最も高く、次いで「大阪府池田子ども家庭センター」が3.2%となっています。



・性別による大きな差はありません。



・年代別にみると、全ての年代で「いずれも利用したことがない」の割合が80%を超えており、20歳代で91.4%となっています。



問39 自由意見

問39 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

・145件の回答があり、意見分類した結果意見総数は223件となりました。最も多い意見は「市政、行政関係」で31件、次いで「男女共同参画について」(27件)、「アンケート調査について」・「男女平等、差別」(26件)となっています。以下に、意見内容を分類した表と、カテゴリーごとに主な意見を抜粋した表を掲載しています。

※意見総数は「特になし」を除外しています。

<意見グループ一覧>

1	市政、行政関係	31件
2	男女共同参画	27件
3	アンケート調査	26件
4	男女平等、差別	26件
5	教育関係	18件
6	子育て	11件
7	尊重しあい、思いやり	10件
8	多様な性のあり方	6件
9	広報、啓発	6件
10	その他	63件
11	特になし	17件

<主な自由意見>

市政、行政関係			
1	男性	20歳代	企業が「育休」に対して前に比べると取得しやすい世の中になってきたが、業務負荷によって取りやすさが部署によっても異なるという現実があります。行政として介入は難しいかもしれませんが法整備等、仕組みを検討いただけると幸いです。
2	女性	30歳代	問33のような質問、行政の発信方法がとてやり方が昔すぎる。もっと民間や市民へどういうふうと一緒に進んでいけるか、聞き耳をもってもらえるか、若者層へのアピール、アプローチの方法など考えるべき。私達市民で利用できるもの、支援等はほしい。もっとわかりやすく利用しやすいようにしてほしい。
3	女性	40歳代	学生のうちは、比較的男女平等に生活していくと思うが、入る会社によって男女平等の意識に差が大きく、そこで失望する人も多いと思う。会社規模に関わらず、こうした意識改革をすることができるような研修を、行政が出来たら良いのでは。
4	男性	50歳代	池田市が実現したい男女共同参画社会とはどういう姿のことを示すのか？まずビジョンを明確にすることが大切だと思います。

男女共同参画			
1	男性	30歳代	男女共同参画という言葉が抽象的かつ高尚すぎて具体像が全く伝わってこない。政治家が具体的フェーズに落とし込んで国民的議論を起し、その結果を政策に反映していくようにしないと社会は変わっていかないとと思う。
2	女性	50歳代	「男女共同参画社会」この名前がわかりにくい。
3	女性	50歳代	今世の中は男性を上を考え、できるシステムが多すぎる。女性が外へ出て、働くということは、いろいろな障害がありすごく大変なことだと思う。家庭での女性の仕事は男性よりも多いと思う。それを理解して、いろいろなことが決まれば良いと思う。女性にも体力の限界はある。

アンケート調査			
1	女性	40歳代	問12については人によって対象とする家事、育児、介護の内容がバラバラで同じ行為を行っていても時間に含めたり含めなかったりするのではないかと。またアンケートに回答している時の精神状態によっても変わってくるので、現状を反映するものではないと感じる。
2	男性	60歳代	アンケートの質問が多すぎる。時間に余裕のある人しか答えようと思わない。数回に分けるとか質問の項目を目的別に分けるとか配慮が必要だと思います。
3	女性	70歳以上	現役世代への特化したアンケートをするべき。アンケート依頼で終わらず、結果報告が大事。

男女平等、差別			
1	女性	40歳代	人権は男女平等であるべきですが、やはり、男女の区別は必要です。男性が得意な事、女性がやった方が良い事もあるので、それぞれの良さを認め合い、協力してより良い世の中を作ろうという教育をしてほしい。男も女も必要ですから。
2	女性	50歳代	ジェンダー平等への意識が皆ふつうになっていくといいと思います。女性でも家事が不得意な人もいるので、「女性は家事ができて当たり前、家事をするべき」という考えが当たり前ではないという様になってほしいです。家事が不得意（男性レベル位ある位）な女性を、常に周りからどうして皆の様に（他の女性の様に）旦那や他の家族の分の家事をしないの？と聞かれ続けるという様にならない社会になってほしい。
3	男性	50歳代	なんとなく今の時代、女性〇男性×みたいな感じがします。特に中高年の男性で成功している人とそうでない人の差を感じます。男性でも困っている方、つらい立場の方が多くいらっしゃると思うので女性と同じくらい力をいれてもらいたいと思います。

教育関係			
1	女性	40歳代	何が何でも行政に頼りすぎ！他人の事を考えたり、迷惑をかけない道徳的な事を中心に教育の中身を精査したほうがよい。あまりにも世の中自由が広く勘違いが多すぎ。自由とは一定のルールの中でお互いを助ける尊重する事。教育の問題。
2	女性	40歳代	小学生からの学校教育において子供を産むことができるのは女性だけで、これからの日本の少子化問題を考えると女性の存在が本当に大切であることや女性を大事にすることなどをもっと教えてほしい。
3	男性	40歳代	家庭に根付いた男女の役割分担意識と職場における同様の意識をゆるやかに変えていくことが必要と考えており、学校教育などがその役割を任うのではないかと思う。

子育て			
1	女性	30歳代	子供の虐待について、ニュースで聞かたび苦しくなります。子供を守る、むやみに子供を作らないように性教育の充実、周囲が協力して子供を守るなど、子供に対する教育が大事でその幸せに子供が暮らせることが1番大切でないでしょうか。
2	女性	30歳代	池田市において私が個人的に困っていることは小学校3年生までしか「留守家庭児童会(なかよし会)」に入会できないことです。小学4年生以降の受け入れの場として、長期休みなどに石橋にあるツナガリエなどでイベントを開催したり、大学生からボランティアを募り宿題をみんなでやってみて大学生ボランティアの人に補助してもらおう等、そんな場があればいいなと思っております。周りでも「小1のカベ」に続き「小4のカベ」で悩んでおられるので、ご検討いただけるのであれば幸いです。また協力させてもらえることがあればお声かけください。
3	女性	40歳代	子供が小4以降は学童保育を使用できず、池田市での子育てに限界を感じています。何とか早急に小6まで学童保育を利用できるようになりませんかでしょうか。よろしくお願いします。
4	女性	40歳代	夜間保育施設があれば安心して働けるのにと何度も思いました。
5	女性	40歳代	今回の事とは違いかもかもしれませんが、子育て支援は幼児ばかりでなく高校生以上でもしてほしい。今の日本は収入が、上がりにくいなか大学にかかる費用があがっていて、一番お金がかかります。子供に借金を抱えて社会人になってもらうのは嫌なので、市は給付型などで、学びたい子は費用を気にせず行ける環境を整えてほしい。

尊重しあい、思いやり			
1	女性	40歳代	近頃、男女問わず、以前に比べると自分のことしか考えられない人や身勝手な考えをする人が増えていると思います。あくまで個人の問題として捉えなければならぬ事も多々あると思います。男女平等という言葉でさえどうなんだろうと思ったりもします。男女問わず、老若男女全ての人が平和に暮らせる世の中になってほしいです。実際に男だからできること女しかできないことなどもあるので平等と言ってもなかなか難しいと思います。お互いを尊重していけたらいいです。
2	男性	40歳代	完全な男女平等は不可能だと思いますが、性別にこだわることなく、相手を思いやる気持ちを皆が持てる社会になれば少しずつ良い社会になると思います。
3	女性	70歳以上	家庭生活において役割分担は一応決めても、その時の体調や疲れの程度等思いやりを持ってフレキシブルに補いあうようにしていく。

多様な性のあり方			
1	女性	20歳代	男女と分けて考えず、全員を一人の人間として皆が考えられる社会がいつか訪れる、そう願って暮らしています。
2	男性	40歳代	性差と性差別を混同せず、不都合な事を差別にすりかえないでほしい。性差をなくすような活動を改め、男らしくありたい、女らしくありたい人の存在を無視しないでほしい。それが多様性ではないか。男女平等と言いつつ、女性優位な事柄を無視し、男性ばかりに妥協を強いるべきではない。
3	男性	50歳代	ゆくゆくは性別にかかわらず（LGBTQ）の視点も含めた大きな枠で見えていく必要性を感じます。まずは男女におけるジェンダー格差をどのように狭め融合させていくのか。古い昔ながらの習慣にとらわれず、良いところはそのままに変えるべき点は今の時代に合ったものに改善していくことで、お互いがより良い関係でいられ生きていくことのできる街になればたいへん嬉しく思います。いつも市民のためにご尽力いただきありがとうございます。

広報、啓発			
1	男性	40歳代	現状では池田市が男女共同参画社会実現に横断的に取り組んでいるようには生活をする中で感じたことはないのによりPRや一般に認知される場での活動が必要となると思います。社会的な風潮としてやらざるを得ないから取り組んでいるという域を出ていないように感じます。まずは行政に関わる全ての人材に男女共同参画の意識が根付くところから初めてください。
2	女性	60歳代	まず、行政機関や支援機関の存在を知ってもらえる様な働きかけ（ex.SNSなど）をすることが、大切だと思います。そしてもっと利用できるように勉強会や世間のハードルを下げることにフォーカスした活動も必要だと思います。助け合うということを持て、子供の頃から体験させることで（ex.ボランティア参加）もっと普通のこととして世間に広まるのではないかと思います。
3	男性	70歳以上	気長に啓発を続け、時には罰則も必要かと思う。

その他			
1	女性	20歳代	災害時に女性が性被害に遭いやすく、実際に受けた人が多いとSNSで見たことがあるため、災害時の性被害防止は強化するべきだと思う。
2	男性	20歳代	ひと昔前は男性が働き、女性が家事をするのが当たり前という時代でしたが、現在は労働者の賃金が低く、男女ともフルタイムで稼がなければ生活が成り立たない状態と考えます。男性が家事を行い、女性が働きに出て、一家を支えるに十分な収入を得られる経済的な余裕があれば男女不平等の問題の多くが解決すると考えます。
3	女性	30歳代	このようなアンケートは非常に希望が持てますので、どうぞ、将来のためにお役に立てたいと思います。応援していますので、どうぞよろしくお願いします。
4	女性	30歳代	妻が家計を支えている家庭の場合、妊娠、出産の際に収入がなくなる為、生活が維持できない。出産手当がでるにしても給料の満額ではないし、手当での支給も出産から数か月後ととても遅い。夫だけが黒柱であるという概念を取っ払った制度改革をしてほしい。
5	女性	30歳代	日本の女性の人権、地位が低く、特に賃金が低いこと、出産、子育てによるキャリア断絶、意思決定機関に女性がいない（ゼロ）ことが非常に問題であると思います。行政、公の相談窓口は往々にして男女の固定観念でアドバイスをする人がいると思います。その点、まずは振り返っていただき、日本の女性がどのような辛い立場にあるか理解に努めることが大事だと思います。
6	女性	30歳代	問38の機関についてどのような時にどう利用したらよいかを知らない。ハザードマップのようにヘルプマップ、サポートマップというようなわかりやすい案内等を転居時、出産時、就学時、その他のイベントなどで配布してもらうなどでもっと身近になると思う。各施設が参加するふれあい（？）お祭り?のようなイベントがあるととても近い存在に感じると思う。
7	男性	30歳代	ふえる物価や増税に対して、不安定な年金などにより将来を託す子供を産むべきか不安な時代です。

その他			
8	男性	30歳代	会社に長く勤める期間が長くなると社外での人との交流がなくなり、こういった問題や人や自分の悩みにも向き合える時間や余裕がなくなってくるので、気軽に参加しやすい交流の場を設けて、今この世代の人が何に対して不満や悩みを持っているのかを男女ともに文章やSNSなどのデータだけでなく、リアルタイムでの声を聞いてデータとして取るのもよいと思います。堅苦しい参加だと人も声も集まらないと思うので、各方面の趣味の場に集まっている人などの声からも気楽に聞いたりするのもよいと思います。
9	女性	40歳代	まだまだ男尊女卑の世の中だと思います。特に年配の方の意識を変えるのは至難の業ではないでしょうか。若い方々に教育をして世代が変わるのを待つしかないように思います。
10	女性	40歳代	池田市は産婦人科、婦人科が少ないのであってくれると助かります。
11	男性	40歳代	妻は、働きたくても私の扶養から外れる事を恐れ、働く時間が制限されてしまうので経済的な自立はできない。
12	男性	40歳代	扶養制度の見直しや労働に対して収入制限をしなければいけない体制を改善し、男女雇用機会均等法が正しく機能出来る仕組みを作る。男性女性それぞれの視点からでしかわからない事を話し合う事で男女が相手の事を理解する事が大事。
13	女性	60歳代	ダイバーシティセンターをもっと活用すべき。
14	女性	60歳代	不安を抱えてる人の受口がもっとあたりまえのように使えるような環境が作ればよいと思いますが、なかなか一步が踏み出せない事が多いです。「広報いけだ」はしっかり見てますが、そのことを大きく取り上げる回もあってよいのでは？相談できるきっかけになるのでは？
15	女性	60歳代	悩み（家庭内の事）を持っている人はなかなか発信しづらく、自分一人で抱え込み易い。特に男性は人に相談することを恥と思い、客観的な視点で自分の言動を観ることがない為、自分自身を正しいと思っているのではないか。男性のコミュニティを作っていくことが大切だと思う。
16	男性	70歳以上	困ってる人は各々事情があり、一概に原因を決めつける事は危険。やはり個別にキメ細かい対応をすることが基本と思う。上記より原因の究明と対策の優先順位を抑え、具体策を実行する！

Ⅲ 調査から読み取れる現状と課題の整理

1. あなた自身のことについて【設問:問4-①・②、5、6、8-1、12、13、14】

<アンケート結果より>

- ・回答者の職業について、女性は男性よりも「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」や「専業主婦・主夫」の割合が高く、男性は女性よりも「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が高くなっています。
- ・結婚している女性回答者のパートナーの職業では、「会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」の割合が高く、結婚している男性回答者のパートナーの職業では「パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)」や「専業主婦・主夫」の割合が高くなっています。
- ・1週間の就業時間について、女性は男性よりも「20時間未満」や「20～30時間未満」の割合が高く、男性は女性よりも「48時間以上」の割合が高くなっています。
- ・仕事でのストレスについて、女性は男性よりも「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」の割合が高く、男性は女性よりも「仕事がおもしろくない」の割合が高くなっています。
- ・今後仕事につく上での困ったことや不安について、女性は男性よりも「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合が高く、男性は女性よりも「賃金など、望む労働条件が得られるか」の割合が高くなっています。
- ・1週間のうちで、家事・育児・介護等をしている平均時間について、女性は男性よりも家事・育児・介護等をしている平均時間が長くなっています。
- ・女性の職業と生活設計について、女性は男性よりも「結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい」の割合が高くなっています。
- ・現在の社会で女性が働き続けるために必要なことについて前回調査と比べると、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」や「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」の割合が高くなっています。

<課題の整理>

- ・女性の就業形態は非正規雇用が多く、専業主婦の割合も男性と比べて高くなっています。
- ・今後仕事につく上での困ったことや不安について、女性で「家事・育児・介護との両立ができるか」の割合が高くなっています。
 - 就業を希望する女性にとって働きやすい社会を目指すために、再就職支援、女性の就業の継続など、関係機関と連携した支援が必要です。
 - 女性の活躍推進に向けて男性・女性ともに意識改革の促進や保育・介護サービスの充実が必要です。
- ・仕事でのストレスについて、女性で「子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない」、男性で「仕事がおもしろくない」の割合が高くなっています。
 - 性別にかかわらず、一人ひとりが希望する生き方を選択できるよう、各種休業の取得や柔軟で多様な働き方を促進することが必要です。
- ・女性が働き続けるために必要なことについて、「男性の家事・育児・介護等への積極的参加」や「管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善」への関心が高くなっています。
 - 男性が家事や育児、介護をすることへの理解促進、企業等への啓発活動が必要です。

2. 男女平等や役割分担について【設問:問15、16、17、18、19、20】

<アンケート結果より>

- ・男性が育児休業を取ることに『そう思う』の割合が80%を超えています。
- ・男女の地位について、全ての項目で『男性優遇』意識が強く、「⑤政治の場で」、「⑦社会通念・慣習・しきたり」で、「⑧社会全体で」の順に高くなっています。
- ・男女の地位について大阪府調査と比べると、「①家庭生活で」や「②職場で」、「⑤政治の場で」、「⑦社会通念・慣習・しきたり」で「男性が優遇されている」の割合が高くなっています。
- ・小・中学校で進めてほしい男女平等の取組について、女性で「男女で協力して家事ができるようにする」の割合が最も高く、男性で「性暴力、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、ストーカー行為などについて認識を深める教育を進める」の割合が最も高くなっています。
- ・生活のなかで大切にしたいことについて、希望・現実ともに「家庭」の割合が最も高く、「地域活動」の割合が最も低くなっています。
- ・今後、男性の家事、子育て、介護への積極的な参加を促進するために必要なこととして、男女ともに「男性も女性も男女の役割分担についての慣習やしきたりにとらわれずに考え、行動できるようになること」の割合が最も高くなっています。

<課題の整理>

- ・男性の育児休業取得について、男女ともに肯定的な傾向がみられます。
 - 男女がともに、育児休業や介護休業を取得しやすい環境の整備が必要です。
- ・男女の地位に関する性差では、『男性優遇』の意識が強く、特に「政治の場で」、「社会通念・慣習・しきたり」、「社会全体で」で高くなっています。
- ・大阪府調査と比べても、「男性が優遇されている」の割合が5ポイント以上高い項目が半数を占めています。
 - 女性の活躍推進に向け、男女ともに意識改革の促進が必要です。
 - 庁内における審議会等の女性の積極的な登用に加え、職員の管理職への登用については、性別にとらわれない評価が必要です。
 - 企業等において、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の浸透を図る取組が必要です。
- ・男性の家事、子育て、介護への積極的な参加を促進するために必要なこととして、男女ともに性別役割分担意識にとらわれないことへの関心が高くなっています。
 - 子どもの頃から男女平等意識の醸成を促進する等、社会における慣習やしきたりにとらわれない意識改革が必要です。
 - 学校に加え、地域や家庭等様々な場での男女共同参画に関する学習機会の充実が必要です。
- ・生活のなかで大切にしたいことについて、「地域活動」を希望する割合・現実で大切にしている割合が最も低くなっています。
 - 性別にかかわらず、様々な地域活動に誰もが参加しやすい地域社会づくりが必要です。

3. 男女平等・人権尊重に関する用語について【設問:問21】

<アンケート結果より>

・男女平等・人権尊重に関する用語について、「②男女雇用機会均等法」を『知っている』割合が最も高く、「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV法)」、「①育児・介護休業法」が続いています。

・男女ともに「⑧いけだパートナーシップ 21(池田市男女共同参画推進計画)」を『知っている』割合が最も低くなっています。

<課題の整理>

・男女平等・人権尊重に関する用語については、認知度に関きが見られます。

- 様々な男女平等・人権に関する用語について認知度を高められるよう、教育や多様な媒体を通じた啓発に取り組む必要があります。
- 既に認知度の高い用語についてはより理解を深められるよう、認知度の低い用語については市民の興味・関心を高められる取組を進める必要があります。

4. 男女間の暴力・人権尊重について【設問:問22、22-1、23、24、25、26、26-1】

<アンケート結果より>

- ・自分の性別によってつらいと感じた経験について、女性は男性よりも「ある」の割合が高くなっています。また、年代別にみると、概ね若い年代ほど「ある」の割合が高くなっています。
- ・性別によってつらいと感じた経験の内容について、女性は男性よりも「家事や育児をすること、仕事をする事に対して偏見を持たれる」の割合が高く、男性は女性よりも「男(女)だから頑張れと言われる」、「つらいことがあっても、相談する相手がいない」、「家族とのコミュニケーションが少ない」、「自分のなりたい髪型や服装を選べない」の割合が高くなっています。
- ・女性の人権が守られていないと思うことについて、女性で「男女の固定的な役割分担意識を押しつけること」の割合が最も高く、男性で「職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント」の割合が最も高くなっています。
- ・セクシュアル・ハラスメント(意識)について、全ての項目において70歳以上で「セクシュアル・ハラスメントにあたると思う」の割合が他の年代より低くなっています。
- ・セクシュアル・ハラスメント(経験)について、全ての項目で女性は男性よりも「されたことがある」の割合が高くなっています。
- ・配偶者や交際相手からの暴力について、全ての項目で女性は男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。
- ・配偶者や交際相手からの暴力被害について、男女ともに「大声でどなられる」の割合が最も高くなっています。
- ・暴力を受けた際の対応について、男女ともに「相談しようと思わなかった」の割合が最も高くなっています。
- ・暴力を受けた際に相談しなかった理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が最も高く、「自分にも悪いところがあると思ったから」、「自分さえ我慢すればすむと思ったから」が続いています。

<課題の整理>

- ・セクシュアル・ハラスメントについては容姿についての被害がやや多くなっており、全体的に女性での被害が多い状況となっています。
 - セクシュアル・ハラスメントは重大な人権侵害であり、暴力でもあるという意識啓発の更なる推進が必要です。
 - 相談体制の整備、被害者支援等の取組を行うとともに、相談先の周知を行うことが必要です。
- ・DV被害については相談しなかった割合が高く、その理由から被害者が自分を責める傾向や、被害意識の薄さが見受けられます。
 - 暴力の防止と被害者支援に向けて関係機関と連携・協働し、被害者の保護から自立支援まで切れ目のない支援を行うことが必要です。
 - 様々な暴力の形態に関する正しい知識の周知と、お互いの人権を尊重し思いやることができる関係について啓発を進めることが必要です。
 - 被害にあった際に支援に繋がられるよう、相談先の周知、相談体制の充実に努めることが必要です。

5. 困難な問題を抱える女性の支援について【設問:問27、27-1、28、29、30】

<アンケート結果より>

- ・困難な問題を抱えている女性について、女性は男性よりも「周りで見たとことがある(知っている)」の割合が高くなっています。
- ・周囲の女性が抱えている問題について、男女ともに「経済的なこと」の割合が最も高くなっています。
- ・女性が困難な状況から回復するために必要なことについて、女性で「安心できる居場所」の割合が最も高く、男性で「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が最も高くなっています。
- ・家に居場所がない女性たちへのサポートについて、男女ともに「なんでも相談できる場所や人」の割合が最も高くなっています。
- ・相談する際に望ましい方法や場所について、男女ともに「気軽に立ち寄れる場所で相談(対面)」の割合が最も高くなっています。

<課題の整理>

- ・困難な問題を抱えた女性を周りで見たり聞いたりしたことがある人の割合は、女性で25.2%、男性で15.8%と半数を下回っています。
- ・女性が困難な状況から回復するために、「安心できる居場所」や「困難な状況に気づいてくれる人の存在」等の割合が高くなっています。
 - 困難な問題を抱えた女性が自身の悩みを気軽に相談できる体制や、安心できる居場所をつくる必要があります。
 - 周囲の人が困難な問題を抱えた女性から相談を受けた時に行政機関や相談機関に繋げられるよう、女性が抱える困難の実態や相談窓口について啓発する必要があります。
 - 顕在化していない対象者の支援を可能にするために、アウトリーチ型の支援を検討する必要があります。

6. 困難な問題を抱える男性の支援について【設問:問31、31-1、32、33】

<アンケート結果より>

- ・困難な問題を抱えている男性について、男性は女性よりも「周りで見ただことがある(知っている)」の割合が高くなっています。
- ・周囲の男性が抱えている問題について、男女ともに「仕事のこと」の割合が高くなっています。
- ・男性が困難な状況から回復するために必要なことについて、男女ともに「困難な状況に気づいてくれる人の存在」の割合が最も高くなっています。
- ・男性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組について、男女ともに「悩みや不安を相談できる体制を充実する」の割合が最も高くなっています。

<課題の整理>

- ・困難な問題を抱えた男性を周りで見たり聞いたりしたことがある人の割合は、女性で18.7%、男性で27.2%と半数を下回っています。
- ・男性が困難な状況から回復するために、困難な状況に気づいてくれる人の存在等が求められています。
 - 困難な問題を抱えた男性が自身の悩みを気軽に相談できる体制を整えることが必要です。
 - 周囲の人が困難な問題を抱えた男性から相談を受けた時に行政機関や相談機関に繋がられるよう、男性が抱える困難の実態や相談窓口について啓発することが必要です。
 - 顕在化していない対象者の支援を可能にするために、アウトリーチ型の支援を検討することが必要です。

7. 男女共同参画の取組について【設問:34、35、36、37、38】

<アンケート結果より>

- ・防災・災害復興対策における性別に配慮した対応について、女性は男性よりも『必要がある』の割合が高くなっています。
- ・防災・災害復興対策において必要と思われる性別に配慮した対応について、男女ともに「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など)」の割合が最も高い一方で、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」、「公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮(生理用品など)」の割合は男性よりも女性で高くなっています。
- ・女性のこころとからだの健康を保つために池田市が行うべき取組について、女性で「女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する」の割合が最も高く、男性で「悩みや不安を相談できる体制を充実する」の割合が最も高くなっています。
- ・男女共同参画社会をつくるためにできることについて、女性は男性よりも「家庭における子どものしつけや教育は、個性を尊重し、男女の分け隔てをしない」の割合が高く、男性は女性よりも「仕事に費やす時間を短くする」の割合が高くなっています。また、前回調査と比べると、「経済的に自立する」、「男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する」の割合が5ポイント以上高くなっています。
- ・行政機関や支援機関を利用した経験の有無について、男女ともに「いずれも利用したことがない」の割合が最も高くなっています。

<課題の整理>

- ・防災・災害復興対策について、性別に配慮した対応が求められており、避難所の設備については性差がないものの、避難所運営の責任者に男女がともに配置されることや、生理用品等の備蓄品のニーズ把握、支給する際の配慮については男女間で差がみられます。
 - 男女ともに防災リーダーの育成を進め、日常的に男女共同参画を推進することで、非常時に備えることが必要です。
 - 多様な生活者の視点に立った防災対策や避難所運営についての啓発・研修等を通して、市民一人ひとりの意識を高めることが必要です。
- ・男女共同参画社会の実現に向けて、女性で「家庭での子どものしつけや教育」、男性で「労働時間の短縮」が挙げられています。
 - ・「経済的な自立」、「男女の人権や平等について理解を深める」が前回調査よりも高い傾向にあります。
 - 個人でも行える「男女共同参画社会の実現に向けた行動」について啓発を行うことが必要です。
 - 人権等に関する講座の充実や、事業所等へ労働時間短縮に向けた働きかけを行うことが必要です。
- ・9割程度の人が行政機関や支援機関を利用したことがないと回答しており、問39の自由記述において「ダイバーシティセンターについて初めて知った」「ダイバーシティセンターのことは知っているが、利用してよい場所か分からず利用したことがない」等の意見がみられます。
 - 大阪府や池田市の行政機関・支援機関について、周知活動が必要です。

【参考】

男女共同参画社会についての市民アンケート調査

男女共同参画社会についての市民アンケート調査

1. あなた自身のことについて

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 1. 18・19歳 | 2. 20～24歳 | 3. 25～29歳 | 4. 30～34歳 |
| 5. 35～39歳 | 6. 40～44歳 | 7. 45～49歳 | 8. 50～54歳 |
| 9. 55～59歳 | 10. 60～64歳 | 11. 65～69歳 | 12. 70歳以上 |

問3 現在、あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 結婚している(事実婚を含む) | 2. 結婚していない |
| 3. 離別した | 4. 死別した |

問4 あなたとあなたの配偶者・パートナー(事実婚を含む)の職業をお答えください。配偶者・パートナーがいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。
(1つに○、またはそれぞれに○は1つ)

①あなたの職業	②あなたの配偶者・パートナーの職業
1. 会社、団体、官公庁などの正社員・正職員	1. 会社、団体、官公庁などの正社員・正職員
2. 会社、団体、官公庁などの契約社員や派遣社員	2. 会社、団体、官公庁などの契約社員や派遣社員
3. パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)	3. パートタイマーやアルバイト(学生バイトを除く)
4. 自営業または家族従業員	4. 自営業または家族従業員
5. 専業主婦・主夫	5. 専業主婦・主夫
6. 学生	6. 学生
7. 年金生活	7. 年金生活
8. 無職(専業主婦・主夫を除く)	8. 無職(専業主婦・主夫を除く)
9. その他()	9. その他()

問4の①で「5.専業主婦・主夫」「6.学生」「7.年金生活」「8.無職(専業主婦・主夫を除く)」と答えた方は問8にお進みください。

問5～問7は、問4の①で「1.会社、団体、官公庁などの正社員・正職員」～「4. 自営業または家族従業員」、「9.その他」と答えた方におたずねします。

問5 1週間のうちで、あなたが仕事(在宅就労を含む)をしている平均時間はどのくらいですか。(○は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 20時間未満 | 2. 20～30時間未満 | 3. 30～40時間未満 |
| 4. 40～48時間未満 | 5. 48時間以上 | |

問6 あなたは、いまの仕事でストレス(不安や悩み)を感じていますか。①～⑨の項目ごとにあてはまる番号に○をしてください。(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

※フレックスタイム制度…労使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で自由に決められる制度

	感じる 強く ストレスを	感じる ストレスを	ほとんど 感じない ストレスは	あてはま らない
①上司や部下、同僚との人間関係	1	2	3	4
②労働時間が長い	1	2	3	4
③短時間勤務やフレックスタイム※などの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない	1	2	3	4
④収入が少ない	1	2	3	4
⑤雇用が不安定	1	2	3	4
⑥仕事がおもしろくない	1	2	3	4
⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない	1	2	3	4
⑧休みが十分にとれない	1	2	3	4
⑨その他()	1	2	3	4

問7 あなたご自身の令和4年中の年間収入(税込)はどのくらいですか。年金や資産収入などすべての収入を含めた額をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| 1. 103万円未満 | 2. 103～130万円未満 | 3. 130～250万円未満 |
| 4. 250～500万円未満 | 5. 500～750万円未満 | 6. 750～1000万円未満 |
| 7. 1000万円以上 | 8. 収入はない | 9. わからない |

問8と問8-1は、問4の①で「5.専業主婦・主夫」「6.学生」「7.年金生活」「8.無職(専業主婦・主夫を除く)」と答えた方におたずねします。

問8 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. ぜひ、仕事につきたい | 2. できれば、仕事につきたい |
| 3. 仕事につきたいと思わない →問9へ | 4. わからない →問9へ |

問8で「3.仕事につきたいと思わない」「4.わからない」と答えた方は、問9にお進みください。

問8で、「1.ぜひ仕事につきたい」「2.できれば、仕事につきたい」と答えた方におたずねします。

問8-1 あなたには、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| 1. 自分のしたい仕事につけるか | 2. 自分の資格や能力が通用するか |
| 3. 職場の人間関係がうまくいくか | 4. 賃金など、望む労働条件が得られるか |
| 5. 自分の健康状態や体力 | 6. 家事・育児・介護との両立ができるか |
| 7. 保育所・園、留守家庭児童会(なかよし会)などを利用できるか | |
| 8. 年齢制限 | |
| 9. その他() | |
| 10. 特になし | |

全員におたずねします。

問9 あなたの家族構成は次のどれですか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|---------------------|---------------|
| 1. ひとり世帯 | 2. 一世代世帯(夫婦・カップルのみ) | 3. 二世代世帯(親と子) |
| 4. 三世代世帯(親と子と孫) | 5. その他の世帯() | |

問10 あなたにはお子さんがおられますか。(○は1つ)

1. いる

2. いない

→問12へ

問10で、「1.いる」と答えた方におたずねします。

問11 一番下のお子さんは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 3歳未満

2. 3歳以上就学前

3. 小学生

4. 中学生

5. 高校生・大学生

6. 成人している

全員におたずねします。

問12 1週間のうちで、あなたが家事・育児・介護等をしている平均時間はどのくらいですか。(○は1つ)

1. していない(0時間)

2. 20時間未満

3. 20～30時間未満

4. 30～40時間未満

5. 40～48時間未満

6. 48時間以上

問13 女性の職業と生活設計について、次のどれが望ましいと思いますか。(○は1つ)

1. 結婚や出産をしても職業を持ち続ける方がよい

2. 結婚や出産などで一時家庭に入っても、再び職業を持つ方がよい

3. 結婚を機に家庭に入る方がよい

4. 出産を機に家庭に入る方がよい

5. 職業を持たない方がよい

6. その他()

問14 現在の社会で、女性が働き続けるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。

(○は2つまで)

1. 保育制度の充実

2. 男性の家事・育児・介護等への積極的参加

3. 育児・介護休業制度(病気の看護・介護など)の充実

4. 各職場に女性を一定の割合で採用する制度の導入

5. 管理職の意識改革や昇進・給与等のシステムの改善

6. 女性の職業能力を高める研修などの充実

7. その他()

2. 男女平等や役割分担について

問15 結婚や家庭等について、あなたのご意見をおうかがいします。あなたのお考えに近いものはどれですか。(①～⑥の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
①自立して暮らしていければ、結婚しなくてもよい	1	2	3	4	5	
②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5	
③子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5	
④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	
⑤男性が育児休業を取るのはいいことだ	1	2	3	4	5	
⑥夫婦の姓が異なる結婚(夫婦別姓)が認められてもよい	1	2	3	4	5	

問16 現在の日本の社会での男女の地位は、それぞれの分野でどの程度、平等になっていると思いますか。

(①～⑧の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

	女性が優遇 されている	どちらかといえ ば女性が優遇 されている	平等である	どちらかといえ ば男性が優遇 されている	男性が優遇 されている	わからない
①家庭生活で	1	2	3	4	5	6
②職場で	1	2	3	4	5	6
③学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④法律や制度で	1	2	3	4	5	6
⑤政治の場で	1	2	3	4	5	6
⑥地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体で	1	2	3	4	5	6

問17 家庭での分担について、あなたはどのようにするのが望ましいと思いますか。また実際にあなたの家庭では、どのように分担していますか。

(①～⑦の項目について、理想と現実それぞれ○は1つずつ)

	理想 ①全員がお答えください			現実 ②配偶者・パートナーがいる方のみ お答えください				
	夫婦・カップルで同じ くらい	主に夫・パートナー (男性)	主に妻・パートナー (女性)	夫婦・カップルで同じ くらい	主に夫・パートナー (男性)	主に妻・パートナー (女性)	その他の人	該当しない
①生活費の獲得	1	2	3	1	2	3	4	5
②家計の管理	1	2	3	1	2	3	4	5
③食事のしたく・片付け	1	2	3	1	2	3	4	5
④掃除	1	2	3	1	2	3	4	5
⑤洗濯	1	2	3	1	2	3	4	5
⑥育児	1	2	3	1	2	3	4	5
⑦高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	1	2	3	4	5

問18 あなたが小・中学校で進めてほしい男女平等の取組は、どれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女で協力して家事ができるようにする 2. 人権尊重の教育を推進し、子どもたちが男女平等を主体的に考えるよう進める 3. 性暴力※、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)、ストーカー行為などについて認識を深める教育を進める 4. 性の多様性について理解を深め、その子どもの個性や能力を生かせるようにする 5. こころとからだを大切にす、年齢に応じた性教育を行う 6. 男女にかかわらず、働くことの意義を教える 7. 保護者と教職員が共に男女平等教育について学習する機会を持つ 8. その他() | <ol style="list-style-type: none"> 9. 現状のままでよい |
|--|---|

※性暴力…ドメスティック・バイオレンス(夫婦・パートナー間の暴力、DV)、デートDV(恋人からの暴力)等を含む

全員におたずねします。

問19 あなたは、生活のなかで、「仕事」「家庭」「地域活動」「自分の時間」で、何を大切にしたいですか。また、現実(現状)では、何を大切にされていますか。(①と②それぞれ○はいくつでも)

①希望	②現実
<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事 2. 家庭 3. 地域活動 4. 自分の時間 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事 2. 家庭 3. 地域活動 4. 自分の時間

問20 今後、男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 男性自身が家事・子育て・介護などを大切にする生き方・考え方もあることに気づくこと 2. 男性も女性も男女の役割分担についての慣習やしきたりにとらわれずに考え、行動できるようになること 3. 男性が家事、子育て、介護などに参加することについて、社会からの理解を深めること 4. 夫婦・カップルの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと 5. 男の子にも小さいときから家庭や学校で家事や育児を体験する機会を増やすこと 6. 男性の参加しやすい料理教室や介護講座を通じて、家事や子育て、介護などの理解を深めること 7. 職場等から男性が育児・家事に参加するように働きかけること 8. 行政が労働時間の短縮など、企業に向けて啓発を進めること 9. 行政が男性に向けて広報・啓発を進めること 10. その他() 11. 特に必要ない |
|--|

3. 男女平等・人権尊重に関する用語について

全員におたずねします。

問21 あなたが、次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものをすべて選んでください。(①～⑪の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

	言葉も内容も 知っている	言葉だけ 知っている	初めて聞いた
①育児・介護休業法	1	2	3
②男女雇用機会均等法	1	2	3
③困難な問題を抱える女性への支援に関する法律(困難女性支援法)	1	2	3
④女性活躍推進法	1	2	3
⑤女性差別撤廃条約	1	2	3
⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV法)	1	2	3
⑦池田市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑧いけだパートナーシップ21(池田市男女共同参画推進計画)	1	2	3
⑨仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	1	2	3
⑩デートDV	1	2	3
⑪ダイバーシティセンター	1	2	3

4. 男女間の暴力・人権尊重について

問22 あなたは、自分の性別によってつらいと感じることがありますか。(○は1つ)

1. ある

2. ない →問 23へ

問22で「2.ない」と答えた方は問23にお進みください。

問22で「1.ある」と答えられた方におたずねします。

問 22-1 それはどんなことですか。(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1. 男(女)だから頑張れと言われる | 2. 「男(女)なのに」「男(女)のくせに」と固定観念で言われる |
| 3. つらいことがあっても、相談する相手がいない | 4. 家族とのコミュニケーションが少ない |
| 5. 家事や育児をすること、仕事をするに対して偏見を持たれる | |
| 6. 自分のなりたい髪型や服装を選べない | 7. その他() |

全員におたずねします。

問23 あなたが、女性の人権が守られていないと思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. DV やデートDV 2. 職場や学校等におけるセクシュアル・ハラスメント 3. テレビ、雑誌、インターネット(携帯電話を含む)、電車内の広告などのわいせつな性情報の氾濫 4. ストーカー行為 5. アダルト向けのビデオやゲーム(児童ポルノを含む) 6. 売買春(援助交際やJK ビジネスなど) 7. 職場での男女の待遇の違い 8. 男女の固定的な役割分担意識を押しつけること 9. 方針決定の場や政治の場などへ参加がしにくいこと 10. 「女のくせに」「女だから」「婦人」「未亡人」「女流」などという言葉 11. 結婚して姓を選択する場合、ほとんどが夫の姓を選択すること 12. その他() 13. 特にない |
|--|

全員におたずねします。(男性の方もお答えください)

問24 あなたは、次のようなことはセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)にあたると思いませんか。
 また、あなたは、自分の意志に反して職場、学校、地域で次のようなことをされたことがありますか。
 (①～⑥の項目ごとに〇はそれぞれ1つずつ)

	①意識について		②経験について	
	あたると思う セクシュアル・ ハラスメントに	あたらないと思う セクシュアル・ ハラスメントに	ある されたことが	ない されたことは
①容姿について、あれこれ聞かれる・話題にされる	1	2	1	2
②からだをじろじろ見られる	1	2	1	2
③性的な冗談やひわいなことを話題にされる	1	2	1	2
④故意に身体にふれられる	1	2	1	2
⑤しつこく交際を求められる	1	2	1	2
⑥昇進や就活における選考の優遇などを利用して性的な関係を迫られる	1	2	1	2

問25 あなたは、配偶者*(事実婚・別居中を含む)・パートナーや交際相手から次の行為をされることは、「暴力」に当たると思いますか。また、配偶者や交際相手がいる(いた)方は、実際に相手からされた(る)ことがありますか。(①～⑨の項目ごとに○はそれぞれ1つずつ)

※ここでの「配偶者」には、婚姻届けを出していない 事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した 相手、事実婚を解消した相手)も含まれます。	①全員が お答えください			②配偶者や交際相手がいる (いた)方のみお答えください			
	暴力にあたると思いますか			実際にされた(る)ことが ありますか。			
	あ た る と 思 う	ど ん な 場 合 に も 暴 力 に あ た る と 思 う	暴 力 の 場 合 と そ う で な い 場 合 が あ る	暴 力 に あ た る と は 思 わ な い	あ つ た も あ つ た (あ る)	あ つ た も あ つ た (あ る)	ま つ た く な い
①大声でどなられる	1	2	3	1	2	3	
②あなたが大切にしているものを、わざと壊したり捨てたりされる	1	2	3	1	2	3	
③あなたの交友関係や携帯電話を細かくチェックされたり、外出を制限される	1	2	3	1	2	3	
④実家の親・きょうだい、友人との付き合いをいやがられたり、禁止される	1	2	3	1	2	3	
⑤あなたのお金を取り上げたり、預貯金を勝手におろされる、家にお金を入れない	1	2	3	1	2	3	
⑥「だれのおかげで、お前は食べられるんだ」「もっと稼いでこい」などと言われる	1	2	3	1	2	3	
⑦なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受ける	1	2	3	1	2	3	
⑧命の危険を感じるほどの暴行をされる	1	2	3	1	2	3	
⑨いやがっているのに性的な行為を強要される	1	2	3	1	2	3	

問25で「まったくない」と答えた方は問27にお進みください。

問25で「何度もあった(ある)」、「1、2度あった(ある)」と答えられた方におたずねします。←

問26 あなたは、そのことを誰かに相談しましたか。(○はいいくつでも)

1. 家族や親族	2. 友人・知人
3. 配偶者暴力相談支援センター	4. 警察
5. 公的機関の相談窓口、電話相談など	6. 保健所・保健センターの保健師
7. 医療関係者	8. 民間の専門家や専門機関(弁護士、カウンセリング機関など)
9. その他()	
10. 相談したかったが、しなかった	11. 相談しようと思わなかった

問26で「10.相談したかったが、しなかった」「11.相談しようと思わなかった」以外と答えた方は問27にお進みください。

問26で「10.相談したかったが、相談しなかった」「11.相談しようと思わなかった」と答えた人におたずねします。

問26-1 あなたが、相談しなかった、しようと思わなかったのはなぜですか。(○はいいくつでも)

1. 相手の行為は愛情表現だと思ったから	2. 自分さえ我慢すればすむと思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから	4. 世間体が悪いと思ったから
5. 相談するほどのことではないと思ったから	6. 相談することで自分が傷つきたくなかったから
7. どこに相談していいかわからなかったから	8. その他()

5. 困難な問題を抱える女性の支援について

全員におたずねします。

問27 令和6年4月1日から「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行されます。あなたの周りで困難な問題を抱えている女性を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

※法律上の定義では「困難な問題を抱える女性」とは「性的な被害、家庭の状況、地域社会との関係性その他の様々な事情により日常生活又は社会生活に営む上で困難な問題を抱える女性（そのおそれのある女性を含む）」とあります。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 周りで見たことがある(知っている) | 2. 見たことがない →問28へ |
|----------------------|------------------|

問27で「2.見たことがない」と答えた方は、問28にお進みください。

問27で「1.周りで見たことがある(知っている)」と答えた人におたずねします。

問27-1 周りの方はどうのような問題を抱えていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 親や親族のこと | 2. 子どものこと |
| 3. 友人や知人のこと | 4. 仕事のこと |
| 5. 健康の不安のこと(自分の病気や体調など) | 6. 障がいのこと |
| 7. 経済的なこと | 8. 配偶者や交際相手、家族からの暴力 |
| 9. 性的な被害のこと | 10. 相談相手や頼れる人がいないこと |
| 11. その他() | |

全員におたずねします。

問28 女性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(特に必要だと思うものを3つまで○)

- | |
|--|
| 1. 困難な状況に気づいてくれる人の存在 |
| 2. 安心できる居場所 |
| 3. 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること |
| 4. 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること |
| 5. 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート |
| 6. 経済的な自立 |
| 7. 経済的な自立に必要な支援や自立のためのスキルや資格 |
| 8. 一時的な経済支援 |
| 9. その他() |
| 10. 必要なことはない |

問29 DVや虐待、家族との不仲などで家に居場所がない女性たちにどのようなサポートがあるといいと思いますか。(特に必要だと思うものを3つまで○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 一時的に(数日)安心して泊まれる場所 | 2. 無料・低額で食事の提供 |
| 3. なんでも相談できる場所や人 | 4. 同じ悩みを持つ人たちと出会える場所 |
| 5. 一時的な経済支援 | 6. 住まいに関する支援 |
| 7. 就業など自立に向けた支援 | 8. その他() |
| 9. 必要なことはない | |

問30 もし、あなたが相談するとしたら、どのような方法や場所でしたいですか。(○はいくつでも)

- | | | | |
|-------------------------|--------|-------------------|-----------|
| 1. 電話 | 2. メール | 3. SNS | 4. 学校(対面) |
| 5. 支援機関(対面) | | 6. 自宅に訪問してもらう(対面) | |
| 7. 気軽に立ち寄れる場所で相談(対面) | | 8. その他(|) |
| 9. 相談したり支援を受けたりしたいと思わない | | | |

6. 困難な問題を抱える男性の支援について

全員におたずねします。

問31 厚生労働省・警察庁による「令和4年中自殺の状況」によると、男性の自殺者数は女性の約2.1倍であり、様々な問題を抱える男性の増加が想定されます。あなたの周りで困難な問題を抱えている男性を見たり聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|------------|-------|
| 1. 周りで見たことがある(知っている) | 2. 見たことがない | →問32へ |
|----------------------|------------|-------|

問31で「2.見たことがない」と答えた方は、問32にお進みください。

問31で「1.周りで見たことがある(知っている)」と答えた人におたずねします。

問31-1 周りの方はどのような問題を抱えていますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1. 親や親族のこと | 2. 子どものこと |
| 3. 友人や知人のこと | 4. 仕事のこと |
| 5. 健康の不安のこと(自分の病気や体調など) | 6. 障がいのこと |
| 7. 経済的なこと | 8. 配偶者や交際相手、家族からの暴力 |
| 9. 性的な被害のこと | 10. 相談相手や頼れる人がいないこと |
| 11. その他(|) |

問32 男性が困難な状況から回復するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(特に必要だと思うものを3つまで○)

- | | |
|--|---|
| 1. 困難な状況に気づいてくれる人の存在 | |
| 2. 安心できる居場所 | |
| 3. 支援制度や相談窓口、専門機関など自分の助けになるような情報を得ること | |
| 4. 実際に支援制度や相談窓口に助けを求めること | |
| 5. 弁護士や医師、カウンセラーなど専門的な知識を持っている人からのサポート | |
| 6. 経済的な自立 | |
| 7. 経済的な自立に必要な支援や自立のためのスキルや資格 | |
| 8. 一時的な経済支援 | |
| 9. その他(|) |
| 10. 必要なことはない | |

問33 男性のこころとからだの健康を保つために、池田市はどのような取組をする必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 検診や健康づくりに関する情報を提供する
2. 年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する
3. 男性特有の病気などに配慮した医療体制の情報を提供する
4. 悩みや不安を相談できる体制を充実する
5. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる
6. その他()
7. 特にない

7. 男女共同参画の取組について

全員におたずねします。

問34 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いませんか。

1. 必要がある
2. どちらかといえば必要がある
3. どちらかといえば必要ない
4. 必要ない
5. その他()

問35 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことはどのようなことだと思いますか。(特に必要だと思うものを3つまで○)

1. 防災や災害復興に関する会議に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること
2. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場など)
4. 災害時の救急医療体制(乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦へのサポート体制)
5. 公共施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮(生理用品など)
6. 被災者に対する相談体制
7. その他()

問36 女性のこころとからだの健康を保つために、池田市はどのような取組をする必要があると思いますか。(○はいくつでも)

1. 検診や健康づくりに関する情報を提供する
2. 年齢に応じた健康づくりのための機会を提供する
3. 安心して出産できるよう周産期医療体制を充実する
4. 女性特有の病気などに配慮した女性外来の情報を提供する
5. 悩みや不安を相談できる体制を充実する
6. 生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための学習機会をつくる
7. その他()
8. 特にない

問37 男女ともに社会における責任を分かち合う「男女共同参画社会」をつくるために、あなた自身には何ができるとお思いますか。(○はいくつでも)

1. 仕事、家事、育児、介護を配偶者・パートナーと共同で担う
2. 経済的に自立する
3. 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
4. 家庭における子どものしつけや教育は、個性を尊重し、男女の分け隔てをしない
5. 配偶者・パートナーとのコミュニケーションを深めるために会話を増やす
6. 自分の意思を相手に伝える技術を身につける
7. 男女の人権、男女平等について理解を深めるよう学習する
8. 男女共同参画を周囲に働きかける
9. 仕事に費やす時間を短くする
10. その他()
11. 特にない
12. すでに男女共同参画社会になっていると思うので、現状のままでよい

問38 あなたは、下記の行政機関や支援機関を利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1. ダイバーシティセンター
2. 人権文化交流センター
3. 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)
4. 大阪府女性相談センター
5. 大阪府池田子ども家庭センター
6. 大阪府こころの健康総合センター
7. ストーカー110番(大阪府警本部)
8. 性犯罪被害者相談(ウーマンライン)
9. 民間の支援機関
10. その他()
11. いずれも利用したことがない

問39 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。ご多忙の中、誠に恐縮ですが、ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて10月26日(木)までにお近くの郵便ポストにご投函ください。(切手を貼る必要はありません。)

池田市の男女共同参画社会に関する

アンケート調査結果報告書

発行 池田市 市民活動部 人権・文化国際課
〒563-8666 池田市城南1丁目1番1号
TEL 072-754-6231
発行年月 令和6年(2024年)3月